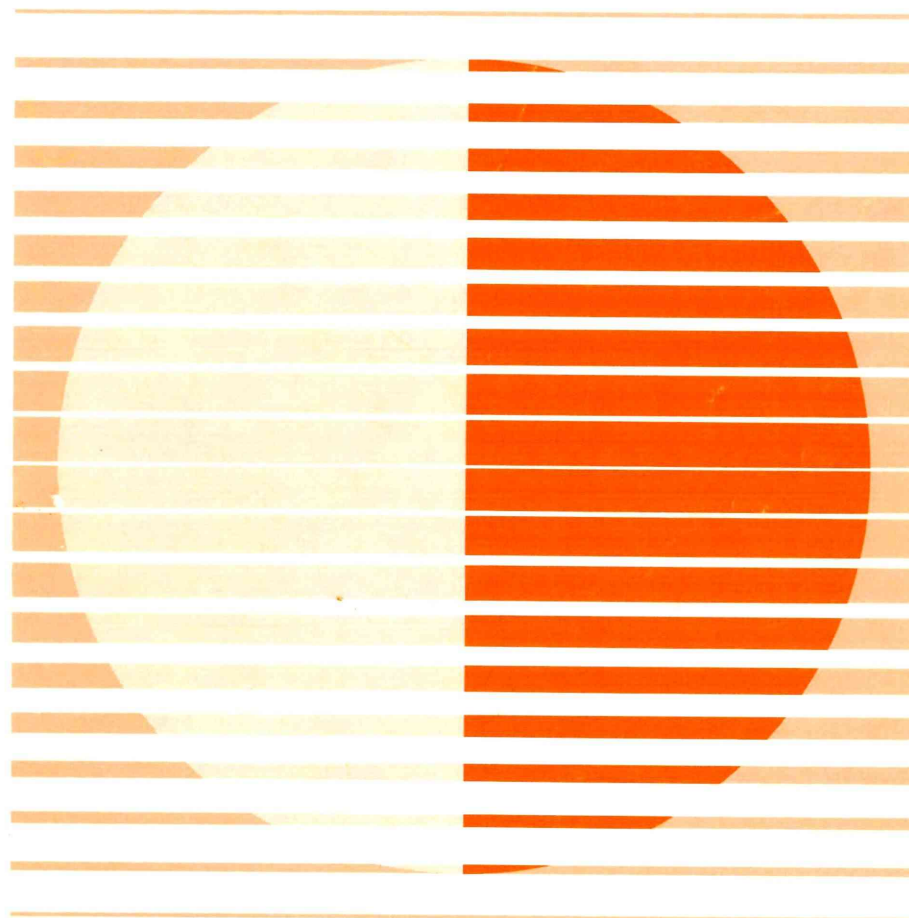


67

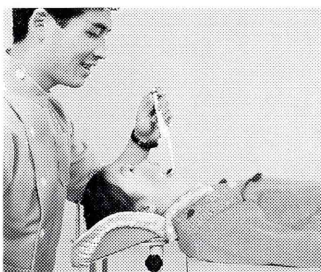
日本学校歯科医学会誌

平成4年



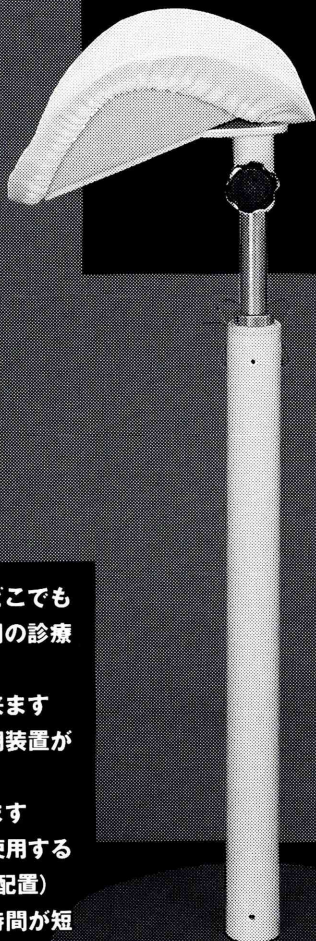
もくじ

巻頭言……………	1	高等学校部会……………	109
目次……………	2	全体協議会……………	131
第55回全国学校歯科保健研究大会…………	3	第79回FDI年次世界歯科大会に	
開催要項……………	3	参加して……………	134
第30回全日本よい歯の学校表彰…………	10	日本学校歯科医学会加盟団体名簿…………	143
記念講演……………	15	日本学校歯科医学会役員名簿…………	144
シンポジウム……………	16	日本学校歯科医学会誌	
幼稚園・保育所部会……………	38	64・65・66・67号索引……………	146
小学校部会……………	61	編集後記……………	155
中学校部会……………	91		



一般の診療と同じように
被検者を寝かせて検診できるヘッドレスト。
集団検診・学校検診に大活躍します。

集団検診用 ヘッドレスト



- ① 長机やベッドがあればどこでも
検診がおこなえます(専用の診療
台は不要)
- ② 上下の調節が簡単に出来ます
- ③ ペンライトを使えば照明装置が
不要です
- ④ 検診準備も簡単に出来ます
- ⑤ ヘッドレストを2~3台使用する
ことにより(放射線状に配置)
受診者一人当りの検診時間が短
かくてすみます
- ⑥ ヘッドカバーの取り外しが簡単
に出来洗濯も可能です
- ⑦ 持ち運びが簡単に出来ます
- ⑧ 堅牢で長期使用が可能です
- ⑨ ヘッドレスト部 ポール部 ベー
ス部の3つに分解出来ますので
収納も簡単におこなえます



お口の健康に奉仕する

株式会社 **モリタ**

東京・東京都台東区上野2丁目11番15号 〒110

☎ (03) 3834-6161

大阪・吹田市垂水町3丁目33番18号 〒564

☎ (06) 380-2525

株式会社 **モリタ製作所**

本社 工場 京都市伏見区東浜南町680番地 〒612

☎ (075) 611-2141

久御山工場 京都府久世郡久御山町大字市田小字新珠城190 〒613

☎ (0774) 43-7594

株式会社 **モリタ東京製作所**

埼玉県与野市上落合355番地 〒338 ☎ (048) 852-1315

巻 頭 言

(社)日本学校歯科医会
会長 加 藤 増 夫

宮城県杜の都、仙台市における第55回全国学校歯科保健研究大会は学校保健に基づく幼・小・中・高にわたる立場で、各部門の公開授業と研究協議会が開催され、画期的展開のなか学校歯科保健の前進に大きな足跡を確保することができました。

生涯歯科保健を考える時、現在、母子健康法による新生児の誕生から、1歳6カ月児健康診査、3歳児歯科検診を経て幼稚園・保育園歯科、そして6歳で小学校に就学してからの学校保健法によって高校卒業までは学校歯科科医による健診・指導・相談の保健教育と保健管理を受け、その後は労働安全衛生法による一部企業就職者が産業歯科検診でカバーされておりますが、先ず大部分の人は全く個人的自助努力にまかされておられ、40歳になって老人保健法の“保健”の範疇に入ってまいります。歯科は法の片隅におかれておられ、厚生省内に設置された成人歯科保健検討委員会が提唱の“8020”運動も関係各法の連携と行政的施策の強化が望まれるところであります。本年2月22日に開催された「ワークショップ 8020愛知」は真に意義ある催しであり、これからの学校歯科保健は全く生涯歯科保健の根幹をなすもので、改めて其の重要性を痛感する次第です。

高齢化社会を迎え平均寿命は男75.86歳、女81.81歳であります。歯の寿命では最も長いもので男は下顎左側犬歯で62年、女は下顎右側犬歯で59.1年、また最も短いもので男女とも下顎左側第2大臼歯で男43.3年、女40.9年（62年歯科疾患調査）で、その格差は甚だしいものがあります。

1981年 WHO の採決の2000年までの歯科保健目標の1つである12歳児の DMF 指数 3 以下についてわが国の推移をみると 62年4.51 63年4.35 平元年4.30 平2年4.30 平3年4.29（文部省学校保健統計）となっております。喪失歯数の減少はもとより、処置歯率の向上、未処置歯の皆無など予防・管理面での施策の充実、学校における年間歯科保健計画の立案と実施、そして本年4月より学習指導要領の改定による検定教科書による保健授業が小学校5・6年に実施されるなどを含めて、学校・家庭・地域一体となつての連携強化を深めて目的達成に英知を結集して参りましょう。

本年11月13日・14日開催の第56回全国学校歯科保健研究大会は徳島市で行われます。全国から多数ご参加下さいますよう切望いたします。

目 次

巻頭言	1
第55回全国学校歯科保健研究大会	
開催要項	3
プログラム	5
全国学校歯科保健研究大会年次表	9
第30回全日本よい歯の学校表彰	10
記念講演	15
シンポジウム	16
領域別研究協議会	
◆幼稚園・保育所部会◆	38
◆小学校部会◆	61
◆中学校部会◆	91
◆高等学校部会◆	109
全体協議会	131
第79回 FDI 年次世界歯科大会に参加して	134
日本学校歯科医会加盟団体名簿	143
日本学校歯科医会役員名簿	144
日本学校歯科医会会誌64・65・66・67号索引	146
編集後記	155

第55回全国学校歯科保健研究大会

開催要項

1. 趣 旨

本研究大会は「学校歯科保健の包括化」をメインテーマに、学校歯科保健活動を通して、「心豊かで、たくましく生きる人間の育成」という教育課題に貢献することを目指している。

本年は学校・家庭・地域社会の連携のもとに、幼児から児童生徒の発達段階に即した歯科保健指導を確立し、生活化をはかることを研究協議する。

これをもとに国民が生涯を通して健康で豊かに、たくましく、生活できる基礎づくりに寄与するものである。

2. 主 題

学校歯科保健の包括化

—発達段階に即した歯科保健指導と生活化—

3. 主 催

日本学校歯科医会、日本学校保健会、宮城県歯科医師会、宮城県学校歯科医会、仙台歯科医師会、宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会

4. 後 援

文部省、厚生省、日本歯科医師会、東北大学歯学部、宮城県学校保健会、仙台市学校保健会、宮城県医師会、仙台市医師会、宮城県薬剤師会、宮城県小学校長会、宮城県中学校長会、宮城県高等学校長会、宮城県国公立幼稚園長会、宮城県私立幼稚園連合会、宮城県私立中学高等学校連合会、宮城県PTA連合会、仙台市小中学校PTA連合会、宮城県高等学校PTA連合会、宮城県歯科技工士会、宮城県歯科衛生士会

5. 期 日

平成3年10月18日（金）～19日（土）

6. 会 場

第1日

◎開会式 仙台サンプラザ 〒980 仙台市宮城野区榴岡五丁目11-1 TEL (022) 257-3333

◎表彰式

◎記念講演

◎シンポジウム

◎懇談会 ホテルメトロポリタン仙台

〒980 仙台市青葉区中央一丁目1-1 TEL (022) 268-2525

第2日

◎公開授業、領域別研究協議会＝第一領域（幼稚園・保育所部会）

仙台市立東二番丁幼稚園

〒980 仙台市青葉区一番町二丁目1-4 TEL (022) 222-2337

第2領域（小学校部会）＝仙台市立広瀬小学校

〒989-31 仙台市青葉区下愛子字二本松40 TEL (022) 392-2208

第3領域（中学校部会）＝仙台市立広瀬中学校

〒989-31 仙台市青葉区下愛子字勘太64 TEL (022) 392-2214

第4領域（高等学校部会）＝宮城県宮城広瀬高等学校

〒989-31 仙台市青葉区下愛子字森下7 TEL (022) 392-5512

◎協議会報告・全体協議会・閉会式＝仙台市民会館小ホール

〒980 仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1 TEL (022) 262-4721

7.参 加 者

学校歯科医、歯科医師、歯科教育関係者、都道府県市町村教育委員会関係職員、学校・幼稚園・保育所の教職員、学校医、学校薬剤師、歯科技工士、歯科衛生士、PTA会員、その他歯科保健関連者

＜メインテーマ＞

学校歯科保健の包括化

日本学校歯科医会は、昭和45年までは毎回当面する学校歯科保健の諸問題の中から主題を定め開催されてきたが、昭和46年の第35回大会から昭和61年の第50回大会までは、「保健管理と保健指導の調和」をメインテーマとし、研究協議と実践を重ね、学校歯科保健活動の推進に大きく貢献してきたところである。

とりわけ、昭和53年には、歯科界にとっては、画期的ともいえる「小学校歯の保健指導の手引き」が文部省から発行され、しかもその実践上のモデルとなる「むし歯予防推進指定校」が全国各地に設けられるなど、保健管理と保健指導の調和を目指した活動は、小学校を中心に大きく前進するに至った。

しかし、幼稚園、小学校、中学校、高等学校を一貫した学校歯科保健の構築や学校・家庭・地域

との連携の緊密化による保護者の啓発、学校教育が直面している生命尊重の心や基本的生活習慣の育成などの教育課題とのかかわり方など、多くの問題が残されている。

このため、「保健管理と保健指導の調和」は、学校保健の永遠の課題であるが、これを発展的に捕え、第51回全国学校歯科保健研究大会を期して「学校歯科保健の包括化」とし、学校歯科医と教員がともに研修と実践を重ね、歯科保健の課題の克服はもちろん、「心豊かでたくましく生きる人間の育成」という教育課題の克服に貢献しようとするものである。

ここに、日本学校歯科医会は、来るべき新しい世紀に向けて、わが国の学校歯科保健活動の一層の充実が図られていくことを願うものである。

プログラム

期日 平成3年10月18日(金)・19日(土) 場所 仙台サンプラザ・公開授業指定校・仙台市民会館
 <第1日 10月18日(金)>受付開始 9:00～

1.開会式、表彰式(10:00～12:00)

(1)開 会 式

開会宣言

宮城県歯科医師会副会長 桑 島 昭 悦

国家斉唱

物故者への黙禱

学校歯科の鐘槌打

宮城県歯科医師会会長 松 尾 學

(2)開 式

開会のことば

宮城県歯科医師会会長 松 尾 學

挨拶

日本学校歯科医会会長 加 藤 増 夫

(3)祝 辞

文部大臣 井 上 裕

厚生大臣 下 條 進 一 郎

衆議院議員

参議員議員 大 島 慶 久

宮城県知事 本 間 俊 太 郎

仙台市長 石 井 亨

日本歯科医師会会長 中 原 爽

日本学校保健会会長 村 瀬 敏 郎

(4)来 賓 紹 介

(5)表 彰 式

・感謝状贈呈

日本学校歯科医会会長 加 藤 増 夫

前回開催地代表

広島県歯科医師会会長 松 島 悌 二

・全日本よい歯の学校表彰

審査報告

全日本よい歯の学校審査委員長 西 連 寺 愛 憲

賞状授与

・文部大臣賞

受賞校

青森県

西津軽郡木造町立出野里小学校

山形県

飽海郡八幡町立八幡小学校

千葉県

千葉市立幕張東小学校

東京都

江東区立第二亀戸小学校

滋賀県

甲賀郡水口町立水口小学校

大阪府

堺市立野田小学校

・日本歯科医師会特別賞

日本歯科医師会副会長 松 島 悌 二

受賞校

宮城県

黒川郡大郷町立味明小学校

宮城県

宮城県立光明養護学校

群馬県	群馬郡群馬町立上郊小学校
千葉県	千葉市立横戸小学校
神奈川県	厚木市立相川小学校
岐阜県	揖斐郡池田町立温知小学校
富山県	婦負郡八尾町立杉原小学校
香川県	木田郡三木町立平井小学校

・よい歯の学校表彰

受賞校代表	名古屋市立栄生小学校
-------	------------

・受賞校代表謝辞

山形県	飽海郡八幡町立八幡小学校
-----	--------------

(6)祝 電 披 露

(7)次回開催地決定報告

日本学校歯科医会会長	加 藤 増 夫
------------	---------

(8)学校歯科の鐘引継ぎ

(9)次回開催地代表挨拶

徳島県歯科医師会会長	白 神 進
------------	-------

(10)閉 会 の 言 葉

宮城県歯科医師会副会長	山 田 文 夫
-------------	---------

・アトラクション (12:20~12:50)

「ハツ鹿踊り」

2.記念講演 (13:00~14:20)

・演 題 「政宗と常長」

・講 師 高橋富雄 (東北大学名誉教授・盛岡大学長)

・謝 辞 宮城県学校歯科医会副会長 郷家智道

3.シンポジウム (14:30~16:30)

・テーマ 『発達段階に即した学校歯科保健指導と生活化を図るために』

・座 長

日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
-------------	-------

・シンポジスト

文部省体育局体育官	猪 股 俊 二
-----------	---------

日本体育大学教授	吉 田 瑩 一 郎
----------	-----------

明海大学歯学部教授	中 尾 俊 一
-----------	---------

宮城県歯科医師会常務理事	中 條 幸 一
--------------	---------

4.懇 親 会 (17:00~18:30)

(1) 開宴のことば

宮城県学校歯科医会副会長	坪 田 鏡 夫
--------------	---------

(2) 挨 拶

宮城県歯科医師会会長	松 尾 學
------------	-------

日本学校歯科医師会会長	加 藤 増 夫
-------------	---------

(3) 乾 杯

宮城県教育委員会教育長	大 立 目 謙 直
-------------	-----------

(4) アトラクション (スズメ踊り)

(5) 次回開催県挨拶

徳島県歯科医師会会長	白 神 進
------------	-------

(6) 閉宴のことば

仙台市教育委員会教育長	東 海 林 恒 英
-------------	-----------

〈第2日目 10月19日(土)〉

1. 公開授業・領域別研究協議会 (09:30~12:20)

幼稚園・保育所部会 仙台市立東二番丁幼稚園

○公開授業 (09:30~10:10)

年少1クラス, 年長1クラス

研究協議会 (10:30~12:20)

テーマ 「幼稚園・保育所における歯科保健指導の実践」

座長

日本大学松戸歯学部教授

森本 基

助言者

日本学校歯科医師会副会長

西連寺 愛憲

発表者

仙台市立東二番丁幼稚園教諭

齋藤 玲子

〃

岩手県衣川村立幼・保・小・中学校歯科医

佐々木 勝忠

〃

岩手県衣川村立北股保育所保母

高橋 京子

○感謝状の贈呈

小学校部会 仙台市立広瀬小学校

○公開授業 (09:30~10:15)

各学年3クラス

○研究協議会 (10:30~12:20)

テーマ 「小学校における歯科保健指導の実践」

座長

日本学校歯科医師会常務理事

石川 実

助言者

日本体育大学教授

吉田 瑩一郎

発表者

東京都江東区立第二亀戸小学校養護教諭

三木 とみ子

〃

仙台市立広瀬小学校教諭

小長根 久雄

〃

山形県羽黒町立第二小学校歯科医

佐藤 恒雄

○感謝状の贈呈

中学校部会 仙台市立広瀬中学校

公開授業 (09:30~10:20)

各学年3クラス

○研究協議会 (10:30~12:20)

テーマ 「中学校における歯科保健指導の実践」

座長

明海大学歯学部教授

中尾 俊一

助言者

文部省体育局体育官

猪股 俊二

発表者

福島県福島市立北信中学校養護教諭

黒金 ヤイ子

〃

仙台市立広瀬中学校教諭

日塔 光博

〃

埼玉県熊谷市立大幡中学校学校歯科医

渡辺 英昭

○感謝状の贈呈

高等学校部会 宮城県宮城広瀬高等学校

○公開授業 (09:30~10:20)

1 学年 1 クラス

○研究協議会 (10:30~12:20)

テーマ 「高等学校における 歯科保健指導の実践」

座 長

東京医科歯科大学歯学部教授

岡 田 昭 五 郎

助言者

青森県学校歯科医会常任理事

奥 寺 文 彦

発表者

宮城県宮城広瀬高等学校養護教諭

千 葉 泰 子

〃

仙台市宮城広瀬高等学校歯科医

宮 内 昭 穂

○感謝状の贈呈

2. 研究協議会報告 (13:30~14:30) 仙台市民会館地下ホール

座 長

日本大学松戸歯学部教授

森 本 基

シンポジウム報告者

日本大学松戸歯学部教授

森 本 基

幼稚園・保育所部会報告者

日本大学松戸歯学部教授

森 本 基

小学校部会報告者

日本学校歯科医会常務理事

石 川 実

中学校部会報告者

明海大学歯学部教授

中 尾 俊 一

高等学校部会報告者

東京医科歯科大学歯学部教授

岡 田 昭 五 郎

3. 全体協議会 (14:40~15:30)

司 会

日本学校歯科医会副会長

西 連 寺 愛 憲

議長団

日本学校歯科医会副会長

木 村 慎 一 郎

前回開催地代表 (広島県歯科医師会会長)

松 島 悌 二

次回開催地代表 (徳島県歯科医師会会長)

白 神 進

今回開催地代表 (宮城県歯科医師会会長)

松 尾 學

報告

第54回大会採択事項の処理報告 広島県歯科医師会会長

松 島 悌 二

議事

第1号議案 学校歯科健診をより万全にするために検査器具及び検査場の設備拡充を要望する。

提案者 宮城県

第2号議案 学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を強く要望する。

提案者 埼玉県

第3号議案 学校健診の基準見直しの際に教育的な事後措置に活用できるような様式を考慮されることを要望する。

提案者 富山県

大会宣言起草

大会宣言

4. 閉会式 (15:30~15:40)

閉会の言葉

宮城県歯科医師会専務理事

大 久 保 直 政

全国学校歯科保健研究大会年次表

回	開催地	年 月 日	回	開催地	年 月 日
1	東 京	昭和6年4月6日	29	東 京	昭和40年10月17～18日
2	東 京	昭和7年4月8日	30	大 阪	昭和41年11月19～20日
3	福 岡	昭和8年5月20～22日	31	名古屋	昭和42年11月11～12日
4	名古屋	昭和9年5月20～22日	32	熊 本	昭和43年11月10～12日
5	東 京	昭和10月5月19～20日	33	滋 賀	昭和44年9月21～22日
6	山 梨	昭和11年5月3～5日	34	静 岡	昭和45年10月25～26日
7	大 阪	昭和12年5月16～18日	35	千 葉	昭和46年10月28～29日
8	静 岡	昭和13年5月1～3日	36	秋 田	昭和47年10月10～11日
9	京 都	昭和14年9月13～15日	37	東 京	昭和48年11月17～18日
10	宮 崎	昭和15年5月11～13日	38	京 都	昭和49年10月12～13日
11	秋 田	昭和16年6月14～16日	39	香 川	昭和50年11月15～16日
12	兵 庫	昭和17年5月9～10日	40	栃 木	昭和51年10月30～31日
13	東 京	昭和18年5月16～17日	41	神奈川	昭和52年9月30～10月1日
14	名古屋	昭和25年10月21日	42	大 阪	昭和53年11月17～18日
15	福 岡	昭和26年10月5日	43	兵 庫	昭和54年11月9～10日
16	宮 城	昭和27年8月3日	44	鹿児島	昭和55年11月14～15日
17	香 川	昭和28年11月14～15日	45	東 京	昭和56年11月13～14日
18	島 根	昭和29年10月8日	46	愛 媛	昭和57年10月15～16日
19	東 京	昭和30年11月23～24日	47	福 岡	昭和58年11月25～26日
20	北海道	昭和31年8月5～6日	48	山 形	昭和59年9月28～29日
21	岐 阜	昭和32年7月21～22日	49	奈 良	昭和60年10月25～26日
22	栃 木	昭和33年10月24～25日	50	岩 手	昭和61年9月19～20日
23	青 森	昭和34年10月11～12日	51	岐 阜	昭和62年10月23～24日
24	和歌山	昭和35年9月25～26日	52	青 森	昭和63年10月14～15日
25	神奈川	昭和36年11月12～14日	53	和歌山	平成元年10月27～28日
26	京 都	昭和37年11月23～24日	54	広 島	平成2年10月19～20日
27	山 形	昭和38年10月5～6日	55	宮 城	平成3年10月18～19日
28	富 山	昭和39年9月18～19日			

第30回 全日本よい歯の学校表彰校

よい歯の学校表彰を受けた学校の内、最優秀6校に対し、文部大臣賞と副賞、優秀校には日本歯科医師会より特別賞が授与される。

最優秀校	青森県	西津軽郡本造町立出野里小学校	特別賞	宮城県	黒川郡大郷町立味明小学校
受賞校	山形県	飽海郡八幡町立八幡小学校	受賞校	宮城県	宮城県立光明養護学校
	千葉県	千葉市立幕張東小学校		群馬県	群馬県群馬町立上郊小学校
	東京都	江東区立第二亀戸小学校		千葉県	千葉市立横戸小学校
	滋賀県	甲賀郡水口町立水口小学校		神奈川県	厚木市立相川小学校
	大阪府	堺市立野田小学校		岐阜県	婦負郡八尾町立杉原小学校
				香川県	木田郡三木町立平井小学校
岩手県	胆沢郡衣川村立北股小学校		岐阜県	美濃市立立花小学校	
宮城県	仙台市立鶴巻小学校		石川県	小松市立符津小学校	
宮城県	柴田郡柴田町立槻木小学校		和歌山県	日高郡南部川村立上南部小学校	
福島県	岩瀬郡岩瀬村立白方小学校		奈良県	山辺郡都祁村立六郷小学校	
茨城県	日立市立油縄子小学校		京都府	京都市立高雄小学校	
栃木県	河内郡南河内町立祇園小学校		京都府	中郡峰山小学校	
群馬県	高崎市立中央小学校		京都府	亀岡市立吉川小学校	
群馬県	高崎市立鼻高小学校		大阪府	泉佐野市立末広小学校	
千葉県	船橋市立芝山西小学校		大阪府	豊中市立東豊台小学校	
埼玉県	久喜市立本町小学校		大阪府	堺市立上神谷小学校	
埼玉県	熊谷市立新堀小学校		大阪府	箕面市立西小学校	
埼玉県	大宮市立桜木小学校		大阪府	大阪市立長居小学校	
埼玉県	比企郡鳩山町立松栄小学校		大阪府	大阪市立丸山小学校	
東京都	三鷹市立東台小学校		大阪府	大阪市立五条小学校	
東京都	港区立高輪台小学校		兵庫県	高砂市立曾根小学校	
東京都	文京区立礪川小学校		兵庫県	美方郡村岡町立兎塚小学校	
東京都	台東区立精華小学校		兵庫県	明石市立魚住小学校	
東京都	大田区立入新井第五小学校		神戸市	神戸市立長坂小学校	
東京都	北区立柳田小学校		岡山県	上房郡有漢町立有漢西小学校	
神奈川県	秦野市立大根小学校		広島県	芦品郡新市町立常金丸小学校	
神奈川県	中郡大磯町立大磯小学校		山口県	光市立島田小学校	
神奈川県	横須賀市立汐入小学校		愛媛県	松山市立宮前小学校	
山梨県	東八代郡中道町立中道北小学校		愛媛県	川之江市立南小学校	
長野県	上水内郡牟礼村立牟礼西小学校		愛媛県	喜多郡五十崎町立天神小学校	
新潟県	佐渡郡相川町立高千小学校		福岡県	北九州市立天神小学校	
静岡県	静岡市立宮竹小学校		福岡県	直方市立福地小学校	
静岡県	静岡市立青葉小学校		福岡県	北九州市立祝町小学校	
静岡県	沼津市立千本小学校		福岡県	北九州市立鳴水小学校	
愛知県	豊田市立寿恵野小学校		福岡県	福岡市立赤坂小学校	
名古屋市	名古屋市立栄生小学校		熊本県	熊本市立松尾東小学校	
名古屋市	名古屋市立春日野小学校		鹿児島県	始良郡隼人町立小野小学校	
岐阜県	加茂郡東白川村立東白川小学校				

第30回全日本よい歯の学校 文部大臣賞受賞校プロフィール

青森県西津軽郡木造町立出野里小学校

〒037-32

青森県西津軽郡木造町大字出野里字泉田38

電話 0173-46-2209

学 校 長 藤 田 守 昭

学校歯科医 川 島 慶 三

本校は青森県西部、岩木川流域に位置し縄文晩期文化の遮光器土偶で有名な木造町にある。学区は四集落で構成され、米の単作地帯のため、冬期間は、県外へ出稼ぎに出て収入を得ている家庭が多い。平成元年度には創立百十周年を迎えた。全校児童数60名という小規模校のため、学校に対する父母の関心は非常に高く、協力的で子どもを育てることにとても熱心である。また奉仕作業等にも積極的に参加し学校の要望にも応えてくれる。

本校の教育目標は、「主体的にたくましく生きてはたらく力の育成」であり、学習づくり、生活づくり、健康づくり、ふる里づくりの四本の柱を軸に、地域社会との連携の中でその具現化に努めてきた。

本校の歯科保健における「むし歯予防」の取り組みは、10年程前からであるが、当時は木造町内でも特にう歯保有率が高く、入学時すでに6歯臼歯にう歯があるなど、基本的生活習慣の問題も多く、家庭をも含んだ生活全般にわたる指導の必要に迫られていた。

学校歯科医は、定期検診の他、親子同伴の検査も実施し、父母の啓蒙や指導につくすと共に教職員にも定期的に児童の実態に即した指導助言を与えてくれている。

山形県八幡町立八幡小学校

〒999-82

山形県飽海郡八幡町観音寺字古楯1

電話 0234-64-3737

学 校 長 石 垣 功

学校歯科医 佐 藤 光治郎

本町は、観音寺・一條・日向・大沢の4つの地区からなり、広さ約200km²、人口は約8300人で、全町児童のほぼ半数（283名）が本校に在籍している。

本校は、昭和34年に観音寺小学校（明治7年建立）、福山小学校（明治34年建立）が統合してできた学校である。以来、健康教育を教育計画全体の中に位置づけ、常に健康で幸福な生活を送るための基本的な生活習慣の見直しを図りながら、心身共に健康な体の保持に努力している。その結果、昭和39年健康優良学校県1位（大規模校）、昭和46年全日本よい歯の学校連続表彰記念楯受賞、昭和54年から2ケ年間、山形県歯のきらきら運動推進指定校、昭和58年学校給食優良校（文部大臣表彰）、平成元年山形県よい歯の学校最優秀校として受賞している。

本校の教育課題は『自ら課題の解決に取り組む子どもの育成』で、自己管理能力を高め主体的に生活していく力を養いたいと考えている。特に、むし歯予防に関しては、「歯について正しい知識を身につけている子」「むし歯予防に対する課題を持ち、健康づくりに取り組む子」「歯みがき活動が習慣化している子」の育成を目指し、家庭及び地域・保育園・中学校等との連携を図りながら推進しているところである。

千葉県千葉市立幕張東小学校

〒281

千葉県幕張町四丁目681番地

電話 0472-71-3191

学 校 長 根 岸 慶 二

学校歯科医 鏡 宣 昭

本校は、幕張メッセの北側の内陸部に位置し、本年度創立24年目を迎えた児童数575名、18学級の中規模校である。本校の在る幕張は、青木昆陽がさつまいもを試作した地、また、幕張人参の生産地として有名である。近年は土地開発による宅地化が進み、住宅地に変貌しつつあるが、まだまだ田畑が残り、都市部にある学校としては自然環境に恵まれている。地域の人々は学校教育に対し極めて協力的である。

本校では、「正しく判断し実行する子ども」「進んで学び創造する子ども」「心身を鍛えるたくましい子ども」を教育目標として掲げ、心身の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざし、その具現化に努めている。さらに、家庭や地域社会との連携を密にし、開かれた学校・開かれた学級運営を推進してきている。

健康教育の面では、教育活動全体を通して、体力の向上・体育の日常化をめざした実践を推進するとともに、健康の保持増進・安全指導の充実に努めてきている。特に昭和62年度からは、児童の実態を踏まえ「むし歯予防」を学校保健委員会の重点課題として、保健指導を推進してきている。以来「むし歯予防の大切さを理解し、進んでむし歯予防に取り組む児童を育てるにはどうしたらよいだろうか。——児童のむし歯予防意識の高揚をめざして——」を研究主題に掲げ、むし歯予防に関する基礎的事項の理解、基本的技能の定着、及びその自主的実践の習慣化を図るべく、計画的・継続的に取り組んできている。

東京都江東区立第二亀戸小学校

〒136

東京都江東区亀戸 6-36-1

電話 03-3864-4303

学 校 長 木 下 雅 夫

学校歯科医 古 川 正

本校は、教育目標の「進んで学びよく考える子、体をきたえたくましく生きる子」を受け、学校保健の目標に「自ら取り組む健康な心づくり、体づくり」を設定し、これを生涯健康の視点に立って指導、実践に取り組んでいる。

〈本校の研究活動〉

平成3、4年度、区の研究協力校を受け、併設の幼稚園と共に学校保健活動を中心とした健康教育に取り組んでいる。その大きな柱に歯や歯肉の健康づくり、性の指導、小児成人病予防をすえ、『観察』と『体験』に主眼をおいた研究と実践を推進している。

観察により自分の体の変化に気付かせ、原因の解決への意欲を引き起こすことができる。

また、問題を解決できたという体験による成就感と自信が毎日の生活に生かされ、ひいては生涯健康の基礎づくりに発展させている。

〈本校の学校保健活動—歯科保健を中心に—〉

1. 保健教育と保健管理の調和を図った学校保健計画の作成
2. 教師が相互にアイデアを出しながらの授業実践
3. 学校歯科医や養護教諭と共に授業に取り組む工夫
4. 個別の問題を大切にした指導の実践
5. 保護者と共に手を取り合う活動—学校保健委員会の運営の工夫—
6. 学級経営に生きる歯科保健活動

滋賀県甲賀郡水口町立水口小学校

〒528

甲賀郡水口町本町一丁目2-1

電話 0748-62-0121

学 校 長 高 橋 慶 一

学校歯科医 松 田 源 二

本校は、児童数730名、学級数23で、開校以来118年の歴史と伝統をもつ学校である。学区は、東海道五十三次の宿場町として、また、古城山岡山城・水口城の城下町として古くから栄え、甲賀郡の政治、文化、産業の中心地として発展してきた。

地域の人々は、伝統的に愛校心・愛郷心に富み、教育への関心も高く、協力的であり、それが本校健康教育推進の基盤となっている。

昭和51年度から3年間、「体力づくり推進校」の文部省指定を受けて以来、「体力づくりの生活化」に努め、昭和59年度から2年間、理科教育で県教育委員会指定研究を受け、「自然に親しみ、豊かな情操と創造力をもつ子の育成」をめざし、心身の健康づくりを志向してきた。その後、昭和63年度より文部省の「むし歯予防推進校」の指定を受け、「自分の身体(歯)をよく知り、自分で守り、きたえる子の育成」をテーマに実践と研究に取り組み、学校歯科保健を学校経営の根幹に据え、『歯を磨く』から「心を磨く」「頭を磨く」「体を磨く」の『磨き教育』へと発展・拡充させてきている。

本校の教育目標におけるめざす子ども像は、「あかるく やさしく たくましく」であるが、その目標が表出する具体的な日々の児童の姿を「白い歯 かがやく瞳 光る汗」に求めつつ、今後いっそう、健康教育を推進していきたいと念じている。

大阪府堺市立野田小学校

〒588

大阪府堺市北野田897-2

電話 0722-36-0065

学 校 長 藤 内 多 睿 子

学校歯科医 藤本宣文、桜井忠雄

本校は堺市の東部に位置し、運動場からは葛城の峯々が眺望できる。児童数が801名(9月2日)の創立20周年の学校である。

地域には開校当時の学校に協力的な気風が強く、学校と家庭・地域の連携の大きなバックボーンになっている。

本校の教育目標は「心身ともに調和のある人間性豊かな児童の育成」であり、学校保健目標を

- 心身ともに健康で明るく元気な児童の育成、
- 自分の健康状態を知って健康な生活をおくる習慣や態度を身につける。

と設定している。その努力目標を・健康な生活の習慣化 ・口腔衛生指導の徹底、としている。目標達成のため全教育活動の中に保健安全教育を有機的に位置づけ実践にとりくんできた。

本校の学校保健教育における「口腔衛生指導」の取り組みは、十数年前から学校保健安全計画の中に位置づけられ、保健だよりをはじめ、校報、PTA広報などの配布、学校保健委員会の開催などを通じて家庭へ知らせ、次第に保護者の認識を深めていった。

また本市の学校給食では、学校給食担当者が協議し「噛む噛むデー」と称してカルシウムの多い小魚等のメニュー日を設定し、噛むことの習慣化を目指しているのも特色の一つであろう。

全日本よい歯の学校の実地審査を終えて

全日本よい歯の学校審査委員 吉 田 瑩一郎

本会が主催する「全日本よい歯の学校表彰」に文部大臣の表彰状が贈られるようになったのは、昭和60年度（1985年）からで、今年度で7回目を迎える。

従前の「全日本よい歯の学校」は、処置率50%以上の学校すべてが表彰されていたので、その数は単年度で実に7,000校にも及んでいた。

しかし、昭和60年度からは、第6学年のDMF歯数が3以下であり、予防と健康増進に成果を挙げ、学校歯科保健活動を通して学校全体の健康づくりの教育に貢献している学校が選ばれるようになった。

本年度、実地審査の対象となった学校は、書類審査で最終審査に残った14校のうち6校で、8月22日から9月12日までの間に行われたが、どの学校もむし歯と歯肉炎の予防を健康教育の重点に位置づけ、学校、家庭、地域を挙げて取り組み、文字通り「学校歯科保健を通した健康優良学校」といえるものであった。

したがって、審査の観点も当然のことながら、現在のDMF歯数などの歯・口腔の状況の優劣だけを問うのではなく、そこに至るまでの過程と将来を展望しうる可能性に目を向けたものになってくる。

その意味では多くの共通点や特徴が見られるので下記に付し参照に供する。

記

- 学校教育目標や目指す児童像に「あかるく（知）、やさしく（心）、たくましく（体）」（水口小）などといったように、心身の健康にかかわる事柄が必ず上げられ歯科保健がそのための重要な素材として位置づけられていたこと。
- 指導法においても、教え込む指導から、子どもに課題を見つけさせ、問題解決の方法を考えさせるという、子どもの主体性を大切に授業の進め方に変わってきていること。そして、このような授業研究に学校歯科医も参加し、全校的に行われるようになってきていることである。
- 学校歯科医の出校回数が多いこと。年間2回の検診のほか、学級担任が行う授業の教材研究に至るまで幅広く参加し、毎週1回（野田小）、ないしは隔週1回の頻度で出校している。
- 養護教諭のかかわり方にも変化が見られるようになったこと。歯科保健指導の要素表や指導計画の作成、学級担任が行う指導の授業案づくりやその進め方に至るまで、文字通り推進役を果している学校（第二亀戸小）がみられたことである。
- 中学校や他の小学校にも成果を及ぼし、町ぐるみの活動に発展させている学校（八幡小）がみられたことなどである。

〔記念講演〕

「正宗と常長」

東北大学名誉教授
盛岡大学学長 高橋 富雄

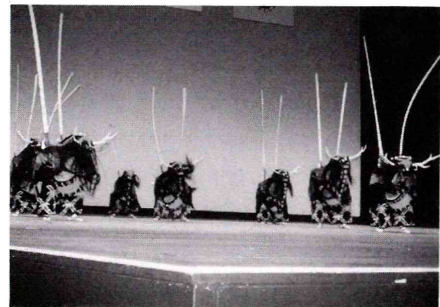
- 主な著書 「奥州藤原氏四代」「蝦夷」「みちのくの世界」「義経伝説」「みちのく一風土と心」「平安の都」「宮城県の歴史」「藤原清衡」「胆沢城」「日本の東と西」「東北の歴史と開発」「古代蝦夷」「東北の風土と歴史」「天台寺」「平泉」「辺境」「伊達正宗のすべて」「東北文化と日本」「歴史の群像2 決断」「歴史の群像5 下剋上」「歴史の群像12 雄飛」「武士道の歴史」(全3巻)「東北古代史の研究」「征夷大將軍」「將軍」「徳一と最澄」



◀ 高橋
富雄先生



◀ メイン会場



◀ 昼休み中のアトラクション

〔シンポジウム〕

●テ	ー	マ	『発達段階に即した学校歯科保健指導と生活化を図るために』	
●座		長	日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
●シンポジスト			文部省体育局体育官	猪 股 俊 二
			日本体育大学教授	吉 田 瑩一郎
			明海大学歯学部教授	中 尾 俊 一
			宮城県歯科医師会常務理事	中 條 幸 一

学校歯科保健の包括化

文部省体育局体育官 猪 股 俊 二

「学校歯科保健の包括化」の概念を明確にするために、第51回研究大会からシンポジウム、校種別の研究協議を継続して実施され帰納的に規定しようとするねらいがある。第51回研究大会以降学校歯科保健の包括化についての討議を通して基礎的な事項として次の事項を集約することができる。

- 1 学校教育目標を達成するための歯科保健に関する領域と機能の包括化
- 2 小・中・高等学校の学校段階に応じた歯科保健教育の体系化
- 3 組織体としての学校・家庭・地域社会の連携の在り方、活動内容及び方法、歯科保健の資源活用などの理論化
- 4 歯科疾患予防及び治療のための指導と管理の包括化

今後も学校歯科保健の包括化についての理論構築は重要な課題である。このような観点に立って第54回研究大会のシンポジストとして「子どもの発達段階をふまえての一貫した学校歯科保健指導の進め方」について

- 1 発達段階
- 2 指導計画
- 3 歯科保健行動
- 4 学校歯科医

をキーワードとして提言した。

本研究大会では歯科保健指導と生活化について考察することになっているので次のキーワードか

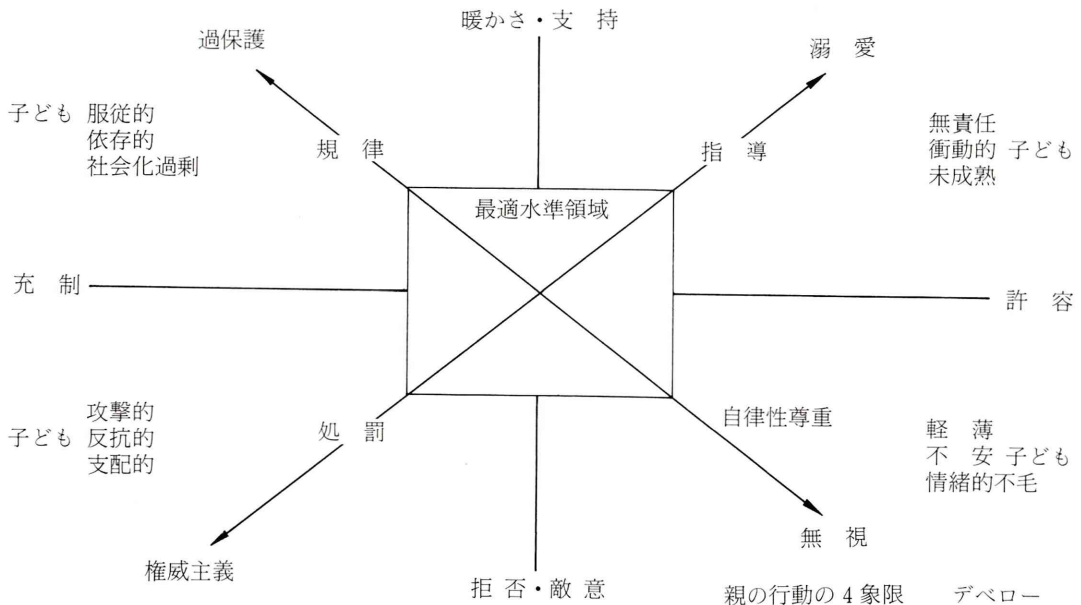
ら提言することにする。

- 1 人間の社会化
- 2 行動化の過程
- 3 教材研究

1 人間の社会化

幼児を含め児童生徒の保健行動が発達段階に応じて確立していないことが指摘されているが、生涯という時系列から考えた場合児童生徒の非行という問題と異なった憂慮すべき状況である。このような問題の発生は、生育期における家庭の教育機能に問題があるとされている。生まれたままの人間は動物と何等変わるところがないが、人間として育てられて始めて人間らしい生活ができるようになるのである。今家庭の教育機能の減退が、児童生徒の保健行動を未成熟のまま放置させているのは、生育期の過程で、所属する社会（家庭）の生活習慣や行動様式を身につけることが稀薄になっているからである。

デベローは親の行動を「暖かさ・支持」「拒否・敵意」を相対する軸に「許容性」「統制」を両極にした軸として示し、その軸を交差させて4領域で表わしている。歯科に限らず的確な保健行動は、人間の社会化が基底にあると考えられる。したがって子どもの性行を把握し、発達段階に応じた指



導と援助が必要となってくる。日常生活における
歯科保健行動の確立が生活化と言える。

2 行動化の過程

学校歯科保健の包括化を考える場合、児童生徒の
歯科保健行動の過程と、助言と援助の適時性を
視野におく必要があると考える。歯科保健行動の
動因として次の点をあげることができる。

1. う蝕や歯周炎は自分自身が被患すると認識
している
2. 時として歯科疾患は重篤な疾病と深くわか
わっていると認識している
3. 歯みがきや歯科受診などの歯科予防行動は
効果があると認識している

Kegeles は歯科問題の重要性についての認識と
歯科の予防行動との関連をあげている。このよう
な歯科疾患に対する認識の深さが、歯科保健行動
を規定しているとされているが、それらが動因と
なって児童生徒は、学校における「歯科に関する
指導」で学習した知的理解を行動として定着させ
ていくのである。したがって「▽」として示した
行動化の過程における指導と援助の方法について
事例研究を通して理論化を図る必要があると考える。

(1) 興味・関心を引き出す授業の工夫

▽1では指導過程の工夫に集約することができる。

- 知的欲求を充足する学習内容であるか
- 学習内容の量が適切であるか
- 内容理解が工夫されているか
- 人間関係の深化に配慮されているか

なお、学習内容の理解度が十分でない児童生徒
に配慮したフォローのあり方の工夫も必要であら
う。

(2) 試行錯誤への援助・助言の工夫

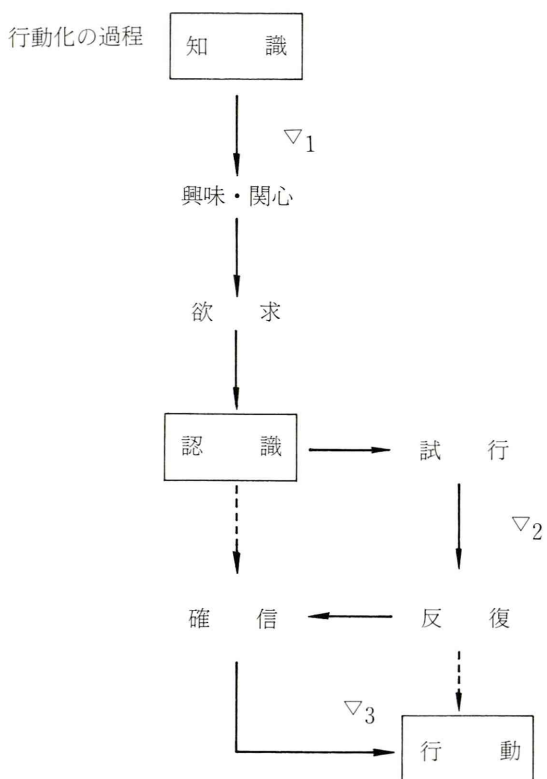
図中の「認識」の段階は、そのようにする必要が
あるとか、そのようにしなければならないとかい
う動機付けが形成された段階のことである。

▽2は、この動機付けに基づいて試しにやっ
てみて繰り返し反復している過程における助言と
援助の工夫である。

人間は、行動における快の感情に影響を受ける
ことが多い。試行－反復の過程で、快の刺激をど
のように与えるかが重要になってくる。

(3) 賞讃の工夫

試行－反復の過程を経て歯科行動に確信を持
つことになり、行動として定着するようになる。こ
のような状態にある児童生徒をどのように褒める



のかの工夫が必要となってくる。▽3の段階のかわり方である。例えば

小学校高学年から被患が増加傾向にあるとされる歯肉炎の予防行動は行動の持続性が重要であるだけに、予防行動としての的確な歯口清掃を定着させる助言としての褒め方に工夫が望まれる。

3 教材研究

平成元年日本学校歯科医会学術第2委員会が「幼児・児童・生徒の歯および口腔の健康診断と事後指置」でGO (Gingivitis for Observation) としての診断基準を示し、学校と連携を保った指導が大切であると提言している。以来、全国的に

児童生徒の歯周疾患に対する歯科保健活動が進展しており、実践記録として集約が試みられている。その一つとして、図を例示し、学校歯科保健活動の包括化を考えてみたい。江戸川区立第二亀戸では、小学校5学年「歯肉の健康観察をしよう」の保健指導の公開研究授業でわかり易い図を用いて行っていた。

この授業での骨子は問題解決型学習であるが特筆したいのは問題発見への手立ての授業展開に創意工夫があることである。

GOについて前掲の委員会は次のような基準を示している。

「歯肉に軽度の炎症徴候が認められるが歯石の沈着は認められず、歯の清掃指導によって炎症徴候が消退すると思われる者」

この基準に示された清掃指導の結果、炎症徴候が消退するためには、児童生徒が歯肉炎の徴候を確実に把握できる観察する力を育てることが基準になる。この観察力を育てる展開の工夫が指導資料の製作となっていることである。学校における健康診断が疾病・異常のスクリーニングであることから、疾病・異常の早期発見は当然としても、健康診断による「要観察」として治療に至らない何等かの異常の診査結果も多くなることが考えられる。このような他律的な異常の指摘について、問題解決を自律的にすすめるためにも問題とされた異常の状態に対して科学的な観察が必要なのである。

「包括化」には、児童生徒の歯科保健に対する能力を高める授業の工夫が重要なのである。「健康な歯肉」「歯肉炎の歯肉」の特徴を全部列記して観察させる展開も考えられるが一項目に対する観察力を高める方法に教材研究が生かされているのである。

学校における歯科保健指導の 指導計画と指導の在り方

日本体育大学教授 吉 田 瑩一郎

1. 学校における保健指導とその特質

保健指導という用語は、一般に発育・発達、老化などの年齢現象に伴う事柄や疾病・傷害の予防と治療に関する問題を、健康の保持増進の立場から指導することとして、専門的にも通俗的にも広く用いられているところである。そして、その内容としては発育や栄養に関する指導、一般の疾病・傷害や伝染病の予防に関する指導など広範囲の内容が含まれるものとしてとらえられている。しかしながら、この用語も用いられる場や対象によってそのとらえ方にはかなりの差異が認められるところである。

例えば、公衆衛生では、「保健婦、助産婦看護婦法」に保健婦や助産婦の職務として保健指導が明記されているし、「母子保健法」や「児童福祉法」においても、妊産婦や児童に対する医師や保健所の保健指導が明文化されている。これらは、医療や看護の技術を基礎にした専門的技術者による保健指導であって、どちらかといえば保健管理に伴う保健指導と考えられるものである。

学校教育においても、これらに類似したものに「学校保健法」があり、健康診断の事後活動として主として学校医や学校歯科医による保健指導や健康相談が取り上げられている。

一方、学校教育の場における保健指導は、一般に health guidance、つまり、健康生活のための生活指導としてとらえられ、児童生徒が身近な健康の問題を自分で判断し、処理できるような実践的な能力や態度を育てることをめざしている。このため、特別活動の学級活動・ホームルーム活動を中心に教育活動の全体を通じて個人および集団を対象に計画的、継続的に指導が行われるようになっている。この後者の集団を対象とした指導が、昭和46年度から48年度にわたって逐年実施された小学校、中学校および高等学校の学習指導要領に

おいて教育課程に基づく正規の授業として行われるようになっているのである。

(1) 学校における保健指導は、自分の健康に責任をもつ独立心と能力の育成を目指している

学校における保健指導は、保健学習とともに保健教育の2大構成要素になっていることについては、すでに周知のところである。それらのことを前提にしながら学校における保健指導の本質について考えてみると、「ガイダンスとは、選択や適応をしたり、問題を解決するときに、人が人に与える援助である。ガイダンスとは、受ける人が自己に責任をもつような独立心と能力を養うことを目指すものである。」(A.J. Jones) ということに帰結するのである。

学校における保健指導は、これまでも学校における教育活動の全体を通じて、個人及び集団を対象にかなり熱心に行われてきた。しかし、それは一方的な行動の押しつけや知識の注入であったりすることが多く、必ずしも児童生徒のやる気を起こし、健康な生活のしかたを学びとらせるような指導ではなかったように思われるのである。

近年、体力の伸び悩み、成人病の低年齢化、基本的生活習慣が身についていないなどが指摘されているが、これらの問題の多くは、児童生徒の意識と行動の変容によってかなり解消できるものと考えるのである。例えば、むし歯について考えてみても、むし歯の予防には、日常の歯口清掃と粘着性の間食のコントロールが必要であることはだれでも知っているのになかなかそれを実行しないのである。また、かりに毎日歯ブラシを使っていたとしても、歯の隣接面や大白歯の咬合面にみがき残しが多く、その部分から次々にむし歯を生み出しているのである。

したがって、児童生徒の実践意欲を誘発し、科学的で具体性のある問題解決の方法を学びとらせ、

それらを日常生活で実践できる能力と態度を育てる保健指導が、ますます必要になってきているといえるのである。そして今こそ児童生徒一人ひとりが自分の健康に責任をもち、自分の力で問題解決のために行動できるような保健指導の在り方を構築することが重要になってきているのである。

(2) 学校における保健指導は、個人及び集団を対象として行われる

保健指導は、health guidance として行われるものであるから、当面している健康の問題を賢明に判断し、解決することができるように援助することである。したがって、児童生徒一人ひとりが当面している問題の解決に生きて働くものでなければならない。

とすれば、児童生徒が当面している健康の問題のうちでも、児童生徒の共通の問題として指導できるものは集団を対象に、その児童生徒だけの問題として指導したほうがよいと思われるものは個別的に個人を対象としてということになる。

前者のような集団を対象とした指導が、特別活動の学級活動・ホームルーム活動、学校行事、児童会活動・生徒会活動で正規の教育活動（授業）として行われるようになってきているのである。

また、後者のように個人を対象として個別的に行われる指導は、学校における教育活動の適切な機会に学級担任、養護教諭、学校医、学校歯科医などによって行われるようになってきているのである。

(3) 学校における保健指導は、計画的かつ継続的に行われる

個人および集団を対象として行われる保健指導は、児童生徒が当面している健康の問題を解決し、健康な生活を実践できるようにすることをめざしている。したがって、特定の学年で、一度指導したらそれでよいというものではなく、第1学年で指導したことであっても、児童生徒の健康に関する行動上の問題に即して、さらに指導を積み上げていくということが必要になってくる。

また、学級活動やホームルーム活動で指導したことが、日常生活に適用され、実践されているかどうか。もしも、そうでないとすれば、児童生徒の現実の姿に即して朝の時間などに繰り返す行

日常的な指導も必要になってくるのである。

それゆえに、保健指導においては計画的に行う指導とともに指導の継続性、累積性を重視することが必要になってくるのである。

(4) 学校における保健指導は、すべての教職員によって行われる

特別活動での学級活動・ホームルーム活動における指導は、学級担任によって、また、学校行事の健康安全・体育的行事の保健に関する指導は、養護教諭をはじめとする関係教員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師によって行われる。

また、個人を対象として個別的に行われる指導は、養護教諭、学級担任、生徒指導担当教員によって行われる。さらに、医療・歯科医療の専門家による指導が必要とされる場合には、学校医、学校歯科医によって行われるが、このような場合は健康相談（学校保健法第11条）として行われることが多く、学校における保健管理に伴う保健指導といわれるゆえんである。

このように、学校における保健指導は、すべての教職員によって行われるものであり、公衆衛生などではみられない特質があるものといえる。

(5) 家庭との密接な連携が必要である

児童生徒の健康の問題は、家庭生活を切り離しては論じられない。特に、健康にとって望ましい行動を身につけさせるという観点からは、家庭の保護者との密接な連携を図ることなくしてはその効果を高めることはできないものといえよう。

したがって、学校における指導の考え方や方針が保護者によく理解され、そのことが児童生徒の家庭生活に反映されていくようにすることが重要になってくる。このため、学校参観日や学校だよりの活用をはじめ、PTA活動を通しての保護者の啓発が必要になってくる。特に、学校保健委員会の機能を見直して、学校と家庭を結ぶ組織と運営の在り方を再検討し、効果を高めるようにすることが必要である。

2. 学校における歯科保健指導の特質

学校における歯科保健指導（以下「歯の保健指導」という）は、以上のような保健指導の一環と

して行われるものである。とすれば、子供たちが歯や口の健康を保つのに必要な事柄を理解し、それらを日常生活の中で実践して、自らの力で自らの健康を保持増進することのできる習慣や態度を育てるための教育活動であるといえよう。

近年、このような観点からの歯の保健指導は、昭和53年度から始められている文部省の「むし歯予防推進指定校」の実践的研究において、その教育方法が解明され、確立されつつあり、その特質や効果が報告されるようになってきている。

- (1) 歯の保健指導は、むし歯や歯ぐきの病気などを内容にしているのですべて子供に受け入れられやすい

子供の病気の中でも、むし歯は大部分の者が経験しており、保健指導の共通の素材として絶好のものである。また、歯ぐきの病気も歯口清掃によって予防できることから、子供たちに受け入れられやすい。

- (2) 歯の保健指導の内容は、子供や保護者のライフスタイルと深くかかわっているのです、生活習慣の形成に役立つ

朝や寝る前の歯みがきを励行できるようになると、起床の時刻も早くなり、洗面や食事もきちんとするようになる、テレビの視聴時間やおやつとり方も規則正しくなる、といったように生活リズムの確立に大きな力になる。

- (3) 保健指導のカリキュラムづくりのモデルになり、保健指導全体の指導計画や指導法の改善に役立つ

学校における保健指導は、特別活動の学級活動やホームルーム活動を中心に行われるが、そこでなされる指導は子供たちが現在当面しているか、近い将来当面するであろう問題を内容としている。

歯の保健指導には、このような子供たちの問題傾向を具体的な形でとらえられ易いものも多く、保健指導のカリキュラムの見直しにも役立つ。例えば、歯をみがくということであれば、奥歯の咬合面のくぼみの汚れを落とすことなのか、前歯の歯と歯の間の汚れを落とすことなのか、といったような行動上の問題がいくつも内在しているからである。

また、指導においても教師の押し付けや説教では実践意欲が育つ筈もないことから、後述するような歯の保健指導がなされ、やる気を起こさせる指導過程での学習の展開は、他の保健指導だけでなく学級活動やホームルーム活動の活性化にも役立つ。

- (4) 歯の保健指導が軌道にのり出すと学級や学校が明るくなる。

「歯がキラキラすると眼もキラキラしてくる」といわれる。実は、そこまで到達する過程を考えると、学級活動での教師と子供、「さわやかタイム」(給食後の歯みがき)での教師と子供など、教師と子供、子供と子供が一体となって実践に励む雰囲気もたらすものなのかも知れない。また、家庭での生活リズムが変容し、快眠・快食の生活を取り戻すことができたからなのかも知れない。いずれにしても、歯の保健指導が軌道にのっている学校は実にさわやかで、子供たちが生き生きとしていて活気に満ちていることは事実である。

- (5) 家庭との連携に役立つ

よい習慣の育成のためには、保護者の養育態度の変容が不可欠であるが、歯の健康の問題は保護者にとっても他人事ではなく、学校保健委員会の議題や学級懇談会の話題として魅力がある。また、学校参観日の際の授業としても取り上げられやすいことなど、家庭との連携を密にしていく素材として欠かすことのできないものである。

さらに、PTAの保健活動として「おやつ作り講習会」「歯の寿命を伸ばす勉強会」などといったように、保護者の啓発活動にも役立つ好個の素材である。

- (6) むし歯の抑制にも効果を挙げることができる
- 子供のライフスタイルの変容がみられるようになると必然的に高度のむし歯が減少し、DMF歯数も減少してくる。

このことについては、(社)日本学校歯科医会が主催する全日本よい歯の学校表彰で全国表彰を受けた学校(昭和63年度は62校)の業績に顕著に表れている。

すなわち、表1は62校の中から優秀校として特別表彰を受けた学校の活動状況の一端であるが、

表 1 昭和63年度全日本よい歯の学校表彰優秀校の活動状況

事 項 学校名	児童数	第 6 学年の永久歯 う 歯 の 状 況		学 級 指 導 の 指 導 回 数		染め出し 検査の実 施 回 数	学校歯科 医の出校 回 数
		1人当 たりDMF 歯 数	1人当 たりC3,C 4 歯 数	L	S		
仙 台 市 立 荒 町 小	674	1.82	0.02	3	6	3	17
長 野 市 立 通 明 小	858	1.6	0	3	4	10	30
大 阪 市 立 阿 倍 野 小	543	1.8	0	3	3	9	30
大阪府泉佐野市立日新小	702	2.2	0.02	3	8	3	22
熊本県鹿央町立山内小	125	2.5	0	3	8	10	36

〈主催 (社)日本学校歯科医会〉

表 2 学校歯科医の出校状況 (昭和63年度)

事 項 学校名	学校歯科 医 在 籍 年 数	歯の検査	歯の健康 相 談	学校保健 委 員 会 出 席	学校行事 への参加	歯科保健 指 導	そ の 他
仙 台 市 立 荒 町 小	26.3年	3 (2)	5	2	4	2	1 (17)
長 野 市 立 通 明 小	9	12 (2)	5	2	3	3	5 (30)
大 阪 市 立 阿 倍 野 小	37	3 (2)	6	2	3	6	10 (30)
大阪府泉佐野市立日新小	15	6 (2)	3	3	7	2	1 (22)
熊本県鹿央町立山内小	43	4 (2)	12	4	6	6	4 (36)

(注) 1) 昭和63年度 全日本よい歯の学校表彰優秀校の状況である。
2) 「歯の検査」の欄の () は検査の回数である。
3) 「その他」の欄の () は出校回数の合計である。

学級指導での計画的な保健指導など保健教育面の充実が著しいこと、学校歯科医の出校回数が多い (内訳は表2参照) ことなどが目立っている。

3. 歯科保健指導の指導計画

学校における歯の保健指導の指導計画としては、小学校歯の保健指導の手引 (文部省) にも述べられているように、全校的に組織的、計画的に指導を推進していくのに必要な全体的な計画 (以下「全体計画」という) と、特別活動の学級活動、ホームルーム活動や学校行事における歯の保健指導を計画的に進めるために必要な指導計画が考えられる。

全体計画は、学級活動、ホームルーム活動、学校行事を中心に教育活動全体を通じて行われる歯の保健指導の基本となる総合的な計画であり、統合と調整の機能をもった計画である。

一方、学級活動、ホームルーム活動、学校行事

における歯の保健指導の指導計画は、全体計画に盛り込まれた事項を指導の実際に役立つようにするために、何を、どのように展開していくかを見通すことのできる具体的なもの、つまり分散の機能をもった年間指導計画、主題ごとや活動ごとの指導計画をさすものである。ここでは、全体計画、年間指導計画、主題ごとの指導計画作成の観点について述べることにする。

(1) 全体計画

学校における歯の保健指導は、教育活動の全体を通じて行われるので相互の関連が十分図られ、指導の効果を高めることができるよう年間を通じて、どのような子供に、どんな内容や活動を、いつ、どこで、誰が指導するかを明確にしておくことが必要になってくる。

① 歯の保健指導が、教育活動のどの場で、どのような指導を行うかについて確かな見通しをもつ

まず、作成に当たって、どのような全体像を描くかということである。ことしは、日常の指導を核にしながら進めて、学校行事と児童会活動・生徒会活動に重点を置きながらという学校もあるであろうし、去年が行事中心であったから、ことしは学級を中心とした指導に発展させ、学級活動やホームルーム活動での指導に傾斜をかけようという学校もあるであろう。いずれにしても、重点の置き方はその学校の活動の経験によって差が出てくるのは当然で、確かな展望の上に立って構想することが肝心である。

② 学級活動の指導の時間を相当時間確保する

小学校の学級活動は、児童の発達段階からみて一単位時間(45分)だけでなく、20分程度の時間での指導についても考慮することとされているので、前者についてはおよそ毎学期1回、後者については毎月1回程度の指導を行うのが適当と考えられていたが、指定校(文部省のむし歯予防推進指定校)の研究では、各学年を通して1単位時間については毎学期1回は困難でないにしても、20分程度の時間については年間4～6回が適当であるとの報告がなされている。しかし、要は必要性の問題なので指導の積み重ねによって自然な形で増加を考えるようにする。

③ 学級活動での主題は具体的なものにする

内容が行動目標で設定されていれば、必然的に「奥歯のみがき方」「歯と歯の間のみがき方」「歯ブラシの選び方」などといったようなものになるはずである。このように指導のねらいを見通すことができるような主題づくりを工夫することである。

④ 学校行事では、少なくとも毎学期1回は「歯みがき週間」「うがい週間」などを計画する

学校行事は、全校的に雰囲気盛り上げるのに有効なので、毎学期1回は週間行事を計画することが必要である。指定校などにおいては、毎月4日または8日を「歯の日」にしている例も見られるが、むし歯や歯肉炎の現状からみていずれの学校においてもせめて学期に1回は「歯みがき週間」などを計画することが望まれる。

⑤ 児童会活動、生徒会活動の内容として児童生

徒の「集会活動」を歯の保健指導に活用する

児童会、生徒会の集会活動は、レクリエーションや児童会、生徒会の活動などについて協議するために行う活動であるが、近年、児童生徒の自発性、自主性に根ざした歯に関する全校児童(生徒)集会を計画し、「歯の保健集会」として毎学期45分程度の活動を計画して、児童生徒の意識の高揚に成果をあげている例が報告されている。学校行事の場合のような学校歯科医や医師の一方的な説話とは異なって、全校児童生徒が役割を分担して参加するので、プログラムの工夫によっては学級活動での指導の発展、拡充の機会として有効であると考えるのである。

なお、中学校、高等学校においては、「歯の健康づくりシンポジウム」といったような集会活動を計画する例もみられるようになっている。

⑥ 日常の指導では、給食後や昼休み時間に「洗口の時間」を設定するようにする

日常の指導としては、朝や帰りの時間での指導と給食後や昼休み時間におけるうがいや歯みがきの指導が考えられているが、習慣形成と学級での指導の定着度を確かめたり、個別的な指導の機会として給食後や昼休み時間に「洗口の時間」を設けるようにしたいものである。近年、小学校では「さわやかタイム」「ブラッシングタイム」などといったように日課表に位置づけている学校が多くなってきている。

⑦ 個別指導についても計画的にできるようにする

保健指導の究極のねらいは、子供一人ひとりの問題をいかに解決していくかということである。特別活動を中心とした集団を対象とする指導では、行き届きにくい問題の解消を図っていくためにどうしても個別指導が必要になってくる。そのためには、学校歯科医の助言を得ながら学級担任と養護教諭が協力し合って指導に当たるようにしなければならない。その際、保護者の理解を深め養育態度の変容を図ることはいうまでもないことである。

⑧ 全体計画は年間の活動を端的に把握できるようなものに工夫する

表3 歯の保健指導の全体計画例（小学校）

項 目	内 容	位置づけ	時 期
歯の健康に関する意識を高める	1 年	学 級 活 動	6 月 12 月
	おく歯（第1大臼歯）のみがき方		
	おやつをじょうずにたべよう		
	2 年		
	前歯をきれいにみがこう		
	よくかんでたべよう		
	3 年		
	新しくはえた歯をだいじにしよう		
	おやつのとりを方をくふうしよう		
	4 年		
	みがき残しのないみがき方を考えよう		
	むし歯の進み方を知ろう		
5 年	健康な歯肉をつくろう		
	体に成長と歯の発育について知ろう		
6 年	大切な奥歯を正しくみがこう		
	歯の健康によい食べ物について考えよう		
健 康 診 断	・むし歯の発見 ・口腔内の病気の発見 ・個別指導者の抽出	学 校 行 事	4 月（定期） 12 月（随時）
歯垢染め出し検査	・歯の汚れやすいところ ・歯みがきの状況の確認	学 級 活 動	6 月
歯 ブラ シ 点 検	・使えなくなった歯ブラシ ・歯ブラシの扱い方	日 常 指 導	
歯ブラシ保管庫の管理	・保管庫の消毒	児 童 会 活 動	毎 月
給食後の歯みがき	・手洗い→残さず食べる→きれいにみがく、 を一連の運動として習慣づける	日 常 指 導	
きゅうしょく歯みがき カレンダー	・給食を残さず食べる ・歯みがきの習慣化	児 童 会 活 動	学 期 1 回
施 設 設 備 の 管 理	・水道の使い方 ・石けんの使い方	日 常 指 導	
広 報 啓 発	・保健だより ・よい歯の表彰 ・ポスター	広 報 活 動	年 間 を 通 し て
歯の衛生週間行事	・学校歯科医の講話 ・全校集会（劇、クイズ、放送）	学 校 行 事 児 童 会 活 動	6 月
職 員 研 修	・歯のみがき方	研 修	随 時
家 庭 と の 連 携	・保健だより ・講演会 ・親子カラーテスト		随 時
個 別 の 指 導	・個々の問題の解決	健康相談（保健）	随 時

（注）東京都千代田区立神田小学校長 森 正康による。

全体計画には、特定の様式はないが、表3のよう
にできるだけコンパクトに年間の流れを把握で
きるように工夫する

また、全体計画に盛り込まれた内容は、学校保
健安全計画に位置づけられることはもちろん、学
校の教育計画に適切に位置づけられるようにする。

（2）年間指導計画

この計画は、全体計画に盛り込まれた学級ごと

の指導、つまり学級活動やホームルーム活動で行
われる指導の計画、ねらい、内容、指導の時期な
どを、学年ごとに明らかにしたものである。主題
名は、すでに全体計画で明らかにされているので、
ねらい、内容そして取り扱いの視点が学級担任に
はつきりわかるようにしておくことが大切である。

① 要素表との関連がわかるようにする

歯の保健指導を、子供のもつ課題に即して進め

表4 幼稚園主題一覧表

1 ブクブクうがい をじょうずにしよう	4 「は」ってなあに
2 ハブラシとおとも だちになろう	5 おやこではのけん こうをまもらう
3 おやつをじょうず にたべよう	6 よくかんでたべよ う

(注) 重点指導の主題である。

ていくためには、課題が明らかにされている「要素表」に基づいた内容構成が必要になってくる。要素表には、相互に関連がありそうなもののがかなり含まれているので、主題の内容を決める際には構造化の視点に立って関連が十分図られるようにし、その関連を番号で示すなどの工夫が大切である。要素表では子供のかかえている問題が多い場合には、かなり盛り沢山になる場合が多いので内容構造の観点からも構造化の手続きは不可欠である。

② 幼稚園では、「重点的な指導」と「日常指導」の要点を明らかにする

幼稚園の場合は、「重点的な指導」と「日常指導」とが考えられるが、重点的な指導は年間を通じた計画的な指導なので、この場面での指導の回数と主題の設定ということになる。年間3回以上つまり、学期に1回以上は設定(表4)したいものである。また、日常指導の重点についても月ごとにはっきりさせる。

③ 小学校では1単位時間と20分程度の時間のねらい、内容を明らかにする

全体計画の項において着眼点を述べたが、本書では「主題一覧表」のように児童の現状からみて、1・2年と5・6年は1単位時間3, 20分程度の時間8, 3・4年は1単位時間2, 20分程度の時間9といったように配当を試みることにした。学校の実情に即して選択するなど参考とされたい。

④ 中学校では学級活動の1単位時間での指導の主題、ねらい、内容の設定を工夫する

3か年を通して5～6回は必要であると考えられる。主題については、表5のように学級活動らしい「歯垢の正体をさぐろう」「自分の歯並びの特徴を知ろう」「口を清潔にしてスマートに生きよ

表5 中学校主題一覧表

1 歯垢の正体をさぐ ろう	5 歯みがきのポイント を知ろう
2 むし歯は早く治療 しよう	6 規則正しい食生活 を心がけよう
3 歯肉の健康を守ろ う	7 歯の発育と食生活 を考えよう
4 自分の歯並びの特 徴を知ろう	8 口を清潔にしてス マートに生きよう

(注) 1単位時間の主題である。

う」などといったように工夫する。

⑤ 高等学校ではホームルームの主題、ねらい、内容を工夫する

3か年を通じて各学年1回は必要と考えられる。その場合の主題としては「音もなく忍びよる歯肉の病気」「歯の治療は今のうち」「むし歯と王選手」「歯無しは話にならない」などといったように工夫する。

(3) 主題ごとの指導計画

学級におけるよりよい指導を期待するためには、年間指導計画だけでは十分とはいえない。どうしても年間指導計画に基づいた指導すべき主題、指導のねらい、内容、方法、指導上の留意点、資料、他教科・領域における関連などを明らかにした主題ごとの指導計画が必要になってくる。このような計画には精粗様々なものがみられるが、作成に当たっては、次のような事柄に留意する。

① 指導のねらいは、何を指導するかがわかるように主題に即してできるだけ具体的にする

② 内容は子供たちが現在当面しているか、近い将来当面するであろう具体的な行動上の問題を取り上げ、できるだけ精選する

③ 指導の方法については、子供の活動や視聴覚教材、模型、実物などを積極的に取り入れ、学習意欲が高められるようにする

④ 資料については、歯垢の染め出しの結果など身近で具体性があり、子供たちが自分のこととして学習に取り組むことができるようなものを用意する

⑤ 評価の観点は、学習の過程にも用意されるようにする

- ⑥ 関連については、歯の保健指導の系統の中で
の関連や他教科・領域との関連についても述べて
おくようにする

4. 歯科保健指導の指導の進め方

(1) 指導とは何か

保健指導は、教科で行われる保健学習のように
知識や技能を理解させればそれでよいというもの
ではない。それは山田も指摘しているように知識
と行動は必ずしも一致するものではなく、望まし
い行動を期待するためにはそれなりの考え方と方
法を確立しなければならない。特に従前の保健指
導においては、単に保健の知識を誤りなく伝達す
れば事足りるといったような傾向や、指示的、命
令的、押しつけの傾向が強く、子供は教師のため
に、学校歯科医のために話を聞いてあげる、歯を
みがいてあげるといったような例も決してみられ
ないことではなかった。

指定校等における研究の最大の課題は、このよ
うな傾向に歯止めをかけ、真に健康自衛の能力を
身につけさせる指導法はなにかということを探る
学級指導の授業研究にあったのである。それは、
あたかも Jones の「ガイダンスとは、受ける人が
自己に責任をもつような独立心と能力を養うこと
をめざすものである」というガイダンスの本質に
接近するための指導法の研究でもあったのである。

- (2) よい授業のためには、指導のねらいが具体的
でなければならない

むし歯の予防に関する指導では、「むし歯の予防
の仕方」「正しい歯のみがき方」といったような抽
象的な主題で授業がなされることが多い。しかし、
それでは一般的な原理、原則の理解に終わって、
なかなか口のなかをきれいにする行動が身につ
いていかないという。そこで「奥歯をきれいにす
るみがき方を身につけさせる」「いつも汚れがたまる
ところをきれいにするみがき方を身につけさせ
る」といったように子供の現実の姿に即応して指
導のねらいを明確にし、子供がかかえている問題
が具体的に解決されていくようにすることが学級
活動におけるよい授業の基本であるということな
のである。

- (3) 児童生徒が自分のこととして共感し、よしや
ろうという意欲をかきたてるための指導過程の
工夫が大切である

このための方法として、われわれは手引におい
ていくつかの提言をしたが、1 単位時間と 20 分程
度の時間の指導過程についてかなり実践的な検討
が加えられ報告がなされている。

表 6 は、岩手県山田北小学校が自ら学ぶ過程を
重視して工夫した 1 単位時間の指導過程の原型で
あるが、子供がいま当面している歯の健康の問題
に気づき、問題の原因を考え、画一的でなく自分

表 6 単位時間の指導過程

	段 階	指 導 過 程	展 開 の 課 題
導 入	問題を発見する	問題の意識化、共通化 ・学習への動機づけ ・問題への意識づけ ・学習課題の確認	○どんな問題があるのか ○なにが問題なのか (存在性、問題性)
展 開	(前段) 問題の原因を調べる	問題の原因、理由の追及把握 ・問題発生の原因や理由の理解確認	○その問題はどのように起こったのか ○なぜ、このような困ったことになっ たのか (原因、理由)
	(後段) 問題の解決や対処のし かたを知る	問題解決、対処のしかたの追及把握 ・問題の解決や対処のしかたの理解、 納得	
終 末	実践への意欲をもつ	実践への意欲化 ・実践への意欲づけ ・実践への自己決定 ・学習の整理、確認	○これからこうしよう ○こうしなければならない (決意、意欲) 〈家庭と連携を図る〉

(注) 岩手県山田町立山田北小学校

に合った解決方法を発見し、押しつけでなく子供の必要感に支えられ、自分のこととして実践に励むことができるような意欲を引き起こす指導過程の工夫と実践は急務であるといわなければならない。

また、20分程度の時間においても指導のねらいに応じた指導過程や指導法を工夫することが大切である。

① 指導のねらいに応じた指導過程や学習活動を工夫する

この時間の指導には、実践を促すために意識を高めることをねらいとするもの、行動の仕方（汚れの残っているところのみがき方など）を習熟させることをねらいとするものなどが考えられる。したがって、指導過程や学習活動は指導のねらいに応じて実習を取り入れたり、みがいてもみがき残しがあるのはどうしてなのかを考えさせたり、みがき残しをなくすためには歯ブラシの毛先をどのように使ったらよいかを工夫させるなど指導の効果を高めるようにする。

② 学習課題の提示の仕方を工夫する

この時間での指導は学習課題に対する意識化・共通化が短時間のうちに図られることが必要なので、子供にとって身近な録画や写真などの視聴覚教材を用意したり、歯垢の染め出しの結果をまとめておく（染め出しを行うこともある）など、学習課題の提示の仕方について工夫する。

③ 1単位時間での指導や日常の指導との関連を図る

この時間での指導には、1単位時間での指導では行き届かない事柄とか、日常の洗口の時間を通じて見られる歯ブラシの使い方などの問題が取り上げられることが多いと考えられるので、それらの指導との密接な関連を図って指導の効果を高めるようにする。

④ 学校行事における指導との関連を図る

この時間での指導には、歯の検査や歯の衛生週間、歯の日など歯・口腔の健康に関する行事と関連付けて指導することにより、指導の効果が高められると考えられるもののがかなり含まれている。したがって、これらの行事の事前・事後の指導と

して相互に密接な関連を図りながら指導の効果を高めるよう留意する。

(4) よい授業には、よい資料の活用が必要である

よい授業のためには子供に感動を与えたり、理解を確かなものにしたり、といったようなスライド、OHP要T P、VTRなどの映像物、模型、実物、録音、統計資料などの教材が必要である。かつて、岡山県山陽町立山陽小学校が「どっきり活用法」「なるほど活用法」「はてな活用法」「やる気活用法」による成果を報告しているが、前掲山田北小学校では指導過程に応じた資料の位置づけと活用について図1のように報告している。

子供にとって身近な素材や事実から資料を求めた自作による教材・教具の整備と活用が望まれるところである。

(5) 一人ひとりを大切にしたい指導が必要である

保健指導は、ガイダンスとして行われるものであるから、一人ひとりがかかえている問題の解決があつてはじめて指導の目標が達成されたといえるのである。歯の保健指導においては、歯ブラシの使い方が上手にできない子、歯並びの悪い子、歯みがきを忘れる子などがよく見られるところである。したがって、授業の中での教師の個別的な指導、賞揚などの気配りは極めて大切である。また、授業では行き届かない場合には、養護教諭の協力を得て保健室などで個別的に行き届いた指導を行うようにするものでなければならない。

最近、指導案の中の総括的な評価の項に「A君とBさんができたか。」といったような表記を目にしたことがあるが、保健指導の授業における評価の一つの見解として共感するものが大きかったことを付記しておく。

5. 歯科保健指導の評価

(1) 歯の保健指導における評価の考え方

およそ教育における評価は、指導・学習によって子供が指導のねらいにどれだけ近づいたかを見極め、その結果を次の指導計画や指導の改善に役立てるために行うものである。

学校における歯の保健指導は子供が歯・口腔の健康について必要な事柄を知り、それが実践でき

図1 資料の位置づけと活用の視点



(注) 岩手県山田町立山田北小学校

ようにすることをめざして行うものである。このため、特別活動の学級活動・ホームルーム活動を中心に学校における正規の授業として意図的、計画的に行われている。

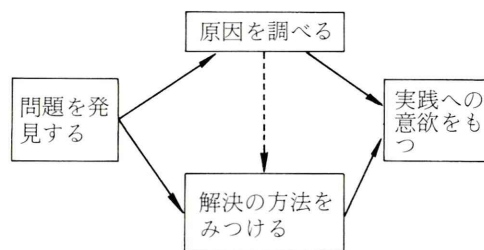
とすれば、子供が学習によって何を、どのように身につけているかを見極め、その結果を指導の改善充実に生かしていく手だてが必要になってくる。いってみれば、学習の達成状況を見極めることなのである。

したがって、むし歯の処置率やDMF歯数の増減を尺度として成果を云々するという手法は、当を得たものとはいえないのである。

(2) 歯の保健指導で何を評価するのか

以上のことから、何を評価するのか(評価目標)ということになると、それは、何をねらって指導しているのか(指導目標)から導き出されることになる。したがって、指導目標を具体的、かつ明確に設定しておくことが必要になってくる。そこで、学校における歯の保健指導の目標を「小学校歯の保健指導の手引」(文部省)によって確かめてみると、次のようになっている。

- ① 歯・口腔の発育や疾病・異常など、自分の歯や口の健康状態を理解させ、それらの健康を保



持増進する態度や習慣を養う。

- ② 歯のみがき方やむし歯の予防に必要な望ましい食生活など、歯や口の健康を保つのに必要な態度や習慣を養う。

この目標を達成するために、学校としての指導の要素表を作成して行動目標を明らかにし、これに基づいて学年のねらいや重点を設定して年間指導計画を立てる。これによって、学級活動の1単位時間、20分程度の時間で指導するねらい、内容、時期が明確になり、目標が具体化されていくのである。実は、その際の指導のねらいが、評価目標となるのである。評価目標とは、いってみれば指導目標が達成できたかどうかを確かめることであり、それを反省と改善の資料にするということな

のである。

(3) 評価はどのように

評価目標が達成されると、それに合った評価技術を用いて評価のための資料(情報)を収集することになる。

歯の保健指導においては、多くの場合、毎日の「洗口の時間」や月・学期・学年の終わりに行われるのが通例となっている。「洗口の時間」であれば、歯のみがき方に関して行うことになるので観察法によることになるし、歯に関する知識についてであれば、真似法、多肢選択法、組み合わせ法、完成法などを用いたペーパーテストによることになる。また、学期や学年ごとに口の清潔の様子を知るためには、染め出し法が用いられることになる。さらに、家庭における歯みがきやおやつとり方などに関する習慣形成の度合いを知るためには、質問紙法(児童生徒又は保護者に対して)を用いることになる。こうして集められた資料を解釈し、指導目標がどれだけ達成されているかを見極め、指導計画や指導法の改善に役立てていくことになるのである。

例えば、歯のみがき方についてであれば、第二大臼歯の咬合面や切歯の隣接面などにみがき残しがあれば、「奥歯のかみ合わせのところをきれいに

みがくことができる」「歯と歯の間をきれいにみがくことができる」といったような行動目標が新たに起こされるのでなければ、教育測定は行ったとしても、教育評価を行ったとはいえない。

＜引用文献＞

- 1) 吉田瑩一郎, 藤井真美編著: 保健指導 現代学校保健全集第4巻 P. 9~12 ぎょうせい 昭和57年(1982)
- 2) A. J. Janes (井坂行男訳): Principles of Guidance (生活指導の原理) P. 17 文教書院 昭和34年(1968)
- 3) 吉田瑩一郎, 藤井真美編著: 保健指導の指導計画(第3章) 現代学校保健全集第4巻 P. 93~94 ぎょうせい 昭和57年(1982)
- 4) 森 正康: 学校における歯の保健指導計画と授業の進め方, 昭和62年度学校歯部保健研究協議会要項 東京都実行委員会
- 5) 吉田瑩一郎: むし歯予防推進指定校から得られるもの 日本歯科評論 464(昭和56年6月号)
- 6) 山田 茂: 学校歯科新書 P. 32~33 東山書房 昭和53年(1978)
- 7) 吉田瑩一郎: 新訂保健科教育法 P. 199 教育出版 平成3年(1991)



学校・家庭・地域の果たす役割とその連携

明海大学歯学部教授 中 尾 俊 一

1 学校歯科保健における組織活動

～学校・家庭・地域の果たす役割とその連携～

学校歯科保健は歯科保健教育ならびに歯科保健管理からなりたち、その両者を円滑に発展せしめるための組織活動である。

組織活動には、教職員の協力体制、学校、家庭、地域社会との連携、地域関係機関、団体との連携や学校保健委員会などがある。

平成元年度に訂正された学習指導要領では、「開かれた学校の促進」が大きな特徴の一つになっている。これによると、小学校、中学校、高等学校学習指導要領総則に、「地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域社会との連携を深めるとともに、学校相互の連携や交流を図ることにも努めること」とされている。

すなわち、歯の保健に関する実践力を身につけさせるためには、学校における指導のみでは不十

分であり、学校・家庭・地域の一体的な協力は極めて重要となってくる。

2 保護者の啓発

学校における歯の保健指導は、歯のみがき方をはじめ、むし歯や歯ぐきの病気の予防に必要な基礎的な事柄について正しく理解させるためのものであり、その実践の場は家庭である。したがって学校における歯の保健指導の方針や目標、内容が家庭に十分周知徹底されることが大切である。

(表1)

保護者の啓発について、幼稚園における歯科保健指導面の実践では、保護者、とくに親の心構え、母親の態度は重要である。保護者の啓発の重要性は、現在児童・生徒を取りまく生活環境の問題として、家庭においては、基本的な生活習慣を形成する家庭機能の弱下ないし低下という現実も直視

表1 歯の保健指導の目標と内容(『手引』より)

目標	(1) 歯・口腔の発育や疾病・異常など、自分の歯や口の健康状態を理解させ、それらの健康を保持増進できる態度や習慣を養う (2) 歯のみがき方やむし歯の予防に必要な望ましい食生活など、歯や口の健康を保つのに必要な態度や習慣を養う。
内容	(1) 自分の歯や口の健康状態の理解 歯・口腔の健康診断に積極的に参加し、自分の歯や口の健康状態について知り、健康の保持増進に必要な事柄を実践できるようになっている。 ① 歯・口腔の健康診断とその受け方 ② 歯・口腔の病気や異常の有無と程度 ③ 歯・口腔の健康診断の後にしなければならないこと (2) 正しい歯のみがき方とむし歯の予防に必要な食生活 ① 歯や口の清潔について知り、常に清潔に保つことができるようになる。 ・正しい歯のみがき方 ・正しいうがいの仕方 ② むし歯の予防に必要な食べ物の選び方について知り、歯の健康に適した食生活ができるようになる。 ・むし歯の原因と甘味食品 ・そしゃくと栄養 ・おやつの種類と食べ方

しなければならない。もともと、習慣形成は、学校教育だけの課題ではなく、家庭教育の課題でもあれば、社会教育の課題でもあることを忘れてはならない。

3 保護者への啓発の方法と手段

学校における歯の保健指導の方針や内容が家庭に十分周知徹底されなければならないことは先に述べた。指導のねらいや、内容を家庭に浸透、周知徹底させる方法や手段は、学校の事情によって異なるものであるが、一般的には次のようなことが考えられる。

- (1) 家庭訪問や学校参観、学級PTA、学校保健委員会などの機会を利用して保護者に学校の方針等を説明し、歯の保健指導についての理解と関心を高める。
- (2) 学校から家庭への各種通信を活用して、定期健康診断の結果や歯みがき状況などを家庭に連絡すると共に、家庭間の情報の交流を図り、歯の保健指導についての理解と関心を高め、歯の保健に好ましい家庭環境の改善に資するものであること。
- (3) 定期健康診断直後に行う事後措置の指示に当たっては、単なる治療勧告だけでなく、歯や口の健康についての日常の望ましい態度や習慣をいかに定着させるかについての指導を加えるものであること。
- (4) 歯の正しいみがき方や歯によい食事など、体験的に行える内容のものについては、学習参観などの機会を利用して児童・生徒の学習に参加してもらうなどの工夫が考えられること。

日本学校保健会では、むし歯予防啓発推進委員会を設置し、むし歯予防啓発推進事業をおし進め、幼稚園、小学校、中学校を一貫した地域ぐるみの学校歯科保健活動を推進してきた。

- (1) 保護者は、むし歯予防に関する知識をよく理解するように努めよう。
- (2) 食後の歯みがきや就寝前の歯みがきは、家庭ぐるみで励行しよう。特に、就寝前の歯みがきは必ず実行しよう。

- (3) 歯に粘りつく甘味食品のおやつは控えさせよう。もし与えたら食後の歯みがきや、うがいを励行するようにしよう。
- (4) 歯の検査は、年に1〜2回は受けるようにし、むし歯が見つかったら早く処置を受けさせよう。
- (5) むし歯予防会議などで、歯みがきカレンダーを話題にして、むし歯予防のことをみんなで話し合ってみよう。

家庭でのむし歯予防のチェック

1. お子さんの歯みがきのようすをよく見ましよう。(歯ブラシの使い方、歯をみがいている時間)
2. 月に何回か日を決めて、お子さんの歯の健康状態を確かめましよう。(歯はよごれていないか、むし歯はないか、歯ぐきはどうか、新しく生えた歯はどうか)
3. 歯の検査を受けましよう。(歯科医師の検査を受ける、むし歯は早く治療する)
4. 気持ちよく歯みがきができるように工夫ましよう。(幼児がジャ口に手が届くようにする、子供用の鏡をつけてやる、3分間砂時計などで歯みがきの興味を高める)
5. 例外を許さないようにましよう。(眠い、遅い時でも歯みがきの習慣を守らせる)
6. 甘い食べ物をとりすぎないようにさせる。(糖分が多くても飲み物なら、むし歯にならないと考えていないか)
7. そしゃくがしっかりとできるようにさせましよう。(食べ物をよくかんで食事をしているか)
8. 親が手本を示ましよう。(子供と一緒に歯みがきをするなど、親が手本を示しているか)
9. むし歯を防ぐ家族会議をもちましよう。(染め出し剤を使って、家族全員の歯のみがき方を調べる、歯のみがき方について家族で話しあう)
10. むし歯予防の学習をましよう。(親が、むし歯予防の正しい知識を身につける、地域の講習会や研究会に進んで出席する)

4 PTAとの協力

歯や口の健康に関する望ましい態度や習慣の変

容には、PTA活動を通して、教師と父母が歯の保健指導について互いに理解を深め協力しあうことが大切である。そのためには、次のような活動が考えられる。

- (1) PTA広報紙等の活用による歯や口の健康に関する地域の普及と啓蒙
- (2) PTA広報紙等の活用により年度の歯の保健指導の基本方針や内容の周知
- (3) PTA保健部などの主催による研修会の機会を利用した歯・口腔の保健思想の普及と啓発
- (4) PTA総会等における歯や口の健康に関する講習会の開催

5 地域の関係機関・団体との協力

地域の関係機関・団体には、地域の歯科医師会や学校歯科医会、歯科衛生士会があり、適切な協力を得ることが必要である。そのためには、平素から区、市町村教育委員会をはじめ、地域の学校保健会・校長会などを通して連絡を図っておくことが大切である。必要に応じて、それぞれの団体の代表を学校保健委員会に招へいして協力を要請する。

6 学校保健委員会

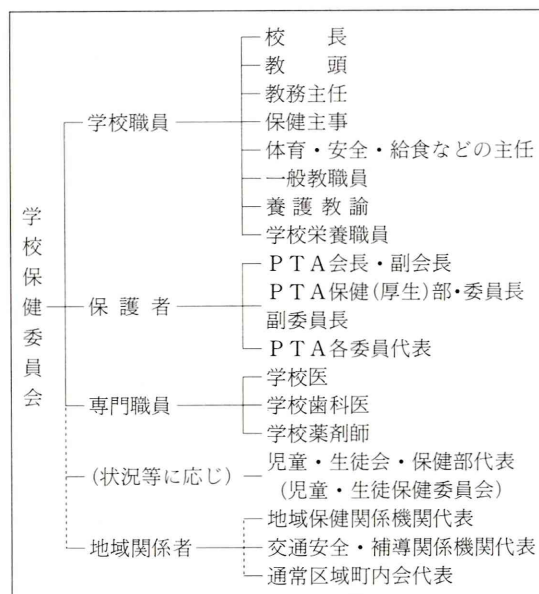
小学校歯の保健指導の手引（昭53年）には、学校保健委員会のあり方として次のように述べられている。

- ① 学校と家庭の役割を明確にする
- ② 児童や保護者等の行動の変容によって問題解決が図られるようにする。
- ③ 問題解決に生きて働く組織と運営について配慮する
- ④ 委員会で協議された事項は実践に移されるようにする

1) 学校保健委員会の構成

学校保健委員会の構成は、学校経営者である校長を中心に、学校職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保護者などで構成される。学校保健委員会の構成を図1に示した。

図1 学校保健委員会の構成



日本学校保健会、「学校保健委員会のしおり」より、学校経営者である校長を中心に、学校職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保護者代表などで構成する。地域の保健関係機関等の代表者は、助言者として参加する(助言者は、時に応じ参加)。

2) 学校保健委員会7つの約束（日本学校保健会「学校保健委員会のしおり」より）

- ① 始めと終わりの時間を明確にしておく
- ② テーマに即し、わかりやすい資料を提供する。
- ③ 学校医・学校歯科医・学校薬剤師は、専門的立場から提言する
- ④ 委員は、委員会に欠席する場合、事前に連絡しておく
- ⑤ 次回のテーマ、日時、場所を確かめて解散する
- ⑥ 委員会の議題や報告は、翌日の職員打合せて必ず行う（状況によっては、児童・生徒に知らせる）
- ⑦ 家庭には、“学校保健だより”や“PTA通信”で確実に伝える

3) 地域学校保健委員会

地域学校保健委員会は、行政の面から、あるいは生活圏からみた一つの地域の中で、そこにある

小・中・高校の学校保健委員会が数校ずつ連合してつくった委員会をいう。この委員会は、地域の特性をいかしたもので、隣の学校との交流を深めていくものである。前述の「学校保健委員会のしおり」にその必要性について次のように述べられている。

地域学校保健委員会の必要性

① 他校の実践から学ぶ機会

各学校が学校保健活動の情報をもちより交換することで相互の啓発により、学校保健活動の活性化が図れる。

② 学校保健に関する視野の拡大

学校保健委員会の取り組むテーマが発見され、マンネリ化が避けられる。

③ 連帯、協調を通じての「地域観」の醸成
数校が交流することにより「私の学校」から「私の地域の学校」という意識が生まれ、地域保健の基礎ができる。

④ 保健安全関係機関との連携機会の拡大

一校毎の学校保健委員会にくらべ、地域の連合体の場合、教育委員会・学校保健会・医師会・歯科医師会・薬剤師会・保健所や消防署・警察署などの代表が出席しやすくなる。

⑤ 学校保健の研修会の拡大

地域学校保健委員会の場合、学校保健に関係した学校医等の講演、施設の見学等の設定が容易となり、地域全体の学校保健のレベルアップが期待できる。



発達段階に即した歯科保健指導と生活化

——学校歯科医の役割——

宮城県歯科医師会常務理事 中 條 幸 一

〔Ⅰ〕 宮城県内の歯科保健活動

宮城県は文部省に先だち、昭和52年度よりむし歯予防対策推進指定校制度を設け、幼・小・中・高等学校における歯科保健指導の研究と実践を行ってきた。

この間、学校が指定をうけ、県内の幼・小・中・高等学校に学校歯科保健の重要性和実践の仕方を提供してきた。

又、宮城県学校歯科医会はよい歯の学校表彰を毎年行ない、平成3年度は、調査票を作り募集を行なった。

その結果応募した小学校の約30%が、小学校6

年生でDMFTが3本以下となり、1本台の学校も現れている。

結果は表1のとおりである。

〔Ⅱ〕 WHOの歯科保健目標と本大会の意義

55回全国学校歯科保健研究大会を宮城県で開催するにあたり、この機会をとらえ、WHOの歯科保健目標

西暦2000年のゴール

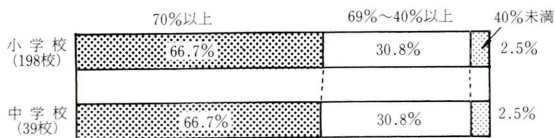
目標1. 5～6歳の子どもの半分(50%)

はむし歯をもたないようにしよう。

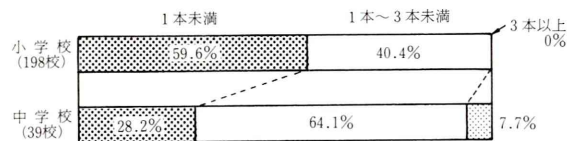
目標2. 世界中の子どもたちの12歳のDM

表1 平成3年度宮城県よい歯の学校表彰応募校の調査結果

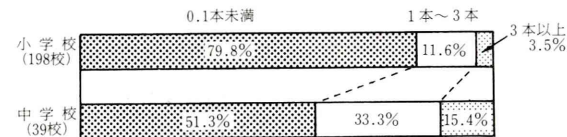
(1) 全児童(生徒)永久歯の処置完了歯率



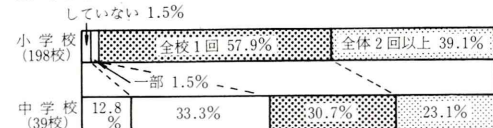
(2) 平成3年度の6年生(中学3年生)の1人平均未処置歯数



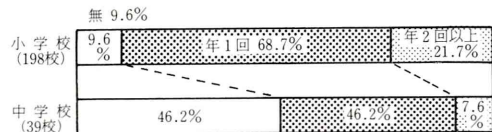
(3) 平成3年度の6年生(中学3年生)の1人平均C3, C4の数



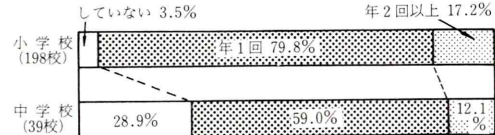
(4) 学級指導・学校歯科保健に関する活動状況



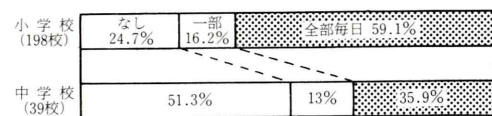
(5) 歯の清掃検査



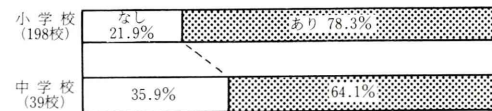
(6) ブラッシング指導



(7) 給食後のブラッシングタイム



(8) 学校保健委員会の設置



Fを3本以下にしよう。

目標3. 18歳の青年の85%は、自分の歯を全部もっているようにしよう。

目標4. 35歳から44歳の無歯顎者率で現在のレベルの50%減を達成しよう。

目標5. 65歳での無歯顎者率を、現在のレベルの25%減を達成しよう。

目標6. 歯科保健状態の変化を監視するための基本データと解析システムを確立すること。

西暦2025年のゴール

目標1. 口腔衛生および健康評価のため、地球的規模のWHOエレクトロニック・データベースの確立。

目標2. 5歳児の90%をカリエスフリーとしよう。

目標3. 20歳の90%はカリエスアクティビティーをなくそう。

目標4. 全人口の90%に破壊的な歯周疾患を発生させないようにしよう。

目標5. 総人口の75%以上は、自己診断と自己管理を動機づけるために、口腔疾患の病因と予防に関する知識を十分身につけるようにしよう。

を達成するためにも、先進的な、各地区でのむし歯予防推進指定校・地域の実践報告を踏まえながら、もう一度、原点に立ち返り、日本に合った効果的な歯科保健の進め方を考えてみたい。

今大会の「学校歯科保健の包括化」

～発達段階に即した歯科保健指導と生活化～
は実に時機を得たテーマであり、次の飛躍のための貴重な大会と位置づけられる。

〔Ⅲ〕 学校歯科医の職務とは

昭和53年度より始まった「文部省のむし歯予防推進指定校制度」とその年に発行された「小学校、歯の保健指導の手引」をきっかけに学校歯科における歯科保健教育が飛躍的に向上、活発化した。

しかし、その反面、多数の未指定校は、未だ法的に定められた学校歯科健康診断（学校保健法第

4条、6条）を受動的に行なっている所が多々見られ、歯科健康診断の時間が短ければ短いほどよしとする風潮がある。学校歯科医の顔すら知らない学校長もいる。学校歯科医もまた、不採算部門の学校歯科分野を軽視する傾向が強く、学校の事情を充分把握せずに、一方的に、自分の都合で歯科健康診断を行ない、これで自分の任務が終ったと錯覚している学校歯科医も見られる。（表2、表3）

さらに、学校歯科医は一般歯科医でもあり、生

表2 学校歯科医の職務

- (1) 学校保健安全計画の立案に参与する。
- (2) 定期および臨時の健康診断（学校保健法第6条の規定）のうち、口腔および歯の検査を行う。
- (3) 健康診断の結果に基づく予防措置（法第7条の規定）のうち、う歯その他の歯疾の予防処置および保健指導を行う。
- (4) 児童生徒の健康相談（法第11条の規定）のうち、歯科に関する健康相談を担当する。
- (5) 市町村の教育委員会の依頼に応じ、就学時の健康診断（法第4条の規定）のうち、歯および口腔の検査に従事する。
- (6) 以上に掲げるもののほか、必要に応じ学校における保健管理に関する専門的事項の指導を実施する。
- (7) 学校歯科医は、以上に掲げる事項について職務に従事したときにはその状況の概要を学校歯科医執務記録簿に記入し、校長に提出することになっている。

表3 事後措置

- (1) 定期の健康診断を行った場合、21日以内に本人及び保護者に通知（①～⑨まででありそのうち歯科にかかわるもの①②⑨）
 - ① 疾病の予防措置を行うこと。
むし歯の初期、むし歯等の疾病に対する予防処置など
 - ② 必要な医療を受けるよう指示すること。
 - ③ その他教育、健康状態等に応じて適当な保健指導を行うこと。

涯を通した，歯科医療，保健を担う専門家として， なってほしい。
常に表 4 を踏まえ，適切な指導，助言，処置を行

表 4 生涯を通じた歯科保健対策の概要

対 象	歯科の特徴	歯科の問題点	歯 科 保 健 対 策	
			主 な 具 体 策	ね ら い
胎 児 期	歯の形成期	バランスのとれた栄養摂取が必要	母親教室における歯科保健指導	丈夫な歯をつくるための食生活指導
乳 児 期	乳前歯の萌出期		乳児歯科健康診査，歯科保健指導	乳歯むし歯の予防，歯口清掃の動機づけ
幼 児 期 1 歳～3 歳	乳臼歯の萌出時期	乳歯むし歯の発生しやすい時期 (甘味の不規則摂取等)	1 歳 6 か月児歯科健康診査	乳歯むし歯の予防，歯口清掃の確認，指導，間食等に対する食生活指導
	乳歯列の完成期	乳歯むし歯の急増期	3 歳児歯科健康診査 幼児に対する歯科保健指導	乳歯むし歯，不正咬合等の早期発見，早期治療，予防処置
4 歳～5 歳	永久歯の萌出開始時期 (第一大臼歯)	永久歯むし歯の発生しやすくなる時期	保育所・幼稚園における歯科健康診査	むし歯予防と早期治療（特に永久歯）
心身障害(児)者	歯の形成不全及び唇顎口蓋裂等	広範性のむし歯発生等 そしゃく・発音障害	歯科保健指導の推進，治療機関の紹介	早期治療，歯科保健状況の改善，形態及び機能の早期回復
学童期(小学校) 6 歳～	乳歯と永久歯の交換期	永久歯むし歯の多発期	就学時歯科健康診査	永久歯むし歯の予防と早期治療の推進
(中学校) 12 歳～	永久歯列完成期 歯周組織の過敏期	歯ぐきの炎症が始まる時期	定期歯科健康診査及び歯科保健教育	歯科衛生思想の普及啓発 不正咬合の予防
(高等学校) 15 歳～	第 3 大臼歯萌出	むし歯が放置されやすく歯周疾患の発生が始まる時期		歯科衛生思想の普及啓発 歯周疾患の予防
成 人 期 20 歳～	歯周組織の脆弱期	歯周疾患の急増	歯周疾患の予防及び早期健康診査， 歯科保健指導	歯科治療の推奨及び歯口清掃の徹底
「妊 産 婦」	生理的变化	永久歯むし歯の増加 歯周疾患の急増	妊産婦歯科健康診査及び歯科保健指導	
	歯の喪失開始時期	そしゃく機能の低下が始まる時期	老人保健事業における歯の健康教育，健康相談 事業所等における歯科健康診査	歯周疾患の早期治療推進 歯の喪失予防
			義歯等に対する歯科保健指導	
老年期 65 歳～ 「寝たきり」	歯の喪失急増期	そしゃく機能の低下 (義歯装着者急増)	義歯第 1 に対する歯科保健指導 歯科保健に関する訪問指導	そしゃく機能の回復，歯口清掃の徹底 (義歯の手入れ等)

平成 2 年「地域保健活動の充実強化について」 厚生省健康政策局長通知

〔Ⅳ〕 学校歯科医に望むこと

表5は仙台市教育委員会、及び仙台市学校保健会主催の学校保健指導者研修会でのアンケート調

査の一部である。

これを見ても、学校現場で解決しなくてはならない課題が多々あることが分かる。

表5 学校歯科医に望むこと

<p>仙台市学校保健指導者研修会 出席者による調査結果から(平成2年2月8日)</p> <p>1. 学校歯科医に対する要望</p> <p>(1) 検診器具の使用に疑問がある。 児童一人ひとり器具を変えるべきであろう。</p> <p>(2) 児童の口の中に手指を入れることがある。 手指の消毒を念入りに。</p> <p>(3) 校医が多忙でじっくり時間をとってもらえない。 ゆとりをもって検診にあたってほしい。</p> <p>(4) 児童へのワンポイントアドバイスとか職員へ理解を望む。</p> <p>(5) 職員の現職教育の機会や児童生徒の健康指導の一環として、講話をお願いしたい。</p> <p>(6) 歯科に関する情報等与えてもらいたい。</p> <p>(7) 歯科校医は学区内、開業区を希望する。</p> <p>(8) 学校の検診後開業医で検診を受けた際軽度でも何らかの指導をしてもらいたい。(学校医以外でも)</p>	<p>2. 歯科検診について</p> <p>(1) 年2回程度の検診を望む(春と秋)</p> <p>(2) 定期検診の際、検診票の記録員として衛生士の派遣もお願いしたい。</p> <p>(3) 歯科衛生士が歯科検診を実施しているが……</p> <p>(4) 検診結果が処置歯でないのに前年度と異なるため記録上困ることがある。</p> <p>(5) 検診の際、記入例どおりに検診をしてほしい。</p> <p>(6) 歯周疾患、咬合状態について歯科校医により診断が異なる。</p> <p>(7) サホライト塗布、シーラント処置の取扱いが校医により異なる。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 歯科統計処理提出期限について</p> <p>(2) むし歯治療終了報告書の記入について</p> <p>(3) 歯みがきガムについて</p> <p>(4) 歯科校医も学校職員のひとりとしての自覚をもち検診をお願いしたい。</p>
--	--

〔Ⅴ〕 おわりにあたって再び学校歯科医とは

病む口、悲しむ口、泣く口、笑う口、息をする口、食べる口、味わう口、語りあう口、愛する口、口はまさに人間の証、クオリティ・オブ・ライフが言われる今日、人間らしさを証明する重要な器

官でもある。

人々が、健康で幸せに生きるために口は大きな役割をはたし、これを生涯の対象としているのが歯科医である。

〔幼稚園・保育所部会〕

●テーマ 「幼稚園・保育所における歯科保健指導の実践」

●座長 日本大学松戸歯学部教授

森 本 基

●助言者 日本学校歯科医会副会長

西連寺 愛 憲

●発表者 仙台市立東二番丁幼稚園教諭

齊 藤 玲 子

〃 岩手県衣川村立幼・小・中学校歯科医

佐々木 勝 忠

〃 岩手県衣川村立北股保育所保母

高 橋 京 子

幼稚園・保育所における歯科保健指導の実践

日本大学松戸歯学部教授 森 本 基

1. はじめに

幼稚園・保育所における歯科保健活動は、現在のところ、全国的にみて、残念ながらまだ低調と言わなければならない。その根底には、乳歯はあくまで永久歯になるまでのつなぎであるとの考えがあるからかもしれない。

生涯を通じての歯科保健を考えると、この時期に、乳歯を大切に守り育てる姿勢と噛むことをきちんと習慣づけることは極めて大切なことである。

2. 幼児の健康づくりの目標と実践

1) 幼稚園教育のねらい

幼稚園での教育のねらいは、幼児期が生涯にわたる人間形成の基礎を養う時期であることから、幼児1人1人の特性に応じて発達の過程に即した指導を行い、健康で安全な生活ができるよう基本的生活習慣と態度を育て、自立と協同、道徳性の芽を育て、日常生活から身近なものへの興味や関心を育てるなどを目標としている。

2) 保育所での活動のねらい

保育所は「日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育することを目的とする」と規定されている。基本的には、幼稚園の教育とは目的を異にしている。しかし、保育は、

飲ませたり、食べさせたりすることがねらいではなく、心身発達に伴っての養護と基本的生活習慣や社会的生活態度の獲得など乳幼児の発達に応じて行うものである。幼稚園教育と同様、歯の保健指導を通じての実践活動が保育目標の達成にも役立つものであることを強調しておく。

3) 幼稚園・保育所における歯科保健活動

幼児の心身の発達に応じて自ら健康を守り育てることをねらいとした教育活動である。

保育所における歯科保健については、児童福祉施設最低基準及び保育所保育指針に歯科健康診断の実施が定められている。その上、留意事項として、委託歯科医の選定にあたっては、できるだけ乳幼児の扱いに習熟しており、熱意と理解のある歯科医を選ぶべきであるとしている。

3. 歯科保健指導の課題とねらい

この時期の歯の保健指導の主な問題点は次の如きものである。

1) 歯・口腔の発育状況

2～3歳ではすべての乳歯は萌出し、乳歯列は完成している。4歳をすぎる頃から顎が発育し、特に前歯を中心に歯と歯の間に空隙ができてくる。これは正常な変化であって、永久歯の萌出スペースを確保しているものである。6歳になると第1

大臼歯（いわゆる6歳臼歯）の萌出が始まり、乳永久歯の交換が始まり、永久歯列の形成となる。特に、第1大臼歯を中心とした機能の確保と予防に力を注ぐことが必要となる。

2) 歯・口腔の疾患及び異常

最近では、乳歯う蝕の発生はずい分低下してきているが、乳前歯の隣接面や乳臼歯の咬合面にう蝕の発生する時期である。特に、乳歯う蝕は永久歯に比較して進行が早いので、早期発見、早期治療の重要性を指導する必要がある。

先天異常としての口唇裂、口蓋裂は多くはないが、指導者としては留意しておかなければならないことである。また、歯数の異常や癒合歯についての情報を把握しておかなければならない。

3) 保健指導のねらい

幼児期の咀嚼や発育など機能を育てること、正しく食べることで、そして、刷牙を十分に行うこと

の指導は時間をかけて行い、日常生活の中に習慣づけるよう努めなければならない。咀嚼指導がここで十分に行われることは、もうすぐ萌出してくる第1大臼歯と永久歯列弓形成期の歯科保健と深くかかわるものであるだけに指導の重要性を特に強調しておきたい。

4) 「歯をきれいに」歯みがき指導

人は口から食物をとり、これを栄養として生きている。生きていくことは口の中が汚れることでもあるので、歯をきれいに保つようブラッシングの指導はいくら行っても十分すぎることはない。

5) 家庭との連携

歯の保健指導を生活の中に定着させるのは幼稚園・保育所での指導では完成はあり得ない。家庭での実践があってはじめてその効果は高まるのである。家庭との強力な連携の下に、この実践が徹底するよう努力を続けなくてはならない。



幼稚園の公開授業にて



〔助 言〕

保育所・幼稚園における保育教育と 歯科健康管理について

日本学校歯科医会副会長 西連寺 愛 憲

保育所における保健教育

1 保育の現状

保育所は児童福祉施設であり、いわゆる保育に欠ける乳幼児が、家庭に代わって育児されている施設で、近年の「少子」の時代を迎えるに至って、定員より少ない乳幼児の保育を行っている施設が多くなった。

また家庭や女性の職業の多様化に伴って、その「保育に欠ける子ども」の保育に欠ける時間にも違いが生じている。また、障害児の保育もみられることはよく知られている。

2 保育と健康管理

保育においては、乳幼児は健康で安全に生活できることが保障されなければならない。特に、保育の目標を全うするためには、健康管理は重要な位置におかれていることはいうまでもない。

医師・歯科医師による健康管理は、健康診断、疾病障害発生時の処置が主なものであって、日常の保育活動は、健康管理そのものである。指針に示されている保健・安全管理上の留意事項としては、

① 日課に関すること

健康観察は毎朝登園時において実施され、病気の有無・怪我の有無を見て、隔離したり処理をしたりすることになっている。

② 衛生環境に関すること

室内の換気・採光・清掃・設備に関して、保母は十分に配慮してよい保育環境を作ること努力しなければならない。

③ 健康診断に関すること

医師・歯科医師によって診断された結果を評価し把握するとともに、保護者に連絡して種々の指示をする。

④ 公衆衛生

伝染病の発生に注意して、必要に応じて保健管理面の注意事項を家庭に連絡する。

⑤ 不時の事態に関すること

身体の異常の発見に尽くし、異常を発見したときには、家庭連絡・医師への連絡などに加えて、処置を行うこと。

さらに、重要なことは、保育のなかには「健康増進」の項目を入れておかなければならぬことである。

3 保育所の保健教育

保育所においては、それぞれの年齢における生活が組まれている。

保育所における保育教育は、乳幼児の発達段階に応じた健康管理を実践するための教育ではあるが、いわゆる学校や幼稚園でいう「教育」とは種類が異なる。

① 1歳3か月未満

この時期の保育はそのまま健康管理につながり、授乳・食事（離乳と幼児食、間食）・事故防止・予防接種がそれに相当する。

② 2歳未満

食事・事故防止・鍛練・健康診断および予防接種に関する事項があげられているが、特に、食事に関する項目と事故防止に関する働きかけが重要である。

③ 2歳以上

幼児自身の生活習慣の自立のための働きかけが、最も必要となる時期である。清潔の習慣・食事の習慣・排泄の習慣をはじめとして発達段階に応じて、その自立への働きかけの程度を変えていく必要がある。

保育と歯科健康管理

○萌出準備期(新生児期・乳児期前半)

この期は、口腔内の所見としては無歯期にあたる。

口腔内の問題点

無歯期であるので、この期に歯科医を訪れることは殆どない。しかし、また先天性歯、それに連なる Riga Fede 病がある。また、稀に上皮真珠が出現することがある。

母親との関係

核家族化の傾向が強いため、育児の経験に乏しく、自信がなく、育児書への過信によって、画一的な育児法に陥ることがある。

この期は離乳開始期(体重7 kgに達すると離乳を開始する)にあたり、人工乳の庶糖の多添加とともに離乳食の糖添加が齲蝕環境の悪い布石にならないことが望まれ、そういった視点からの妊娠中に引き続いての母親教育が必要である。

○乳歯萌出時期(乳児期後半～幼児期前半)

この期は、下顎乳中切歯の萌出にはじまる乳歯萌出期で、乳歯列の完成期である2歳半～3歳まで続く。児の発育もめざましい時期である。

口腔内の状態

乳歯の萌出期に、哺乳ビン齲蝕 bottle mouth caries の発生がみられるようになる。

この年齢層の歯科治療は知的発達や行動から見ても困難であり、齲蝕予防対策が最も望まれている。

また、齲蝕による歯質崩壊、悪習慣(拇指吸引、弄舌、異常嚥下など)によって起こる乳歯列の後天的な不正咬合が早くもみられるようになる時期でもある。

この期の留意点

- ・母親の育児態度がその児の人格形成に大きな影響を与える。
- ・乳歯の萌出とともに齲蝕罹患が始まり、

萌出歯の増加(加齢)とともに罹患率が高まる。

- ・母親の手による児の歯口清掃が最も必要な時期である。

○乳歯列期(幼児期)

乳歯の萌出がすべて完了し、第一大臼歯の萌出するまでの3～3.5年間で、乳歯列の安定期であると同時に乳歯齲蝕の罹患率がピークに達する時期である。

口腔内の状態

この時代の齲蝕は、5歳児前後にピークになり、齲蝕の被害が最も大きい。咀嚼不全は全身の発育や早期抜去は、乳歯列自体の不正咬合と、咬合異常につながっていく。

また拇指吸引癖などの悪癖は、不正咬合や顎の変形などを起こすことになりかねない。

母親との関係

母親への依存性の強かった時代から、自己主張がでてきて、何でもイヤイヤという時代に入ってくる。

(第一反抗期)

4～5歳になれば、自己主張の選択ができ友達づきあいを通じて社会性が備わってくるが、反面、自己の欲しくないことは頑強に抵抗するので、この時期に歯科医や、母親がこどもの取り扱いを誤ると、いっそう歯科治療時の取り扱いの困難な患者に仕上げてしまう恐れがある。

この期の留意点

- ・おとなの言葉がよく理解できるようになる反面、自己主張が強くなる。
- ・歯科治療にあたっては、安易に妥協することなく、母子ともに歯科治療の重要性を認識するようにしなければならない。
- ・母親に対して、齲蝕予防のための歯口清掃の重要性を教育し、早期のしつけによって、これらの習慣定着に向ける

指導が必要である。

しつけは“仕立てること”といわれ、

- ① 反復すること
- ② 例外を許さないこと
- ③ 機能や知能の発達時期に合致すること
- ④ こどもが自発的に喜んでできる環境をつくること
- ⑤ 手本を示してやらせること

が成功のための条件と、いわれている。

このような条件づけによって、自然にしつけを行うように、母親が指導したいものである。

心理学者は衛生的行動の開始期を、
 手をあらう (2歳半)
 口をすすぐ (3歳)
 鼻をかむ、歯をみがく、うがい、洗顔 (4歳)
 髪をとく、入浴時自分で洗う (5歳)
 としている。

幼稚園における保健教育

1 保健教育の重要性

1) 健康に関する指導

幼児期は、生涯を通しての保健教育の上できわめて重要な時期である。幼児期の特性を人間の発達の観点からみると、

- ① 親や周囲の大人に保護され、依存していた状態から、自分と外界との区別を認識し、自己の存在感の拡大・充実を求める時期
- ② 家庭での生活を基盤としながら、よりよい社会生活を経験し始め、友達との交わりを求め、その喜びや葛藤体験の中で社会性が著しく発達する時期
- ③ 生活や遊びの中で、人間に対する信頼感、自発性、意欲、豊かな感情、物事に対する興味・関心、思考力、運動の能力等の基礎が培われる時期

であって、乳児期に引き続き、幼児が、将来人間として生きていくための生活の基盤を確立していく時期だといえることができる。

「健康安全で幸福な生活のために必要な日常の習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。」と示されている。

幼稚園修了時までには幼児が指導される「健康」の領域では、

- 1 健康な生活に必要な習慣や態度を身につける。
 - 2 いろいろな運動に興味を持ち、進んで行うようになる。
 - 3 安全な生活に必要な習慣を身につける。
- という三つの大事項から成っている。

1 について具体的には、

- (1) 身体、衣服、持ち物、身近な場所などを清潔にする。
 - (2) 不潔なものを口に入れず、ハンカチ、手ぬぐいなどは自分のものを使う。
 - (3) 食事のしかたを身につけ、食べ物の好き嫌いをしない。
 - (4) 便所を上手に使う。
 - (5) 健康診断、予防接種、病気や怪我の治療をいやがらずにうける。
 - (6) 伝染病やその他の病気についても関心を持つ。
 - (7) 適切な服装で遊びや仕事をする。
 - (8) なるべく戸外で遊ぶ。
 - (9) 姿勢を正しくする。
 - (10) 休息の仕方がわかり、運動や食事の後は静かに休む。
- となっている。

2) 健康計画

健康に関する指導と並んで、重要なのは、幼児の健康管理である。

その具体的な手だてとして、

- ① 日常の健康観察
- ② 健康診断
- ③ 健康相談
- ④ 応急手当て

など各園の状況を踏まえ、常に幼児の生活環境の改善に努めるとともに安全の確保、健康の増進に配慮しなければならない。

2 保健教育への取り組み

1) 文部省の指導施策

昭和58年11月、中央教育審議会教育内容等小委員会は、幼児および幼児を取り巻く環境の変化に対応して、教育内容の見直しを行うべきであると提言し、「幼稚園教育の在り方について」が公表された。

この中で、教育要領改善の視点1として、幼稚園教育の基本となるようなことを次のように示している。

- (1) 幼稚園教育は幼児の主体的な生活を中心に展開されるものであること。
- (2) 幼稚園教育環境による教育であること。
- (3) 幼稚園教育は幼児一人一人の発達の特性及び個人差に応ずるものであること。
- (4) 幼稚園教育は遊び場を通しての総合的な指導によって行われるものであること。

また、改善の視点2として、幼児や幼児を取り巻く環境等の変化に対応する観点から、特に次の諸点を明らかにする必要があるとしている。

- (1) 人とのかかわりを持つ力の育成について
- (2) 自然との触れ合いや身近な環境とのかかわり合いについて
- (3) 基本的生活習慣・態度の形成について

60年9月発足した教育課程審議会は、62年末に答申が出された。

3 現状の問題点と課題

1) 幼児を取りまく環境と幼児

現在、幼児を取りまく環境は、幼児の健康保持のマイナスになる要素が多い。自然環境の破壊、狭い住宅、自動車による道路の占拠、テレビやファミコンの普及など幼児本来の遊びを失わせ、生活のリズムを狂わせた。

2) 保健教育と家庭

本来幼児期の保健教育は、主として家庭生活の中で、健全な生活習慣を身につけることによって行われることが基礎的な条件であった。しかし現在は家庭の教育力の低下が問題とされ、必ずしもこれに期待することができ

ない状況がある。

3) 幼稚園における保健教育の課題

以上のような状況にあって、現在幼稚園における保健教育の充実はいよいよその緊急重要度を増しているのであるが、養護教諭の置かれている幼稚園は少なく、中には園長の関心が不十分な園もある。

4 日学歯の取り組み

学校及び幼稚園における教育的な歯科保健の推進を図るためには、何といたっても「保健管理と保健指導の調和」が不可欠である。

日学歯では、第51回大会より「学校歯科保健の包括化」をメインテーマとして、幼稚園教育を含めた、小、中、高等学校一貫とした学校歯科保健を求め、教育課程に示されている「ゆたかな心とたくましく生きる子どもの育成」に即応できるねらいを考究してきた。

幼稚園児の歯科健康管理

1 健康な生活に必要な習慣や態度を身につける

幼稚園における健康教育は、子ども達に健康な生活を続けてゆくために、必要な習慣や態度を身につけるといことが最も大切なねらいである。

歯科保健に関連する問題で「うがい」についてかんがえてみると、

〈ねらい〉

- うがいをしなければならないわけを知る。
- ガラガラうがい（喉のうがい）とブクブクうがい（口腔内の清掃）の違いを知る。

- 自分で進んでうがいをする。

〈導 入〉

- 風邪とビールスとうがいの関係。
- 食物残渣とムシ歯とうがいの関係。

〈指導のポイント〉

- なぜうがいをするか理解し、進んでうがいをすることを身につける。
- 正しいうがいの仕方を知る。
- いやいやうがいするのではなく、やらなければ気持ちが悪いという感性を育てるために時々刺激を与えることが大切である。

これらが身につけていない幼児が多い。WHOの提唱である幼児のう歯患者率50%を目標に、食事指導を含めた保健教育が望まれる。

2 健康診断のねらい

- 健康診断の大切なことを知る。
- 自分の友達の身長、高さ、健康な歯の数やムシ歯の数などに興味をもつ。
- 医師の前で固くならず診てもらい、診断を受ける順番を静かにきちんと待つ。

〈指導のポイント〉

- 洋服の脱ぎ着、たたむことが出来る。
- 自分や友達の身体の成長を喜ぶ。
- 医師の前でも、普通に身体を楽にして診てもらう態度が出来る。
- 大きな口をあくことが出来る。
- いろいろな身体の人いることが分かる。(太っている、痩せている、背が高い)
- 丈夫な身体になるにはどうしたらよいかを知って、がんばることが出来る。

〈指導上の留意点〉

- 診断の前に幼児なりに納得のいくように十分話をし、医師に対して緊張がほぐれるようにする。
- 順番の待ち方、洋服のまとめ方などを覚えさせる。
- 診断の結果を幼児に分かるように知らせる。

〈家庭との連絡〉

- 前日に入浴し、脱ぎ着のしやすい洋服を着て来ること。
- 異常のある場合は、連絡を密にする。
- 食事は自身の責任において食べること、嫌いなものでも我慢して少しずつ食べると丈夫な身体になることを幼児に納得させる。
- よい歯が健康に大切なことを知らせる。
- ムシ歯の放置は、歯の生涯保健に悪い結果をもたらすことを知ってもらう。

3 デンタルヘルスの指導（教育）

歯口清掃指導

- 家庭のしつけ

小児期における歯口清掃の定着は、その個人の歯科的健康を左右するものである。習慣化という面では成人より小児の方がより定着しやすく、教育効果も優れている。

○園における指導（学習）

こどものよい習慣の獲得は、学習としつけによっておこなわれる。

“しつけ”は“したてること”といわれるように、

- 1) 反復して体得させる（学習）こと。
- 2) こどもの運動機能や知能の発達段階によく合っていること。
- 3) 自発的に喜んで行えるように環境づくりをしなければならない。
- 4) 先生がまず手本を示すこと。

園児によく理解させ、幼稚園全体で環境づくりをしなければならない。

現実に歯ブラシを口腔内に入れることを拒否する小児がいる。園での指導（学習）やその役割がいかに大切かがわかる。

○歯みがきのポイント

- 1) 上手な歯みがきは、園児自身が歯に付く汚れ（歯垢）を確認することから始まる。

奥歯の咬み合わせ、歯と歯肉の境目、歯と歯の間の汚れは「歯垢染め出し液」を使うと簡単に調べられる。

- 2) 歯ブラシの毛先を使ってみがく。

歯垢をとる目的を明確にし、毛先の圧力は100g～200g（調理用ハカリの上で確認）位にし、1本1本丁寧に時間をかけることが大切である。こどもが歯みがきを拒否する場合は400g～500gの毛圧がかかっている場合が多い。つまり痛いから拒否するのである。

- 3) 毛先のあて方

歯の形態（丸みをおびている）に合わせ、それぞれの面に直角になるようにあて、細かく動かす。奥歯の咬み合わせは、溝の中の汚れをかき出すようにする。

4 幼稚園の歯科保健教育（指導）計画

歯の保健指導は家庭生活の中で学習（しつけ）

するものであるが、幼稚園で行う保健教育の基礎的な学習体験は幼児期に欠くことのできない課題である。

以下、幼稚園における歯の保健指導に関する指導計画と指導の着眼点についていくつかの例を示すこととする。

① 主題名 「歯」 ってなあに

〈ねらい〉

- ・ 歯について興味、関心を持たせることができるようにさせる。
- ・ 歯の役割を知り、大切にしようとする意識を持つことができるようにさせる。

〈主な経験や活動〉

- ・ 自分の友達のお口の中の様子を伝える。
- ・ 歯医者さんごっこ。
- ・ 歯の役目。

② ブクブクうがい を じょうずにしよう。

〈ねらい〉

- ・ 食べたら進んで口の中をきれいに出来るようにさせる。
- ・ ブクブクうがいを上手に出来るようにさせる。

〈主な経験や活動〉

- ・ ブクブクうがいの意味を知る。
- ・ ブクブクうがいの練習。

③ ハブラシとおともだちになろう。

〈ねらい〉

- ・ 口の中をきれいにした時の気持ち良さを感じる事が出来るようにさせる。
- ・ 歯ブラシを正しく持ち、毛先が歯にあたった感触がわかるようにさせる。

〈主な経験や活動〉

- ・ 歯ブラシの持ち方、歯へのあて方、動かし方、歯みがきの感触（音）。
- ・ 歯みがき後の歯の感触（指でこすった感じなど）。

④ おやつをじょうずにたべよう。

〈ねらい〉

- ・ 甘い飲食物は歯によくないことを知る。
- ・ おやつの上手な食べ方をわからせる。

〈主な経験や活動〉

- ・ 甘いものとむし歯。
- ・ おやつの食べ方。

心身ともにすこやかな子供の育成

——健康でよい歯をもつ子供を育てる指導のあり方——

仙台市立東二番丁幼稚園 教諭 齊 藤 玲 子

1 はじめに

(1) 園区の概要

仙台市は、人口90万の政令指定都市として東北地方の経済、文化の中核を荷なっている。

当園は、その活気ある仙台市の中心部にあり、周囲は官庁、銀行、デパート、商店が密集し、昼間人口は夜間の数十倍にも達する繁華街に位置している。

園児は、明るくのびのびしており、ものおじせず、感じたことや考えたことを素直に表現できる。

2 主題設定の理由

(1) 幼児の育成に関わる課題

近年、子供の健康をとりまく環境は大きく変化している。特に体作りのもととなる食生活において、欧米化が進み、加工食品の氾濫、食品の軟化、粘着化、糖やリンの過剰摂取が目立ち、食事の質と内容を根本的に変えてしまった。〈食物をよくかめない・飲み込めない・発音が明確にできない〉などの幼児が増えているのが現状である。

(2) 教育目標と歯の健康

当園は、やさしいこども・けんこうなこども・すすんでとりくむこども、を目標として掲げ、その具現化に向けて「協調性の育成」「健康や安全への関心と意識化」「経験を通しての自主性の育成」を柱として心身の向上を願って指導をしている。

(3) 園児の実態

当園では、一年に2回の歯科検診を行っている。平成2年度の検診結果を診ると、健全歯を持つ子が少ない反面、処置完了率は全国平均より高い数値を示している。平成2年5月のアンケート調査結果から、特徴的なものをあげてみると、

- 幼児の食事の好みは軟食に偏っている。
- 食事時間が長くだらだらと食べている。
- 食後の歯みがきは、徹底していない。

○おやつ時間は特に決めておらず、おやつ後は、うがいや歯みがきはしていない。

以上のことから家庭の意識の向上を図りながら、『環境との関わりの中で幼児は育つ』ことを基本として、幼児の自己活動を重んじながら心身の健康への関心を高め、よりよい習慣を身につけるための総合的指導の工夫を心がけることを意図し、本主題を設定した。

3 研究の目標

幼児が自分の健康に関心を持ち、むし歯予防などに必要な活動を進んで行う気持ちや態度を育てるための援助のあり方を工夫する。

4 研究の仮説

- (1) 日常生活の中で、幼児の発達段階を考慮し、歯と健康について適切な援助のあり方を工夫していけば、むし歯予防に進んで興味や関心を持つようになるだろう。
- (2) 幼稚園と家庭との連携を深め、健康な生活習慣を身につけさせることにより、幼児の歯の健康づくりが図られるだろう。

5 研究にあたって

- (1) 幼児一人一人の興味や関心、発達の過程を把握し、個人の発達に即した指導計画の作成と活動の機会を確保する。
- (2) 日常の活動、歯科保健に関わる行事、家庭との連携などについて評価しながら、内容、方法、援助のあり方を工夫する。
- (3) 昼食後の歯みがきを、園時程の中に位置付けむし歯予防に努める。
- (4) 歯科の健康に関わる活動と他の活動との関連を考察し、総合的な指導のあり方を工夫する。
- (5) 園歯科医と連携し、健康診断時の健康相談や

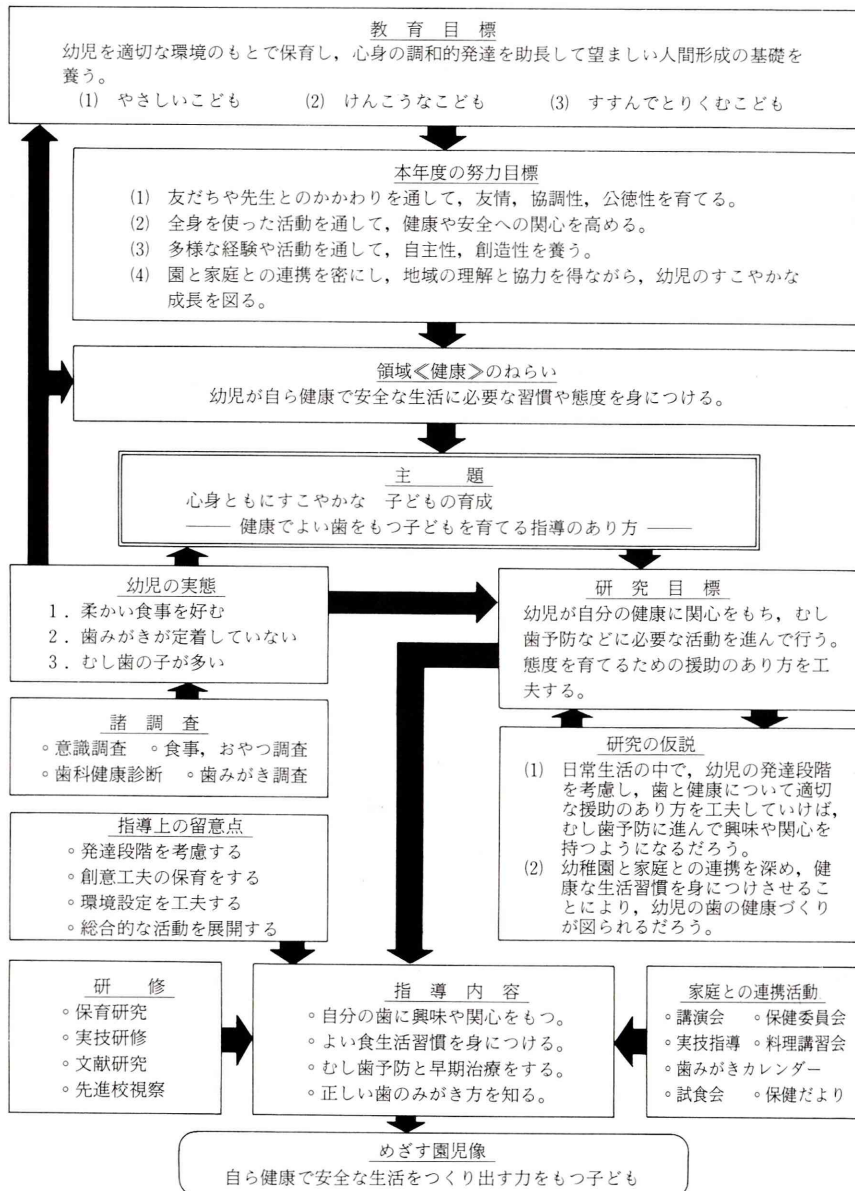
講演、歯科衛生指導など保護者に対する指導の機会を、多く設定し啓発に努める。

- (6) 園保健委員会を軸とした組織活動を推進し、家庭との連携を密にする。
- (7) 健康診断の結果を迅速に集約、考察すると共に家庭への連絡を図り、完治するよう措置を徹底する。
- (8) 歯科保健に関わる研修を多く持ち、職員の共

通理解を図りながら指導にあたる。また、適切な教材を工夫し幼児が理解しやすいような指導に努める。

- (9) 歯の健康に対する幼児の関心や、家庭の意識の変容を常に調査し、観察をしながら研究を進める。
- (10) 歯科保健研究の先進園や学校を視察し、研究を深める。

6 研究の全体構造



7 歯科保健指導計画

〈4 歳児〉

期	幼児の姿	ねらい	内容	環境の構成	家庭への連絡
第一期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 依頼心が強く、自分の身のまわりのことを自分でしようとしていない子。筋肉が未発達のため、準備に時間がかかる子がいる。 ○ 歯をみがかず登園する子がいる。 ○ 指しゃぶりのくせを持つ子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清潔の習慣を身につける。 ○ うがいの意識を知り、進んで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一日の生活の流れを知り、自分のことは自分でしようとする。 ○ 食前には、がらがらうがい、食後には、ぶくぶくうがいをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームをしたり、紙芝居や絵本を見せたりしながら、身体各部分の名称や、その役割に気付かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣を身につけるために、時間のゆとりを持ち、励ましながら、躰けをするように働きかける。
第二期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯の検診に対する恐怖感を持ったり嫌がって泣く子もいる。 ○ 偏食の子が多く、給食に慣れず、嫌がる子がいる。 ○ 堅い物を咀嚼せず飲み込んだり、液状にならないと飲み込めなかったりする子がいる。 ○ みがき方を知らずにブラシで遊ぶ子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の歯のようすに興味を持ち、歯の大切さがわかる。 ○ 楽しんで食事をする。 ○ 食後の歯みがきの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 嫌がらずに歯科検診を受ける。 ○ むし歯の原因や、身体におよぼす影響を知る。 ○ 食事は、よくかみ、よく味わって食べる。 ○ 正しい歯ブラシの持ち方や、みがき方を知り、喜んでみがく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清潔習慣の必要性をその場にに応じて取り上げ、話し合わせたりしながら理解させる。 ○ そめ出しなどをして、みがき残しのあることに気付かせる。 ○ 良い習慣を守っている友達を紹介したりほめたりすることにより意欲を持たせたり、気付かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科検診の結果を家庭に知らせ、むし歯の治療を受けるように促す。 ○ 子どもと一緒に正しい歯のみがき方の指導を受けさせ、家族がみんなで正しいみがき方をするよう働きかける。 ○ 歯をみがいた後に点検をし、仕上げみがきをするように指導する。
第三期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休み中の習慣の乱れから、友達と遊びながらみがいたり、意欲のない態度でみがいている子供もいる。 ○ おやつ後のうがいや食後の歯みがきを進んでしようとする子供が多いが、声をかけられないとみがかない子供もいる。 ○ むし歯予防に対する知識が豊富にある子供もいる反面、無頓着な子供もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯のつくりや働きが分かる。 ○ 楽しく歯みがきをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科検診を受ける。 ○ 前歯や奥歯のつくりや働きが分かり、よくかんで食べようとする。 ○ 歯のみがき方が分かって友達と楽しくみがく。 ○ 歯ブラシを清潔に保管できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本、紙芝居、スライドなどで歯のつくりや働きを知らせる。 ○ 食事中よくかんで食べるように指導する。 ○ 食後みがきを継続させる事で習慣化を図る。 ○ 教師と一緒にみがきながら楽しい雰囲気の中で歯みがきができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科検診の結果、未処置の場合について家庭に連絡し、治療を進める。 ○ 家族みんなで歯みがきをしようとする雰囲気をつくり、習慣化を図る。 ○ 歯ブラシの交換時期を知らせる。
第四期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食後進んで歯をみがいたり、友達同士競い合ってみがこうとする子供が多い。 ○ 偏食が身体の成長を妨げることなどが分かり好き嫌いを言わず食べようとする。また、歯の働きが分かり、よくかんで食べようとする。 ○ 乳歯がぬけ始める幼児もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯に良い食物が分かり、好き嫌いを言わずに食べる。 ○ 食後忘れずに歯をみがく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 偏食をなくし、歯ごたえのある食品をとることができる。 ○ 歯に良い食品と好ましくない食品が分かる。 ○ 前歯や奥歯のみがき方が分かってみがく。 ○ 食後すぐにみがこうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食事をしながら献立を例にとり、歯に良い食品を知らせ、偏食をなくす努力をさせる。 ○ 前歯や奥歯のみがき方を、手をそえて知らせる。 ○ 乳歯がぬけても身体の成長として受けとめるように働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 偏食やだらだら食いが歯の成長を妨げることが知らせ、食生活の見直しを図る。 ○ 歯に良いおやつや食事の内容を工夫するように働きかける。 ○ 部位、萌出状況にあわせた歯ブラシの扱い方を指導する。

〈5歳児〉

期	幼児の姿	ねらい	内容	環境の構成	家庭への連絡
第五期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6才臼歯の萌出が見られるようになる。 ○ 歯みがきの大切さを知って、自分で歯をみがこうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6才臼歯の萌出に気づき、永久歯に関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6才臼歯に関心を持つ。 ○ 正常な永久歯ができるためには食事や歯みがきがとても大切なことを知る。 ○ 食後、進んで歯をみがく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の口の中を見せたり、絵本などで6才臼歯の特徴などに関心を持たせる。 ○ 栄養、そしゃく、清潔、健康な生活の大切さに気づかせ、励ましていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6才臼歯や永久歯の萌出状態に関心をもつよう促す。 ○ 歯みがきに必要な用具を点検し、準備してもらう、と同時に歯ブラシを清潔に保管するよう働きかける。
第六期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の歯に関心を持つて歯科検診を受けることができる。 ○ むし歯を治すために進んで治療を受けようとする態度が見られる。 ○ 歯みがきが身についてきているが、みがき残しをする子やいいかげんにみがく子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ むし歯の原因がわかり、自分からむし歯予防に関心を持ち、歯をみがく。 ○ むし歯の進行と早期治療の必要性がわかり、進んで治療する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科検診を通して自分の歯の状態を知りむし歯予防と治療に関心を持つ。 ○ みがき残しがないようにしていねいにみがく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科検診の結果を知らせ、日頃の成果が実っていることを喜び合う。 ○ 一人一人の歯のみがき方に目を配り、上手にみがけるようになったことを認め意欲をもてるよう励ます。 ○ むし歯予防のポスターや作品の掲示の仕方を工夫し、関心を促す。 ○ 鏡で口の中の様子を見たり、そめ出しをして確かめ、歯みがきの仕方など工夫するよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科検診の結果を知らせ、早期治療するように指導する。 ○ 子供の歯みがきの様子を知らせ、仕上げみがきを確実にを行うように働きかける。 ○ 夏休み中の歯みがき表の使い方を説明し好ましい生活習慣を身につけるよう促す。
第七期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休み中の習慣の乱れにより、正しく丁寧にみがく子もいる反面、簡単にすませようとする子もいる。 ○ むし歯があった子は治療が終わり、歯を大切にしようとする気持ちや予防への意識が高まる。 ○ 6才臼歯を友達同士みせ合ったりしている。 ○ 食事の量が増え、偏食をせずによくかんで食べることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6才臼歯の働きを知り、大切にしようとする。 ○ そう快感を味わいながら、進んで歯をみがく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科検診を受ける。 ○ 6才臼歯の働きや特徴について知る。 ○ 自分の萌出状況に合わせたみがき方をする。 ○ みがいた後のさわやかさ、気持ちよさがわかり、積極的にみがこうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達同士、正しい歯のみがき方を確認し合うよう働きかける。 ○ 個々の萌出状況に合わせたみがき方を指導する。 ○ 紙芝居等で6才臼歯の萌出の様子を知らせその役割や大切さに気づかせる。 ○ 歯みがきをした後の気持ちよさを教師も一緒に共感し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休み表の様子をまとめ、家庭に知らせる。 ○ 歯科検診の結果を知らせ、未処置の場合は、治療するように働きかける。 ○ 6才臼歯の萌出に合わせた正しいみがき方をしているかどうか点検するよう指導する。
第八期	<ul style="list-style-type: none"> ○ おやつの中のうがいや食事の後の歯みがきが習慣化し、進んでできるようになる。 ○ 好き嫌いがなく、喜んで食べ、歯ごたえのある食物もとることができるようになってくる。 ○ 食事のマナーが身につき、決められた時間内で食事をするできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進んで歯によい食物を食べ、規則正しい生活をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食後、正しく丁寧にみがく習慣を身につけ、自分の歯は自分で守ろうとする。 ○ 健康な歯を維持するために、大切な事柄を再確認する。 ○ 甘いおやつ等、歯によくない食品がわかり、おやつや食事のとり方に気をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯みがき習慣が身につき、自己管理ができるように援助していく。 ○ 正しい食生活等、基本的な生活習慣の大切さを分からせる。 ○ 実際に作ってみたい話し合ったりしながら、歯によい食物やおやつへの関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭における基本的な生活習慣の確立を促す。 ○ 歯の形成、永久歯の生えかわり方、歯列不正の原因、幼児期の歯の大切さ、歯によい食事内容等を知らせる。

8 歯科保健指導の実際

(1) 活動内容

歯の衛生に関わる園での活動	家庭との連携による活動	職員研修
歯科検診（5月，10月） おやつ後のうがい 昼食後の歯みがき 染め出し検査（月1回） よい子の歯絵画コンクール参加 養護教諭による講話 （講師 八島しづえ氏） 「目に見えない歯のよごれ」（5月16日） スライド映写会（5月30日） 「むし歯のばい菌ピーとキュー」 園医と楽しむ誕生会（6月29日） ビデオ映写会（6月26日） 16mm映写会（8月27日） 歯によいおやつ作りパーティー （H2年10月30日） 絵本，図鑑を見る 大型紙芝居作り「地球があぶない」 紙芝居を見る 歯みがき教室 歯ブラシ検査 砂時計使用「めざせ3分間！」みがき カルタ大会，ゲーム大会 標語作り，ポスター作り ごっこ遊び，劇遊び リズム遊び「はみがき」	歯科検診結果報告（年2回） 治療のすすめ 意識調査（年2回 5月，12月） 保健委員会（年2回 6月，11月） 保健だより（年6回） 園歯科医による講演会 （講師 浜田宏信氏） 「幼児の歯の健康について」（1月14日） 歯によいおやつ作り講習会（5月11日） （講師 遠藤佳子氏） 歯の衛生週間訪問指導（6月4日） 歯科医による参観日講演会 「なぜ今むし歯予防か」 （講師 中條幸一氏） 歯を強くする献立親子試食会（7月11日） 栄養士による講話（7月11日） （講師 郷家正枝氏） 感想文を書く（6月） 親子歯みがき会（7月12日）ポスター 長期休業歯みがきカレンダー（夏，冬） 歯科医による講演会（H2年6月4日） 「かむことの大切さ」 （講師 阿部洋一郎氏） 歯によい料理講習会（H2年11月17日） （講師 郷家正枝氏） 親子人形劇鑑賞会（H2年12月11日）	歯科年間指導計画作成 研究委員会（月1回） 研究保育（12回） 保育研修会 教材研究 文献研究 スライド作製 ビデオ撮影 「研究のあゆみ」資料作成 養護教諭との話し合い 栄養士との話し合い 研究先進園見学（H2年6月7日） 柴田第一幼稚園 歯科医による講話（2月27日） 「口の中の衛生について」 （講師 幸地省子氏） 歯科衛生士による歯みがき指導 （5月1日）（講師 堀越省子氏） シンポジウム参加（6月1日） 「噛むことについて，あごの発達と 食生活」 ※H2は平成2年のこと 他は平成3年の活動



幼稚園公開授業にて

衣川村の幼稚園・保育所における歯科予防活動

岩手県衣川村立幼・保・小・中学校歯科医 佐々木 勝 忠

1. はじめに

近年、乳幼児のう蝕は減少している傾向にあるが、世界保健機構と国際歯科連盟とが共同して提案している西暦2000年までの口腔保健目標「5～6歳児のむし歯なしを50%以上にしよう」には、まだほど遠い有病者率80%代である。

衣川村の概要

衣川村は岩手県の県南で国宝中尊寺金色堂のある平泉町の北隣に位置しており、耕地面積15%、人口5,800人の里山型の農山村である。

2. 発達段階に即した歯科保健

——幼稚園，保育所児では——

1) 衣川村の小学6年生の経年的分析

平成3年小学校6年生になった学童を3才児歯科検診，幼稚園・保育所歯科検診，学童の学校歯科検診と経年的に分析した。

イ) 萌出歯とう蝕の関係 (図1)

① 幼稚園・保育所児は乳歯の総本数が減少し、乳歯のう蝕はピークに至る。

② 永久歯が萌出し始める。

ロ) 小学6年生の歯種別萌出とう蝕の状態 (図2)

① 歯の中でう蝕の割合が高いのは第一大臼歯(6番)で50%を越え、永久歯のう蝕の86%を占めていた。

ハ) 第一大臼歯の萌出時期とう蝕の関係 (図3)

① 小学1年生以前に萌出した歯は小学校1年生以後に萌出した歯よりう蝕になる割合が高い。

(※このこども達は小学校でフッ素洗口を実施している)

ニ) 第一大臼歯の萌出時期 (図4)

① 第一大臼歯が萌出している者は年長児の春の歯科検診時に25%、秋の歯科検診時で53%、小学1年生の春83%であった。

ホ) 3歳児検診と小学6年生の永久歯う蝕の関係 (表1)

表1 小学6年生の一人平均う蝕数

		年長時の永久歯		
		未萌出	萌出	
3歳児CDEう蝕	無し	1.49	2.69	1.81
	有り	3.47	4.62	3.66
		2.02	3.65	

① 3歳児歯科検診でCDEにう蝕を持つ者は、小学6年生で永久歯う蝕を多く所有していた。

図1 乳歯・永久歯の経年変化

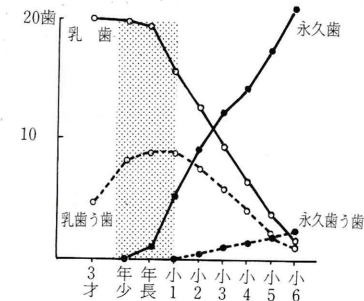


図2 歯の萌出とう蝕 (小学6年)

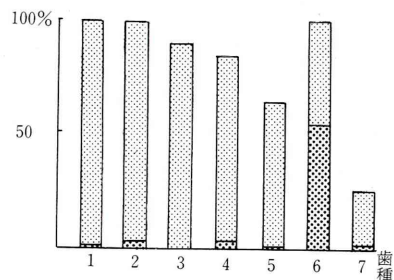


図3 萌出時期とう蝕（第一大臼歯）

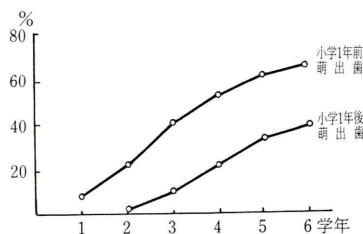
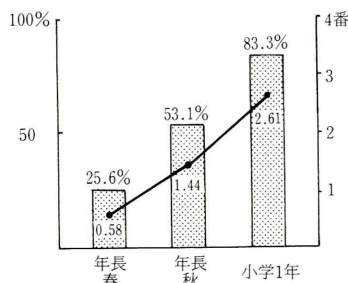


図4 第一大臼歯の萌出時期



- ② 幼稚園・保育所の年長時の歯科検診で永久歯が萌出している者は、小学6年生で永久歯う蝕を多く所有していた。
- ③ 3歳児歯科検診でCDEにう蝕を持ち、幼稚園・保育所の年長時の歯科検診で永久歯が萌出していた者は、4群の中で最も多くう蝕を、小学6年生で所有していた。

衣川村の小学6年生の経年的分析結果より

幼稚園・保育所児（4、5歳児）のう蝕（乳歯う蝕）を予防するには3歳児以前からの予防が大事である。

3歳児前の口腔内の状況、生活習慣は永久歯のう蝕とも関係している。

世界保健機構の提唱している「5～6歳児のむし歯なしを50%以上にしよう」を達成するには幼稚園・保育所児に対する歯科予防活動では遅すぎる。

幼稚園・保育所児（4、5歳児）でのう蝕予防の標的は永久歯であり、とくに第一大臼歯のう蝕予防である。

第一大臼歯のう蝕予防法

う蝕予防のための知育

こども自身、家族、地域

機械的予防

ブラッシング

PMT C

フッ化物の応用

フィッシャーシーラント

3. むし歯予防啓発推進事業指定を受けて

1) 衣川村の幼稚園児・保育所児う蝕状況

前にも述べたように衣川村ではむし歯予防活動は長年積極的に行われてきた。その成果は児童生徒のう蝕の減少である。

しかし、幼稚園・保育所児ではう蝕の減少というはっきりした成果が、まだみられていない。

図5 う蝕有病者率

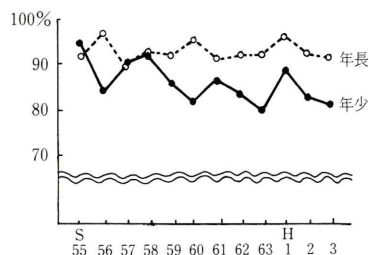


図6 一人平均う蝕数

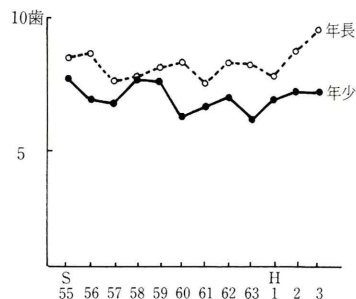
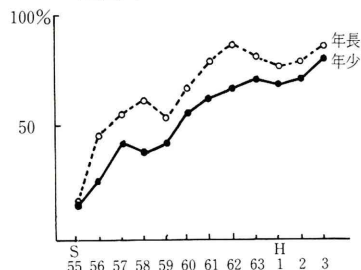


図7 処置歯率



(テーマ)

啓発テーマ 「いつまでも健康ささえる丈夫な歯」
推進テーマ 「自らすすめるむし歯予防の実践と活動」

(実践) 目標

- 家族揃ってていねいに歯みがきする習慣を身につけよう。
- よくかみ、よく味わって何でも食べる習慣を身につけよう。
- おやつ間食のあり方を工夫し、健康な体づくりにつとめよう。
- 歯の健康状態、むし歯になったらすぐ治療しよう。
- 平成3年に、12歳児のむし歯の数を3本以下におさえよう。

(組) 織

教育委員会
学校保健会
保健課

推進委員会

歯科診療所

(事務局)

企画委員会

(実践事項・内容例)

幼稚園、保育所、小中学校で

- 歯の保健指導年間計画
- 学級活動計画
- 授業研究
- 職員研修
- 日常指導
- 歯の行事設定
- 歯科検診と治療
- 児童生徒会活動
- 図画ポスター(製作と展示)
- 掲示指導(保健コーナー設置)
- 教材器具の整備
- 洗口場整備
- 表彰活動

親子・家庭・地域へ

- 啓発活動を主に
- 「よい歯」の発行
- ころもがわの活用
- 広報「ころもがわ」
- 参観日、授業公開
- 懇談会、講演会、講習会
(歯の健康、歯によい食生活)
おやつ、ブラッシング等
- モデル地区指定
- 標語募集、看板設置
- 親子歯みがき活動
- 調査、アンケート

関係機関との連携

2) 保育者のアンケート結果より

昭和56年に行ったものと同じアンケートを平成3年に実施した。(表2)

表2 (数値は%)

質 問 項 目		S 56	H 3
母は日中うちで仕事		44.2	23.7
	うち以外	52.9	76.3
帰ってからの保育者	父	1.4	0.6
	母	43.5	27.6
	祖父	5.8	15.4
	祖母	47.1	64.1
	その他	3.6	12.2
子供の歯ブラシ	本人用有	97.8	99.4
	共同	1.4	
	無し		0.6
歯磨きについて	毎日磨く	62.3	81.4
	ときどき	37.0	17.9
	磨かない		
歯磨き開始年齢	1才	4.3	36.5
	1.5才	12.3	31.4
	2才	33.3	17.3
	2.5才	17.4	8.3
	3才	26.8	5.1
いつ歯を磨くか	朝食前	5.8	2.6
	朝食後	55.8	62.8
	昼食後	44.9	21.2
	夕食後	16.7	30.1
	寝る前	54.3	40.4
	決まっていない	9.4	4.5

3) むし歯予防啓発推進事業での活動

平成元年度より全国学校保健会の「むし歯予防啓発推進事業」指定を受け「衣川村むし歯予防啓発推進委員会」を組織して(組織図は北股保育所高橋京子研究抄録を参照)啓発テーマ「いつまでも健康ささえる じょうぶな歯」のもとに乳幼児、小中学児童生徒の一貫したむし歯予防活動を展開している。

イ) 実践先進地の視察

- ① 幼児の一斉歯磨き(柴田町)
- ② 染め出しによる歯磨き評価(宮城地区)
- ③ 診療所と学校等の連携(大郷町)

ロ) 推進委員会部会活動

学校部会 副読本を作成し学級等指導の実践
 調査部会 アンケート, う蝕等実態調査
 広報部会 「よい歯」の発行(別添)
 地域部会 モデル地区等の推進

4) 幼稚園・保育所と歯科診療所の連携

衣川村では「むし歯予防啓発推進事業」の指定を受ける前から、歯科診療所と幼稚園・保育所との連携をとって予防活動を行ってきたが、事業指定はむし歯予防活動での連携をさらに深めてくれた。

- ① フッ素洗口
- ② PMTC (Professional Mechanical Tooth Cleaning) の変法
- ③ 啓蒙活動
- ④ 幼稚園・保育所の先生方の指導
- ⑤ 歯科検診後の事後指導

4. 今後の課題

- ① 衣川村のような農山村では幼稚園・保育所のむし歯を減少させるため、保育者、特に祖父母の歯科衛生意識を向上させる必要がある。
 また、もっと低年齢児からの歯科予防を徹底しなければならない。
- ② 「むし歯予防啓発推進事業」は今年が最終年度であり、今後もむし歯予防活動を継続して進めていくことが必要である。

5. おわりに

私たちは、歯を磨けばむし歯が少なくなるとか、砂糖を少なくとればむし歯も少なくなるということを知っている。しかし、むし歯は一向に少くならない。1本歯が抜けても噛むことに支障ないかもしれないが、歯1本なくすまでに至った生活習慣や生活態度には、むし歯に関したこと以外にも問題を含んでいる。歯科医師だけではどうにもできない問題である。

幼児自ら歯を大切に作る習慣を身につけるには

——家庭への啓蒙を中心に——

岩手県衣川村立北股僻地保育所 高橋京子

1. 地域の概要

衣川村は、県南部に位置し、地形的に東西に長く、全般的に山に囲まれた農山村地帯である。村の人口は、5700名足らず、世帯数は1308戸である。(平成3年6月現在)しかも当北股は、西部奥羽山脈沿いにあるため中心部と奥地との気候の差が大きい。

2. むし歯予防啓発推進事業を受けて

この事業は、日本学校保健会、岩手県学校保健会の選定委託を受け、平成元年度から3年度までの3年間にわたっての実施事業である。推進委員会では、企画委員会を中心に、事業のねらい、目標の達成を目指して構想を練り事業計画を立ててどう取り組むかについて協議した。

3. 本所の実態

当保育所は、昭和38年設立、児童定員数30名の小規模保育所である。所長は、非常勤で保母2名で保育に当たっている。

昭和44年4月から歯みがき指導を行った。

4. 研究主題について

入所してくる幼児の歯は、すでに沢山のむし歯になっている。そこでその原因を調査し、家庭との連携をとりながら、歯科保健指導を行う必要がある、と考えた。むし歯の治療と平行し、新たなむし歯をつくらない為に、歯科医からの専門的指導を受けながら実践を行うこととする。

むし歯治療率・むし歯罹患率の推移（春の検診より）

年少児（4歳児）

年度	被検者数	罹患率	うし有病者率	一人平均う歯数	処置歯率(サホ含)
55	10	44.1%	90.0%	9 本	24.1 %
56	7	25.0	85.7	5	31.4 (17.1)
57	12	30.8	91.7	6.2	56.8 (35.1)
58	12	33.3	100.0	6.7	45 (23.8)
59	11	33.3	90.9	6.55	52.78 (29.17)
60	17	40.0	94.1	8.1	70.42 (38)
61	9	40.9	88.9	8.0	68.1 (49)
62	16	25.9	81.2	5.2	67.1 (39)
63	12	44.0	91.7	8.8	90.6 (49.1)
平成元	13	34.2	85.0	6.7	75 (38)
〃 2	10	46.0	80.0	9.2	85.9 (45.7)
〃 3	9	41.7	66.7	8.1	72.6 (34.2)

年長児（５歳児）

年度	被 検 者 数	罹 患 者 率	うし有病者率	一人平均う歯数	処置歯率(サホ含)
55	10	45.7 %	100 %	10.2 本	22.4 %
56	11	46.8	90.9	9.2	72.5 (36.3)
57	6	36.9	100	6.8	78.1 (43.9)
58	9	45.9	100	8.8	74.7 (54.4)
59	13	41.04	100	7.92	59.22 (38.83)
60	11	40.0	100	7.7	78.52 (22)
61	16	51.5	93.8	9.9	91.6 (14.5)
62	9	54.7	100	10.9	75.8 (40)
63	17	39.5	94.1	7.6	85 (54.3)
元	12	50.0	100	9.6	79 (45)
2	12	60.3	83.3	11.7	94.2 (48.6)
3	8	53.3	87.5	10.1	85.2 (48.1)

歯みがき習慣の定着状況（平成２年度）

調査人数 (30人) 7月～8月	言われなくともみがく		時々忘れるが言われなくともみがく		言われてからみがく		言われてもみがかない		未 回 収 率
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
	1	3	11	37	12	40	4	13	
調査人数(30人) 12月～1月	3	12	7	27	16	62	0	0	13

5. 虫歯予防年間指導計画

年少児（３～４歳児）

月	主題名	指 導 内 容	親への指導内容	資 料
4	食べたらずぐみがこう	○上手に口を開けてみせることができる ○歯みがきは楽しいと感じる	○むし歯予防の重要性を認識させる ○仕上げみがき	絵本、紙芝居 歯型の模型 パンフレット
5	ブクブクうがいしよう	○ブクブクうがいができる ○いやがらないで歯の検査を受ける	○治療のすすめ	絵本、紙芝居 歯型の模型 治療勧告書
6	きれいにみがこう	○歯の大切さがわかる ○染め出しをして歯の汚れを見つける ○歯をみがいた後、自分の歯はきれいだろうかと思う	○幼児期の歯みがきのポイントを知らせる ○幼児期の歯の特徴について 関心と理解を深めさせる ○仕上げみがき	染め出し液 鏡 歯型の模型 歯みがき調べ おやつ調べ

7・8	親子で歯の健康を守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ○こわがらないでむし歯の治療を受ける ○食事後の歯みがきができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○治療のすすめ ○仕上げみがき ○正しいおやつとの与え方 	親子歯みがきカード・パンフレット (おやつに関する)
9	おやつを上手に食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ○甘い飲食物のとりすぎに気をつける ○ブクブクうがいができる ○食事の後の歯みがきができる ○歯によい食べ物に関心をもち進んで食べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯によいおやつづくり ○正しいおやつとの与え方 ○むし歯の原因や発生過程を知らせる ○治療のすすめ 	歯型の模型 パンフレット (おやつに関する)
10	歯ブラシを歯にしっかりあてよう	<ul style="list-style-type: none"> ○歯ブラシの持ち方、当てる方、動かし方がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しいみがき方を知らせる ○仕上げみがき 	歯型の模型 絵本、紙芝居
11・12・1	よくかんで食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ○かむことの大切さがわかる ○歯によい食べ物に関心をもち進んで食べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○かむことの大切さを知らせる 	プリント (かみかみ弁当のおかず) 歯みがき調べ
2	すききらいしないで食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ○かむことの大切さがわかる ○歯によい食べ物に関心をもち進んで食べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものきらいなものを弁当に入れてもらう。 	きらいなおかずの調査資料
3	すすんで歯をみがこう	<ul style="list-style-type: none"> ○口の中をきれいにした時の感じがわかる ○食事の後の歯みがきができる 	<ul style="list-style-type: none"> ※一日入所で歯科検診を行い治療のすすめを行う (新入所児の父母対象) 	パンフレット (よいは)

年長児（5歳児）

月	主題名	指 導 内 容	親への指導内容	資 料
4	食べたらずぐみがこう	<ul style="list-style-type: none"> ○口の中をきれいにした時の感じがわかる ○食事の後の歯みがきができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯予防の重要性を認識させる ○仕上げみがき 	絵本、紙芝居 歯型の模型 パンフレット
5	ブクブクうがいを上手にしよう	<ul style="list-style-type: none"> ○ブクブクうがいができる ○フッ素洗口のしかたがわかる（第一大臼歯の歯科医による歯みがき指導） 	<ul style="list-style-type: none"> ○治療のすすめ ○フッ素洗口についての説明、承諾書を書いてもらう 	絵本、紙芝居 歯型の模型 治療勧告書

6	きれいにみがこう	<ul style="list-style-type: none"> ○第一大臼歯に関心をもつ ○生えたばかりの第一大臼歯のかみ合わせの所にも歯ブラシの毛先が届くみがき方ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児期の歯みがきのポイントを知らせる ○幼児期の歯の特徴（6才臼歯の萌出）について関心と理解を深めさせる ○仕上げみがき 	染め出し液鏡 歯型の模型 歯みがき調べ おやつ調べ
7・8	親子で歯の健康を守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ○こわがらないでむし歯の治療を受ける ○食事の後の歯みがきができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○治療のすすめ ○仕上げみがき ○正しいおやつの与え方 	親子歯みがきカード・パンフレット（おやつに関する）
9	おやつを上手に食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ○甘い飲食物のとりすぎに気をつける ○ブクブクうがいができる ○食事の後の歯みがきができる ○歯によい食べ物に関心をもち進んで食べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯によいおやつづくり ○正しいおやつの与え方 ○むし歯の原因や発生過程を知らせる ○治療のすすめ 	歯型の模型 パンフレット（おやつに関する）
10	歯ブラシを歯にしっかりあてよう	<ul style="list-style-type: none"> ○歯ブラシの持ち方，当て方，動かし方がわかる ○ていねいに歯の各部分みがける 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しいみがき方を知らせる ○仕上げみがき 	歯型の模型 絵本・紙芝居
11	よくかんで食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ○かむことの大切さがわかる ○歯によい食べ物に関心をもち進んで食べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○かむことの大切さを知らせる 	プリント（かみかみ弁当のおかず）
12・1	6才臼歯をみがこう	<ul style="list-style-type: none"> ○第一大臼歯に関心をもつ ○生えたばかりの第一大臼歯のかみ合わせの所にも歯ブラシの毛先が届くみがき方ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○治療のすすめ ○仕上げみがき 	プリント（6才臼歯について） 歯みがき調べ
2	すききらいしないで食べよう	<ul style="list-style-type: none"> ○かむことの大切さがわかる ○歯によい食べ物に関心をもち進んで食べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものきらいなものを弁当に入れてもらう 	きらいなおかずの調査資料
3	すすんで歯をみがこう	<ul style="list-style-type: none"> ○口の中をきれいにした時の感じがわかる ○食事後の歯みがきができる 	※一日入所で歯科検診を行い治療のすすめを行う（新入所児の父母対象）	パンフレット（よいは）

6. 実践内容

(1) 機械をとらえて歯科医の講演会，研修会を受ける

(2) 歯みがきの指導

- ① 昼食後の歯みがき指導
- ② 個別指導
- ③ フッ素洗口

(3) おやつやお弁当のとり方

お弁当の食事指導では，かむことの大切さを話し，好き嫌いせずになんでも食べるようにさせる。

(4) 人形劇や絵本・紙芝居による指導

(5) 遊びへの発展

自由遊びの中で，子供達は歯に関する絵本をとり出してみて遊んだり，その絵をかいたりうつつたりしていた。

(6) 家庭への啓蒙

- ① 治療のすすめ
- ② 歯みがきカレンダーを渡す。
- ③ おやつ調べ
 - ・歯みがきカレンダーのところに毎日食べたおやつ名を書いてもらう。
 - ・1ヶ月間の調査で次のような結果が出た。

順位	品 名	食回数
1	牛乳	154
2	果物	148
3	アイスクリーム	143
4	パン	127
5	せんべい	91
6	ジュース	90
7	スナック菓子	63

④ 体によいおやつづくり

⑤ 父親参観日

- ・缶ジュースの中に含まれる糖分について，実際に歯科衛生士さんによる実験を具体的にみて，またそれを各々，お父さん方が飲んでみて，いかに缶ジュースに糖分が多く含まれているか，また酸によって甘みがうすれて飲みやすくなることも確認しあう。その後，子ども達の歯の染め

出しをして，歯みがきの難しさを実際に体験していただく。歯ここのむし歯菌も位相差顕微鏡でみる。

⑥ 祖父母参観日

- ・孫の歯科検診を一緒にみて歯科医から説明を聞いた。
- ・歯の大切さについての講話をきき乳歯だからとはいえ非常に大事にしないといけないことを学習する。「そんでもう何もかせられねえな」とにが笑いするおじいさん方の声があった。
- その後，子どもたちのむし歯の治療率は，グンとよくなった。

⑦ 絵本の回覧

- ・歯に関する絵本の回覧をし，親と子が一緒に触れ合い，楽しみながらみることにより自然にむし歯のこわさを知るようにした。又大人向けの本も貸し出し利用してもらうようにした。

⑧ 保育所だよりや小冊子での啓蒙

- ・保育所だよりの一部にコーナーを設けてむし歯予防のニュースをのせた。
- ・むし歯予防啓発推進委員の小冊子を家庭に配った。

⑨ 運動会や親子遠足での啓蒙

- ・運動会の親子レースでは，「しあげみがきをよろしくね」という種目を行い，子ども達の歯の仕上げみがきの大切さを考えてもらうようにした。

(7) 研究の反省と考察

① 歯科医との関わりについて

- ・専門的な立場からの話には，説得力があり，親の意識を高める効果があった。
- ・保母が基本的知識を高めることができたが，更に今後もこの実践を継続し，また指導の研究も深めるよう努めたい。

② 指導者の姿勢

- ・教材や指導者の言葉かけ，態度によって，子ども達は意欲的に歯みがきにとりくんだ。
- ・毎日くりかえし，指導者と一緒にみがく

ことによって、正しい歯みがきの習慣がついてくる。

- ・個々にみがくと、ともすればルーズになりがちだが、一斉みがきを取り入れたことにより、きちんとみがくようになった。
- ・子ども達の家庭での実態を調査分析し、それにもとづいた指導が大切である。
- ・村内の幼稚園、保育所、小学校、中学校で授業を公開しあったり、資料の検討等をしたことにより、指導力が高まったと思う。

③ 子ども達の変容

- ・入所当初は、言われないとみがけない子ども、食事のあとは、習慣になってすぐ歯みがきをするようになった。
- ・一斉みがきもイヤがらずやるが、年少児の3歳児は、歯ブラシの使い方がまだうまくできない子がいる。年長児は、砂時計で個々にきれいにみがくことを意識してやるようになった。砂時計で5分みがいている。
- ・仕上げみがきをしてもらうことやおやつ後の歯みがきも意識するようになった。しかし中には、まだまだ家庭では積極的にはできない子もいる。家庭環境や親の姿勢でうまくできない子もいる。
- ・治療にいく子は100%になり、自分からむし歯のことを気にする子がふえた。

④ 保護者の変容

- ・参観日において、親も実際に子どもの歯をみたり、歯科医の講話をきいたり歯科衛生士さんの指導を受けたりして、むし

歯予防への関心が高まった。親としての責任を強く感じてきている。

- ・仕上げみがきに関しては83%が毎日のようにやってくれている。
- ・乳歯のむし歯もあとあと影響するということがわかり、治療にいくのが早くなった。
- ・おやつとの与え方は、家庭でも気をつけるようになってきてはいるがまだまだ問題がある。その中でも甘い物をひかえたり、手造りおやつを与えるようになったりするところがふえてきた。
- ・歯ブラシも、毛先が開くとすぐとりかえてくれる。

⑤ 今後の課題

- ・今までの実践をさらに継続していくことが大事である。
- ・親だけでなく、実際に家に子ども達が帰ってから世話をしてくれる祖父母への啓蒙をさらにおし進め実態をふまえた指導をしていく必要がある。
- ・むし歯の大きな原因はおやつとの与え方にあるように思えるので、おやつを意義を理解させ、上手な与え方をしていくことが、むし歯をなくすことへつながることを考えてもらう。また、おやつあとの歯みがきの大切さもさらに指導していきたい。
- ・一日入所の際に歯科検診を行い、早期治療や、むし歯予防に関心を持ってもらい、健康な歯で、明るく元気な子に育つように努力していきたいと思います。

〔小学校部会〕

●テ	ー	マ	「小学校における歯科保健指導の実践」		
●座		長	日本学校歯科医会常務理事	石	川 実
●助	言	者	日本体育大学教授	吉	田 瑩一郎
●発	表	者	東京都江東区立第二亀戸小学校養護教諭	三	木 とみ子
	〃		仙台市立広瀬小学校教諭	小	長根 久 雄
	〃		山形県羽黒町立第二小学校歯科医	佐	藤 恒 雄

小学校における歯科保健指導の実践

座長 日本学校歯科医会常務理事 石 川 実

今日、教育活動として学校保健を推進するためには多くの課題や問題が山積している。

学校歯科保健は、口腔環境の改善を目標とし、子ども達に健康志向への道標を示しながら、生涯にわたる歯科保健行動を育成することをねらいとしている。これらの視点で学校や家庭を啓発し、学校歯科保健活動のあるべき姿に生長させるためには、小児保健に包括される小児期の歯科保健について、学校歯科医がその職務を通して、次のような基本的な考え方についても整理しておく必要がある。

- 1) 歯および口腔機能の価値観を高める。
- 2) 子ども達のみが持つ成長発育という営みを大切に育てる。
- 3) 顎、顔面の働きを活性化させながら、総合咀嚼器官の育成をめざす。

歯科保健が教育活動としてその態勢づくりが具現化されたのは、昭和53年からである。歯科界、とくに学校歯科医は大きな戸惑いを見せてきたが、今日の教育的な学校歯科保健活動は、21世紀の子ども達のための歯科保健として着実に進展している。このような進展は、学校歯科医の基本構想の充実や行動力などによって、子ども達の歯、口腔の実態に基づいた保健学習や保健指導の教授法（戦略、戦術）の展開に大きく貢献していること

もまた確かなことである。

本研究大会は、さまざまな実践研究から「学校歯科保健の包括化」をメインテーマとして、岐阜の第51回大会以来続けられ、青森、和歌山、広島大会を経て、ようやくこの宮城大会において、4部会の揃い踏みによる研究協議が開催されることとなった。本大会のもつ意義は大きく、教育活動としての学校歯科保健の成果が、このような発展に導いたものと思われる。今後もこれらのフレームを基本としながら、人生80年時代に生きる子ども達のための学校歯科保健への道標として更なる実践計画の充実を期待したい。

さて、本小学校部会は吉田瑩一郎先生（日本体育大学教授・前文部省体育局体育官）のご助言を戴くことになっておりますが、今日の学校歯科保健の進展は、吉田先生によるものが大であり、学校歯科医の一人として心から感謝申し上げているところであります。

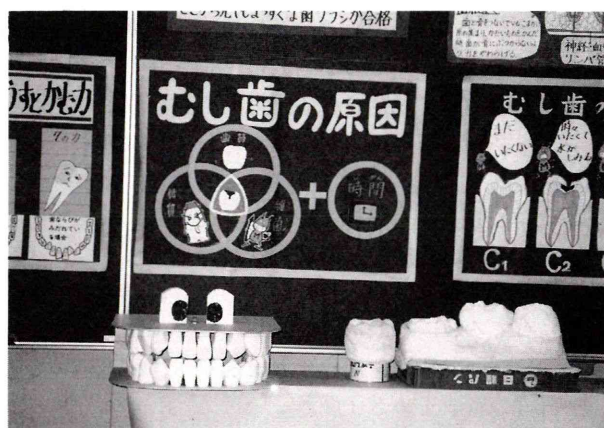
吉田先生は常日頃より歯の健康指導は子ども達の生活習慣の形成に役立ち、しかも我慢強さ、ねばり強さが育つようになる。また歯の保健指導は他の保健指導のカリキュラムづくりのモデルともなり、これらの学習によって学級や学校が明るくなるとともに、家庭との連携にも役立つと啓発されております。

小学校を中心として実践研究されてきた歯の保健指導が、いまや幼・小・中・高という発達段階の特質を包括しながら、その教育方針の解明にむけて前進する時代へと変容をみせております。す

ばらしい実践研究のご発表と、心温まるご助言をいただくことを期待申し上げ、座長の言葉と致します。



小学校の公開授業にて



小学校における歯科保健指導の充実のために

日本体育大学教授 吉 田 瑩一郎

文部省から「小学校歯の保健指導の手引」が出されたのは、昭和53年3月（白表紙で全国の小学校に配布、普及版は東山書房より同年7月刊行）であるから、かなりその趣旨も普及し指導の充実が図られつつあることはこの上ない喜びである。

本研究大会は、「発達段階に即した指導」と「生活化を目指した指導」の在り方について研究協議を展開しようとしている。

小学校については、次のような研究内容が設定されている。

1. 小学生の発達段階から見た歯科保健指導の目標及び内容について
2. 小学校における歯科保健指導の指導計画と指導の進め方について
 - (1) 低学年の指導の重点と指導の進め方
 - (2) 中学年の指導の重点と指導の進め方
 - (3) 高学年の指導の重点と指導の進め方
3. 家庭・地域との連携の在り方（学校保健委員会）について
4. 小学校における歯科保健指導の展開と学校歯科医のかかわり方について

まさに、小学校における歯科保健指導の充実の視点はここにあるのである。以下、要点を述べ実践の参考に供しようとする。

1 学校における歯科保健指導の教育的意義に目を向けよう。

- (1) 歯科保健指導は、むし歯や歯肉炎などの予防を内容にしているので子供たちに受け入れられやすい。
- (2) 歯科保健指導の内容は、子供や保護者のライフスタイルと深くかかわっているので、望ましい健康生活習慣の形成に役立つ。

- (3) みがき残しのない歯みがき習慣が身につくとねばり強さ、がまん強さが育つようになる。
- (4) 保健指導全体の指導計画や指導法の改善に役立つ。
- (5) 家庭との連携や幼稚園・保育園、中学校との連携の緊密化に役立つ。
- (6) むし歯や歯肉炎の予防効果を高めることができる。

2 歯科保健からみた学年・学級の子供の学習要求に目を向け、学年ごとに指導のねらいを設定してみよう。

- (1) 学校における保健指導は、health guidanceとして特別活動の学級活動を中心に行われるので、指導の内容は、学年・学級の子供が現在当面しているか、近い将来当面するであろう健康上の問題から導き出される必要がある。
- (2) 子供の学習要求は、「小学校歯の保健指導の手引」の目標などを手掛かりに、自校にとって重要と思われる観点を設定し、課題を探る。
- (3) 子供からの課題は、実践を方向づけ、学習の内容や方法を選択させ、かつ、学習の成果を評価する基準になるように、「行動目標」とらえるようにする。
- (4) 1・2学年では、第1大臼歯をきれいにみがけるようにし、かつ、よく噛む習慣を身につけることや間食のとり方についての指導を確かなものにする。
- (5) 3・4学年では、混合歯列期の不ぞろいな歯並びに合わせたみがき方、汚れのつきやすい前歯や歯と歯の間に毛先が届くみがき方が身につくようにする。
また、間食は自分で選ぶことができるようにする。
- (6) 5・6学年では、萌出途中の第2大臼歯と、

歯肉炎の予防と改善のための歯と歯肉の境目の部分のみがき方が身につくようにする。

また、歯の裏側を含むすべての歯面に歯ブラシの毛先が届き、みがき残しのない毛先の使い方を身につけることができるようにする。

3 指導計画は、可能な限り学級を中心にした指導を行うことができるように工夫しよう。

- (1) 歯科保健指導は、特別活動の学級活動、学校行事、児童会活動のほか、朝や帰りの時間、昼食後の歯みがきの時間などで行われるが、発達段階に即した指導や生活化を図るための指導を行うには、どの場面で、何を、誰が、どのように指導を行うのかの全体像を構想する。
- (2) 学校保健安全計画のうちの「学校保健計画」に、確かな位置づけをする。
歯科保健指導の全体計画の作成に通じるので、特に意識する。
- (3) 学級を中心とした指導は、少なくとも6月のほかに、学期に1回は行うことができるようにする。
- (4) 学級活動での指導には、学級担任が自信をもってできるような条件を整えることである。
○具体的な指導計画の準備
○養護教諭や学校歯科医の協力
○教具・教材の整備
○授業の進め方などについての校内研修の計画
○学校参観日を活用した保護者の啓発（歯科保健指導の授業参観など）
- (5) 家庭、幼稚園・保育園、中学校との連携を

深めるための「かけ橋」としての学校保健委員会の組織構成や進め方を工夫する。

- 時間は60分～90分ぐらいとし、開催の回数を多くする（5～6回）。
- 歯科に関する議題を重点的に取り上げるようにする。

4 子供が、自分の歯科保健上の問題の解決に責任をもつ、独立心と能力が育つような指導を工夫しよう。

- (1) 子供が、学習を通して達成感を味わうことができるようにする。
- (2) 子供が、思考し、体験し、感動し、やる気を起こすことができるような学習過程と学習活動を工夫する。
- (3) 学習過程や学習活動に応じた教具・教材を工夫する。

5 学校歯科医は、学校歯科保健指導の特質をよく理解し、学校がやる気を起こすような働きかけを工夫しよう。

- (1) 学校健康診断は、学校歯科保健指導のスタート台である。
- (2) 学年・学級ごとの歯科的な課題を提起し、歯科保健指導のカリキュラムづくりに協力する。
- (3) 歯科保健指導の授業には、可能な限り参加する。
- (4) 教員の歯科保健に関する校内研修に積極的に参加する。
- (5) さり気なく、学校に顔を出すことができるように。

*

*

*

生涯にわたる健康づくりの基礎を培う健康教育

——歯肉炎予防の保健指導を通して——

江東区立第二亀戸小学校 養護教諭 三 木 とみ子

I はじめに

人生80年の高齢化社会を迎え「健康」は生涯を通じて幸せに生きるために不可欠な条件となり、小学校における健康教育の重要性がさげばれている。

そこで本研究テーマ設定の視点として、

- 観察により自分で気づき、捉えやすい健康問題であること。
- なるべく児童全員に共通性のある健康問題であること。
- 自分で改善できしかもそれを自分で確かめることで成就感をもてること。
- ライフスタイルと深くかかわっていること。

をあげてみた。

II 主題設定の理由

1 疾病構造の変化とライフスタイルの見直し

今日の児童の健康状況は、肥満、高血圧、糖尿病、歯肉炎などが増え問題となっている。これらは、偏りのある食生活、運動不足、不規則な生活習慣などのライフスタイルに起因していると考えられる。

2 「生涯を通じての健康づくり」の期待に応える

東京都教育委員会の重点課題のひとつとして、「心と体の健康づくり」があげられている。

すなわち、「生涯健康」に関する教育は、学校教育とりわけ学校保健の課題であり、これからの保健指導は、常にこのことを念頭において展開することが大切である。

3 健康に関する自己管理能力を育てる

本研究では、歯科領域の成人病ともいわれる歯

肉炎予防を取り上げ、「歯肉の健康状態を自分で把握することができる」「発見した歯肉炎を自分で改善できる」「歯肉の観察により日頃の歯みがきを自己評価できる」という指導上の特色を生かした保健指導により、健康に関する自己管理能力を育てたいと考え本主題を設定した。

III 研究のねらい

本研究では、先の研究主題設定の理由と視点から研究のねらいを次のように設定した。

- ① 歯肉の健康観察により児童が歯肉の健康状態を自分で捉えることができる。
- ② 発見した歯肉炎を自分で改善できる。
- ③ 歯肉の健康を保持増進できる。

これらの能力や態度を育て、「生涯にわたる健康づくり」の基礎を培うための健康教育の在り方を探る。

IV 研究仮説の設定

研究のねらいを達成するために次の2つの研究仮説を設定した。

仮説①

「歯肉の健康観察」に関する観点の設定や、観察資料の作成と活用により、児童が歯肉の健康状態を自分で把握することができる。このことを通して、体全体の健康状態を自ら把握する態度や習慣が身に付く。

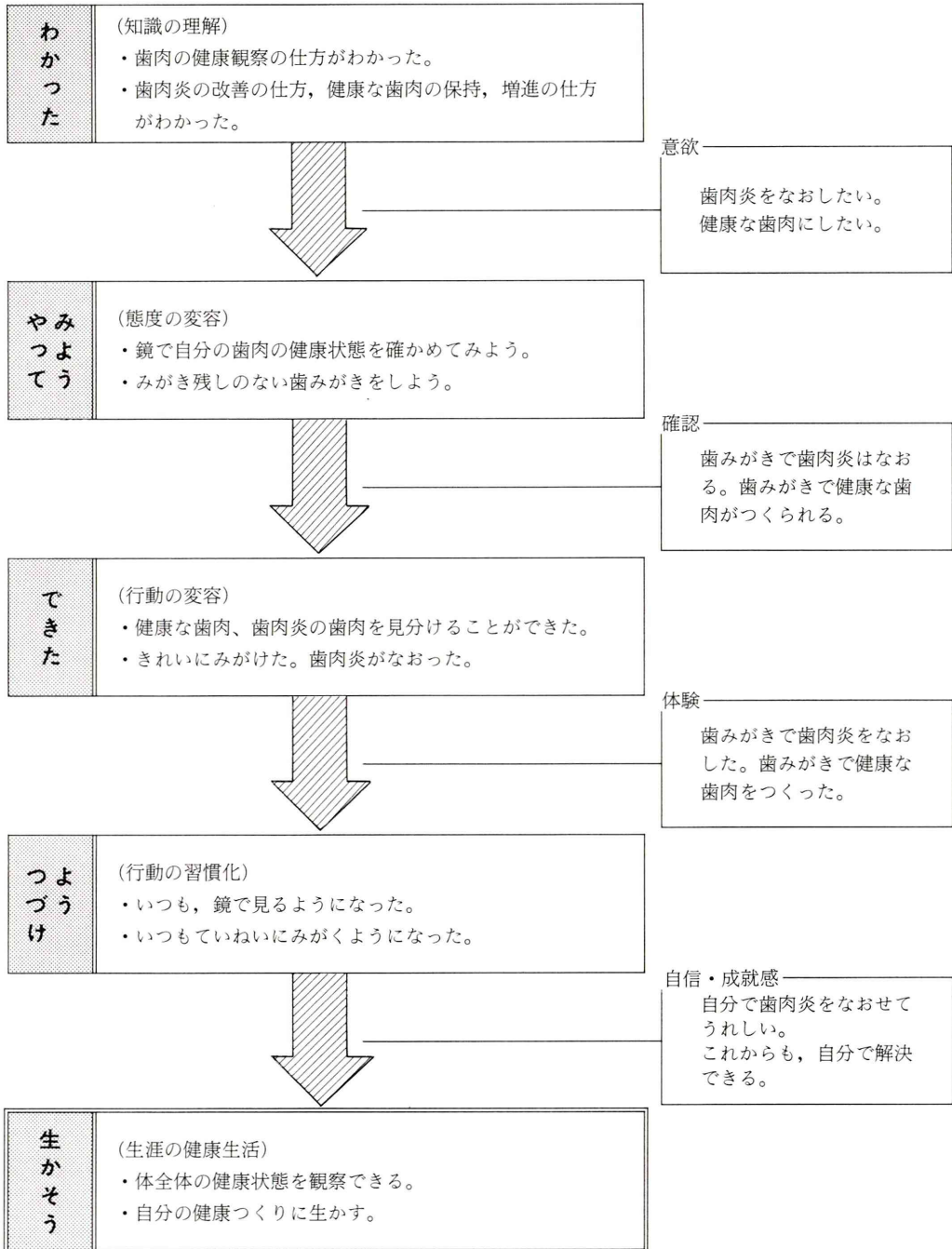
仮説②

保健指導により、「歯肉炎を改善できた」「歯肉の健康を保持し、増進できた」などの体験を日常の健康生活に生かすことができれば、「生涯にわたる健康づくり」の基礎が培える。

〈本研究でねらう児童像〉

本研究では、歯肉炎予防の保健指導と「生涯にわたる健康づくり」の基礎との関連について下図のように考えた。ここでねらう児童像は、知識の

理解から行動の習慣化に至るまでの過程で得た健康づくりに対する自信や体験などを、日常の健康生活に生かすことのできる姿とした。



V 研究の内容

1 基礎研究

(1) 今、なぜ「生涯にわたる健康」の基礎つくりなのか

① 疾病構造の変化、健康の成り立ち等（下図、表参照）からライフスタイルが重視されるようになった。

表1 肥満傾向児の推移（被患率）

	校種	昭和						平成 元
		50	55	60	61	62	63	
肥満傾向	小学校	1.36	1.61	1.6	1.65	1.7	1.7	1.8
	中学校	1.01	1.25	1.3	1.17	1.3	1.3	1.2
	高等学校	0.57	1.22	0.9	0.98	1.0	0.8	0.9

(注) 被患率 = $\frac{\text{被患者数}}{\text{健康診断受検者数}} \times 100$
(学校保健統計調査による)

学校保健の動向（平成2年度）日本学校保健会

表2 子どものコレステロール値 (mg/dl)

年度	1978		1987	
性別	男	女	男	女
小学校	160.7	163.2	169.7	172.5
中学校	150.9	159.4	160.5	169.1
高校	154.2	170.7	159.0	174.4
人数	3,484	4,818	6,855	5,522

(「小児科診療」平成2年1月号) (大国教授ら)

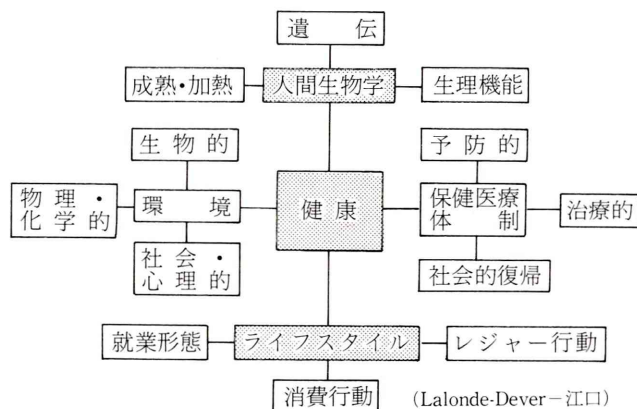


図1 健康の成り立ち

(日本医師会雑誌第101巻第10号)

・歯肉炎の実態（歯科疾患実態調査）

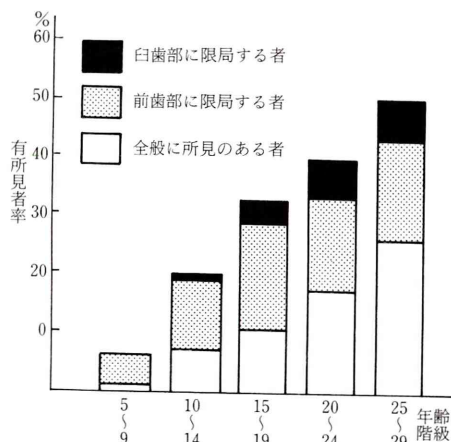


図2 年齢階級別歯肉に所見のある者の率(昭和56年)

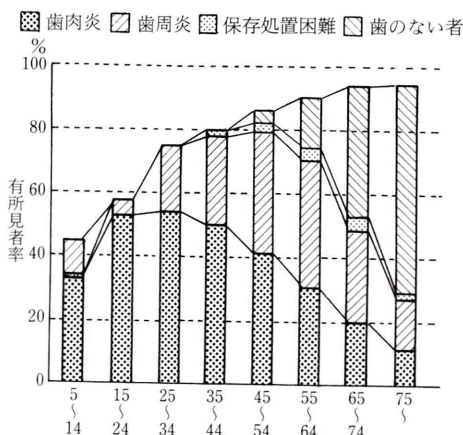


図3 年齢階級別歯肉の所見の有無(昭和62年)

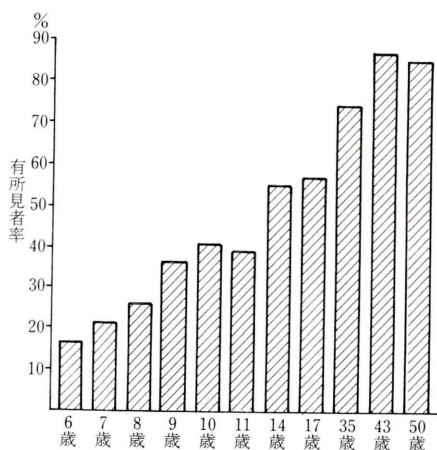


図4 年齢別歯肉に所見のある者(昭和62年)

(2) 歯や口の保健指導の課題と指導内容

幼児・児童、生徒の発達段階における

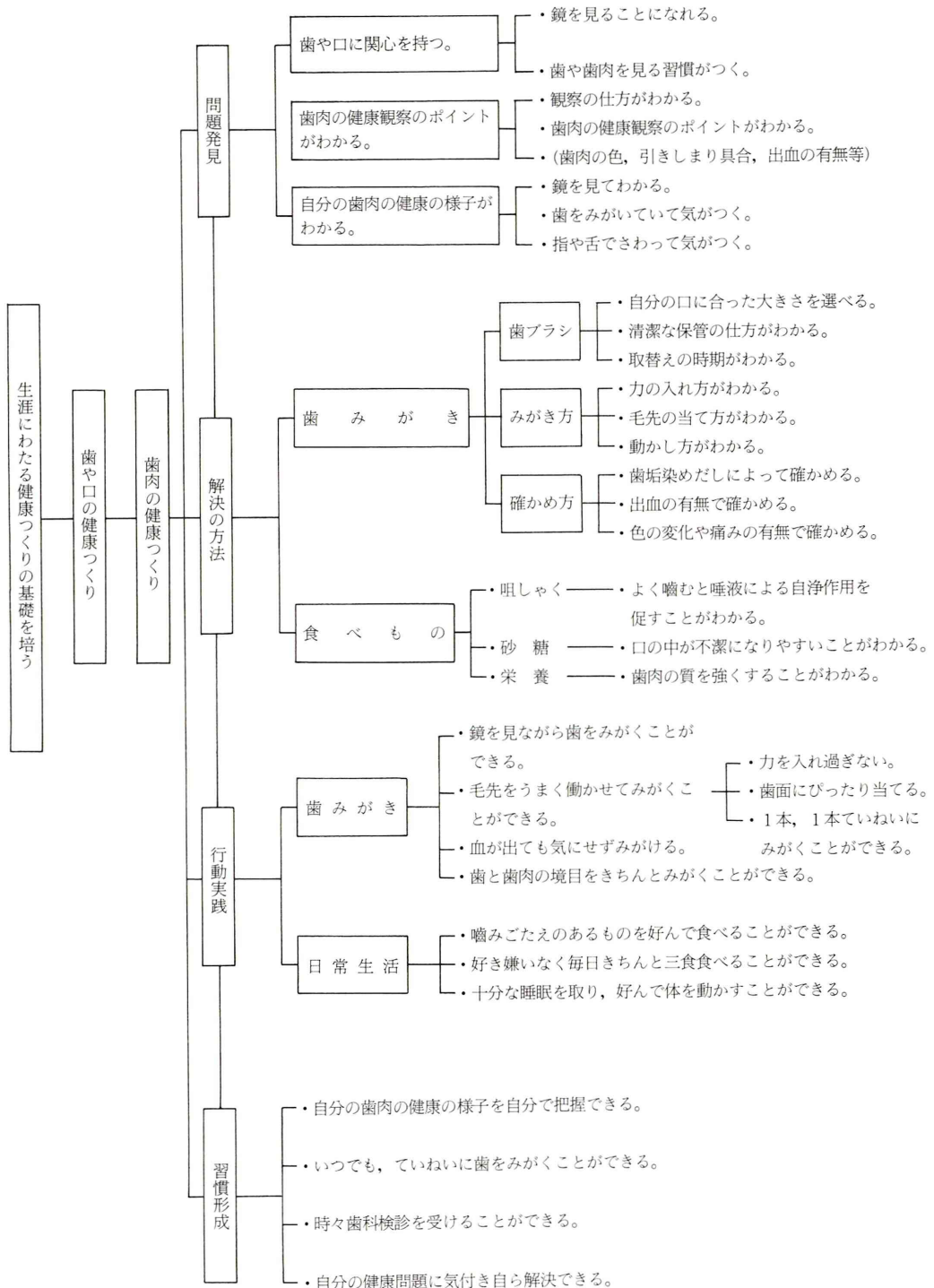
区分	行動・心理的発達の特徴	歯と口の発育	疾病・異常の特徴
幼児 (3・4・5歳)	<ul style="list-style-type: none"> ○衣服の着脱がひとりでできる。 ○帽子をかぶる。前のボタンをはめる。パンツをはく(4歳頃) ○両袖をとおし、靴下をはける(4歳6ヶ月)。 ○ひもを結べる(6歳)。 ○手を洗える(3歳)。 ○うがい、口ゆすぎ、歯みがき、洗面、はなをかむ(4歳)。 ○髪を自分でとかせる(5歳6ヶ月)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3歳までに乳歯が上下20本生えそろう。 ○4歳頃から前歯の間に隙間ができてくる。 ○6歳前後から6歳臼歯(第一大臼歯)が生え始める。(上下の歯がかみ合わさるまで1年以上かかる) 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳歯のむし歯は、前歯の間や奥歯のかみ合わせ(溝の部分)に発生しやすい。 ○乳歯のむし歯は、進行が早く短期間のうちに歯髄炎まで進みやすい。 ○6歳臼歯は、生え始めからむし歯になりやすい。
小学校低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことを自分で大体処理できる能力がついてくる。 ○教師を絶対的存在としてとらえる。 ○自己中心的。 	<ul style="list-style-type: none"> ○上・下の切歯が生えかわる。 ○6歳臼歯(第一大臼歯)上下左右4本がかみ合い咬合が安定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○6歳臼歯がむし歯になりやすい。
小学校高学年 (10・11歳)	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのことは、1人でできる。 ○両方とのかかわりより、友人とのかかわりを大切にする。 ○異性への関心が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第二大臼歯(12歳臼歯)が萌出し始める。 ○犬歯が萌出し、前歯が生えそろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯肉炎の児童が増加してくる。 ○不正咬合がはっきりしてくる。 ○12歳臼歯は萌出直後からむし歯になりやすい。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ○自己確立ができる。 ○特定の異性に関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○永久歯28本が生えそろう咬合の安定期に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯肉炎の児童が増加してくる。 ○永久歯のむし歯が多くなる。

歯や口の保健指導の課題と指導内容（江東区立第二亀戸小学校）

指 導 内 容		その他 (家庭との連携)
理解・行動	歯みがき技能	
<ul style="list-style-type: none"> ○歯や口に興味をもち大切にしようという心情を育てるようにする。 ○鏡で、顔や口の中をみる習慣をつける。 ○6歳臼歯の萌出に気付く。 ○食事はよくかんで食べる。 ○指しゃぶり、口を開けている癖などをなおす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブクブクうがいができる。 ○歯列の外側、奥歯のかみ合わせ面にひととおり毛先が届く。 ○6歳臼歯が萌出したら特に注意してみがくことができる。 ○歯垢染め出し検査を受けることができる。 ○鏡をみてみがくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳歯のむし歯の早期発見と治療 ○栄養のバランス、噛みごたえのある食品の調理 ○おやつとの与え方 ○歯みがきの点検と就寝前の仕上げみがき
<ul style="list-style-type: none"> ○鏡をつかって自分の歯や口を観察できる。 ○生えてきた永久歯を観察し、形の特徴や役割がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○6歳臼歯の特徴を自分で確かめる。 ○一手でさわってみる、歯ブラシをあててみる— (背が低い・みぞがたくさんある。大きい) 	<ul style="list-style-type: none"> ○むし歯の早期発見と早期治療 ○基本的生活習慣の確立
<ul style="list-style-type: none"> ○歯肉の病気の原因と進み方がわかる。 ○歯肉の健康観察のポイントがわかる。 ○歯肉の健康観察ができる。 ○歯肉炎の予防や、歯肉炎をなおす方法がわかる。 ○体の成長と歯の発育の関係がわかる。 ○良い歯と全身の健康との関係がわかる。 ○生涯の健康と歯や歯肉の健康とのつながりがわかる。 ○間食を自分で選んで食べる。 ○歯の健康のためすべての栄養素が大切であることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯肉炎の予防のための歯みがきができる。 ・歯と歯の間の歯肉、歯と歯肉の境目をしっかりみがくことができる。 ○歯肉炎の改善のための歯みがきができる。 ・出血を気にせず、歯と歯の間や歯をとりかこむ歯肉をていねいにみがくことができる。 ○みがき残しのない歯みがきができる。 ・すべての歯に歯ブラシの毛先をしっかりと当て（直角）みがくことができる。 ・力を入れすぎないで毛先を生かした歯みがきができる。 ・1本1本でいねいにこまかくみがくことができる。 ○萌出途中の12歳臼歯の咬合面をきれいにみがくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯肉炎、むし歯の早期発見、早期治療 ○歯肉炎の予防と改善の方法 ○不正咬合の児童の専門医相談 ○噛みごたえのある食品の調理と工夫 ○甘味飲料食品の制限 ○基本的生活習慣の確立
<ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活を心がける。 ○むし歯や歯肉炎の予防について理解し実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歯肉炎の予防と改善を意識した歯みがきができる。 ○自分の歯列にあったみがき 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活 ○バランスのとれた食

(3) 歯肉炎予防の指導内容要素一覧表

歯肉の健康づくり指導要素一覧表



(4) 歯肉炎予防の指導上の特色

① 歯肉の健康状態を自分で捉えることができる。

② 歯肉炎は、みがき残しのない歯みがきで改善され、比較的短期間に実践の結果や成果が確かめやすい。

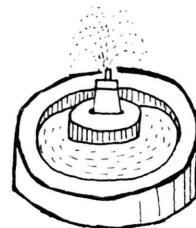
③ 歯肉の健康状態を観察することにより、日頃の歯みがき状況を自己評価できる。

2 授業及び個別指導の実際

(1) 授業の実践

① 歯肉炎の授業計画

② 第1回目授業（歯肉の健康観察の授業）



7. 展 開

————→ 中心的指導者

-----→ 補助的指導者

学習過程	学習内容	指導者	学 習 活 動		指導上の留意点 ◇資料 [評価]
			教師の働きかけ	予想される児童の反応	
↑ 課題の意識化 ↓	○顔の健康観察	学級担任 養護教諭	鏡を見て顔の健康観察をする ○鏡を見て顔の健康チェックをしよう ・口の中はどうか ・昨日と比べてどうか ・歯肉はどうか ・歯肉の健康観察をしてみよう	・顔 ・眼 ・唇 ・舌 (べろ) ・ほっぺたや唇の内側	◇鏡 ☆日によって、一人一人健康状態が違う。体は変化していることに気付かせる 鏡を使って顔や口の中の健康の様子を捉えることができたか
	○健康な歯肉と、歯肉炎の歯肉	養護教諭 学級担任	健康な歯肉や歯肉炎の歯肉はどんな歯肉か考える ○「歯肉の健康観察ノート」の3番を見て見よう ・この写真の中に健康な歯肉と歯肉炎の歯肉がありますどこか探してみよう ○グループで話し合ってみよう ・何故そう思うのかな ○健康な歯肉、歯肉炎の歯肉がはっきりわかる写真と比べてみよう ・健康な歯肉は1番 ・歯肉炎の歯肉は2番	・ここが健康だ ・ここが歯肉炎だ ＜歯肉炎＞ ・赤い ・プヨプヨしている ・血が出そうだ ＜健康な歯肉＞ ・引きしまっている ・色がピンクだ ・きれいだ ・しまっている ・気持ちが悪い ・血が出そうだ ・プヨプヨしている	◇「歯肉の健康観察ノート」 ◇TPシート ☆児童から出なかったら1番2番の写真で教える 健康な歯肉と歯肉炎の歯肉はどんな歯肉か理解できたか
↑ 問題の焦点化 ↓	○自分の歯肉の健康観察	学級担任 養護教諭	鏡で自分の歯肉の健康観察をする ○今度は鏡を見て、実際に自分の歯肉の健康観察をしてみよう ・歯肉炎と思う所をカードに矢印、健康な歯肉と思う所に矢印をつけよう ・質問したい人は、養護の三木先生にも聞いて下さい ○観察の結果を発表できる人は	・ぼくのはどうなっているのかな ・気持ち悪いかな ・よく分からない ・私のここはどうですか ・私の歯肉は、ここが健康で、ここが歯肉炎だった 私は全部健康だった	☆観察の仕方は最初のページであることを押える ☆はっきり分かる所だけにつけて分からない所は何もつけない ◇歯肉の健康観察カード 自分の歯肉の健康状態を捉えられたか
	○まとめ	学級担任 養護教諭	今日の学習でわかった事をカードに書いてみよう ○今日の学習でわかった事や自分の歯肉がどんな状態だったかカードに書いてみよう ○もっと知りたいこと、聞きたいことはなんですか	・自分の歯肉を初めて見た ・歯肉炎があったのでびっくりした ・健康でよかった	☆歯肉炎のある児童でも健康な歯を併わせ持っていることが多い「歯肉炎のある子」を断定的に取り扱わない
↑ 課題の解決 ↓					
↑ 実践への意欲化 ↓					

③ 授業における指導過程や指導内容と指導者とのかかわり（学校歯科医、養護教諭の協力のしかた）

主題	学習過程	学習内容	学習過程・学習内容からみた指導とのかかわり（~~~~~＝ ^{特にかかわり} の深い部分）			
			中心的指導者		補助的指導者	
歯肉の健康観察をしよう	課題の意識化	顔の健康観察	学級担任	○日常における朝の健康観察との関連をもたせながら本題の課題を意識化させる。	養護教諭	○鏡の取り扱い方や見方がよくできない児童への対応
	課題の焦点化	健康な歯肉と歯肉炎の歯肉	養教及び学校歯科医	○健康な歯肉、歯肉炎の歯肉を見分ける観点等の専門的な部分についての具体的な説明を通してわからせる。	学級担任	○学習資料（歯肉の健康観察ノート）の使い方やグループでの話し合いの進め方についての指導助言
	課題の解決	自分の歯肉の健康観察	学級担任	○先の観察、観点到に基づいて、自分の観察をさせる。日頃の観察をする目をここで引き出す。	養護教諭	○口びるの持ちあげ方、歯肉の場所などよくわからない児童や質問してくる児童への対応
	実践への意欲化	まとめ	学級担任	○次時の学習や、毎日の生活での実践化等について児童の考えを引き出し発表させる。	養護教諭	○机間指導し、グループ毎にまとめのカード記入に関しての指導助言
健康な歯肉をつくろう	課題の焦点化	今日の学習のめあて	学級担任	○前時のつながりや日頃の生活の様子などにふれながら本時のめあてを持たせる。	学級担任	○スライド、パネル等の説明補助
		歯肉炎について	学校歯科医・養護教諭	○歯肉炎の進め方や、放置した場合の結果について専門的な立場からわからせる。		
	原因の追求	歯肉炎の原因	学級担任	○4年で学習した「むし歯のできやすいところのみがき方をさがそう」で、むし歯の原因はプラークであることを想起させながらわからせる。	養護教諭	○必要時板書、掲示補助
	問題解決の方法	自分の歯肉と歯のよごれ（染め出し）	学級担任	○何回かやっている染め出しの方法を思い出させながら作業を進める。	養護教諭	○染め出しをいやがる児童への対応
		健康な歯肉にするためのみがき方	養護教諭	○歯ブラシの毛先の使い方について、今までの学習を思い出しながら、技能習得・習熟に関する指導。	学級担任	○歯ならびのよくない子や日頃うまくみがけない子の把握
	実践への意欲化	まとめ	学級担任	○給食後の歯みがき時にどんなみがき方をしたらよいか等について日常における習慣化を図る。 ○毎日の生活で実践することは生涯を通じた歯の健康につながることを意識させる。	養護教諭	○個別指導の必要な児童の把握 ○板書等の補助

④ 歯肉の健康観察記録

(2) 個別指導

① 個別指導の目的

- ・歯肉の健康観察により自分の歯肉の炎症に気づき、自分にあった問題解決の方法をわからせ、日常生活で実践できるようにさせる。

② 対象児の選出

- ・定期及び臨時の歯科検診時に、学校歯科医により次の観点から選出した。

- ・歯肉に所見のある児童（歯みがきで改善する）
- ・歯ならびが悪く、特に指導を要する児童
- ・歯のみがき方にくせのある児童

③ 方法

- ・指導時間 20分休、昼休み、放課後
- ・場 所 保健室
- ・指導者 養護教諭、学校歯科医

④ 指導内容（指導の流れ）

ア 歯肉炎ってなあに

「どこが歯肉炎、どこが健康かな」

「歯肉の健康観察ノート」の活用により歯肉の健康観察

イ 歯肉炎になった原因は……

歯の染め出しにより、炎症の部分が赤く染まることを確認

ウ どうすればなおるの、予防できるのか
歯ブラシの毛先の当て方、うごかし方の基本を理解

エ 練習してみよう

ポイントをしばって、毛先を生かしたみがき方を練習する

オ 今日の感想を発表しよう

記録用紙に、染め出しの結果や、今日の感想を記録する

⑤ 個別指導の指導記録

(3) 授業及び個別指導の実践を通してわかったこと

① 児童は、自分の顔や、口の中の観察に対して、意外と興味深く取り組むということ。

② 日常の健康観察が、授業を効果的に進めるのに大きな役割があるということ。

③ 学級担任と養護教諭との協力による効果的な授業の進め方の方向性をさぐることができたこと。

④ 保護者との連携の在り方について

保健指導の基本は、自分で自分の健康問題に気づき、自ら処理できる能力や態度を養うことである。保護者の啓発の仕方も、ただ単に「歯みがきを忘れないように…」とか、口うるさく「歯みがき、歯みがき」と連発するだけでは効果はあがらない。

⑤ 「ワンポイントブラッシング指導」の工夫が大変効果的であること。

VI 研究のまとめと今後の課題

1 研究の結果と考察

(1) 歯肉の健康観察

- ・歯肉炎の歯肉のみならず、健康な歯肉にも着目し、それを確かめさせることで、より積極的な健康づくりへと発展した。

- ・日頃から、健康に対する観察力を付けることにより、自分の健康状態の細かい変化まで気付かせることができた。

(2) 歯みがき技能の習得

- ・健康問題を自分で解決できたという体験は、健康づくりに対する行動に自信をもたせ、生涯の生活に生かすことができる。

(3) 歯肉の健康観察ノート

- ・考えさせる資料の活用により、活発な学習活動に発展した。

(4) 学級担任と養護教諭との協力授業

- ・協力授業により、専門的な内容の指導が容易となり、また、個に応じた指導をすることができた。

(5) 歯肉炎予防の保健指導の適時性

- ・小学校段階における歯肉炎予防の保健指導は最も適時性が高く、しかも、よりよいライフスタイルの基礎を培うことができる。

2 今後の課題

(1) 研究成果の追跡

本研究のねらいは、歯肉炎予防の保健指導で得た様々な体験を、日常の健康づくりに生かすことである。今回、5年に指導したことが、今後の生活の中で生かされる場面を、何らかの方法で追跡し、それを分析することによって、研究仮説の検証をさらに深めてみたい。

(2) 歯周疾患に関する系統性のある指導計画の作成と指導の実践

本研究では、5年生を対象に、歯肉炎予防の保健指導を学級活動の位置づけで実施した。個別指導は2～6年生まで12人を対象に指導した。

歯肉炎は、今後増加することが予想される。したがってむし歯予防の保健指導と関連をもたせながらも「歯周疾患の独自の指導計画」を作成し、その実践を通して系統性のある指導内容を明確にしたい。

(3) 指導法の工夫と指導資料の作成

保健指導は、知識の伝達だけでは、成果はあがらない。態度や行動の変容があり、さらに日常生活の中での実践の継続があつてこそ成果があがるものとする。そのためには、児童にわかりやすい具体的な指導資料を提示したり、指導法の工夫をすることが大切である。

本研究で実施した調査によると、指導を充実するために整備したい内容の第2位に「指導資料の充実」があげられている。

歯の保健指導は、専門的要素が多いだけに活用しやすい指導資料の作成が望まれる。本研究で作成した「歯肉の健康観察ノート」は、活用しやすく指導の成果があげることができた。今後は、ノートに書き込めるようにするなどの工夫をして更に使いやすい資料にしたいと考えている。

進んで健康な体をつくる児童の育成

——むし歯予防の指導を通して——

宮城県仙台市立広瀬小学校 教諭 小長根 久 雄

1. はじめに

(1) 校区の概要

本校のある仙台市青葉区西部に位置する宮城地区は、船形連峰が連なる山々の緑と中央部を東西に流れる広瀬川や大倉川の豊かな水に恵まれた地域である。昭和30年、広瀬村と大沢村の2ヶ村が合併して宮城村となった当時、15,300人だった人口は、昭和40年代後半から仙台都市圏の拡大に伴う宅地開発が進むにつれて急増し、現在、宮城地区の人口は、約38,400人に増加した。

(2) 歯の衛生モデル校としての取り組み

昭和51年以降、教育機関、家庭、医療機関が一体となり協力体制をとりながら、いわゆる「宮城方式」でう歯予防の実践に取り組んできた。

本校では、1. 春の学校歯科検診、2. う歯予防学級指導(年1回)、3. 昼休みの歯みがき、の実践を続けてきた。

2. 研究の概要

(1) 研究主題

進んで健康な体をつくる児童の育成
——むし歯予防の指導を通して——

(2) 主題設定の理由

① 社会の要請

現代は、国民生活の向上にともない、児童の健康を取り巻く環境は大きく変化してきた。食生活についても同様に豊かさを増してきた。

このような時代に生きる人間として、自らの歯の健康に主体的に取り組んでいこうとする態度を身につけさせることが大切であると考えている。

② 児童の実態から

本校におけるう歯保有者は、年々減少はしているが、平成2年度の検診の結果では、う歯所有者率は60%、一人あたり平均う歯数は2.01本という数値を示し、特にWHOが対象とする12才児では3.76本の数値となっており、他の疾病に比べて大変高い率を示している。

③ 教育目標の具現化から

本校の教育目標の一つに「こころもからだもけんこうな子ども」という項目がある。本校では、保健に関する指導のねらいを「自分の健康状態について関心をもたせ、身近な日常生活における健康の問題点を自分で判断させ、処理できる態度を養う」と定め、取り組んできた。

むし歯予防の指導を通して、自らの健康に関心をもたせることは、これから健康な生活を送る上で必要なことである。

われわれは、上記の①、②、③を踏まえ健康な体づくりに主体的に取り組む児童の育成をめざし本主題を設定した。

3. 主題についてのとらえ方

(1) 「進んで健康な体をつくる」について

「進んで」とは、自ら学習しようとする意欲を持つことであり、それに基づく実践行動である。実践行動とは、実践することの必要性の自覚から行動化されたものである。

(2) 「むし歯予防」について

むし歯を予防するためには、歯みがきはもちろん、食生活に気をつけることも重要なことである。そのためには、健康に対する関心を高め、清潔で衛生的な生活習慣を育てるとともに、食生活と生活リズムの改善を図らなければならない。

4. 研究目標

- 児童の歯の実態を把握し、健康増進の態度を育成するためのむし歯予防の実践活動のあり方を明らかにする。
- 歯の保健指導の効果的な指導法を明らかにする。
- むし歯予防のため、家庭、地域との連携を深める手立てを探る。

実践に力を入れていけば、健康づくりに対する児童の意識も高まり、むし歯予防の習慣化を図ることができるのではないか。

- (2) 教科・学級活動・創意・日常指導の指導計画を見直し、資料の充実を図りながら指導法を工夫していけば歯科保健に対する児童の実践意欲が高まるのではないかな。
- (3) むし歯予防について、家庭・地域に対して啓発を図っていけば、保健に対する保護者の関心が高まるのではないかな。

5. 研究の仮説

- (1) 学校における保健教育をより充実し、日々の

6. 研究の計画と方法

- (1) 研究の組織と活動内容

- ア. 研究の組織（略）
- イ. 研究部年間計画

	指 導 研 究 部	実 践 調 査 部	資 料 広 報 部
年 間 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健年間計画の見直し ・ 学年別指導系統表の見直し ・ 学級活動の指導過程の吟味 ・ 授業資料の提供 ・ 授業での教材、教具利用の吟味 ・ 授業の実践記録のまとめ ・ 個に応じた指導の研究（個人ファイルの活用） ・ 授業研究のまとめ ・ 年間のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常指導の徹底 給食後の歯みがきの仕方 ・ よい歯の実施 ・ 「歯の日」毎月8日に定め歯と食生活について指導 ・ 保健委員会の取り組みの活性化を図る ・ 定期健康診断のまとめ ・ う歯治療の状況調べ ・ 休業中の歯みがきカレンダー作成及び集計 ・ 歯に関するアンケートの作成及び集計 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体指導に必要な資料の作成 ・ 洗面所、保健室前の掲示 ・ 歯のたよりの発行 ・ 地区懇談会での啓蒙 ・ 講演会開催 （広瀬中との共催考慮） ・ 資料展示の準備 ・ 資料室の整理

- (2) 研究の方法

- ア. 歯科保健の授業研究
- イ. 日常指導

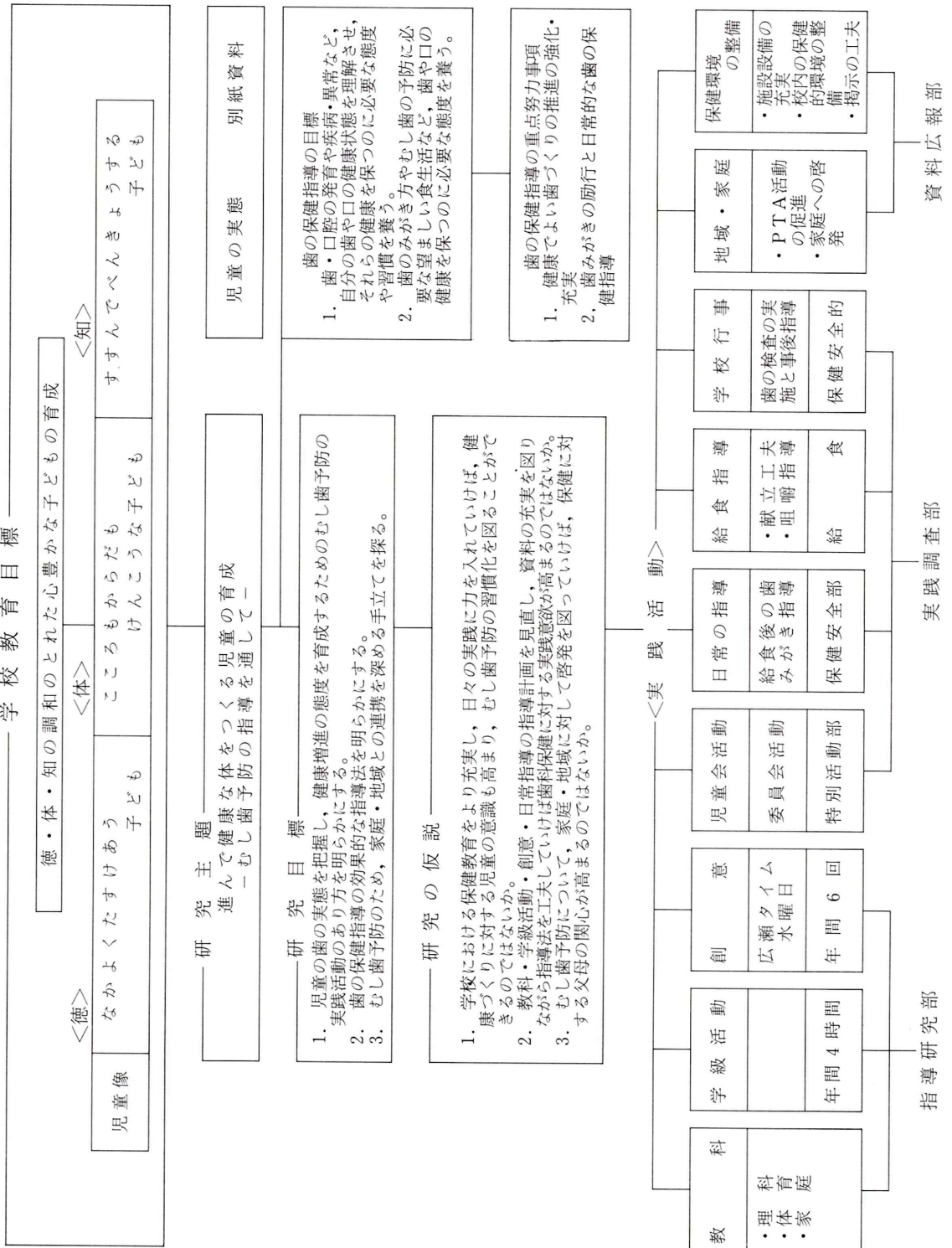
- ウ. 全校行事への取り組み
- エ. 家庭・地域との連携

(3) 年次計画

	計 画 の 内 容
第1年次・平成2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究全体計画の作成 ・学級活動年間計画の作成 ・歯の保健指導の授業研究の推進 ・歯磨きの実践指導法の研究 ・むし歯の状況調査 ・むし歯予防の啓発 ・学校保健委員会の開催 ・授業研究の計画と実践 ・歯科研修 ・環境整備（歯のコーナー、歯磨き用ブック） ・研究の成果と課題にまとめ ・次年度研究推進計画の検討
第2年次・平成3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進計画及び研究組織の改善 ・学校保健年間計画及び学級活動年間計画の改善 ・歯の保健指導の改善 ・授業研究の計画と実践 ・教具、資料の活用 ・委員会活動の推進 ・歯磨き集会の実施 ・学校保健委員会の開催 ・地域へのむし歯予防の啓発（中学校との連携、講演会） ・環境整備 ・公開全国大会研究発表会，研究紀要作成 ・第2年次の研究成果と課題のまとめ ・次年度研究推進計画の検討

	計 画 の 内 容
第3年次・平成4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進計画及び研究組織の改善 ・学校保健年間計画及び学級活動年間計画の改善 ・歯の保健指導の改善 ・歯に関する実態調査と考察 ・家庭との連携 ・授業研究の計画と実践 ・学校保健委員会の開催 ・第3年次の研究成果と課題のまとめ

7. 研究推進構想



8. 研究の実際

(1) 研究指導部

・基本的な研究の進め方

平成2年度は、歯科保健の授業研究を低学年部・中学年部・高学年部に分かれて取り組み、特に、学級活動を中心に授業実践を進めてきた。

授業研究の課題として

- ① 歯科保健指導の年間計画の改善を図っていく。
- ② 学級活動としての歯科保健指導の分野を確立していくために、児童の話し合い活動や係り活動を生かした指導過程を検討していく。
- ③ 授業を効果的にすすめるための教材・教具を工夫していく。
- ④ 学級活動や広瀬タイムだけでは不十分な児童もいるので、個に応じた指導（個別指導）の実施が必要である。

の4点があげられた。

平成3年度は、2年度の課題を受け、次のことを取り組んでいくことにする。

- ① 歯科保健指導の年間計画にもとづいて授業実践をし、各学年の題材や指導内容が適切であるかを吟味し改善を図っていく。
- ② 学級活動の歯科指導における指導過程を気づく→考える→意欲をもつ（実践する）とした。この指導過程にそって授業を実践する時、授業の指導形態を
 - (ア) 教師主導
 - (イ) 児童の自主的自発的活動
 - (ウ) 教師主導と児童の自発的活動
 とし、どの形態が適切であるか検討していく。
- ③ 資料広報部と連携しながら授業に必要な教材、教具を作ったり、各学年の授業研究をより効果的にすすめるための教材、教具を工夫していく。
- ④ 早急に治療を要する児童や歯みがき指導を特に必要とする児童を含め、児童一人ひとりに合った指導をしていく。

以上の他に、高学年部では、理科・家庭・体育（保健）の教科を関連教科とおさえ、健康な体づくりの一環として研究をすすめていくこととする。

・具体的な研究の手だて

① 学級活動の指導過程の吟味について

本年度は、学級活動における歯科保健指導の指導過程に児童の活動場面を多くとり入れる工夫をしていく。

② 授業実践のまとめについて

授業は、一次授業・二次授業をセットで行っていくものとする。二次授業は、一次授業での反省をふまえ、改善することが妥当であるかどうかを検証するものである。

③ 個に応じた指導の研究について

児童の歯の状態や歯並びは個人によって異なるので、児童一人ひとりの意識化を図るための活動、手だて、資料について記録し、保管してそれらをまとめていく。

(2) 実践調査部

① 昼の歯みがき指導

② 歯ブラシ、コップの保管

③ 学校行事への取り組み

ア. 歯科検診 イ. よい歯の日の指導

④ 歯の日の指導

⑤ 休業中の歯みがきカレンダー

長期休業歯みがきカレンダー＊学年別平均歯みがき回数＊

時期 学年		平成2年度		
		夏	冬	春
1年	男	2.17	1.89	2.09
	女	2.22	2.20	2.30
2年	男	1.92	1.91	2.09
	女	2.22	2.17	2.30
3年	男	1.98	1.74	1.90
	女	2.33	2.19	2.31
4年	男	1.90	1.78	1.99
	女	2.23	2.17	2.34
5年	男	1.93	2.09	2.01
	女	2.48	2.49	2.52
6年	男	2.06	2.04	
	女	2.33	2.32	
全校	男	1.99	1.90	2.02
	女	2.33	2.26	2.35

⑥ 身体測定の結果 (平成3年度)

身体測定の平均

男

女

	身長 cm	体重 kg	胸囲 cm	座高 cm
全国平均 1年	116.8 116.7	21.5 21.2	58.0 57.4	65.3 65.4
全国平均 2年	122.5 122.6	24.0 24.2	60.1 59.7	67.9 67.4
全国平均 3年	128.1 128.1	27.2 26.5	62.7 61.8	70.4 70.6
全国平均 4年	133.2 134.2	30.2 32.1	65.2 67.1	72.6 72.9
全国平均 5年	138.6 141.2	33.9 36.7	67.9 68.5	74.9 74.8
全国平均 6年	144.4 144.8	38.0 39.8	70.6 71.7	77.4 77.8

	身長 cm	体重 kg	胸囲 cm	座高 cm
全国平均 1年	116.0 115.9	21.1 21.7	56.7 56.4	64.9 64.9
全国平均 2年	121.8 121.5	23.6 24.3	58.3 59.2	67.5 66.9
全国平均 3年	127.4 128.1	26.6 26.4	61.3 60.9	70.0 70.6
全国平均 4年	133.1 133.3	29.9 29.5	64.0 65.1	72.6 73.3
全国平均 5年	139.5 140.6	34.0 33.9	67.3 67.9	75.6 76.4
全国平均 6年	146.3 145.2	38.9 40.1	71.2 71.7	79.0 78.8

⑦ 歯科検診の結果 (平成3年度)

う歯数

学 年	児 童 数	者う 歯所 数有	者処 置完 了数	う 歯 数						現在 歯 数	所 有 者 率 歯	罹 患 歯 率	処 置 歯 数	う 歯 数 (1人)	未 処 置 歯 数 (1人)
				F	C 1	C 2	C 3	C 4	M						
1	224	43	31	66	10	11	0	0	0	1271	19.2	6.8	75.9	0.39	0.09
2	169	72	45	144	24	12	0	0	0	1659	42.6	10.8	80.0	1.07	0.21
3	217	124	76	263	31	31	5	0	0	2652	57.1	13.8	71.7	1.69	0.48
4	191	191	98	336	76	46	9	0	1	3150	77.4	14.9	71.8	2.45	0.68
5	192	157	99	426	59	60	4	1	1	3985	81.8	13.8	77.3	2.87	0.64
6	168	152	81	554	93	84	8	3	0	4222	90.5	17.6	74.7	4.42	1.12
計	1161	696	430	1789	330	244	26	4	2	16939	59.9	14.1	74.7	2.06	0.52
				2359											

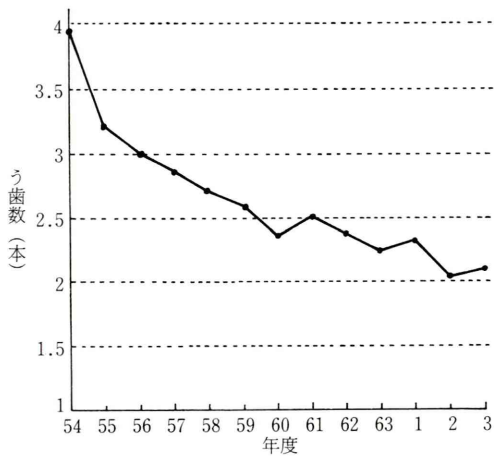
⑧ 染め出し結果 (平成3年度)

学年	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		わかば
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
平成2年5月			7.7	6.8	7.5	7.9	8.4	7.6	7.2	6.4	7.3	6.7	6.0
平成3年5月	7.0	7.0	6.7	6.4	7.9	7.0	7.5	5.6	6.5	5.2	6.7	6.3	11.7

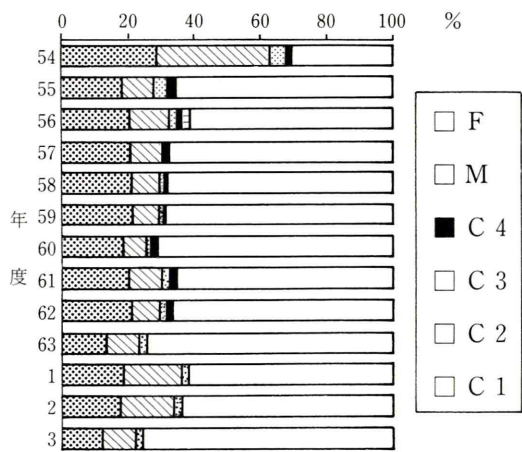
⑨ う歯の治療状況（平成2年度）

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
6 /5	人 数	180	205	186	186	162	187
	治 療 者 数	42	42	37	58	37	84
	未治療者数	138	163	149	128	125	103
	治 療 率	23%	20%	20%	31%	23%	45%
8 /27	治 療 者 数	77	101	72	92	68	115
	未治療者数	103	104	114	94	94	72
	治 療 率	43%	49%	39%	49%	42%	61%
1 /28	治 療 者 数	139	158	111	122	115	151
	未治療者数	41	47	75	64	47	36
	治 療 率	77%	77%	60%	66%	71%	81%

⑩ う歯に関する年次推移
ア. 広瀬小一人平均う歯数



イ. 広瀬小う歯り患状況



(3) 資料広報部

① 掲示物の作成

＜保健室前の掲示物＞

(おもな掲示資料)

No.	資料・教具
1	6才臼歯模型（紙粘土）
2	歯並び模型（発泡スチロール）
3	〃（紙）
4	歯並び全体図（掲示用）
5	臼歯・切歯模型（石膏）
6	おやつ、歯のみがき方（ペーパーサート）
7	正しい歯ブラシの持ち方

- 8 むし歯の原因
- 9 むし歯の進み方
- 10 歯と回りのしくみ
- 11 よい歯ブラシの見分け方（多）
- 12 平成2年度地区懇談会資料（歯科検診の結果より）
- 13 ほけんコーナー（教室掲示用原版）
- 14 きれいな歯・きたない歯
- 15 歯の種類とその働き
- 16 全校むし歯数
- 17 染め出しスコアのつけ方
- 18 歯のようすとかむ力

② 教具・資料の作製

資料広報部では、指導過程のいかに問わず必要であろうと思われる教具を作製した。

〈視聴覚資料一覧表〉

資 料 名	領域	種類	備考
・正しい歯みがき（低・中・高）	A	VT	全
・正しい歯みがきのしかた	A	VT	全
・歯ブラッシングを科学する	A	VT	中・高
・歯そのよごれをさぐる	B	VT	低・中
・歯槽膿ろうをさぐる	B	VT	中・高
・歯みがきの様子	A	スラ・パネ	低・中
・歯こうのついた歯	AB	スラ・パネ	低・中
・よごれた歯	AB	スラ・パネ	全
・そめだし液でそめた歯	A	スラ・パネ	全
・みがいてきれいな歯	A	スラ・パネ	全
・歯石	B	スラ・パネ	低・中
・歯や口の中のようなす	B	TP	中・高
・むし歯の起こり方	B	TP	中
・むし歯の治りょうのようす	B	TP	中・高
・口の中の病気	B	TP	中・高
・むし歯の起こり方とおやつとり方	BC	TP	高
・おやつ	C	TP	低

③ 家庭・地域への啓発

ア．地区懇談会

イ．歯科講演会の開催

ウ．「はのたより」の発行

9. 研究の成果と課題

「歯の衛生モデル校」の指定を平成2年度から4年度までの3年間、仙台市教育委員会より受けた。平成2年度は、歯の保健指導の年間計画を作成し、各学年の発達段階に応じた指導をすることに重点をおいて研究を深めてきた。平成3年度は、指導計画や指導方法を検討しながら実践を積み重ねてきた。

これまでの指導実践をもとに研究の成果と課題をまとめると次のとおりである。

(1) 研究の成果

① 仮説1と関連して

○日常指導について

- ・給食後の歯みがき指導がより徹底され、歯みがきの習慣が身についてきている。
- ・むし歯予防への児童の関心が高まり、早期治療者が増えてきている。
- ・給食の献立を工夫し、食生活を考えさせる資料を発行したことにより、児童が食生活に関心をもつようになってきている。
- ・常時、歯に関する資料を児童が見ることができるようにした結果、歯に関する児童の意識が高まってきている。

○学校行事・委員会活動について

- ・「よい歯の日」を実施し、健康な歯に対する関心を高めることができた。
- ・保健委員会が中心となり、むし歯予防のポスター、標語の募集を行い、歯の健康についての関心が高まってきた。

② 仮説2と関連して

○学級活動・教科について

- ・指導系統表や学年の発達段階に応じた題材名の見直しを図り、整理統合してきたことにより、効果的な指導を進めることができた。
- ・学級活動だけでなく、指導系統表にある内容に関連する各教科の指導についても児童の意識や理解を深めることの大切さを認識している。
- ・学級活動のねらいを考慮した指導法を工夫し、児童が自主的に活動できる場面を入れた指導過程が吟味されてきた。
- ・効果的に利用できる教材教具の製作をしたので、授業で児童が理解しやすかった。

③ 仮説3と関連して

○家庭・地域との連携について

- ・歯に関するたよりの発行を続けたことで、保護者に歯科保健への関心を高めることができた。
- ・歯に関する講演会を開催したことにより、むし歯予防についての保護者の関心が高まってきた。

(2) 今後の課題

- ① 主体的に取り組む児童の育成をさらに進める必要がある。 一仮説1と関連して
- ・自ら進んで歯みがきをする習慣を身につけさせる指導の工夫。
 - ・食生活に関する知識を日常生活に生かさせる指導の工夫。
 - ・健康づくりに対する意識を高める委員会活動を活発にさせる指導の工夫。
- ② 指導計画を改善し、より効果的な歯科指導

のあり方を追求していく必要がある。

一仮説2と関連して

- ・指導内容の精選と指導時数の調整。
 - ・児童が興味・関心をもって取り組める教材・教具の工夫と活用。
- ③ 家庭・地域への啓発を一層深める必要がある。 一仮説3と関連して
- ・家庭の実態をふまえた働きかけの工夫。
 - ・PTA活動を通して積極的な歯科指導への取り組み。



羽黒町立第二小学校の実体

羽黒第二小学校歯科校医 佐藤 恒雄

1. はじめに

幼児、児童、生徒のむし歯予防のための良い習慣を身につけさせることは、学校歯科保健活動の基礎である。

羽黒町立第二小学校は、平成元年度より「むし歯予防啓発推進事業」の中心校の指定を受け、父母、地域の啓蒙に、又、学校保健学習の向上をより一層強力に取り組むことになった。

2. 羽黒町立第二小学校の概要

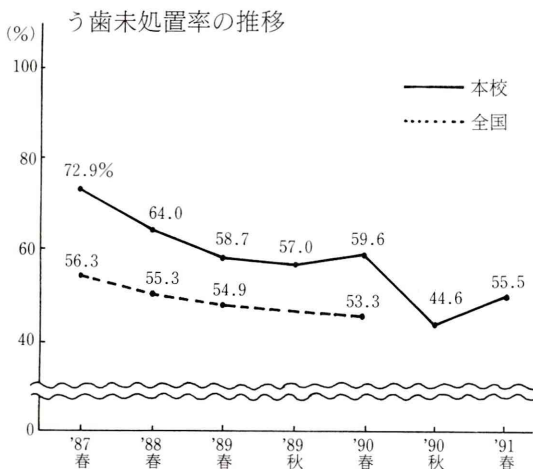
(1) 地域的概要

本町は山形県庄内平野の東端部にあり、総面積は、約108 km²である。山林原野が全体の44%を占め、田畑37%、宅地2%、その他17%となっている農村地域である。

(2) 羽黒町立第二小学校の概要

過去5年間のう歯未処置率の推移は、表の通りである。

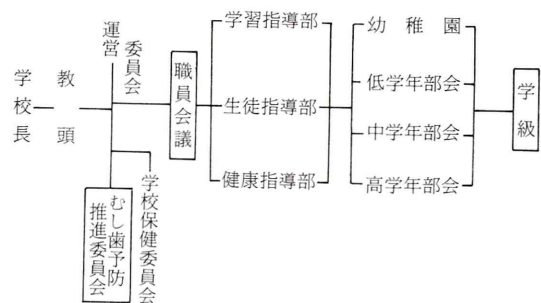
年々減少の傾向にあるが、全国平均には及ばない現状である。



3. 「むし歯予防啓発推進事業」モデル校としての取り組みについて。

(1) 校内組織

① 組織図



(2) 推進委員会の性格

- ① 学校活動を全校的なものにしていくための組織であること。
- ② 町の推進委員会との関わりをもっていくための組織であること。

4. 主題テーマ

「歯の大切さがわかり、大切にするための活動を習慣化する。」

5. テーマ設定の理由

- (1) 子供を取り巻く環境から
- (2) 本校児童の実態から

本校児童の実態をみると、児童では、98.6%がむし歯を保有している。DMFは、6年生の児童で5.5本とWHOの目標にはほど遠い高率を示している。

(3) 本校での取り組みの反省から

本校の学校保健の中で一番の問題としてむし歯予防に力をいれてきたが、そのほとんどは治療率を上げるといった消極的手段またはカード

による歯みがきの励行といったことに重点を置き、歯に対する知識を含めた「なぜ、歯を大切にするか」、又「自ら歯を大切にする行為にうつるための意識化を図る」といった指導が不十分であったと思われる。

6. 具体的目標

(1) DMF指数

学年 年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6
	(永久歯……DMFT指数)					
平成元年度	0.7	1.9	2.6	3.3	4.7	6.0
2年度	0.4	1.3	2.4	3.0	3.7	5.0
	本以下					
3年度	0.2	0.9	1.7	2.8	3.4	4.1

(2) 歯みがき

- ① 昼のはみがき……毎日の実施率80%以上
- ② 夜のはみがき……毎日の実施率90%以上
- ③ おやつ後………ブクブクうがいを入れ80%以上

(3) 治療率………100%

7. 研究の仮説

仮説1. 歯の保健指導計画作成と指導工夫

- ① むし歯予防について理論研究の作成
- ② 幼、小一環した指導計画
- ③ 学級活動年間計画の作成
- ④ 指導過程、指導法の研究
- ⑤ 授業の分析、評価
- ⑥ 各種指導後の日常指導への継続

仮説2. 保健教育の充実と家庭、地域への啓蒙活動

- ① 保健指導全体計画の見直し
- ② 保健体育、保健指導の実践充実
- ③ 個別指導の指導計画の作成
- ④ 家庭、地域との連携強化

仮説3. 1, 3, 4年生の指導強化時期の設定

- ① 永久歯の萌出状態の指導方法の研究
- ② 集団指導における個別指導の方法の研究
- ③ 歯科医、衛生士との連携強化

8. おもな具体的展開

(1) 学級活動における歯の保健指導

① 歯の保健指導実施にあたって

学級活動に各学年年間4時間計画し指導時期を、6月、10月、11月、2月に全学年統一して実施する。

指導内容は、むし歯予防についての知識と態度の育成、むし歯予防の技能の確立の二つの視点に立て、特に技能面に重点をおいた。

② 指導方法の工夫

低、中、高の学年部会ごとに実践授業を行い、更に全校での研修会をもった。3, 4年生は、混合歯列期ということで、個々にささっていくことを目的にし、歯科衛生士に各クラス2～4人入ってもらい担任とともに歯みがきの指導を行う。

③ 授業参観日での歯の保健指導

全学級で歯の保健指導の授業を行い、さらに、各学年、学級でむし歯予防について反省会を行った。

(2) 日常指導

① 昼の歯みがきタイムの充実

給食後、放送に合わせ一斉に歯みがきを行う。

② 歯みがきがんばりカードの利用

1人1人にファイルを持たせ、前月の歯みがきの様子を振り返らせ、今月の目標を立てさせ取り組む。

(3) 家庭への啓蒙活動

① 広報活動

月1回、歯の保健日より、各学級通信、PTA新聞での特集記事等で歯に対し関心を持つようにする。

② PTA保体部主催の健康教室

部員自身の歯みがき学習会を行い、感想を発表し合う健康教室を行う。

身近な人の発表ということで、参加者も多く好評であった。

羽黒町立第二小学校活動計画

	1年目〈H元年度〉	2年目〈H2年度〉	3年目〈H3年度〉
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導法の研究 <ul style="list-style-type: none"> *研修の機会の確保 ・資料の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の再検討 ・指導法の研究 ・教材教具・資料の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法の研究 ・教材教具・資料の整備
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科検診の実施と事後指導 ・歯みがきがんばりカードを利用しての歯みがき指導 ・表彰活動の計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後指導を重視した歯科検診 ・歯の衛生週間の設定 <ul style="list-style-type: none"> *学期に1回1週間 *歯みがきがんばりカード ・表彰活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後指導を重視した歯科検診 ・歯の衛生週間の設定 <ul style="list-style-type: none"> *学期に1回1週間 *歯みがきがんばりカード ・表彰活動
日常指導	<ul style="list-style-type: none"> ・給食後の歯みがき指導の全校統一 ・環境整備 <ul style="list-style-type: none"> *歯ブラシ保管ケース *掲示コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食後の歯みがき指導 ・環境活動 <ul style="list-style-type: none"> *掲示コーナー（各教室） 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食後の歯みがき指導 ・環境整備 <ul style="list-style-type: none"> *掲示コーナー（各教室）
児童会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の活動 ・集会発表 ・代表委員会の活動 ・給食委員会の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の活動 ・集会発表 ・代表委員会の活動 ・給食委員会の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の活動 ・集会発表 ・代表委員会の活動 ・給食委員会の活動
個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 <ul style="list-style-type: none"> *対象者 *指導訪問 *内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法等の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法等の研究
地域家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 ・学校保健委員会 ・PTA保体部の活動 <ul style="list-style-type: none"> *親子カラーテスト *健康教室 *親子体育レク大会 幼稚園との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の保健だより発行 ・学校保健委員会 ・PTA保体部の活動 <ul style="list-style-type: none"> *親子カラーテスト *健康教室（父母・祖父母対象） ・授業参観での学級指導 ・幼稚園との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の保健だより発行 ・学校保健委員会 ・PTA保体部の活動 <ul style="list-style-type: none"> *親子カラーテスト *健康教室（父母・祖父母対象） ・学年PTA活動 ・授業参観での学級指導 ・幼稚園との連携

歯の保健指導年間計画 (平成3年度)

月	歯の月目標	学 級 活 動					学校行事	児童会活動	個別指導	地域・家庭との連携
		幼稚園	1年	2年	3年	4年				
4	昼の歯みがきをみんなで行おう						歯みがきががんばりカード	昼の歯みがきの呼び掛け		キラキラ times 発行
5	生活リズムをつつけ歯みがきを						歯みがきががんばりカード	むし歯の治療の呼び掛け (治療レース作成)	歯肉炎の児童 ・習慣づかない児童 (再カード)	キラキラ times 発行
6	夜の歯みがきを身につけよう	自分の歯の鏡を見てみよう	自分の歯の鏡を知ろう	前歯をきれいにみがこう	新しく生えた歯を大事にしよう	自分の歯にあったみがき方をしよう	歯の衛生週間 歯みがきががんばりカード親子	金曜集会での発表	〈家庭訪問で〉 ・習慣づかない児童	キラキラ times 発行 PTA係本部会
7	毎日歯みがきをしよう					＜3・4年歯みがき教室＞	表彰 う歯が1本もない児童 歯みがきが習慣づいた児童 歯みがきががんばりカード		〈保護者会で〉 ・う歯未治療者 ・習慣づかない児童	学校保健委員会 部会PTCAでの健康教室 キラキラ times 発行
9	朝の生活リズムを見直そう						歯みがきががんばりカード朝	昼の歯みがきの呼び掛け	習慣づかない児童 (再カード)	キラキラ times 発行
10	みがき残さないみがきを工夫しよう	歯ブラシを歯にしっかかりあてよう (親子)	6才臼歯をつかりみがきましろう (親子)	大人の歯を知ろう (親子)	歯の形に合った磨き方をしよう ＜3・4年歯みがき教室＞	みがき残さないみがきを工夫しよう	歯科検診 歯の衛生週間 歯みがきががんばりカード親子	表彰(治療完了クラス) むし歯の治療の呼び掛け (治療レース作成)	歯肉炎の児童 ・習慣づかない児童 (再カード)	キラキラ times 発行 PTA係本部会
11	おやつとり方を工夫しよう	おやつをじょうずに食べよう	じょうずなおやつとり方を考えよう	おやつとり方を確かめよう	おやつとり方を工夫しよう	組み合わせを考えたおやつとり方を工夫しよう	歯みがきががんばりカード アンケート調査	昼の歯みがき後のカラーテスト	〈授業参観後の個別指導〉 ・習慣づかない児童	授業参観 PTA係本部主催健康教室 キラキラ times 発行
12	よくかんで何でも食べよう						表彰 歯みがきが習慣づいた児童 歯みがきががんばりカード アンケート調査		〈保護者会で〉 ・う歯未治療者 ・習慣づかない児童	キラキラ times 発行
1	よくかんで何でも食べよう						(歯みがきががんばりカード)			キラキラ times 発行 PTA係本部会
2	歯や口の中の病気を知らう	6才臼歯をみがきましろう	歯みがきの方法を覚えよう	よくかんで食べよう	むし歯の歯みがきを知り、むし歯を予防しよう	むし歯の生えかたを知り、むし歯を予防しよう	歯の衛生週間 歯みがきががんばりカード親子	昼の歯みがき後のカラーテスト	〈授業参観後の個別指導〉 ・習慣づかない児童	学校保健委員会 キラキラ times 発行
3	反省をしよう						表彰 歯みがきが習慣づいた児童	表彰 (治療完了クラス)		キラキラ times 発行

9. アンケート調査について

(1) 歯みがきについて

- ① 朝の歯みがきについて
- ② ひるの歯みがきについて
- ③ 夜の歯みがきについて
- ④ 学年別にみた朝の歯みがきについて

(2) おやつと食べ物について

- ① おやつの時間を決めて食べますか。
(児童)
(父母と祖父母)
- ② おやつを食べた後、どうしてますか。
- ③ どんなおやつを与えていますか。
- ④ どんなおやつを与えますか。

(3) 歯の知識について (父兄)

- ① 乳歯は、何才ころ生えてくるか知っていますか。
- ② 乳歯は全部で何本位生えるか知っていますか。
- ③ 永久歯は、何才ころから生えるか知っていますか。
- ④ 永久歯は、全部で何本生えるか知っていますか。
- ⑤ 永久歯で、一番はやくはえてくる歯を知っていますか。
- ⑥ こどもの時にむし歯が多いとからだにどんな影響を及ぼすと思いますか。

10. アンケート調査についての考察

前記アンケートはモデル校指定の初年度に行ったものであるが、これにより本校の実体が数字により把握できる。

問題点を、①歯みがき、②おやつ、③歯に対する知識という面より考えてみたい。

(1) 歯みがきについて

朝の歯みがきは54%、夜の歯みがきは55%の児童しか必ず行っているとの回答を得ることが出来なかった。特に昼の歯みがきに対しては学校給食後時間を取り全校で歯みがきを、自主的にやっているはずなのにもかかわらず42%という低さである。

父兄からの回答に関してもその回答は思いの

ほか低く、特に父親の歯みがき実行率が低い。その他の調査事項を考えても自分の口腔はもちろん、子供の口腔の諸問題に対しても関心が低いと考えられる。

又、児童に対しては学年別に同調査の分析を行っているが、学年別による違いは特別認められず全校的傾向と思われる。

(2) おやつについて

おやつに関しては、ほとんどの児童が摂取していると思われるのだが、回答を見ると毎日摂取しているという回答は40%という考えていたものより低い。

規則正しく時間を決めて、おやつを取っている子供は26%しかいなく、父兄、祖父母共に規則正しい間食を取らせるという考えは低い。

おやつを取ったあと、うがいを含め何らかのう歯予防対策を、行っている児童は全体の7%である。

(3) 歯の知識に関して

歯に対する知識は、各項目に対して児童は30~40%代で低い。

父兄については母親はある程度の知識を所有するも父親に関しては、非常に低く問題である。「子供の口の中を時々みてやるか」という質問に対し、父親に関しては時々みてやるという回答が24%、母親においては62%であった。

11. 今後の課題

当校においては、かねてより各種のむし歯予防教育を行ってきたものであるが、このアンケート結果を見るとその効果は上っていない。

このデータをさらに詳しく分析し、その原因を追求する必要がある。

児童の歯に対する知識も低く、もっと総合的な生活の中での指導を検討しなければならない。

ブラッシング実行率においても壁に当たっており、これらの問題点を打ち破るためには、児童に対する教育はもちろん、父母並びに祖父母に対する指導、又、その協力が不可欠であると考えられる。

学校においてう歯予防教育を行い、その管理を父母、祖父母一緒に家庭全体で行う習慣を確立さ

せ、規則正しい家庭生活を実行させる必要があると思う。

この様なサイクルが完成してこそ、初めてむし歯予防の実効が表われてくるのではないかと考え

ている。現在本校は、一丸となり諸問題に取り組んでおり、必ず大きな改善が行われると確信している。



中学校部会

●テ	一	マ	「中学校における歯科保健指導の実践」	
●座		長	明海大学歯学部教授	中 尾 俊 一
●助	言	者	文部省体育局体育官	猪 股 俊 二
●発	表	者	福島県福島市立北信中学校養護教諭	黒 金 ヤイ子
	〃		仙台市立広瀬中学校教諭	日 塔 光 博
	〃		埼玉県熊谷市立大幡中学校学校歯科医	渡 辺 英 昭

中学校における歯科保健指導の実践

明海大学歯学部教授 中 尾 俊 一

中学校部会課題研究の内容

課題研究の内容は次の4項目からなっている。

1. 中学生の発達段階から見た歯科保健指導の目標及び内容について
 2. 中学校における歯科保健指導の計画と進め方について
 - (1) 学級活動、学校行事における指導の進め方
 - (2) 生徒会活動における指導の進め方
 - (3) 個別指導の進め方
 - (4) 日常指導の進め方
 3. 家庭、地域との連携の在り方（学校保健委員会）について
 4. 中学校における歯科保健指導の展開と学校歯科医のかかわり方について
1. 中学生の発達段階から見た歯科保健指導の目標及び内容について

中学校においても生涯を通じる健康の基礎を培う観点から、特別活動の学級活動や学校行事を中心とした歯科保健指導の充実をはかり、「自分の歯や口の状態を最良で健全な状態に保ち、生涯その状態を持続せしめること」を目標としている。

中学のこの時期の歯科的な特徴は、顎、顔面の成長発育が活発な時期であり、永久歯列や咬合の完成期に当たっている。

1) 中学生の歯科疾患・異常の特徴

- ① 歯肉炎の生徒が多い。
- ② 永久歯のむし歯が多発する。

第2大臼歯や、歯と歯の間に多く発生する。

③ 歯科疾患に男女差がみられる。

むし歯は女子に多く、歯周炎は男子に多い傾向がある。

④ 不正咬合の者が少なくない。

2) 理解や行動の面からの指導のねらい

- ① むし歯の歯肉炎の予防について理解し、実践できるようにする。
- ② 食事や間食、夜食の自己管理ができるようにする。
- ③ 規則正しい生活をおくる。
- ④ 生涯を通じた歯の健康の大切さがわかるようにする。

2. 歯科保健指導の計画

- ① 学級活動での歯科保健指導を行うことができるようにする。
- ② 歯の健康に関する意識を高める行事のもち方を工夫する。
- ③ 生徒会活動での歯の衛生週間行事の活用。
- ④ 学校歯科医と連携を保って特に指導を要する生徒の個別指導を行う。不正咬合など精神的な悩みや不安、歯肉炎を悩む生徒など。

3. 家庭・地域との連携

家庭との連携は、広報、地区懇談会、歯みがきカレンダー、保護者研修会、家族会議や治療勧告書を通しての連携などを考える。

中学校における歯科保健指導の実践

文部省体育局体育官 猪 股 俊 二

中学校における歯科保健指導の実践は、疾病管理としての領域と健康増進としての領域からのアプローチが必要である。さらに両領域の基底に中学生期の発達特性の理解が小学生期の特性の理解以上になければならないと考える。発達段階に即した歯科保健指導の実践について考察したい。

1 中学生期の発達課題

中学生期の歯科保健を推進する上で発達特性に基づく課題について総括的な理解が必要である。浅田隆夫氏は序説発達教育学の中で中学生期を個性化の時期として把握する必要があるとして次の表のようにまとめている。

○第2次伸長期

○自我の発見と動揺

親からの心理的離乳

○ホルモン系の成熟、思春期現象

感情が精神生活の中で優位を占める
感受性、想像力の増大

○個人の能力が明確になり、知的水準も最高に達する。

○概念的思考の発達

○独創の危機を契機に個人的道徳へ

○相手との競争より自己との闘い

容姿、能力、性格に対する自己嫌悪感の
拡大

○人的モデルへの自己同一視

○友 情

○自らに課す要求としての道徳

このような発達課題を踏まえ、生徒自らが自我を発見し、望ましい自我形成が図られるような指導と援助が必要なのである。歯科保健の視野からは

- 1) 生徒自身の生活を目的的な形にしていくこと
- 2) 緊張と緩和のリズムを作るようにしていくこと
- 3) 歯科に関する行動目標を持たせること
- 4) 自主的な行動への援助を持続すること
- 5) 指導と援助にあたって共感的感情が生み出されるよう配慮すること

2 疾病管理からのアプローチ

1) 中学生期の歯科疾患の状況を理解させる

図1は学校保健統計の12～14歳のう歯被患の状況を昭和33年から10年毎の群の推移を表わしている。被患率は依然として高率であるが、処置率が高くなっているのは歯科保健行動の定着の上から着目していい状況である。

一方歯周疾患、不正こう合、斑状歯、要注意乳歯などの「その他の疾患」の統計処理が変更になった昭和59年からの推移を示したのが図2であり、被患率の増加が憂慮される状況である。

2) 中学生期の歯科保健指導の内容を焦点化する

中学生期の身体発達が完成期に近付いている段階で、歯科疾患としての歯周疾患の被患率の増加に対する対応は急務である。日本学校保健会編集「中学校における保健指導の手引」の中で歯科に関する題材として

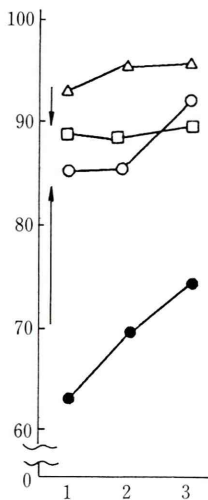
「一生自分の歯で

=歯周疾患とその予防=」

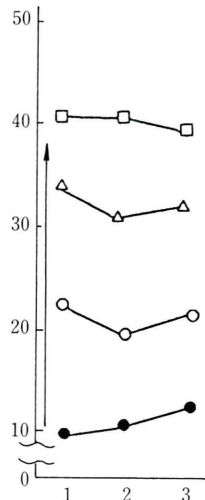
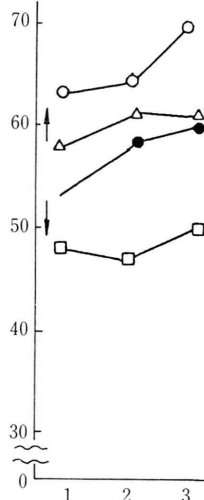
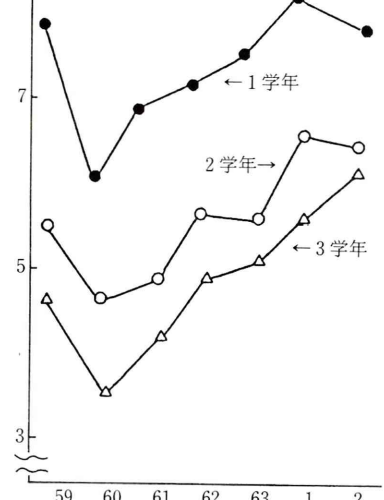
が例示されたのもこのような背景がある。

中 学 校

う歯被患率



う歯処置完了率

図1
う歯処置率図2
その他の歯疾 経年推移
中学校

● 33年入学
○ 43年
△ 53年
□ 63年

3 健康増進からのアプローチ

1986年オタワで開催されたヘルス・プロモーション国際会議で「健康は生きることの目的ではなく、毎日の生活の資源である。健康は身体的能力であると同時に、また社会及び個人の資源であることを強く意味する積極的な概念なのである」との憲章が採択されている。この憲章の視点に立つならば、歯科保健の究極の目標は、歯・口腔保健を通してより豊かな健康という資源を獲得することにある。

1) 歯科に関する価値観を醸成する

中学生期から高校生期にかけては、精神機能の再構築期と言われ、あらゆる事象に対する概念化が進展することから、歯科疾患のもたらす生涯にわたる損失、歯の健康がもたらす利益の両面について心身機能、人間関係、社会生活等から指導し、歯科に関する価値観を醸成し意識変容を図る。

2) 的確な歯科保健行動が選択できるよう援助する

歯科保健行動の選択には意志決定が内在している。この意志決定の能力を中学生期に培うためには次の段階を含むことを十分に理解させる必要がある。

- ① 歯科の課題と状況を理解する
- ② 可能な全ての歯科保健行動を検討する
- ③ 意志決定の前に情報を収集する
- ④ 意志決定に基づく行動の結果を検討する
- ⑤ ①～④に基づいて行動を選択する
- ⑥ 選択した行動を実行に移す

中学生期が置かれている社会環境、例えば高校受験に対する健康に関する自己管理は難しいものがある。しかし受験の目標が生涯にわたる生活の質に関連していることを理解させ、行動選択を援助する必要がある。

自ら健康づくりに努める生徒の育成をめざして

～歯を通した健康教育の実践～

福島市立北信中学校 養護教諭 黒 金 ヤイ子

1. はじめに

歯を通した健康教育の実践の一端を述べ、今日の健康教育の在り方について探ってみた。

(1) 本校の概要

本校は福島市の東北部に位置し、4地域の小学校からの入学者で編成されている生徒数1033名の大規模校である。

(2) 生徒の実態

4年前に体育館が完成されたこともあり体育部的活動が活発であり、中体連大会でも好成績をあげている。その反面、本校の生徒は物事に対して受身的で粘り強さに欠け、連帯感や物事に無関心な態度がめだつ。

特に相手を尊重し、協力して活動することや共感的心情が不足している。

2. 校医の概要

- (1) 5月8日 歯科検診（1年～2の5まで）
- (2) 5月22日 〃 （2の6～3年）
- (3) 6月5日 歯科講話のスライド試写と打合せ
- (4) 6月9日 歯科講話（1年）
- (5) 11月14日 歯みがき実習指導（1年）
- (6) 12月5日 〃 （2年）
- (7) 2月7日 歯の健康相談（1年）
- (8) 2月14日 〃 （2年）

3. 歯を通した健康教育への取り組み

- (1) 優秀校受賞……昭和60年度、61年度、63年度、平成元年度、3年度
- (2) 特別優秀校受賞……昭和62年度、平成2年度

※ 特別優秀校は、優秀校が3年継続する毎に与えられる賞である。

4. 研究主題

「自ら健康づくりに努める生徒の育成をめざして」～歯を通した健康教育の実践～

5. 研究主題設定の理由

(1) 現職教育の研究主題から

本校の現職教育の研究主題は「生き生きと学習に取り組む生徒の育成」である。

(2) 本校生徒の健康の実態から

- ① う歯の治療を年度内に終了していない生徒がいる。
- ② 歯科検診で毎年、新しいう歯の発生についてチェックされる。
- ③ 歯肉炎や歯石沈着などの疾患をもつ生徒がいる。
- ④ 歯みがきなど基本的な保健習慣が身につけていない生徒がいる。
- ⑤ 学習や運動に集中できない生徒がいる。

(3) 本校の教育目標から

本校のめざす生徒像として、次の4つの項目がある。

- ① 進んで学習し、確かな学力を身につける生徒
- ② 豊かな心を持ち、なにごとにも創意工夫をこらす生徒
- ③ 自ら考え、正しく判断し自主的に行動する生徒
- ④ 心身共にたくましく、根気強くやりぬく生徒

健康教育を実践する上では、すべて関係すると思われるが、②と④が本校生徒の実態を改善する指針と考えた。

(4) 本校教師の指導理念から

本校教師の問題点として

- ① 生徒の興味や関心を十分引き出している

とは言えない。

- ② 保健に関したものは、養護教諭まかせの傾向もある。

このような問題点を打開するためには、次のような視点で健康教育の実践にあたる必要がある。

- ① 生徒が自ら健康づくりに努めるよう教師自らが保健行事等に関心をもつよう工夫する。
- ② 生徒が、保健活動を自主的に進めるよう指導援助する。
- ③ 教師自身が心身の健康を保つよう努力する。
- ④ 一人ひとりの生徒の健康状態の把握のため、教師間の連携を深める。

6. 研究目標

- (1) 自分の健康状態を知り、健康に関する知識を得る方法を身につける生徒
- (2) 自分の健康は自分で守るために努力する生徒

以上の理由から研究主題を

自ら健康づくりに努める生徒の育成
～歯を通した健康教育の実践～

とした。

7. 研究仮説

「学校及び家庭生活において、自分の健康状態を把握し、健康に関わる知識を身につけ興味・関心をもつようになればより健康な状態を保つよう生徒自らが健康づくりに努めるようになるであろう」

8. 研究の内容・方法

- (1) 研究主題についての基本的な考え方
「自ら健康づくりに努める姿」とは
 - ① 自分の健康状態について把握し、より健康になるよう努力している状態
 - ② 知識として理解し、興味をもって実践し

ようとしている状態

- ③ 健康とは、心身の両面が相関関係にあることを理解している状態

(2) 研究の内容、手順、見通し

① 研究の内容

- ア. 健康診断や諸調査により、生徒の実態把握に努め適切な指導・管理をする。
- イ. 歯科検診時の事前調査により、保護者及び生徒の関心を高める手だてを工夫する。
- ウ. 歯科講話・歯みがき実習等の実践により生徒の変容をみる。
- エ. 保健室の経営について工夫し、生徒自らが健康づくりに努めるよう工夫する。
- オ. 生徒保健委員会の指導の強化に努め、学級との連携を図る。

カ. 校内の組織活動の活用により共通理解を深める。

キ. 学校保健委員会において問題点を検討し、その改善に努めるとともに父兄への啓蒙を図る。

ク. 給食や他の保健領域との関連を図りながら指導にあたる。

② 研究の手順

ア. 前年度の反省に基づき、行事の調整を図り、年間計画に位置づける。

イ. 学校保健計画・保健室経営計画・歯の保健指導年間計画の共通理解を図る。

ウ. 歯科保健活動を円滑に実施するために、企画委員会に提示し、更に職員会で協議し、周知徹底を図る。

エ. 学期毎に保健・安全・給食関係の努力事項について反省会をもち、改善点について協議し、より効果的な方法について検討する。

③ 研究の見通し

ア. 今後も更に「歯をくいしばり最後まで根気強くやりぬく生徒」をめざして、心身両面からの健康づくりに努めたい。

イ. 「保健室経営」については、保健センターとしての役割を果たすため生徒の実態

を考慮しながら、職員の意見も十分に反映していく。

ウ. 健康教育については、家庭生活との関わりが大きいので、今後は更に家庭やPTAへの働きかけについても工夫する。

(3) 健康教育を実施するにあたっての養護教諭の姿勢

① 特別活動における学級活動について

特別活動における学級活動は、「学校生活における諸問題の解決、基本的な生活習慣の形成、健康な生活などに関わる内容が学校や生徒の実態に応じて弾力的に取り上げられるようにすることを意図したものである」となっているように、保健指導・安全指導・給食指導と深い関わりをもっている。

② 学級活動と養護教諭の関わりについて

保健指導の効果を高めるためには、専門性を生かした指導が行えるよう配慮するという学級活動の主旨からすると、養護教諭が行うのも望ましいものであることを考え取り組む。

③ 教育活動の中で健康教育を実践するにあたって

ア. 健康状態の実態把握に努め、誰もが問題としている内容を精選し、投げかける。
イ. 常に反省するとともに記録をとり、改善する姿勢をもつ。
ウ. 校内の研究協議会や研究授業には積極的に参加し、生徒の実態に努めるとともに保健室からの問題を提示する。

参考までに、本校が研究実践を進めるにあたって基本となった「研究の全体構想」として考えた「学校歯科保健の包括化」をふまえて研究の実践に入る。

9. 歯を通した健康教育の実践

(1) 保健管理の面から

① 健康診断

ア. 健康診断の実施については、保健指導部及び職員会議にて周知徹底を図る。
イ. 歯科検診については、事前に「歯科検

診についてのお願い」を渡して関心を高めている。

○ 歯科検診にあたっての家庭での話し合い

○ 歯の健康についての調査…歯みがきの状況、治療の状況等

○ 「健康保健教育の一環として、歯は重要であること」の呼びかけ

ウ. 「歯科検診について」のプリントにより、検診がより充実したものになるよう配慮する。

○ 検診時、各自に「歯の検査票」を配布し、う歯の状態を確認させる。

○ う歯の進行状況や歯肉炎等について認識させる。

② 事後措置

ア. う歯の結果は、下記のとおり全生徒に配布

○ 「むし歯等の治療のすすめ」

○ 「歯科検診結果について」

・ う歯のない生徒

・ う歯の治療が完了した生徒

③ う歯被患率・処置完了者・未処置歯のある者の推移及び本校・全国・本県との比較

ア. う歯被患率についてみると、本校は80%台であるのに対して、全国・県は90%を超えているので、努力の成果がみられる。

イ. う歯処置完了者についてみると本校は50%を超えているのに対して、全国は40%台、県は30%台であるのでかなりよい傾向にあると言える。

ウ. 未処置歯のある者についてみるとう歯処置完了者の増加に伴い、年々減少の傾向にある。

エ. う歯のない者の割合について

全国の1.5～1.7倍と高い割合であり、わずかずつではあるが、う歯のない者の割合が年々増加している。

④ 永久歯について

ア. 処置歯率・処置完了者・う歯のない者

等、わずかずつではあるが増加の傾向にある。これらのことから治療はもとよりう歯の予防にも努力している態度がみられる。

⑤ 永久歯一人当たり平均う歯数（DMF歯数）推移

永久歯の一人当たりの平均う歯数は、昭和59年度から中学1年生を対象に学校保健統計調査の項目に加えられた。

「WHOは、西暦2000年（平成12年）までに世界の12歳児の一人当たりの永久歯のむし歯を3本以下にすることを提唱している。」

ア．一人当たり平均う歯数は1年生は全国・県を下回っているが、学年が進むにつれて本数が増加の傾向にあるので考慮したい。

イ．永久歯の重要性についての指導が更に必要である。

⑥ 歯の健康相談について

ア．職員会で「歯の健康相談の実施について」により提案している。なお、結果については「歯の健康相談の結果について」により個人毎に通知している。

イ．歯の健康相談の対象者（2月の時点で永久歯のう歯が未治療の者）を把握し、治療の計画を立てさせた。

ウ．平成2年度は1年生の相談者が減少してよい傾向にある。

エ．歯の健康相談の実施後は「歯の健康相談を実施してみて……」により職員に周知している。

オ．う歯の治療をしない理由として次のようなことがあげられた。

- 治療に行くのが怖い。
 - 痛みがないので行かない。
 - 家の人が予約をとってくれない。
 - 部活動や塾で忙しくて暇がない
- 等が一部の生徒にいたが、大部分は相談の後に治療の計画をたてる生徒がめだつ。

⑦ 永久歯のう歯（むし歯）の治療状況

ア．各学級毎に表を作成し、指導管理にあたる。

(2) 保健教育の面から

① 「6月の歯の保健指導計画」に基づき歯の衛生週間を中心にすすめる

② 歯科講話の実施

ア．歯科校医の講話を中心に、毎年1年を対象に実施している。

イ．指導項目

- 歯の働き
- むし歯のできるわけ
- むし歯が健康に及ぼす影響
- 学習や運動との関係
- 早期発見・早期治療の大切さ
- 歯ブラシの選び方
- 中学生の年代から始まる歯肉炎の防止等

ウ．方法

- 学級活動に位置づけている。
- 進行・あいさつ等は、学年の生徒の代表が中心となりすすめる。
- 講話終了後は、各学級でアンケートを記入させ理解の程度や疑問点・本人の決意などを把握する。

エ．準備物

- 放送設備・スライド映写機・指示棒・講話に必要な資料

オ．担当者

- 学年の担当者が中心となり養護教諭と連絡しながらすすめる。

カ．事後指導

- 自分の決意に基づいて実行させるとともに反省をさせる。
- 給食後の歯みがきを奨励する。
- 治療の終了していない生徒へは治療を勧める。

キ．アンケートの結果から

- 歯についてもっと知りたいこと。
 - ・歯と入れ歯のちがいがい。
 - ・かむ時の歯の強さ。
 - ・歯石はどうやってとるか。

- ・むし歯以外の歯の病気。

○歯についての自分の決意

- ・毎日、魚を1ぴきずつでも食べようと思う。
- ・いつも歯をみがいているが、よくみがけていないので、時間をかけてきちんとみがきたい。
- ・ものをよくかみ頑張る力をつけたい。
- ・歯みがき粉をあまりつけすぎないでみがくことにする。

- ③ 歯みがき実習の実施
- ④ 「歯の日」の設定
- ⑤ 自作のビデオによる校内放送

(3) 保健室経営を通して

- ① う歯に関する保健情報の収集と提示
- ② う蝕活動性試験によりう歯予防に興味をもたせる。
- ③ う歯の治療状況揭示
- ④ 生徒指導を通した個別指導

(4) 生徒保健委員会の活動を通して

- ① 保健だよりの作成
- ② 文化祭における展示物の工夫
 - 清涼飲料水の糖と酸度の比較等
- ③ むし歯の治療状況一覧表作成
- ④ 夏休み歯みがきカレンダー作成等

(5) 組織活動の面から

- ① 教職員の協力体制
 - ア. 校務分掌による役割の明確化
 - イ. 企画委員会や職員会での共通理解

(6) 学校保健委員会を通して

- ① PTA機関誌「白雲」を通して
 - 次ページ「よい歯の学校」に選ばれてなど、年に2回ほど寄稿しているが保健だよりのよりは、保護者の目にふれるものと思われる。
- ② 校内保健委員会
 - ア. 学期1回、保健・安全・給食委員で開催し、反省改善を図る。
- ③ 学校歯科医との密接な連携を図る。

(7) 学校給食との関連

- ① 給食指導を通した栄養士との連携

ア. 歯を丈夫にするための献立

イ. かむことの大切さと関連ある食物

(8) 部活動顧問との話し合い

- ① 歯をくいしばって最後まで根気強く頑張るために、う歯の未治療者を調査

(9) 他の保健領域との関連

- ① 禁煙教育を通して……歯の汚れ
- ② 性に関する指導を通して……口臭等

10. 歯の健康に係る評価と反省

- (1) 学校経営、努力目標の評価により全職員で評価する。

- ① 生徒自ら活動する場面や、保健委員会と学級の密接な関連が望まれる等の反省があった。
- ② 保健関係行事の反省と改善の記録によると、更に歯に関する行事を継続してほしいという評価があった。

11. 研究の成果

- (1) 歯に関する関心が高まり、自ら健康づくりに努める姿勢がみられるようになった。
- (2) う歯の処置歯率やう歯のない者、処置完了者等、わずかずつではあるが増加の傾向にある。
- (3) 歯の健康づくりを通して基本的な生活習慣が身につくようになった。
- (4) 歯をくいしばって頑張る姿が、部活動や学習面、生活態度にもみられる。
- (5) 自らすすんで歯の検診をしたり、治療をしたり、また、給食後に歯みがきをする教師も増えている。

12. 今後の課題

- (1) 昼の歯みがきを実践するなど更に、生徒の自主的な活動を助長することに努めたい。
- (2) 学級担任による継続的な指導がなされるよう手だてを工夫したい。
- (3) 歯を通した健康づくりは、家庭生活と密接な関わりがあるので、家庭への啓蒙について更に検討したい。

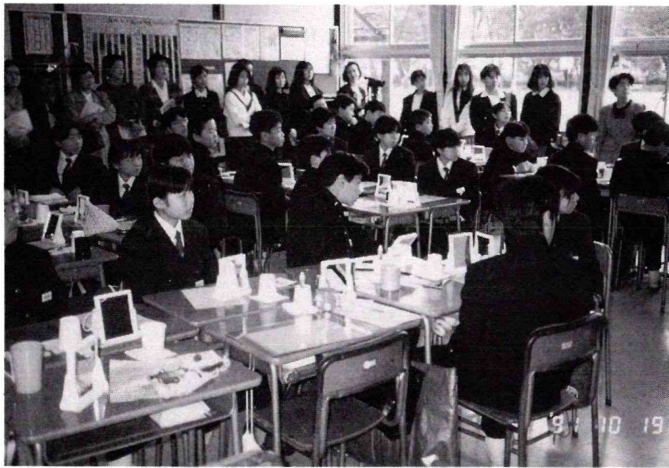
13. おわりに

中学校における歯科保健活動は、次のような点から重要な教育活動であると考ええる。

- (1) 日常の生活リズムの確立
- (2) 運動能力・学力の向上との関連
- (3) 根気強くやり抜く態度の育成

(4) 生徒とのふれあいをめざす生徒指導等

そのためには、養護教諭として教育課程全体に目をむけ、教育課程改訂の基本方針「豊かな心をもちたくましく生きる人間の育成を図る」ことを踏まえ、今後も更に生涯教育の一環として歯を通じた健康づくりに努めたい。



中学校の公開授業にて

歯科保健活動を通して 健康を自ら獲得する生徒の育成をめざす

仙台市立広瀬中学校教諭（研究主任） 日 塔 光 博

1. はじめに

(1) 本校の概要

本校は、仙台市内を貫流する広瀬川の中流に位置し、南に蕃山を間近に望み、西に蔵王山・面白山・船形山の峰々、北に泉ヶ岳を遠くに望む、自然の恵み豊かな緑に包まれた環境にある。4年前、仙台市に編入合併されたが、旧宮城町では中心的な中学校であった。

(2) 歯の衛生モデル校の取り組み

本校は平成2年度より平成4年度までの3年間、仙台市立東二番丁幼稚園・仙台市立広瀬小学校と共に、仙台市教育委員会より「歯の衛生モデル校」としての指定を受けた。さらに宮城県宮城広瀬高等学校も加え、互いに連携しながら研究を進めてきた。

また平成2年度の歯科検診結果を見れば、

- ・むし歯所有者率……………92.2%
- ・処置歯率……………64.1%
- ・処置完了者率……………30.8%
- ・一人平均むし歯数……………6.4本

（学年別一人平均むし歯数は、学年が1つ上
るにつれ確実に1本以上の増加傾向が認め

られる）

以下は、平成2・3・4年度の3カ年間にわたる研究の、中間年度の中間報告である。

2. 研究主題

主体的に活動できる生徒の育成

◎重点項目

- A. 学級プログラム委員会の充実化
- B. 健康を自ら獲得する生徒の育成——
——歯科保健活動を通して

3. 研究主題設定の理由

(1) 〈生徒の実態と教育目標から〉

- ・本校の生徒は明朗純朴で、現在は大きな問題行動が殆どなく極めて落ち着いた学校生活が展開されているが、反面主体性に乏しく、受け身の・依存的な実態が多く見られる。そこでここ数年間、『主体的に活動できる生徒の育成』を共同研究テーマとし、その実現に努力してきた。これは「健康で豊かな心情と創造性に富む人間形成をめざし」た本校の教育目標のなかで、その重点の一つとして掲げた「心身を鍛え、勤労を重んじ進んで奉仕する生徒」の育成に則るものである。

(2) 〈今日的教育課題として〉

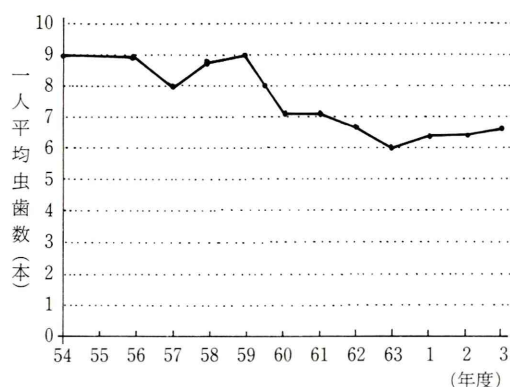
- ・教育の本質を、現存する人間が将来にわたって望ましい行為を自主的に行いうるよう働きかける行為であるとするならば、むし歯は殆どの生徒に罹患経験があることからその予防教育は、まさにこれにせまる恰好の教育テーマである。

(3) 〈地域としての取り組みから〉

一省 略—

- ・以上のことから、『主体的に活動できる生徒の育成』という研究主題の下に「学級プログラム委員会の充実化」および「健康を自ら獲得する生

本校の一人平均むし歯数の推移表



徒の育成——歯科保健活動を通して」を重点項目として設定した。

4. 研究仮説

- ・A) 学級活動の基礎づくりとしてまず学級委員および班長などからなる「学級プログラム委員会」を充実化させることが、やがて学校全体の主体的な集団活動を活発化し、ひいては一人一人が主体的に活動できる生徒へと育成していくことに繋がるであろう。
- ・B) 歯科保健に関して、学級活動・日常の指導・委員会活動・保健行事・個別指導・家庭との連携・教科指導などにおける指導方法を工夫していけば、健康を自ら獲得する生徒を育成することができるであろう。
- ・A) と、B) における学級活動を関連させた指導方法を工夫することにより、様々な場面で主体的に活動できる生徒を育成することができるであろう。

5. 研究の方法

A「プログラム委員会の充実化」に関して

- ・月1回の定例の「プログラム委員会の日」を設け、活動の充実化をはかる。

B「健康を自ら獲得する生徒の育成

——歯科保健活動を通して」に関して

- ・次頁の「歯科保健指導の基本構想」を参照。

6. 研究内容

(1) 学級活動について

- ① 1単位時間を使って行うもの
 - ・「歯科保健に関する学級活動の学年別指導計画表」に基づき、年3回実施。
 - ・学級プログラム委員会を活用し、出来るだけ生徒の自発的活動を生かすようにする。
 - ・「問題の発見」→「原因の追求」→「問題の解決」→「実践への意欲化」のパターンに沿って授業を展開する。
- ② 短時間の学活等を使って行うもの
 - ・歯科検診後の治療勧告や、その他様々な機会をとらえて意識を喚起し、実践化を促してい

く。

(2) 日常指導（歯みがきタイム）について

- ① 目的
 - ・歯みがきの大切さを知らせ、その習慣化を図る。
 - ・正しい歯のみがき方を知らせる。
- ② 時間の設定
 - ・日課表に「歯みがきタイム」として5分間(13:20～13:25)位置付ける。(月曜日に設定されている創意の時間の1カ月4時間の内、2時間分を歯みがきタイムに充て、残り2時間は朝会に充てる)
 - ・この時間に、放送委員会による歯みがきの呼びかけ及びテーマソングが、全校放送される。
 - ・ただしこれに縛られることなく、学年・学級の実態に応じ、学級担任指導のもとに時間を確保することにしてあるので、実際は給食の終わった学級・生徒から個々に(あるいは学級一斉に)始まるので10分程度ずれて実施されている。
- ③ 方法
 - ・給食後、各自、学年毎に割り当てられた洗口場及び付近の廊下やパーパスルームで行う。
 - ・歯みがき剤は使用しない。コップも不要。歯ブラシ片手に、3分間(各洗口場及びパーパスルームに時計を設置してある)以上みがく。
- ④ 教師の指導
 - ・学級担任も生徒と共に歯みがきをしながら、正しいブラッシングの指導を加えたり、やらない生徒や歯ブラシを忘れた生徒への指導に当たる。
 - ・学年主任や副担任は巡回して指導する。
- ⑤ 実施率向上の対策
 - ・月2～3回、抜き打ち的に学級毎の実施調査(やったかやらなかったか、3分以上やったか)をして、その結果をグラフ化し掲示する。
- (3) 委員会活動について
 - ① 保健委員会
 - ア. 歯科検診等の準備・手伝い
 - イ. 歯みがきタイムの呼びかけ・実施調査の集計

歯科保健指導の基本構想

仙台市立広瀬中学校

目標＝

- ・歯や口腔について知り、すすんで治療を受ける態度を養う。
- ・食後の歯みがきをきちんと行う習慣を養う。
- ・食生活を見直し、より健康な生活をしようとする態度を養う。

主題	基本的観点	基本内容	行動目標（指導内容）	学級活動			日常の指導	委員会活動	保健行事	個別指導	家庭との連携	教科指導
				1年	2年	3年						
健康を自ら獲得する生徒の育成——歯科保健活動を通して——	強い歯を育てる	歯・口腔の様子	1 自分の歯の部位名と本数がわかる	◎								
			2 自分のむし歯の場所と進行状況、処置歯・未処置歯の数がわかる	◎	○	○			◎	◎	◎	
			3 自分の歯並びの様子や不正咬合がわかる		◎				◎	◎	◎	
			4 自分の歯垢や歯肉の様子がわかる	○	◎	○			◎	○	◎	
		歯・口腔の病気と健康	5 歯垢の病原性がわかる	◎	○			○				○
			6 むし歯の三要素（歯・糖・時間）がわかる	◎				○				○
			7 歯垢が歯石や歯肉炎の原因だとわかる	○	◎			○				
			8 歯肉炎は正しい歯みがきで治ることを知り自ら予防することができる		◎			○		○	○	
			9 むし歯や歯周疾患がもたらす病気や体への影響を理解し、予防に努めることができる			◎		○				
			10 早期発見・早期治療の大切さがわかり、進んで検診や治療を受けることができる	◎	○	○		○		◎	◎	
		歯・顎骨の発育と働き	11 歯の構造とそれぞれの機能がわかる	◎				○				◎
			12 自分の第2大臼歯と永久歯の発育の状態がわかる	○	◎							
			13 歯と顎の発育と成長、歯の寿命がわかる			◎		○				○
			14 むし歯・抜去歯・歯列異常とかむ力との関係がわかる		◎			○				○
			15 かむ力と体力や運動能力の関係がわかる		○			○				◎
	歯や口腔を清潔にする	歯・口腔の汚れ	16 汚れやすい歯の部位がわかる	◎				○				
			17 染め出しテストで、自己評価ができる	◎	○	○			◎	○	○	
			18 RDテストで、自己評価ができる	◎	○	○			◎	○	○	
		適切な歯みがき	19 歯垢をきれいに落とすみがき方ができる	◎				○	○		○	
			20 歯ぐきを強くするみがき方ができる		◎			○	○			
			21 食後必ず歯をみがくことができる	◎				◎	◎			○
			22 良い歯ブラシを選んで使うことができる		◎			○	○			○
			23 自分の歯に合ったみがき方ができる		◎			○		◎	○	
			24 自分の生活に合わせた歯みがき回数や時間を工夫し、継続させることができる			◎		○				○
			25 歯や顎骨を丈夫にする食物がわかり、進んで食べることができる		◎			○				◎
	よい食習慣を身につける	よい食事	26 自分の食生活をかむことから見直し、よくかんで食べることができる		◎			○	○			◎
			27 体全体の健康づくりを考えて、バランスのとれた食事をするすることができる			◎						◎
		間食のとり方	28 どんなおやつがむし歯のもとになりやすいかがわかる	◎				○				○
			29 糖分、粘性などを考えておやつを選ぶことができる	◎				○				○
			30 時間、場所、量を考えた上手な間食の取り方ができる	◎		○						○

◎中心的に指導する項目

○関連的に指導する項目

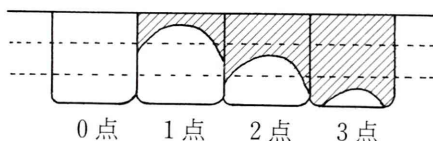
ウ. 歯ブラシ殺菌庫の管理

- ・各学年1台。週約1回の割で学級毎に紫外線で24時間殺菌。

(この際に学級担任が歯ブラシ点検を行う。)

エ. 染め出し検査の実施

- ・月2回、給食直後(歯みがき前)実施
- ・保健委員が染め出し液を生徒の舌に滴下、1度洗口させた後、点数を調べる。
- ・対象歯——左上1歯・左上2歯・右下1歯・右下2歯の合計4歯。
- ・染め出し点数(スコア—)



- ・評価(4歯の合計点数)

0～3点(きれい)

4～8点(少し汚れている)

9～12点(汚れている)

※自己評価し、正しい歯のみがき方を確認する。

※点数が高い生徒は、個別指導の対象とする。

オ. 校内歯みがき標語コンクールの実施

カ. 毎月の保健委員会目標の中で、歯に関する目標の設定と呼びかけ。

キ. 歯科検診結果と治療状況のグラフ化と掲示。

ク. 歯の健康に関する資料の作成と「歯のコーナー」の展示。

ケ. 文化祭での歯の健康についての展示発表

② 放送委員会

- ・歯みがきタイムの呼びかけとテーマソングの放送。
- ・歯の健康に関する番組を制作し、給食時間に放送する。

③ 環境整備委員会

- ・歯に関する掲示コーナーの設置と整備。
- ・学年毎の洗口場の掲示と整備。

④ 新聞委員会

- ・『広中タイムズ』で歯についての特集を組む。
- ・学級新聞の記事に歯のコーナーを設ける。

⑤ 給食委員会

- ・『給食だより』に食物と歯の関係の記事を載せる。
- ・文化祭で食物と歯の関係についての展示発表をする。
(古代食と現代食の模型を作り、それぞれの噛む回数の調査など)

(4) 保健行事について

① 春の「歯みがき指導+歯科検診」

ア. 目的

- ・歯垢の染め出しにより、自分の歯みがきのし方の善し悪しを知らせ、正しい歯みがきの方法を身につけさせる。
- ・自分の口腔内の状況(むし歯や歯列不正、歯周疾患の有無)を知らせ、治療を促す。

イ. 時間配当及び使用教室

- | | | |
|-----------|-----|-----|
| 1) 歯みがき指導 | 1時間 | 各教室 |
| 2) 歯科検診 | 25分 | 保健室 |
| 3) 個別指導 | 25分 | 各教室 |

ウ. <歯みがき指導>の流れ

- 1) 顎模型を使つての正しい歯みがきのし方の説明(学級担任)
- 2) 歯みがきの実践・3分間(生徒)
- 3) 染め出しのやり方の説明(学級担任)
- 4) 自分の染め出し状況の確認(生徒)
- 5) 3分スコアをとる(歯科衛生士)
- 6) 再度の歯みがきと自己チェック(生徒)
- 7) まとめ(学級担任)

エ. <歯科検診>の記録のし方

- 1) 学級担任が検診結果を記録
- 2) 生徒各自がそれを健康手帳に転記

オ. 教員に対する事前研修

- ・歯科校医や歯科衛生士より、基本的な内容及び歯みがきのし方や、染め出し方法についての講習を受ける。

② むし歯予防教室

- ・むし歯予防デーにちなんで、歯科医師らによる講演会を実施。
- ・昨年度は大郷町立歯科診療所所長中條幸一先

生による『なぜ、今むし歯予防か』と題しての全体講話を受けた。

③ 秋の〔歯科検診＋RDテスト〕

ア. 目的

- ・自分の口腔内の状況、特に歯周疾患の状態について知らせ、歯みがきのし方や食生活について指導し、必要により治療を促す。
- ・RDテストにより、自分の口腔内のむし歯菌の活性度を知らせ、歯みがき状況や食生活について考えさせる。

イ. 時間配当及び使用教室

- 1) 歯科検診 25分間 保健室
- 2) RDテスト 25分間 各教室
- 3) 個別指導 後日 保健室等

ウ. 歯周疾患を中心とした〈歯科検診〉の方法

- ・上下左右の前歯・犬歯の周辺の歯肉の状態を点数化する。
- ・歯石の有無を診る。
- ・学級担任が検診結果を記録する。

- ・生徒各自が合計点数を計算する。

エ. RDテストの実施方法

- 1) RDテストのし方を説明する(学級担任)
- 2) 実施する(生徒)。15分間待つ
- 3) 待つ間に、RDテストとは何を調べるものかを説明する(学級担任)
- 4) 結果を記録用紙に記入する(生徒)
- 5) 結果から自分の食生活や歯みがきの状態について考える(生徒)
- 6) まとめ(学級担任)

オ. 保護者への通知

- ・主に食生活についての見直しを促す
- ・結果についての感想を提出してもらう

(5) 個別指導について

- ① 春の歯科検診直後に、養護教諭が全生徒を対象に、検診結果の解説と治療勧告、及び普段の歯みがきや食生活について個々に指導する。
- ② 重症生徒に対しては、以下の要領で学級担任及び養護教諭による重点的個別指導を実施する。

対象生徒	内容(担任)	内容(養護教諭)	指導終了の目安
ア. 未処置歯10本以上	治療勧告	———	治療済報告書を提出するまで
イ. 染め出しスコアー12点以上	歯みがきや食生活を中心とした生活について指導(月1回)	染め出し検査 歯みがき指導 食生活の指導 (月1回)	歯みがき習慣が定着し、歯肉の状態が良好になるまで
ウ. 歯肉検査結果29点以上			

※ア・イは春の検診結果、ウは秋の検診結果で判断

(6) 家庭との連携について

① 学校から家庭に期待すること

- ア. 親も子供と一緒に歯について関心を持って欲しい。
- イ. 忙しい日々の生活の中でも、歯を守るための方法(正しい歯みがき・早期治療・食生活の見直し)を実践して欲しい。
- ウ. 歯のことを通して、健康全体についても、さらに関心を持って欲しい。

② 内容

- ア. 歯科検診や染め出し検査・RDテストの結果及び治療勧告書の家庭への通知
- イ. 保健だより『特集・歯』『広中・デンタルニ

ュース』の発行による保護者の啓蒙

ウ. 親子染め出し検査

- ・むし歯予防デーにちなんで、各家庭に染め出し錠剤2錠を配付し、やり方を子が親に教え、親子で検査し合う。
- ・親の感想をアンケート形式で提出してもらう。

エ. 夏休みの地区懇談会で、実態を報告し協力を要請

オ. 父母教師会新聞への歯の特集の取り上げ

カ. 校内におけるむし歯予防教室(全体講話)の父母教師会との共催

キ. 歯の健康についての地域講演会の開催

- ・広瀬小学校父母教師会と広瀬中学校父母教師会、及び仙台市学校保健会による三者共催の形で実施。

- ・講師、幸地省子先生（東北大学歯学部第二口腔外科講師）

演題『噛むことについて一顎の発達と食生活』

ク. 父母の歯の健康教室の開催

- ・歯科校医による講話
- ・歯科衛生士による歯みがき指導
- ・歯垢の染め出し検査

ケ. 学級活動（歯科保健）の父母の授業参観

(7) 教科指導について

① なぜ教科指導においてもやるのか

- ・歯科保健に関しての授業は学級活動が主になるが、様々な方向から、様々な場面での歯科保健指導の試みの一環として、教科指導としても取り上げることにした。
- ・歯科保健に関する基礎的・基本的な知識を生徒に理解させるという点では、関連する場面での教科による学習指導として取り上げた方が、指導教師の専門的な領域からのアプローチが可能となり、従ってより自信をもった指導の展開もでき、より効果的である。

② 教科指導を計画する際の基本的な考え方

- ・その時間本来の指導目標達成のための一教材として「歯科保健」に関する事項を扱う。従って殊更に「歯科保健」をその時間の主たる指導目標とはしない。
- ・研究の一環として行うものなので、実験的、試行的な性格の伴う授業でもよい。
- ・必ずしも学習指導要領に則った内容でなくともよい。
- ・特定の教科だけが取り上げるのではなく、出来るかぎり様々な教科、様々な場面で試みることとする。

③ 歯科保健に関する教科指導計画表

7. 研究の成果

(1) 検診結果から

- ・「処置完了者率、処置歯率」はともに向上してきた。

(2) 生徒の歯みがき実態調査から

- ・「歯みがきタイム」の実施により、給食後の歯みがきはほぼ習慣化されてきた。
- ・「1日3回」以上歯みがきをする生徒もかなり増加してきている。男子で60%、女子は90%程度の者が実践するようになった。歯みがきの時間帯も「食後」や「寝る前」が多くなって来しており、良い傾向が表れてきた。
- ・歯みがきの時間も「3分以上」やる者が、男子で60%、女子で75%以上までなってきた。

(3) 生徒の歯みがきに対する意識調査から

- ・「習慣になっている」と応えたものは男子で50%、女子で75%をこえ、さらに「歯の健康を考えて意識してみがいている」者を加えると、男子で90%、女子では95%をこえている。ここに生徒の意識の面でもはっきりとした変容が窺える。

(4) 保護者の反応（アンケートの声）から

- ・「小学校時代からの指導のおかげで、子供の方が歯科保健に関しては意識ができています」
- ・「毎日の食生活が大切だと思う」
- ・「美しい健康な歯になって欲しくて、赤ん坊の時から食物にも歯みがきにも随分と注意をして来たが、親の配慮から離れ自分の自覚で守っていく年令になり、少々油断が多い様だ。検診結果がとても参考になった」
- ・「子供の成長につれてだんだんお菓子の選択をしなくなって、反省している」
- ・「娘には自分の歯だけで一生を送って欲しいと願っている」

8. 今後の課題

- (1) 「一人平均むし歯数」はH1年以降再び増加の傾向にある。
- (2) 学級活動の見直し
- (3) 学校保健委員会の活性化を図る。

9. おわりに

(1) 主体性は向上したか

- ・むし歯は自分の努力で予防できる。歯肉炎も自分の力で治すことができる。その様にして健康な歯と歯茎を自分の力で生涯持ち続けていく。歯科保健はこの様に主体的な活動だからこそ、「歯科保健活動を通して、健康を自ら獲得する生徒の育成」に向けての努力が少しでも実を結べば、それはさらに生活面や学習面においても、「主体的に活動できる生徒の育成」へと繋がっていくものと確信する。

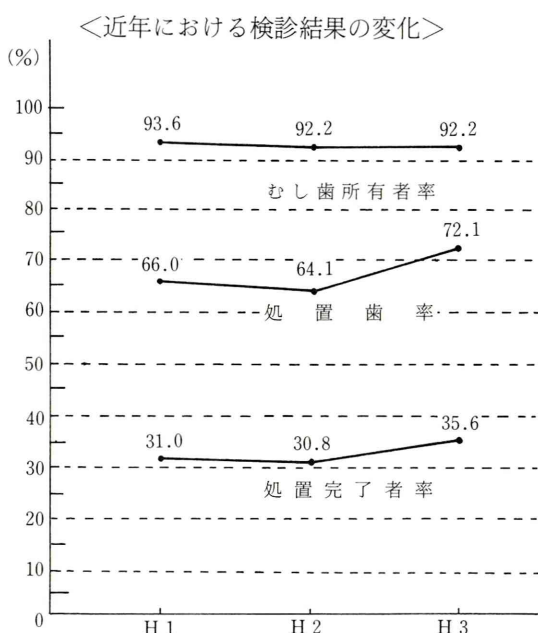
(2) 学校生活に明るい変化が生まれた

- ・「歯みがきタイム」の実施に伴い、学校生活に一つのリズムが生まれ、昼休みの過ごし方にも、以前のグラウンド整備オンリーから、青空に白球を追う生徒の元気な姿が見られるようになるなど、明るい変化が生まれて来た。
- ・教職員も歯ブラシ片手に、ブラッシングを楽しみながら、研究指定校の重荷に耐え、今やそれを克服しつつある。

(3) 3年間の共同研究の結実をめざして

平成4年度の研究指定終了時の結実がより大きなものになるように、今後も、本校歯科校医である宮城歯科診療所の田村所長・村上医師・歯科衛

生士の方々をはじめ、宮城県学校歯科医会の先生方、また仙台市教育委員会からのご指導を戴きながら、そして東二番丁幼稚園・広瀬小学校・宮城広瀬高等学校との連携をさらに深め、かつ地域の方々のご協力を得ながら、残り1年余りの共同研究に努力を重ねていきたいと思う。



新設校における歯科保健指導 展開の課題について

熊谷市立大幡中学校学校歯科医 渡 辺 英 昭

1. はじめに

(1) 本校の概要について

大幡中学校は昭和58年4月、大原中学校の学区の一部を分離して市内12番目の中学校として開校しました。この周辺は昭和45年頃より農地の宅地化が進み熊谷市の中でも人口の増加が著しい地区でして、現在ではその70%がいわゆる新住民という事で地区住民の意識は極めて多様ですが、新設校という事もあって学校に対して大変協力的であります。

私はそれまで市立大幡小学校の歯科校医として勤務しておりましたが、本校開校と同時に異動によって現在まで至っております。

(2) 本校の歯科保健の概要

本校は開校時より3年間においては養護教諭が配置されず、昭和61年度より着任しました。

歯科保健においてもその当時は年1回の定期健診のみであり、生徒への指導も健診時に行う程度でした。昭和61年度からは2学期にも臨時健診を行う様になり、昭和62年度よりは生徒に対しての歯科の講話を行う機会も作る様になりました。

学校保健委員会も昭和62年度より開催される様になり、組織もできあがり内容も充実しはじめております。

中学校では学級担任はおるものの、教科担任制という事により小学校のように担任がクラスにおいて歯科保健指導を行うのも困難な点も多いため、本校では昨年度より生徒保健委員を介して各クラスの指導を進めており、生徒の自主性を育てる事を目標に養護教諭と共に推進しております。各クラスとも保健委員を中心に給食後の歯みがき、未処置歯保有者に対して治療の勧告等で成果を上げております。

考察

DMF保有数、う歯処置率共にこの4年間にお

いて向上の傾向が認められます。各学年におけるDMF保有数も向上していると思います。又第2大臼歯の健全歯の数も増加している事が認められます。

(3) 実践について

昭和62、63年においては全校生徒に対して歯科の講話を行いました。人数が多い事と対称年齢差もあり、テーマとしてもしほりにくい状態でしたので、平成元年度より学年を対象とする事として、現在までは1年生に対して講話を行っております。

歯に関するアンケート

1. むし歯はありますか(治療した歯も含む)。
2. 歯をみがくと血が出る事がありますか。
3. 口臭が気になる事がありますか。
4. 1日に何回歯をみがきますか。
5. 歯はいつみがきますか。
(朝食前、朝食後、昼食後、夕食後、就寝前、その他)
6. 1本の歯ブラシをどのくらいの期間使いますか。(1ヶ月以内、2ヶ月以内、3ヶ月以内、それ以上)
7. 歯みがき剤はどのくらいの量つけますか。
(全体に、1/2ぐらい、1/3ぐらい、つけない)
8. 食べもので好ききらいがありますか。
(ある、ない)
9. 間食はしますか。
(する、しない)
10. 間食は何回しますか、またいつですか。
(1、2、3、きまっていない)(帰宅後すぐ、夕食後、勉強中、きまっていない)
11. 間食でよく食べるものを3つあげて下さい。
(菓子パン、ポテトチップス、スナック菓子、せんべい、おかし全般、おにぎり、チョコ、

アメ、ガム、ラーメン、アイス、くだもの等々)多数。

12. 間食でよく飲む飲みものを3つあげてください。
(炭酸、麦茶、ジュース、牛乳、スポーツドリンク、コーヒー牛乳、他)
13. 歯に関する事で悩んでいることがありますか。
(歯ならびの事、歯の色、口臭、むし歯のこと、歯みがきの事、他)
14. 歯科医の先生に聞きたいことがあったら書いて下さい。
○歯ならびが悪く気になる。(矯正について)
○正しい歯みがきのしかた
○歯みがき粉について
○歯ブラシのえらびかた
○その他

本年は7月11日の日に歯の衛生集会を開催しました。生徒保健委員会の司会進行で、アンケートについての説明が、OHPを使用して行われ、その後、私がアンケートにおける疑問点、質問への解説をし、定期健診の感想、問題点の説明、対策などを含め講話を行いました。その後生徒にはクラスで感想等の記入をしてもらいました。

全校的な取り組みとしては、養教、生徒保健委員が学校歯科保健活動計画を立案しました。目標としてはむし歯を予防する意識と態度を育成する、をあげ、年間を通じて給食後の歯みがきを促し、またこれを調査して指導をする事としました。

内容としてはまだまだ不十分ですが、生徒の自主性と意欲を評価して、ぜひ実践する様に指導しました。

次に定期健診後の指導ですが、むし歯、歯石沈着、歯肉炎等については歯科治療勧告書により、早期治療を推進しますが、不正咬合については、別紙によるお知らせとして保護者に通知しており

ます。

以上が本校における歯科保健活動の概要です。まだ試行錯誤の状態ですが、生徒の自主性と実践を期待して少しでも効果が上がる様にアドバイスをしております。

(4) 熊谷市としての取り組み

(a) 市では学校保健会として県のよい歯のコンクールのための地区審査と、応募校の中で優良校に対し表彰を行っております。

(b) 熊谷市歯科医師会と共催で口腔衛生指導者講習会を開催しております。本年歯10月3日に第16回として開催されます。当日は市内31の小・中学校から150名程度の出席者があり、市歯科医師会公衆衛生部の先生が、歯科衛生について講義を行った後、ブラッシング指導を行います。これには公衆衛生部の先生の他、会員診療所勤務の歯科衛生士が出務して指導にあたっております。

これらによって市内各校共むし歯予防に対して関心も高まっておりますが、県のよい歯のコンクールはレベルが非常に高いため、最近是最もよい歯の学校の受賞ができない状態であります。

(5) 終わりに

現在は給食後の歯みがきの定着化など基本的な事への指導が主であり、学校、生徒、PTAと一体となって取り組みができる様になればと期待しております。

むし歯以外にも歯肉炎、歯石沈着などの歯周疾患の生徒への指導も今後あわせて検討する予定であります。

現在埼玉県でむし歯予防啓発推進校として研究中の神川町立神川中学ではサリバスター検査と歯肉炎の状態について検討しておりますので、そのデータと、埼玉県歯科医師会学校歯科部の調査による平成2年度むし歯保有数及び処置率も参考になると思っております。

〔高等学校部会〕

●テ	ー	マ	「高等学校における歯科保健指導の実践」	
●座		長	東京医科歯科大学歯学部教授	岡 田 昭五郎
●助	言	者	青森県学校歯科医会常任理事	奥 寺 文 彦
●発	表	者	宮城県宮城広瀬高等学校養護教諭	千 葉 泰 子
			宮城県宮城広瀬高等学校学校歯科医	宮 内 昭 穂

高等学校における歯科保健指導の実践

座長 東京医科歯科大学歯学部教授 岡 田 昭五郎

高等学校生徒は永久歯列がほぼ完成した年齢である。これからの長い生涯の間、歯や口の状態がいつも良好な状態に保たれるように自分で心がけるよう指導してゆかねばならない。

歯科保健指導の目標

自分の歯や口の健康状態を把握して、歯や口の健康の保持増進に必要な態度や習慣を養うことが歯科保健指導の目標である。

高等学校生徒では、生涯自分の歯を使って食べること、そのためには今後、現存する歯を1本も失わないように心がけることを具体的な目標にするとよい。

高等学校生徒の歯科保健の問題点

高等学校生徒では、小・中学校において歯科保健についての教育を受け、知識や技術が身につけているはずであるが、彼等に定着していないのが現実の姿である。生徒は深夜まで勉強しなければならぬことが多く、1日の生活時間が不規則になったり、間食や夜食を摂取する機会が多くなる反面、歯の清掃は怠りがちになる。これらが重なって、歯や口が不潔になり、う歯や歯周疾患が発生したり増悪することになる。

歯科保健指導の進め方

多くの高等学校では、大学受験を控えて歯科保

健指導に十分な時間を割くことは困難な場合が多い。しかし、生徒たちは卒業後歯科保健についての十分な指導を受ける機会が極めて少ないことを考えると、高等学校が学校歯科保健における最後のチャンスだと思って、わずかな時間でも歯科保健に関する指導を行なってほしい。

歯科保健はセルフケアの身近な教材である。規則正しい生活を続けることで、口の中のさわやかさを生徒自身が身をもって体験することができる。ホームルームや学校行事等の指導では、小学校や中学校で得た歯科保健についての正しい知識や技術を自分の生活に定着させるように指導してほしい。

健康診断の際には、単に処置を要する疾病や異常の有る者を選びだすだけでなく、歯や口の清掃状態にも注意を払い、とくに指導や相談を必要とする生徒を予め選びだしておき、後日教職員と連携を保って必要な指導を行なうようにするとよい。

生徒の中には、歯や口の問題で悩んでいる者も多い。口臭や歯周疾患では歯や口の汚れと全身的背景とが関連していることもあるので、個々の生徒の歯や口の健康上の問題は何なのか、その背景としてどのようなことが関連しているかということもよく見極めて、適切な指導をすることが必要である。

今回の高等学校における指導の事例が、今後の歯科保健指導に活用されることを望むものである。

高等学校における歯科保健指導の実践

青森県学校歯科医会常任理事 奥 寺 文 彦

小学校ではあれほど熱心に歯科保健指導を受けて来た子供達も、中学校では中だるみとなり、高校生となった今では、自主性にまかせると言われて、気をつけてきちんと自主管理できる生徒もいるが、全く省みない生徒も多数いるということが大方の高校の悩んでいるところである。

然し、最近、「高等学校の歯科保健指導の進め方」や「高等学校歯科医の活動指針」などのテキストもでき、保健体育の教科にも採り上げられるようになって来た。

例年のこの大会では、「いち早く、具体的に効果的に歯科保健指導を行なっている学校」を見て来た。このような時に、敢えて助言するとすれば、次のようなことが言えるかと思うのである。

1. 恐らく具体的事例が不足している

頭では理解していても実行しない生徒達に対しては、その学校の、或いはその学年の大多数の者が持っている問題点の生の状態を見せてやるべきである。

- ① 同級の者はどうなのか、その代表例
- ② 去年の生徒はどうであったのか
- ③ おとしの先輩の例
- ④ 10年前の先輩の現状、つまり生徒達の10年後の姿とも言うべきものはどうなっているか
- ⑤ 50年後の姿を老人の方々から推測してみるとどうなっているのか

などを見せてやりたい。現実には大変むずかしいようであるが、狭い地域でなら実現可能と思われる。あるいは、学校歯科医会の組織活動でもあれば、その姿を明瞭に見せることが可能であろう。

2. 今、何が必要であるかを知るべき

高校生に最も多く起る歯科的な問題を、具体的に知らなければならない。つまり、「発達段階に即

した歯科保健指導」の中には是非組み込まなければならない事柄で、

一年生ではこれから送る高校生活にさしさわりとなる病気のこと、具体的には、

- ① 上の第2大臼歯の頬側（奥の外側）コーナーのむし歯
- ② 上の前歯の隣接面のむし歯
- ③ 下の前歯の裏側の歯石と歯肉炎
- ④ 歯列・咬合異常の対処の仕方

二年生ではその強化をし、

三年生ではそれに加えて、

- ⑤ 智歯の処理の仕方
- ⑥ 歯肉炎、歯周炎、成人の歯周疾患の対処の仕方
- ⑦ 成人となり、歯を喪失した時の義歯の知識など
- ⑧ 女子には特に妊娠時、保育時の歯の問題、母子歯科保健に関することをこの時期に指導する。

3. どうなるかを見せる

放っておいても何事もなく過せる者も多く、大した障害に至らないことも多いが、それはそれで見せておき、やはり「ほどほどのこわれ方」から「強烈な破壊」「大きなダメージ」につながっていくものなどを、担当教師の例、先輩の例などから紹介してやるのが最も効果的であろう。

そういったことでは、特にこの年齢に効果的なのは、善い悪いの判断だけでなく、

- ① ファッション的な感覚と連帯感
「皆でやればこわくない」の逆を狙う。
- ② 美醜感
カッコ良いか悪い。モテるか否か。
- ③ エチケツト感
きられるぞう

など、感覚的なものに訴えることも必要である。

4. どうしたらよいか知る

たとえば、予防の為には歯石をとること、みがくこと、とは言いながら、どこをどうみがくかということについてはあまり指導されていないようである。文章や図では完全に示しつくされないことがらである。テレビや歯みがきのコマーシャルだけが部分的に伝えているぐらいのものであろう。

われわれ学校歯科医も、みがき方については、いわゆる統一した方法では指導していない。最近では「毛先みがき」が代表されているようであるが、それを完全に伝えている例も少ない。強いて言えば、スクラブみがきが基本で、そのバリエーションとそれに加えて2、3の方法を用いればよい。また、歯みがきの誤用の害も教えておく必要がある。

然し、高校生は、自分のことを自分で解決する能力を身につけなければならない。基本型を教え

ておく必要がある。「定期検診を受け、異常があれば則、処置をし、この段階で起り得ることについて充分知識を持ち、予防する」という単純型をきちんとすることでよいと思う。

5. どういう順序でやるべきかを知る

あらゆる事態に則、対応できる能力は、そのケースを繰り返し反復することで学習できるが、歯科的なことはあまり反復する機会はないと思われる。

ないに越したことはないが、例えば受診する際に健康保険証を持参するとか、外傷に合ったら直ちにどうするべきか等の手順もまた教えておくべきである。特に女子は家庭の健康管理者となるケースが多いわけであるから、どんな具合にすすめるかということは知っておかなければいけない。

以上のようなことの実践が「生活化」を強く進める原動力となると考える。

*

*

*

本校における歯科保健指導の実践

——健康を支える歯の認識と歯科指導——

宮城県宮城広瀬高等学校 養護教諭 千葉 泰子

1. はじめに

科学の発達は、私達の生活を豊かにし、便利なものにしてくれた。あらゆることがコンピュータ化し、敏速に処理され、医学の発達に伴い日本は世界の長寿国にもなった。しかし、私達はその反面、人間を取り巻く環境の悪化、生活・食生活の乱れ、成人病予備軍の傾向やストレスの増加など複雑な世の中であって、心の豊かさとは、からだの健康とは、どんなことか忘れがちになることが多いのではないだろうか。

今回の歯科保健指導の実践を通して、1人1人が自分の健康を支えているものは何んであるかを、人間本来の原点を見直しながら、考えるチャンスにしてくれることを願い、1つひとつを大切にに取り組んできたしだいである。

さて、学校歯科保健指導は、小・中学校の保健教育ですで行なわれているものの、高等学校教育課程の中では、ほとんど取り上げられていないことは周知の通りである。

しかし、最近、高校生の疾病で、アレルギー疾患が目立つ中に、歯肉炎、歯槽膿漏など、歯周疾患が急激に増加していることが検診の結果わかってきた。このような状況下にあって緊急な課題といえる歯科保健指導を教育活動の中に位置づけ、歯科活動を通して、健康を支えるための歯科保健の重要性を理解し、さらに宮城広瀬高全体の健康生活向上の体制づくりを目標として、ささやかながら、歯科保健指導の歩みを続けてきたところである。

2. 学校の概要

本校は仙台市の中心より山形に通じる、国道48号線を10 km 西へ進んだ国道沿い（JR仙山線・陸前落合駅近く）に位置している。この地域は、仙台市のベッドタウンとして大規模な地域開発が

進み、最近では市民センターや温水プール等文化スポーツ設備も完備され、新文化地域として注目されつつある。

生徒の増加にともない、本校は、昭和58年4月に創設され、25学級、生徒数1158名、教職員69名、男女共学の県立普通高校である。

3. 研究の概要

(1) 主題設定の理由

①多様化する価値観の中で、より健康に生きるための条件の1つに「歯の健康を考える」がある。「健康は自分で守る」という観点から、自己の歯の健康状態の把握と将来の健康と歯との結びつきについて学ぶことは、力強く生きる人間育成のために大切なことである。

②人生80年となった現在、歯の寿命は最高で、男62.0才、女59.1才、最低では男43.3才、女40.9才といわれ、15才以上での抜歯の原因は、虫歯による33.3%と歯周疾患（歯肉炎、歯槽膿漏）では50%となっている。

③健康教育を推進するにあたって、本校生徒の疾病異常の中で、罹患率の高い口腔疾患・う歯罹患率（97%）歯周疾患・不正咬合（60%）を最も身近な健康問題として取り上げ、科学的に計画的に歯科保健指導の実践に取り組むことは、「健康で安全な生活を意欲的に行う態度、能力の育成を図る」とする本校の保健目標の1つに合致しているものである。

(2) 研究の目標

①生徒の口腔衛生の実態を把握し、健康に生きるために歯の健康がいかに重要な役割を担っているか、を理解させると共に、歯科保健の実践活動のあり方を明らかにする。

②歯周疾患（歯肉炎・歯槽膿漏）不正咬合について、原因、予防法を科学的に理解し、歯の健康

を通して望ましい健康観を育て、生涯にわたって、積極的に口腔衛生の向上に励む態度の育成をねらいとする。

③歯科保健指導の実践計画を学校行事に取り入れることにより、健康教育への校内の体制づくりをしっかりと確立してゆきたい。

(3) 研究の仮説

①高等学校における歯科教育を推進するにあたり、現在の歯科保健（歯科検診・歯科保健指導）がどのようになされているか（県内高等学校の実態）また、さらに、本校の生徒の歯科保健に関する知識・意識・生活状態を明らかにすることにより、実践活動がより積極的に展開されることが可能になるであろう。

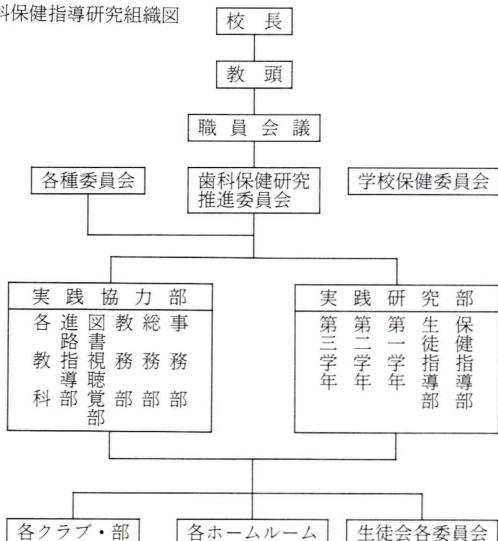
②LHR活動、生徒保健委員会活動、及び、学校行事との連携をはかって、歯科保健指導を組織的、計画的に進めるならば、「健康を支える歯」の重要性を認識し、口腔に関する意識の向上が全体的に高まるであろう。

4. 歯科保健指導の研究組織

○ 研究組織と実践活動・協力分野

歯科保健指導研究推進委員会(平成2.2設立)目的・高等学校の歯科保健が低調であるといわれている今日、学校全体として取り組むための委員会を組織し、歯科教育に関する研究の推進をはかることを目的とする。(推進委員構成メンバー18名)

歯科保健指導研究組織図



5. 歯科保健指導実践研究の進め方

○ 具体的な取り組みとして

①本校保健安全年間計画に、歯科保健活動を位置づけ、その内容についての検討、具体化をはかる。

②歯科健康診断の結果（平成3年度）の集成

③歯に関する実態調査（集計・分析）

歯科保健に関するアンケート調査

④歯科保健に関する現職教育

⑤歯科保健指導に関する歯科講話の実施

⑥LHRにおける歯科保健指導

（歯科校医、生徒保健委員、養護教諭との連携プレーによる授業案の作成と授業時間の設定）

⑦歯科相談（グループ指導・個別指導）

⑧学校保健委員会におけるPTAの歯科保健への協力

（各学年PTA総会での歯科講話）

⑨広高祭における「歯科保健コーナー」づくり
歯周病の予防、8020運動、しおり作成、口臭チェック、咬合力検査、糖度計等

⑩生徒保健委員による「保健だより」の作成（歯科に関する記事、教職員の協力による「私の健康法」中心に作成）

⑪宮城県内高等学校における歯科検診・歯科保健指導の実態を明らかにすると共にこれからのあり方を考える資料として、アンケート調査を集計・分析する。

⑫研究のまとめと今後の課題

6. 研究の内容

(1) 歯科保健年間計画（表1）

保健安全年間計画に歯科保健活動の年間計画を位置づけ、具体化を検討した。

〈●印 歯科指導項目〉

(2) 歯科健康診断の結果（平成3年度）

歯科校医の積極的な取り組みにより、本校歯科医の他に2名の歯科医（校医依頼）の協力で、連携チームを組み、歯科衛生士6名で検診を実施してきた。検診日程2日間、歯科医延人数5名（10時間）受検者1158名、検診割当、1人2日間で400

表1 平成3年度 学校保健安全指導計画

	学校行事	保健安全行事	環境衛生管理	保健安全指導目標	保健安全指導内容	組織活動	備考
4	始業式、入学式 対面式、実力テスト H R 合宿	定期健康診断 (身体測定、各校診、検査等) H R 合宿事前健康調査 保健室オリエンテーション	机、椅子の適性配置 (個別検査) 清掃担当区域域当 (清掃用具点検)	通学時の安全 疾病の早期発見	健康診断の意義、実施方法 健康管理上のきまり、通学時の安全指導 (自転車、列車、バスの利用)	保健委員選出 (健康診断の諸準備、介助) ●保健だより 保健室の利用	世界保健デー 結核予防デー
5	生徒総会 第1回定期考査	日本体育学校健康センター加入手続、結核検査、職員健康診断 校舎内外安全点検 (学習環境)	学習環境の衛生状況 (カーテン・照明器具) 水質検査 (飲料水)	健康の自己管理 疾病の早期予防と早期治療	自己健康状態の把握 (自主的事後処理) ●う歯の実態 (自己のう歯状況)	保健室、保健室の利用 う歯の統計 (H R 母)	虫歯予防デー 予防週間
6	三者面談 (3) 総 体 進学・就職課外	健康診断事後指導 (学年集会で) 健康診断相談 (運動部健康相談)	害虫の駆除、水飲場・足洗場・トイレの衛生状況 (1, 2, 3 P T A)	自己の生活リズムの 見直し ●う歯の予防	保健生活の実践 (指活動等) 運動時の安全指導 ●歯の健康 ●歯の健康 安全点検 ●歯のボスター標語募 (集)	保健委 (マメ知識) ●歯の健康しおり作成 ●歯と健康 安全点検	
7 8	第2回定期考査 企業訪問、終業式 始業式、実力テスト	健康診断結果報告 ●治療指示 (健康管理カード記入) 保健統計資料のまとめ 広高寮 (園の健康)	校舎内外の衛生状況 (部屋点検) カーテンの点検	夏の健康生活 安全な生活 (事故防止)	夏期の健康保持 (夏バテ対策) 安全で健康な生活態度 (命の大切さ、喫煙、飲酒)	保健委 ●保健だより 理草、酒の害について 衛生点検 (各部屋) 保健統計、カーテン整備	国民安全の日
9	生徒会選挙、広高祭 就職試験開始、通足 修学旅行	校舎内外安全点検、通足・修学旅行のための健康調査	水飲場、足洗場・清掃用具の衛生状況 水質検査 (飲料水)	体力増進 ●口腔疾患の予防 (事故防止)	自己の体力 (心身の鍛錬、睡眠、疲労、栄養のバランス) ●H R 園科保健指導 1 年	保健室 ●う歯治療状況 う歯と食生活 まとめ ●「園科保健コーナー」	栄養改善 普及運動
10	球技大会 第3回定期考査	健康相談 (要治療、要精検者) 校舎内外安全点検、通足・修学旅行のための健康調査	照度測定 (黒板の明度・照明器具・カーテンの整備)	視力保護 正しい姿勢	視力異常の弊害と予防 (視力の実態、自己の視力、事後指導) ●H R 園科保健指導 1 年	保健室 ●保健だより 視力統計調査 視力の保護について カーテン、照明利用状況	目の愛護デー 愛護週間
11	生徒総会、開校記念日 実力テスト 必修クラブ最終日	健康管理カード点検 (保健室利用状況の記入)	暖房用具の整備 (スチーム周辺の整頓、温度計の点検)	心の健康 ●口腔疾患の予防 男女の正しい交際 性の自立	精神が身体におよぼす影響 (健康なる精神、適性能力) ●園科個別指導 冬の指導 (L H R 3 年)	保健委 人間関係、友人関係 男女の交際 食事調査 (貧血報告者)	精神衛生 普及運動
12	第4回定期考査 終業式	胃検診 (職員) 校内安全点検	学習環境の衛生状況 (清掃用具・トイレ・水飲場)	冬の健康生活 室内換気、安全な生活 (事故防止)	冬期の健康 (かぜの予防対策) スポーツ時の安全指導 (事故防止)	保健委 ●保健だより 安全点検、事故の実態 (災害報告調べ) 室内の日常点検 窓の開閉 かぜの調査	
1	始業式、実力テスト 第5回定期考査 (3)	かぜの検査、献血 ●健康相談 (園科指導)	室内環境の日常点検 (温度、湿度、換気、黒板の清掃状況)	かぜの予防 (睡眠、栄養)	インフルエンザの予防対策 (インフルエンザと健康管理) ●園科個別指導	保健室 ●保健だより 安全点検、事故の実態 (災害報告調べ) 室内の日常点検 窓の開閉 かぜの調査	
2	特別授業 (3) 同窓会入会式 今年度反省と要望	かぜの調査 学校保健委員会 ●健康相談 (園科個別指導)	CO ₂ 検査 室内換気の実態	かぜの予防 (室内の換気)	CO ₂ 濃度と学習能力 ●園科個別指導 ●園科個別指導 性の指導 (L H R 2 年)	●保健だより ●う歯治療状況まとめ	
3	卒業式 第5回定期考査 (1, 2) 修業式	学校保健指導の総点検 ●健科治療指示 年間計画の反省、新年度の計画	学校環境衛生総点検 (反省、新年度の要望)	健康の自己反省	1 年間の健康の実態と反省 (次年度の健康生活への自覚を高める)	保健委 (保健だより) 1 年間の反省 (新年度の要望・計画)	耳の日

人弱、かなりのハードスケジュールとなった。特に歯周疾患（歯肉炎、歯槽膿漏、不正咬合）については、事前打合せと共通理解をもって、今年の検診内容をみながらの検診で、しばし時間を要する場面もみられた。表2は「平成3年度の歯科検診」の結果である。

各学年毎にクラスの実態、図1図2図3を示し、口腔衛生優良生徒を発表、クラスの励みとした。表3は過去3ヶ年間のDMF指数と、う歯処置完

表2 平成3年度歯科検診の結果

①う歯の処置完了と未処置保有者

(人)

性別	男						女					
	1	2	3	計	%	全国%	1	2	3	計	%	全国%
受検者	114	139	152	405	100		256	276	220	752	100	
健歯者	9	7	5	21	5.2		7	2	6	15	2.0	
う歯	処置完了	63	71	76	210	51.8	138	148	108	394	52.4	49.2
	未処置保有者	42	61	71	174	43.0	111	126	106	343	45.6	46.0
	計	105	132	147	384	94.8	249	274	214	737	98.0	95.2

②1人当りの平均処置歯と未処置歯及び未処置歯のカリエス程度の場合とDMF指数、第2大臼歯のう歯罹患率の状況

性別	男						女					
	1	2	3	計	%		1	2	3	計	%	
処置歯数	614	804	988	2406	1人当り5.9本		1684	2151	1759	5594	1人当り7.4本	
未処置歯数	96	178	237	511	100	1.2本	305	405	254	964	100	1.3本
う歯 カリエス 程度	C 1	47	73	112	232	45.4%	138	177	115	430	44.6%	90.8%
	C 2	35	71	91	197	38.6%	146	185	114	445	46.2%	
	C 3	11	25	25	61	11.9%	15	27	17	59	6.1%	
	C 4	3	9	9	21	5.2%	6	16	8	30	3.1%	
喪失歯数	19	12	27	58			35	36	49	120		
DMF指数	6.4	7.2	8.2	7.3			9.4	9.4	8.9			
第2大臼歯う歯数	184	264	355	803			575	722	608	1905		
(%)	(40.4)	(47.5)	(58.4)	(49.6)			(56.2)	(65.4)	(69.1)	(63.3)		

DMF指数=(処置指数+未処置指数+喪失歯)÷受検者

F

D

M

了、未処置歯数についてである。平成元年度から徐々に数値も向上し、歯科保健実践による効果の兆しが見えてきたようである。また、第2大臼歯う歯数について、罹患状況を調べてみたが、学年が進むにつれて増加の傾向がある。第2大臼歯は、歯ブラシが届きにくく、咬合面の溝が深く、う歯になりやすい歯である。奥歯の歯磨き指導も、虫歯予防の重要なポイントである。

③その他口腔疾患（不正咬合、歯周疾患）の発生状況

(延件数)

	男						女					
	1	2	3	計	%		1	2	3	計	%	
不正咬合	らんぐい歯(叢生)	12	32	22	66	(16.3)	47	44	49	140	(18.6)	
	切端咬合	4	7	6	17		11	8	8	27		
	交叉咬合	2	8	3	13		4	12	4	20		
	反対咬合	1	2	3	6	(16.3)	2	9	3	124	(9.4)	
	開咬	2	1	3	6	47	6	2	0	8	71	
	その他	3	1	1	5		0	2	0	2		
	計	24	51	38	113	27.9	70	77	64	211	28.1	
歯周疾患	歯周炎 歯槽膿漏	33	37	47	117	28.9	56	63	43	162	21.5	
	歯石沈着	20	9	20	49	(12.1)	29	34	27	90	(12.0)	
	計	53	46	67	166	41.0	85	97	70	252	33.5	
	その他			1	1	0.2						

図 1

④クラス別歯周疾患（歯肉炎、歯槽膿漏、歯石）・う歯保有者率 % (人)

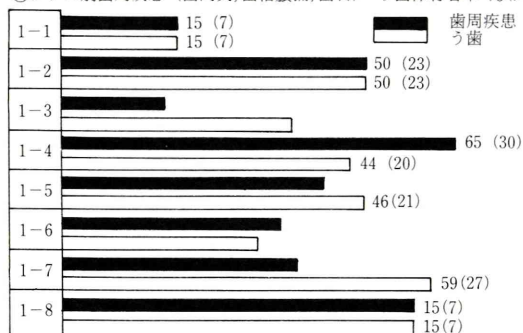


図 2

④クラス別歯周疾患（歯肉炎、歯槽膿漏、歯石）・う歯保有者率 % (人)

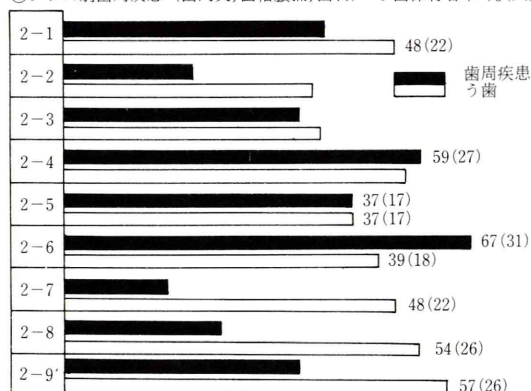


図 3

④クラス別歯周疾患（歯肉炎、歯槽膿漏、歯石）・う歯保有者率 % (人)

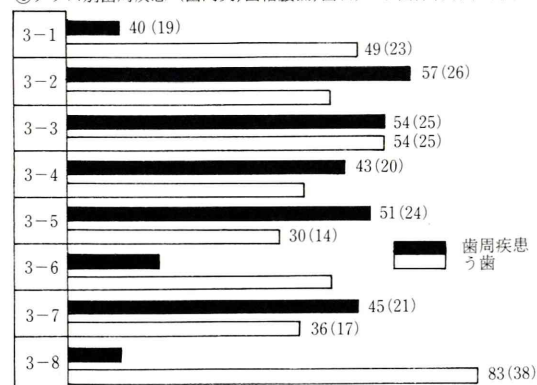


表 3 過去3ヶ年間のDMF指数と未処置歯数及び第2大臼歯う歯数の変化

学年			平成	1	2	3
D M F 指 数	1	男	7.0	7.6	6.1	
		女	9.1	8.2	7.9	
	2	男	7.5	8.1	7.2	
		女	9.6	9.3	9.4	
	3	男	9.1	8.0	8.2	
		女	10.3	11.2	9.4	
	全	男	7.8	7.9	7.3	
		女	9.7	9.6	8.9	
う 歯 処 置 完 了	全 (%)	男	45.1	43.5	51.8	
		女	42.1	44.0	52.4	
未 処 置 歯 数	全 (本)	男	1.5	1人 1.8	1人 1.2	
		女	1.5	1人 1.8	1人 1.3	
第 二 大 臼 歯 う 歯 罹 患 数	1	男	・	47.6	40.4	
		女	・	54.7	56.2	
	2	男	・	58.1	47.5	
		女	・	68.6	65.4	
	3	男	・	51.9	58.4	
		女	・	76.4	69.1	

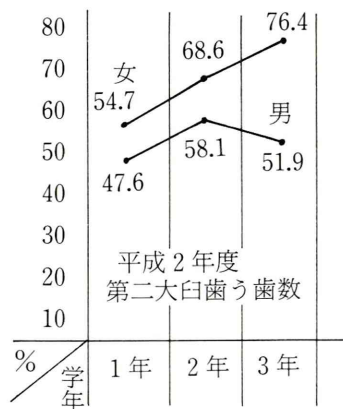
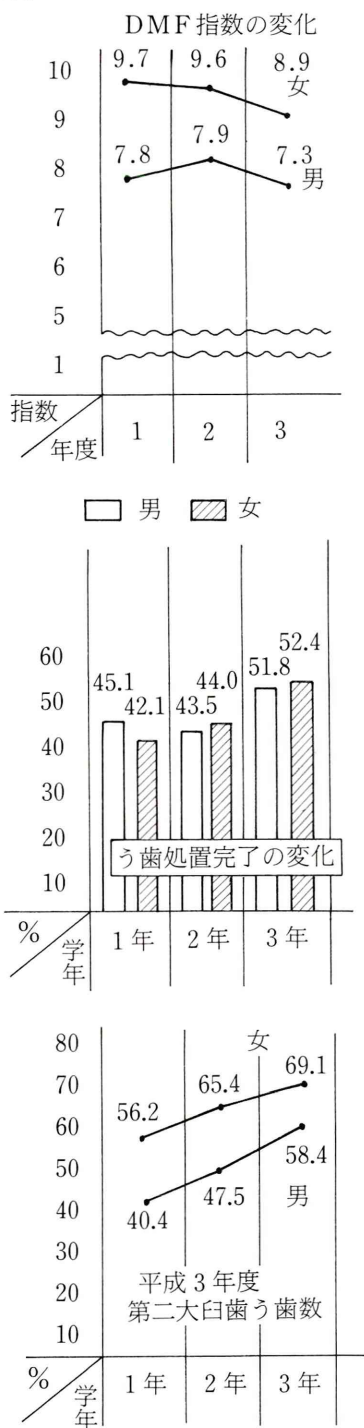


表3



(3) 歯に関する実態調査

(アンケート調査分析)

歯科保健を推進するにあたり、生徒の歯に関する実態を把握するため、本校歯科医の作成により、次の2つの内容を中心に、30問によるアンケート形式で実施した。

- 自己の歯の健康状態をどの程度知っているか
- 歯に関する知識、意識、生活状況（家庭環境と生活）の実態はどうか

平成2年10月 全生徒対象

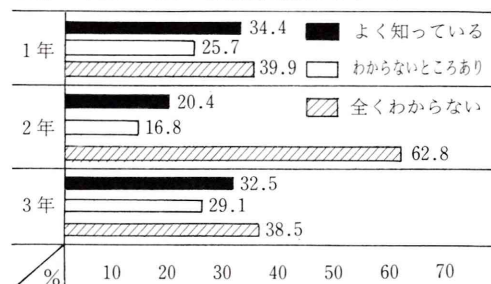
各ホームルーム担任により配布、回収は保健委員が行った。

○歯の健康診断の結果、自分の歯の健康状態をどの程度把握しているかについて

①虫歯になった歯は何本ありますか

「処置歯」、「抜いた歯」、「未処置歯（歯周疾患）」について、「しっかり記入してある」、「未記入のところあり」、「全く記入していない」の3つに分類、図①の結果となった。

図① 自分の歯の健康状態について



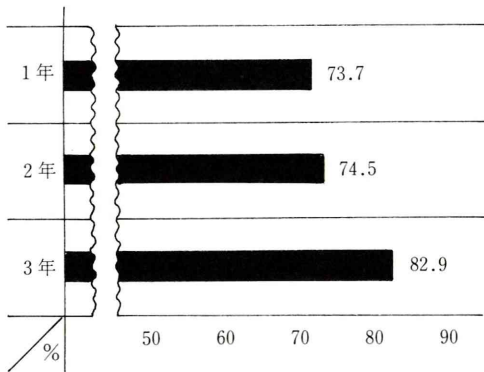
自分の歯について「しっかり記入」は、1、3年が30%にとどまり2年は20%、最悪である。全体では46.4%が全く記入していなかった。半数が無関心と言っても過言ではないようである。

○歯に関する知識について

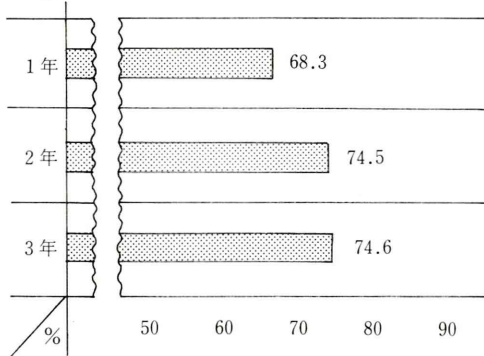
「歯垢（74～83%）、歯石（68～75%）、虫歯の原因（80%）、虫歯予防に大切なことでは、歯磨き（85～96%）がトップで、間食、規則正しい生活が低い、歯肉炎（54～63%）、歯肉炎の原因（19～23%）、歯槽膿漏（84～87%）、不正咬合（30～47%）、不正咬合の弊害（10～22%）、歯と全身病（35～46%）、歯の萌出の時期（26～39%）、口臭

の原因(47~61%), 咀嚼の大切さ(74~85%)の14項目についての知識は、大変低く、言葉は知っていても、その原因や弊害については、よくわかっていない。歯の役割についても、消化を助ける程度にしか、理解できていない状況にあることがわかった(図②—図⑭について参照のこと)。

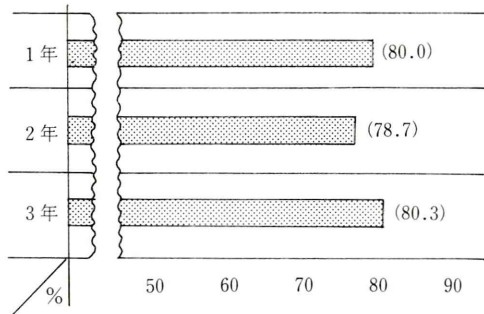
図② 歯垢を知っている



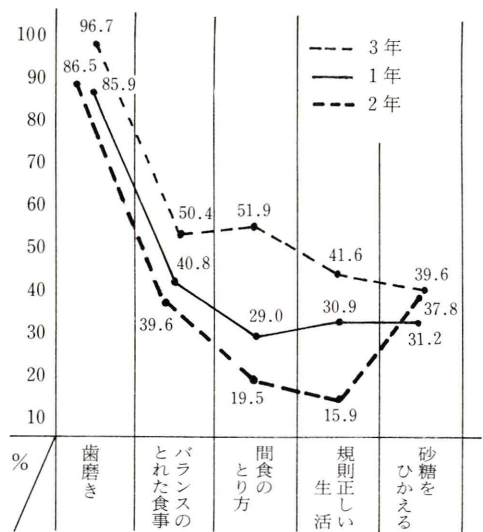
図③ 歯石を知っている



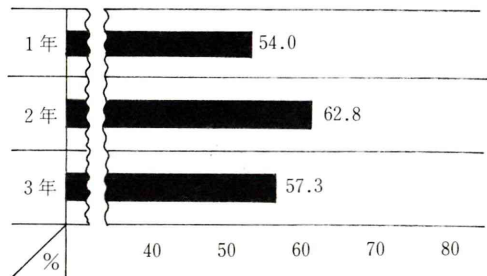
図④ 虫歯の原因を知っている



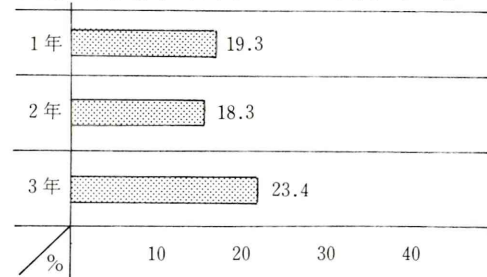
図⑤ 虫歯予防に重要と思われるもの



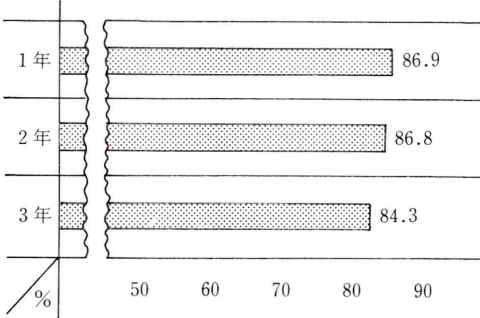
図⑥ 歯肉炎を知っている



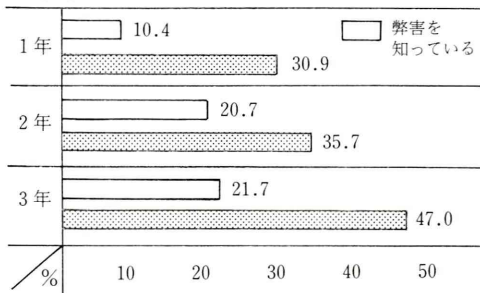
図⑦ 歯肉炎の原因について知っている



図⑧ 歯槽膿漏を知っている

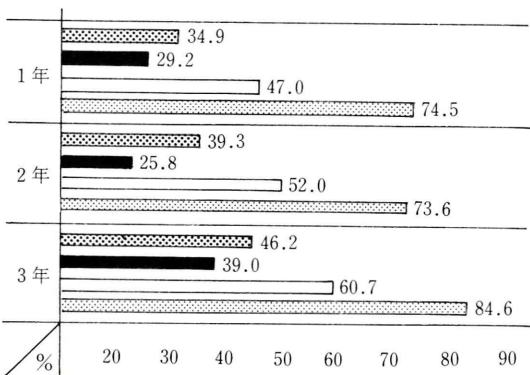


図⑨⑩ 不正咬合を知っている 又弊害を知っている



図⑪⑫⑬⑭

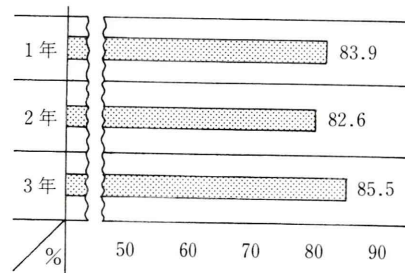
歯が原因で他の病気になることを知っている
 歯はいつごろから形成されるか知っている
 口臭の原因を知っている
 咀嚼の大切さを知っている



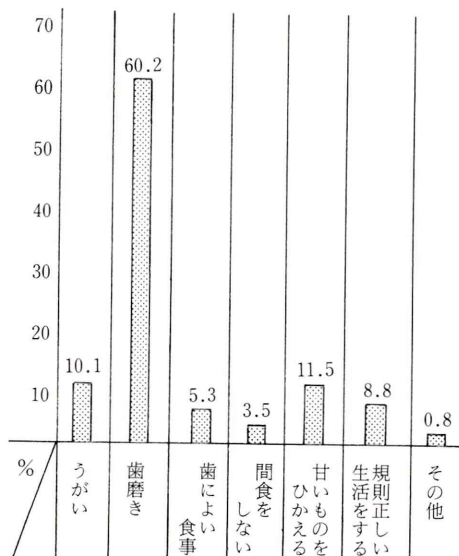
○歯に関する意識・関心について

「虫歯にならないように心がけているか」「それはどのようなことか」「健康でありたいか」「そのために何を心がけているか」について質問、図⑮、図⑯の虫歯予防では、「歯磨きをしている」がトップで60.2%、その他は10%前後と低い。

図⑮ 虫歯にならないように心がけている

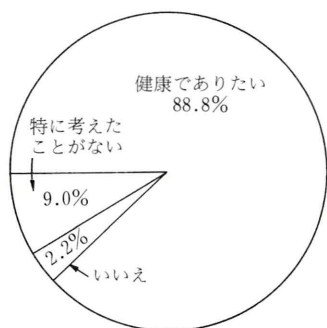


図⑯ 虫歯にならないように心がけていること

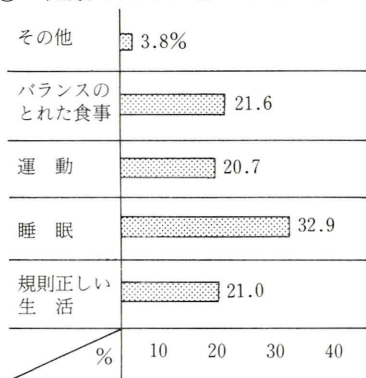


図⑰、図⑱の「健康のために心がけていること」は「睡眠」が32.9%でトップ、「規則正しい生活」「バランスのとれた食事」等は、20%前後である。歯の健康は「健康生活が基本である」とする意識までになっていない。

図⑱ 健康でありたいと思う



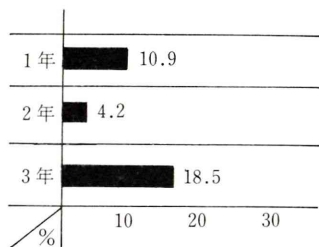
図⑲ 健康のために心がけていること



図⑲, ⑳「昼食後の歯磨き」は、一部の生徒が実践しているにすぎない。学校での歯磨きは「しなくてもよい」とする生徒以外はやった方がよいと思ってはいるが、いろいろ理由づけをして、やらない生徒が多い。歯磨きタイムの設定も今一つ消極的である。

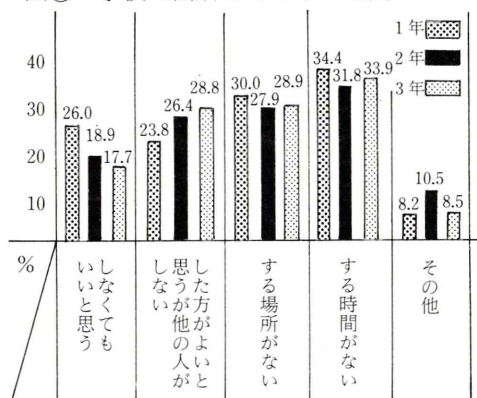
図㉑, 虫歯の治療をしない理由で「時間がない」50.1~66.4%, 解決策としては、長期の休みでし

図⑲ 昼食後歯磨きをしている

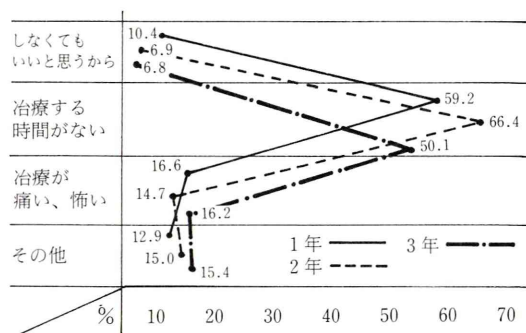


かとれない状況にあり、治療できるシステム作りが先決である。図㉒, 食事については、「好きなものを食べる」23.3% (253人) が男子に目立っている。気ままに食べている食生活に問題意識をもっていない。

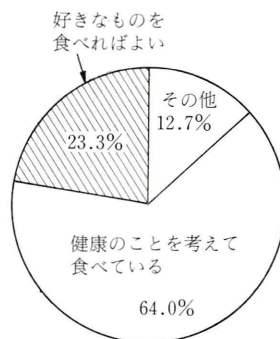
図㉑ 学校で歯磨きをしない理由



図㉒ 虫歯を治療しない理由



図㉒ 食事についてどう考えているか



○歯に関する生活状況（環境）について
 歯育ては、母親の子育てから始まり、家庭環境（生活）は家族の歯の寿命を左右するとまで言われている「歯と生活」はしたがって密接な関係にあり、切り離すことは出来ない。

図②③、乳歯の時の虫歯については、半数がわからないと解答、図②④⑤、両親の歯の治療は良く行われているが、歯周病、むし歯予防によせる関心は（44.2%）半数に満たない。

図②⑥⑦、歯磨きは、朝食後、就寝前の1日2回が多く、3回になると、学校での昼食後の歯磨きであるが、一部の生徒のみに止まっている。

図②⑧、食べ物の好き嫌いは、60～65%におよび、

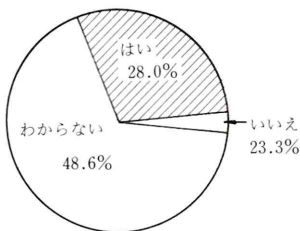
「食べたい時に食べる」、現代の風潮が如実に現われている。

図②⑨のジュース類は、どの位飲むかについては、ジュース類を好む＝虫歯の発生につながり、毎日1本以上37.9%、1週間で1本以上31.9%、全体で70%が清涼飲料水を利用、「ほとんど飲まない」は16.5%（180人）である。

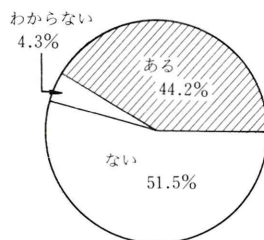
図③⑩「規則正しい生活をしている」は11.9%（129人）で、80%は、健康生活を意識していない。

「健康な歯は、健康な生活からつくられる」ということを再認識すべき、アンケート調査結果であった。

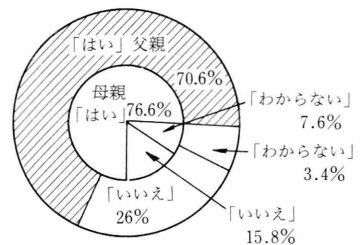
図②③ 乳歯のとき虫歯が多かったか



図②④ 両親の歯について関心があるか



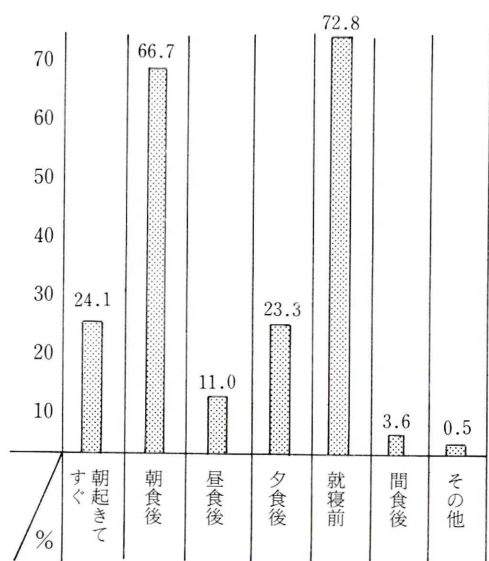
図②⑤ 両親は歯の治療をきちんとしているか



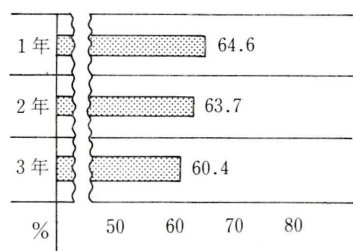
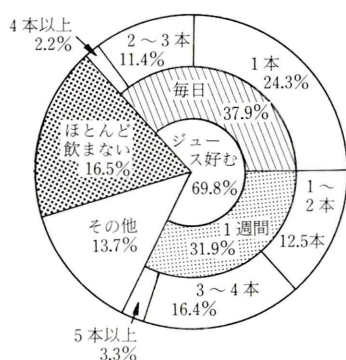
図②⑥ 1日に何回歯を磨くか

1年				
1回	2回	3回	4回	
(11.4)	(77.5)	(9.7)	(1.5)	
2年				
1回	2回	3回	4回	
(8.7)	(76.3)	(12.0)	(3.0)	
3年				
1回	2回	3回	4回	
(6.8)	(72.4)	(17.7)	(3.1)	

図②⑦ いつ歯を磨くか



図⑳ 食べ物で好き嫌いがあるか

図㉑ 1日にまたは1週間にどの位
ジュースをのんでいるか図㉒ 規則正しい生活をしているか
(はい 11.9 いいえ 21.4 まあまあ 66.7) 全体%

学年	はい	いいえ	まあまあ
1年	9.2	21.5	69.3
2年	12.3	19.2	68.5
3年	14.5	23.4	62.1

(4) 歯科保健に関する現職教育

歯科保健指導の実践にあたって、教職員の歯科に関する研修を実施した。

(5) 学年別歯科講話の実施

(6) LHRにおける歯科保健指導

一歯科保健授業の取り組み—

HR、体験学習時間における授業時間設定及び指導内容の検討

(7) 歯科相談

歯科校医の休診日（水曜日）午後3：00から月

1回の計画で実施に取り組んできたが、行事等で中止になることが多かった。相談生徒は、自主的に来談する生徒、呼び出しによる生徒に分けられるが、主に治療勧告された生徒の呼び出しが主である。

① 主なる歯科相談

月/日	時間	相談医	場所	対象生徒・指導内容
H 2 9/5	PM 3:30 (1時間)	歯科校医 (グループ) 指導	保健室	歯肉炎について 2一女ABC, 3一女ABC
H 2 9/26	PM 3:30 (30分)	歯科校医 (グループ) 指導	保健室	虫歯の治療について 1一男A 歯槽膿漏について 1一男C
H 3 3/20	PM 3:30	歯科校医 (グループ) 指導	保健室 ミニスライド 使用	歯槽膿漏 歯肉炎 の生徒 10本以上 う歯のある1年(18人)
H 3 3/27	AM 11:00	歯科校医 (グループ) 指導	視聴覚室 スライド 使用	歯周疾患の生徒 2年(65人)
H 3 7/19	放課後	養護教諭 (グループ) 指導	保健室 ビデオ利用	むし歯の原因 保健委員、食生活と歯 2一女ABC

個別指導用として、ビデオテープレコーダーテレビ一式用意、歯科校医の配慮で、11本のテープをダビングして利用している。

(8) 学校保健委員会における、PTAへの働きかけ

歯科保健研究推進委員会では、歯科教育実践にむけて、PTAの協力も得る必要性から、PTA三役員、各学年のPTA委員も保健委員会に出席依頼、歯科校医の講話を聞く機会を設定した。講話の内容では、「何故、今、歯科保健教育なのか」、「環境汚染の中で、親として、現代の子供達になにをしてあげることができるのか」「食べ物を与えることは他人でもできる」「親として、教師として、健康に生きるためのメッセージを送ってやってほしい」、「歯の健康も、健康な生活と密接な関係があつて子育て歯育てでもある」、「暖かなメッセージを送れるのは親しかいないのである」、この講話の内容を、ぜひPTA全員にも、という要望によって、学年PTA役員・教職員によって検討、7

月22, 23, 24日の3日間, 各学年PTA総会で歯科校医の歯科講話実現に発展したのである。

(9) 広高祭における「歯科保健コーナー」づくり

生徒保健委員会では, 2年連続で歯科保健について取り組んできたが, 「やる気をおこさせる」指導の難しさを強く感じている。

今年9月開催の広高祭では, 生徒の関心のある, 口臭のチェック, サリバスター測定, RDテストさらに咬合力検査も歯科校医の配慮で導入出来るなど, 微力ながら, みんなでつくりあげた意義ある「歯科コーナー」として, 実りあるものを得てほしいと願っている。

(10) 生徒保健委員会による「保健だより」の作成について, みんなが楽しく期待して読んでくれる, 「保健だより」を作るよう努力し, 主に1年生が今年は担当した。歯科保健に関する記事を必ずのせるように配慮すると共に, もう一つの強い味方が出来ている, それは「私の健康法」と題して, 宮城広瀬教職員の記事が, かならず載せられるからである。そして一言, 歯の健康にもふれてくれる思いやりのあるユニークな, 保健だよりである。

(11) 宮城県内高等学校における歯科検診・歯科保健指導の実態について (集計考察)

歯科保健研究推進委員会では, 1年間歯科保健指導の実践に取り組んできた, 県内高等学校歯科保健については, どのような実態になっているのか, 消極的になりがちな, 歯科保健について保健担当者の意見についてはどうか等について調査することにした。

平成3年5月県内109校にアンケート調査依頼, 74校について解答, 平成2年度保健計画の活動に基づいてのアンケート内容をまとめた。その一部を集めて述べる。

○歯科検診について

① 定期の歯科検診における, 学校規模別の歯科医数, 1人の検診割当数, および所要時間については, 資料1の結果となった。校医1人割当数の人数は, 学校規模別により100人からの差があり, 1クラス45~48人の検診時間27分はかなりハードといえる。1人1分という検診時間は当分望めそ

うもない。

資料1

規模校別区分	歯科医数	検診時間数	1人検診割当数	1クラス検所要時間
①499人以上	1.3	3.8	233	25分
②(500~799人)	1.3	3.5	516	28分
③(800~999人)	1.8	8.8	461	32分
④(1000~1299人)	2.1	10.2	547	24分
⑤(1300人以上)	6.2	12.1	337	28分
全74校平均	2.0	7.8	433	27分

② 検診事前指導として, 歯磨き指導の実施状況では, 歯磨きを実際に行なっているのは12校で, 他では, うがいの励行を呼びかけているといった内容が多かった。

③ 歯科検診結果, 家庭通知する時期, 検診後直ちに通知することは望ましいが, 10.8%にとどまっている, 歯肉炎, むし歯の早期治療のためには考慮すべき点である。

④ 事前指導については, 治療状況を報告させるまでが, 評価につながると思う。38枚にすぎなかった。

⑤ 検診後の治療状況は10%~20%が多く, 50%以上に達しているのが9校であった。

⑥ 治療したがない理由は, (173件) について「部活動で時間がとれない」が圧倒的に多いが, 「治療しなければ, という意識が薄い」, 「家庭の協力が少ない」, 「痛まないの」, 「歯医者が嫌い」など高校生の意識改革が必要と思われる。

⑦ 歯科治療に対して, 一般教諭の協力的配慮にいては62.2%, 人による21.6%, 協力的でない16.2%であった。

⑧ 歯科統計(平成2年度74校の保健資料から)74校の歯科統計をまとめたが内容を記入しているところが少なく, むし歯の程度, DMF指数, 歯周疾患については「かなり検診を綿密におこなわないと, 正確な統計は出ないと思われる。歯周疾患については, 現在, むし歯中心の検診が行なわれており, 歯肉炎0のところも多い状況である。

○歯科保健指導について

①歯科保健指導が計画的に実施されているか

74校中 42校 (56.8%) についての指導面では、「保健だより」64.3%全校一斉に12%, LHR12%, 個別指導では、歯科医の協力が7校(16.7%)にすぎない。

②具体的対応として、講演会、講話を聴くチャンスの設定状況については、14校 (18.9%) が計画し、学年毎に、13校が、歯科校医の協力を得ていることがわかった。

③歯周疾患、歯槽膿漏に関する科学的知識

○理解させる機会のある21校の具体的内容として

(1) 校医の立場から

1. 全校放送 テープによる指導、歯の週間 1校
2. 校医の独自の管理カード考案 (歯周病を重点において) 1校
3. 検診時一人一人に歯肉のマサージ、歯石除去を説明する 1校
4. 学年毎の歯科保健講話、グループ保健指導 1校

(2) 教科の立場から

1. 保健教科のカリキュラムの疾病の予防の中で指導 1校
2. LHRにおける保健指導 (1学年全クラス1時間設定) 1校

(3) 保健室の立場から

1. 保健だより { 歯の週間で年一回位 15校
年間5回位 1校
2. 保健指導として (オリエンテーション) 1時間のなかでふれる 1校
3. 健康診断事後指導の中でふれる 3校
4. 地域PTAを利用する広報活動 1校
5. 個別指導 月2回 歯科相談 1校

○歯科相談 (個別指導) の実施状況について、実施している9校 (12.2%) で、年1回 (むし歯予防デー) が、チャンスとして行われ、相談員として、校医2校、養護教諭8校に見られるように個別相談活動の、継続的設定時間にはきびしい面

がある。

○校内施設設備について

歯磨きなどを行なう洗面場が、不足している45校、ほとんどない20校で、87.4%と示し、鏡などの取り付け状況でも、不足している36校、ほとんどない27校で85.1%であった。

○生涯教育にむけて、これからの歯科保健教育のあり方について意見をまとめてみた。

これからの、取り組みの方向付けになればと思う。

(12) 研究のまとめと今後の課題

ここ数年、急激に歯周疾患が、社会病、生活病といわれてクローズアップされてきた。

生活・食生活の乱れから、口腔内の汚れが激しく「歯肉の状況をそのままに放置しておけば、どんどん深刻化することは、まぬがれないだろう」といわれている今日である。

「歯の健康」については小、中学校で十分指導され、高等学校では「いまさら」という傾向が強く、改めて「歯科保健」を実践研究することに、かなり抵抗もあった。しかし、現実問題として、歯周疾患の生徒が増加している状況をふまえ、教職員のコンセンサスを得、学校歯科医の協力で、この二年間、歯科保健の実践に一步を踏み出したところである。

◎歯科保健指導の動機づけとして

①保健安全指導の中に、歯科保健指導の計画を位置づけ、1つひとつ、歯科保健研究推進委員会で検討し、学校全体の取り組みとしてきた。

②生徒の歯科保健に対する教識、意識、生活状況が、健康生活上、きわめて低下しているところを見きわめ、それに対する指導の場をいろいろ工夫してきたところである。

◎LHRにおける保健指導として、性教育を(6年程前より)2年、3年各クラス毎に1時間行なってきた。今回その一連の取り組みとして、1年生のLHRに歯科保健指導を位置づけ、歯科校医の協力で、歯科の授業にとって身近な問題として

「自分の口の中に興味を持ち」、このままでは「将来、歯のない生活を送ることになる」では「どうしたらよいのか」。そこで、「自分の生活を見直す」ことから始まる歯科保健指導は、健康生活の基礎づくり、そのものであると思う。2, 3年においても、発達段階に応じて、系統的な歯科保健指導カリキュラム実現に向けて、努力したいと思う。

◎歯科保健指導評価のめやすとして、次の10項目をかかげてきた。

- ①歯垢がむし歯や歯周疾患の原因であることがわかり、正しい歯磨きを実践するようになったか
- ②歯肉炎の症状がわり、自分の歯肉の健康状態をチェックできるか
- ③歯肉炎を予防するための正しい歯磨きを実践しようとするようになったか
- ④染め出しによって、自分の歯磨きの問題点がわかったか
- ⑤歯の汚れがよく落ちる毛先の当て方、動かし方がわかったか
- ⑥間食、夜食のとり方がわかり、食後は必ず歯磨きをしようとする心構えができてきたか
- ⑦健康な歯で一生を過ごすには、良い食習慣や、歯磨きが大切なことがわかり、実践の心構えをもつことができたか
- ⑧歯はいつ頃からつくられ、どのように成長するか理解できたか
- ⑨健康な歯をつくるために、胎生期、幼少期からの健康生活の基礎づくりや、食生活の注意が必要であることがわかったか
- ⑩人生80年を健康に生きるためには、健康な歯が大切であることが理解できたか

◎個別指導、保健室での対応から、最近、歯科保健への対応に変化がみられるようになったことである。歯肉の調子が悪いと気づくと、すぐ歯磨きをする、人の歯肉がとても気になるなど。健康管理カードに1人ずつ歯肉の状態をメモして渡した歯科指導内容も、無駄ではなかったと思える近頃である。また、歯周疾患は健康生活、食生活

とのかかわりが大きいことを知り、特に甘いもの、ジュース類をひかえる女子生徒が目立ち、だらだら食べない、すぐ磨くに生活を変えたいという。

◎むし歯治療率が増加、歯周疾患が減少してきた。未処置率男子52.4%→43%に女子54.4%→45.6%に 歯周疾患の人、男子45.6%→41.0%に 女子39.0%→33.5%に

◎第2大臼歯う歯数については、すでに半数がう歯に罹患、学年が進むにつれて増加している、奥歯のブラッシング指導をしっかりと指導しなければならない。

◎施設、設備の対応として平成2年度、全洗面場に鏡を取り付け、歯磨き、うがいをできるように配慮した。

◎県内の高等学校の歯科保健の実態についてまとめたが、生徒の歯科の実態をふまえ、歯科保健を担当するものとして、お互いに連携をとり、学校歯科医の協力のもとに、う歯中心の検診から歯周疾患中心の検診へ、早急に見直さなければならない。さらに、歯周疾患、歯槽膿漏の対策も急務である。

終わりに、

「長期入院のお年寄りの歯を治療したら、ボケがすっかり直って、元気に生活するようになった」という話を生徒に話したところ、「歯は自分にとっていかに大切なものか、ピーンとききました!」とその生徒は答えたのである。「歯の大切さがわかってきた」「歯の1本でも、老人が自信をもって生きることが出来るよこび、"歯の偉大さ"」「歯は健康を支える力である」そんな話合いが続いた。この気持ちを大切に育ててゆきたいと思うものである。

最後になりましたが、本校歯科校医、宮内先生、はじめ、東北大学歯学部、岩倉先生、県教育委員会、武田先生、門間先生にご指導いただきましたこと、および、歯科器材等でお世話いただいた宮城歯科衛生士学院に深く感謝申し上げます。

“悪化する環境の中で……歯育ては子育て”

——高校における歯科保健教育の意義——

宮城県立宮城広瀬高等学校学校歯科医 宮内 昭 穂

はじめに

科学技術の目覚ましい発達により、我々人間の生活は便利になり、また、物質的にはたいへん豊かになった。しかし、反面、自然破壊や有害物質の氾濫など物理的環境の悪化に加え、家庭、学校、社会での人間関係の歪みなど精神面に関する問題が深刻になってきている。その影響は、口の中にも現われている。

高等学校における歯科保健教育の意義

- 1 一生自分の歯で食べるために
- 2 健康教育の柱として
- 3 これからの考え方、生き方へのメッセージとして

1 一生自分の歯で食べるために

(本来の歯科保健教育の意義)

(1) 歯の寿命と抜歯原因

日本人の平均寿命は男性75.91才、女性81.77才(平成元年)と世界最高で、年々伸びている。一方、歯の寿命は、残念ながらあまり伸びていない。最高の歯でも62.0才である。最低の歯だと40.9才である(表1)。

図1のように15才以上の抜歯原因の第一位は歯槽膿漏で50%、虫歯37%、その他(外傷、矯正など)13%となっている。しかし、30～60才の人で見ると、歯槽膿漏による抜歯がなんと90%にもなる。

(2) 歯槽膿漏の特性(虫歯との相違)

歯槽膿漏の患者さんには、治療を始める前によくこんなことを言います。「歯槽膿漏を治すのは患者さん自身であり、歯医者はその手助けしかできません」と。

また、虫歯、歯槽膿漏は、糖尿病、高血圧など

と同様、生活由来型疾患であるが、歯槽膿漏は、虫歯以上にその人の生活状況や全身状態の影響を受けやすい。つまり、虫歯は歯の強さと細菌の力関係で決まるが、歯槽膿漏は細菌と全身の生命力(抵抗力、治癒力)の力関係で決まる。その人の生活状況や全身状態に大きく左右される病気であり、生活、全身状態の改善に努めてくれないと良くならない。

虫歯は進行すると甘い物や冷たい物がしみて、すぐ気付くが、歯槽膿漏は Silent Disease(音もなく忍びよる病気)と言われるように、なかなか自覚症状がでない。

虫歯も自然治癒ということがないので予防、早期治療が大切であるが、歯槽膿漏の場合も歯を支える歯槽骨は一度吸収されてなくなると再生されることはない。虫歯の場合は金属やプラスチックで元通りの形に修復することができるが、歯槽膿漏の場合、歯槽骨を修復することはできない。

また、虫歯は一本ずつ悪くなるが、歯槽膿漏はまとめて悪くなったり、次から次へと悪くなって抜歯することになる。

歯槽膿漏には以上のような特性があり、そのために、抜歯原因の主要因となり、歯の平均寿命が伸びない理由の一因となっている。

(3) 歯周疾患(歯肉炎と歯槽膿漏)の増加と今後の歯の寿命

肥満、高コレステロール血症、動脈硬化、糖尿病、胃潰瘍、心臓病など、いわゆる成人病と言われる疾患が、どんどん低年齢化し、子供の間に急増している。歯科においても、その傾向が顕著で、歯の成人病と言われる歯槽膿漏に罹患している中学生、高校生が増えている。時には、小学生にも見られる。1988年の統計によると、高校生の75%が歯周疾患に罹患している。今、65才で約50%の人が総義歯といわれているが、今の高校生を含め、

表1 歯の平均寿命の年次推移, 性, 歯種別(永久歯)

(単位: 年)

			年 次	中切歯	側切歯	犬 歯	小臼歯		大臼歯	
							第 1	第 2	第 1	第 2
男	上顎	左	昭和50年	53.2	52.3	52.7	50.3	47.5	48.7	43.4
			56	54.9	53.6	54.7	52.2	49.5	50.7	44.8
			62	56.6	55.6	55.4	53.1	50.7	52.0	46.4
		右	昭和50年	53.8	52.3	52.8	50.3	48.3	48.9	44.5
			56	54.4	53.5	54.6	52.1	49.7	51.8	45.2
			62	56.4	55.7	56.0	52.8	50.9	51.9	47.0
	下顎	左	昭和50年	58.6	58.9	59.0	54.1	48.0	43.3	41.0
			56	59.7	59.9	59.9	55.7	49.4	44.5	42.3
			62	61.0	61.4	62.0	57.2	50.9	46.0	43.3
		右	昭和50年	58.2	58.4	58.7	53.9	48.5	43.4	42.2
			56	59.6	60.2	61.1	55.9	50.4	47.0	42.1
			62	60.8	61.3	61.7	57.4	51.4	49.1	43.7
女	上顎	左	昭和50年	49.4	48.1	48.9	46.7	43.7	44.7	38.5
			56	52.4	50.4	51.0	49.0	45.8	47.0	40.4
			62	54.0	52.4	52.8	49.9	46.8	49.1	41.5
		右	昭和50年	49.3	47.8	49.7	46.4	44.0	45.0	38.9
			56	52.5	51.0	51.6	48.8	46.0	47.4	40.5
			62	53.8	52.3	53.2	50.5	47.1	49.1	42.2
	下顎	左	昭和50年	55.2	55.3	55.7	50.0	43.4	37.0	36.9
			56	57.6	57.7	57.3	51.9	45.3	39.3	38.9
			62	58.9	58.7	58.5	52.9	47.1	42.6	40.9
		右	昭和50年	55.7	55.0	55.6	50.1	43.6	37.8	36.9
			56	57.8	57.2	57.9	52.5	45.9	40.8	39.3
			62	59.0	58.6	59.1	53.9	47.3	42.6	41.8

昭和62年度歯科疾患実態調査の概要(資料編)より

図1 人が歯を失う原因

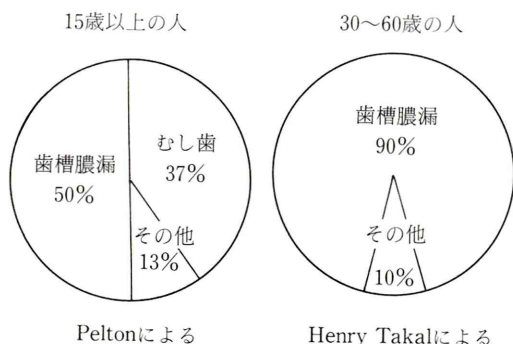


表2 一人平均喪失歯数の年次推移

		昭和32年	38	44	50	56	62
総数	20歳	0.32	0.36	0.61	0.86	0.40	0.38
	30	1.37	1.39	1.09	1.58	1.77	1.63
	40	4.47	4.10	3.64	3.26	2.66	3.01
	50	8.74	9.32	7.25	7.35	7.04	5.23
	60	13.10	14.98	14.90	14.08	15.49	12.18
	70	18.14	19.32	19.88	19.88	21.17	20.10
男	20歳	0.29	0.35	0.56	0.37	0.23	0.38
	30	1.20	0.98	0.55	1.00	1.13	1.65
	40	3.23	3.01	2.45	3.04	2.07	2.75
	50	7.01	6.61	6.78	5.53	6.40	3.81
	60	10.90	12.32	12.80	12.28	12.64	11.36
	70	15.59	17.26	17.47	19.16	19.26	18.89
女	20歳	0.33	0.37	0.64	1.22	0.55	0.37
	30	1.49	1.61	1.39	1.87	2.09	1.63
	40	5.24	4.86	4.47	3.38	3.06	3.21
	50	10.10	11.33	7.61	8.74	7.61	6.25
	60	15.46	17.23	16.32	15.41	16.84	12.76
	70	21.23	21.21	21.95	20.38	22.83	20.72

昭和62年歯科疾患実態調査の概要（資料編）より

表3 8020達成のための中間値

（佐々木，岡田ら）

年齢	（理論値）	40歳でスタートしたとき	30歳でスタートしたとき
30	26.63	—	26.63
40	25.09	25.09	26.10
50	21.94	24.31	25.33
60	16.27	23.24	24.16
70	9.19	21.82	22.42
80	3.88	20.00	20.00

今後、40歳で総義歯という人も珍しくなく、50歳で半数の人が総義歯ということになりかねない。

（4）歯周疾患の原因と対策

歯周疾患の原因は歯垢や歯周ポケット内の細菌であることは周知のことである。しかし、細菌のことだけを考えていたのでは、問題は解決しない。本来、病気は原因を除去すれば治癒力により良くなる。若くて治癒力が旺盛で、軽度の歯肉炎であれば、それで良くなるかもしれないが、実際はそう簡単にはいかない。

歯槽膿漏はその特性の項で述べたように虫歯と違い自覚しにくいし、生活全般を見直さなければならぬので、対策としては非常に難しい。

彼等が50歳で総義歯にならないですむか否か、まさに、今後の高校における歯科保健教育如何にかかっていると言っても過言ではない。

（5）歯育ては子育て

もうひとつ、高校で歯科保健教育に取り組んでほしい理由がある。それは、近い将来、彼等も親となるであろうから、親として必要な知識を伝え、子育てのことを考える機会を与えてもらいたいということである。

（6）口の中の健康と Quality of Life

表4 噛むことの意義 尾崎正茂

- 噛めば噛むほど……噛むことの効用についての10項目
1. 食物を破砕する……消化がよくなり本当の味がわかる
 2. 歯や顎の成長を促進し丈夫にする……顔つきが美しくしっかりする
 3. 口の中の自浄作用を促進する……むし歯になりにくく歯肉も丈夫になる
 4. 筋肉が正常に作用する……姿勢がよくなる
 5. 頭の血流をよくする……頭の働きがサワヤカになる
 6. 神経を刺激する……心が安定して情緒が豊かになる
 7. 表情筋を刺激する……表情が豊かになる
 8. 唾液酵素が働く……ガンになりにくくなる
 9. 唾液腺ホルモンの分泌を促進する……いつまでも若々しくいられる
 10. 脳を刺激し、その発育を促進する……頭の良い子になる

歯には咀嚼, 発音, 審美などの役割があるのは誰でも知っている。近年, 噛むことの意義が注目されている(表4)。

2 健康教育の柱として

(1) 環境と健康

今, 盛んに環境問題が言われている。酸性雨, 森林伐採, オゾン層破壊, 農薬, 食品添加物など挙げたらきりが無い。何故, こんなに騒がれるのか。我々人間にとって環境とは何なのか。

(2) 健康教育の必要性と歯科保健教育の立場

益々悪化する環境の中を健康で生きてゆくためには, また, 子供を健康に育ててゆくためにはどうしたらよいのだろうか。それは, 虫歯予防と同じように健康教育しかない。

虫歯は他の病気と違って, 目に見えて, かつ, 大多数の人が罹患しているという特徴がある。妊

図2 環境と病気

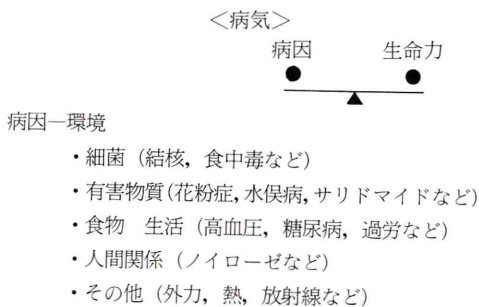
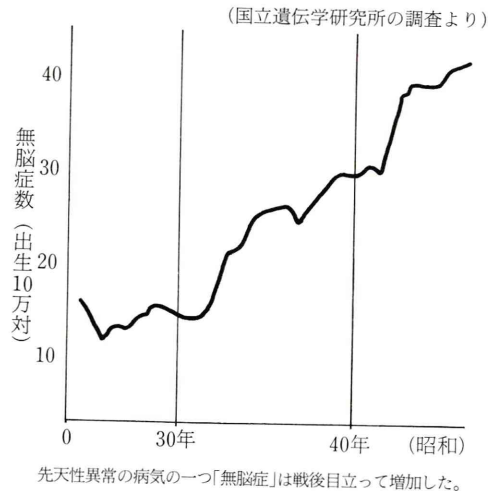


表5 口唇裂, 口蓋裂の原因

遺伝子の異常（遺伝因子）
環境の異常（環境因子）
母親側の異常 ▽年齢▽精神的影響▽栄養不足＝ビタミン, 糖などの異常や貧血▽し好品＝酒, コーヒー, たばこ▽婦人科疾患▽病気＝梅毒, 風疹(しん), インフルエンザ, 水痘, トキソプラズマ, おたふくかぜ, 循環器系障害▽薬＝避妊薬, 副腎(じん)皮質ホルモン剤(ステロイド) など▽エックス線照射▽その他
父親側の異常 ▽年齢▽し好品▽病気▽エックス線照射▽その他

図3 無脳症の増加



娠すると丈夫な赤ちゃん, 丈夫な歯になるように栄養に気をつけ, 生まれてからは, まず虫歯にならないように心がける。そして, 幼稚園, 小学校, 中学校, (高校?)と歯科保健教育が展開されている。こうして見ると, 虫歯予防が健康教育の第一歩であり, 健康教育の柱となっている。

悪化する環境の中で, 親の役割と健康教育は益々重要になってくる。そして, 歯科保健教育は健康教育の柱として, 更に充実, 発展されなければならない。

3 これからの考え方, 生き方へのメッセージとして

現代社会の問題として, 健康, 環境のことについて述べたが, もうひとつ人間関係の問題がある。家庭内暴力, 校内暴力, 非行など, 家庭, 学校だけではなく, インフォームド・コンセプトが言われるように, 医療の現場でもこの人間関係の問題が深刻である。

高校生ともなれば, 歯, 健康, 環境, 人間関係が欲望のまま行動することにより悪くなること, これからは, 欲望を抑え, 「何かのためには少し我慢し, 何かのために少し頑張る」ことが必要であることを理解できる。そのことを, 歯科保健教育を通して, 彼等にメッセージとして伝えていけるのではないかと思う。彼等には, それを受けて自

分の考え方を形成していった、これからの人生や子育てに生かしてほしい。それができた時、教育現場の悩みも、医療現場の悩みも解決に向かうものと思う。

人間は誰しも幸福を願う。しかし、願っただけでは幸福になれない。私は幸福の条件として3つ考えている。お金(敢えて否定しません)、そして、健康と人間関係。歯科保健教育を通して、健康と人間関係の2つの条件についてメッセージを伝えることができる。そして、そのメッセージを受けて自分で考え、努力することによって、初めて願いを実現することができる。こうしてみると、歯

科保健教育が人間の幸福にとって、いかに重要かがわかる。

最近、幼稚園、小学校、中学校では歯科保健教育が盛んに行われている。高校では殆ど行われていないのが現状であるが、高校における歯科保健教育は、歯にとどまらず、子育て、全身の健康、環境問題、人間関係、更には、考え方、生き方、人間の幸福にまで及んで展開することができること。彼等もいずれ親となり子育てをするようになること、そして、教育を受ける最後の機会であることなどを考えると、本当に重要な意義をもっている。



高等学校の公開授業にて

〔研究協議会報告〕

●座 長	日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
〈シンポジウム〉		
●報 告 者	日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
〈幼稚園・保育所部会〉		
●報 告 者	日本大学松戸歯学部教授	森 本 基
〈小学校部会〉		
●報 告 者	日本学校歯科医会常務理事	石 川 実
〈中学校部会〉		
●報 告 者	明海大学歯学部教授	中 尾 俊 一
〈高等学校部会〉		
●報 告 者	東京医科歯科大学歯学部教授	岡 田 昭五郎

全体協議会

司 会 議長団		日本学校歯科医会副会長	西連寺 愛 憲
		日本学校歯科医会副会長	木 村 慎一郎
		前回開催地代表	松 島 悌 二
		次回開催地代表	白 神 進
		今回開催地代表	松 尾 學
報 告 議 事	第54回大会採択事項の処理報告	広島県歯科医師会会長	松 島 悌 二
1 議案	学校歯科健診をより万全にするため検査器具及び検査場の整備拡充を要望する		
	提案者 宮城県学校歯科医会	郷 家 智 道	
2 議案	学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を強く希望する		
	提案者 富山県学校歯科医会	黒 木 正 直	
3 議案	学校健診の基準見直しの際に教育的な事後措置に活用できるような様式を考慮される事を要望する		
	提案者 埼玉県歯科医師会学校歯科部	浦 島 治	

〈第 1 号議案〉

学校歯科健診をより万全にするために検査器具
及び検査場の設備の整備拡充を要望する

(代表提案者) 宮 城 県

(提案理由) 近年、学校歯科健診の実施にあたっては、診査の精度とともに感染症等の予防にも心がけなければならない時代になってきている。

昭和62年の第51回全国学校歯科保健研究大会、そして平成2年の第54回全国学校歯科保健研究大会で決議され要望してあるように、健診時の感染予防を図るためには、検査器具（ミラー、ピンセット、探針等）の数量的整備と消毒設備の充実が不可欠である。

また、健診結果の誤差をなくすためには、特に照明器具の整備が重要であると考える。

よって、学校歯科健診をより万全にするために、検査器具等の数量的な問題と照明及び消毒設備の拡充を図る行政上の指導を重ねて強く要望する。

〈第 2 号議案〉

学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を強く要望する

(代表提案者) 埼 玉 県

(提案理由) 本件については、平成元年の第53回大会とつづいて昨年の第54回大会でも決議されている。

学校保健委員会は、学校保健安全面に有用なばかりでなく、近年の社会環境の激変に対応できない子ども達の、いわゆる心の問題に対しても対処できる、学校・家庭・地域そして校医が一丸となって取り組める唯一の機関であると考ええる。

また、学校保健委員会は、学校保健法第2条に関わる形で、文部省体育局長通達＝学校保健法・同施行令の施行に伴う実施基準について＝によって定められているにもかかわらず、現在は設置されていないか、設置されていても十分な活動をしていない学校も多数見受けられる。

児童・生徒の健やかな発育を願い、心豊かで逞しい子どもの育成を目指すために、同委員会の設置ならびに活動の充実を図る行政指導を重ねて強く要望する。

〈第3号議案〉

学校健診の基準見直しの際に教育的な事後措置に
活用できるような様式を考慮される事を要望する

(代表提案者) 富 山 県

(提案理由) 現在の学校における健康診断の基準は、昭和33年の学校保健法施行依頼のものであり、近年の歯科学の進歩ならびに幼児、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に対応するような考慮がなされていない。

日本学校保健会では文部省の委託を受け、その基準、様式の見直しに入っているが、この見直しにあたっては、社会環境の変化に伴う口腔環境の変化や歯科学の進歩を十分に考慮され、教育的な事後措置に活用できる基準及び様式が採用されることを要望する。



第79回 FDI 年次世界歯科大学に参加して

日本学校歯科医会 会長 加藤 増 夫

1991年度 FDI 第79回大会は、10月7日より13日までの7日間にわたり、イタリア・ミラノ市の国際見本市会場で開催された。

FDI (国際歯科連盟) は International Dental Congress (万国歯科医会議) として、フランス歯科医会の長老でパリー歯科医学校の校長たるエドアル・シャルル・ゴードン (1854-1923) の主唱で、1889年 (明治22) に第1回が開催され5年毎に開催することが決議されており、第2回は1893年 (明治26) シカゴで開催された。

この第2回会議を The World's Columbian Dental Congress と呼んだ。このとき日本から高山紀斉が政府より出向を命ぜられている。

第3回は1900年 (明治33) にパリーで万国博覧会が開催されたのを機会に開催され、このときの参加国は17カ国で盛會を極めている。即ち英国、カナダ、オーストリア、ベルギー、デンマーク、ロシア、フィンランド、スペイン、ポルトガル、ノールウェー、イタリア、ドイツ、フランス、メキシコ、米国、日本の多数国であり、この会議には小幡英之助、高山紀斉、一井正典、伊沢信平、富安 晋、榎本積一、青山松次郎、菅沼友三郎、荒木盛美が出席している。この会が正式に FDI 大会となった。

第2回会議の際にゴードンの主唱で大会の準備機関として新たに万国歯科連盟 (International Dental Federation) が成立して5年目の大会の中間における準備機関として、毎年1回欧州にて、その連盟の総会を開催して、各国の代表委員が各部門で討議することにしていた。

然し第一次世界大戦の開始により機能も停止され、平和回復で第6回会議が開催されたのが1922年 (大正11) にマドリッドで、第7回会議は1926年 (大正15年) アメリカ独立150周年祝賀がフィラデルフィヤで開かれるのを機会に開催され、日本

から島峰 徹、奥村鶴吉、岡田 満、中川大介などが出席しており、その後第二次大戦などで開催が中止され、平和回復と共に FDI は毎年開催することで第78回年次世界大会がシンガポール、そして1991年が第79回大会でイタリア・ミラノで開催されることになった。

特に、前日本歯科医師会長の山崎数男氏がミラノ大会の総会で FDI の会長に就任することが決定されて、2カ年間の任期を世界歯科界の前進のため尽力することになる真に意義ある大会であることから、神奈川県歯科医師会として有志の方々が参加することになった。

日本学校歯科医会も事業計画により医事渉外および国際交流の推進を掲げ FDI・APDF (アジア太平洋歯科連盟)、APRO (FDI・アジア太平洋地域機構) との交流および連繋の強化をうたっており、昨年のシンガポール大会に続いて不肖、日学歯を代表する立場で参加した。また、日本歯科医師会代表で FDI 委員の田中建吾氏が日学歯での国際渉外委員長も兼任しており現地で一諸して行動させていただいた。

第79回大会の学術プログラムには「最善の口腔保健ケアを通して最適な口腔保健へどのように到達するか、最新の知識について包括的なプログラムを皆様に提供すること」を目的として、以下の3つのメインテーマ講演が用意されている。

1 「補綴物適用の基準」

a 優秀さを追求した最高の品質

M. Martignoni (イタリア)

b パネルディスカッション: 補綴物の基準
司会

K. Lang (スイス)

講演者

W. Kalk (オランダ)

J. Preston (アメリカ)

B. Gillins (オーストラリア)

P. O. Glantz (スウェーデン)

L. Tedesco (アメリカ)

c. 歯科補綴学における社会的・経済的基
準 L. Tedesco (アメリカ)

2 「小児の歯髄疾患とその結果：予防と治療 の可能性」

a 乳歯の歯髄疾患

F. Andreassen (デンマーク)

b 外傷：歯髄疾患が次第に増えている原因
の一つ

J. O. Andreassen (デンマーク)

3 「齲蝕の再発とその予防」

I. A. Mijor (ノルウェー)

F. Toffenetti (イタリア)

E. A. M. Kidd (イギリス)

また、学術プログラムと並んで、大会の中心を
なすシンポジウムにも前述のコンセプトに沿った
テーマで、8つのシンポジウムが企画されていま
す。これらシンポジウムのテーマは以下の8項目
である。

シンポジウム1：補綴前手術

シンポジウム2：小児期と青年期の歯科疾患
の予防と管理における歯科医師の役割

シンポジウム3：歯科矯正学における予防、
あるいは予防が必要となる自体は予防で
きるか？

シンポジウム4：歯髄の損傷の予防と修復歯
科

シンポジウム5：歯科医療における品質保障
(Q&A)

シンポジウム6：口腔癌患者の術前・術後の
ケア—歯科医師の役割—

シンポジウム8：エイズと肝炎

その他、各常置委員会のオープンセッションや
フリーコミュニケーション、テーブルクリニック、
視聴覚発表等、興味深いプログラムが随時行われ

る予定であり、どのプログラムも充実した内容の
ものであった。

開会式について——

本大会の開会式は、10月8日午後9時よりミラ
ノ市内の体育館で行われ、約90カ国7000人で日本
から200人が参加。神奈川県よりの参加者は全員日
の丸の小旗を持参して、会場での参加各国が順々
に紹介されるなかで“日本”との紹介時には日の
丸の旗を振って、本大会12日のFDI総会Bで山崎
数男日歯名誉会長が正式会長に就任することでも
あり、全員声高らかに“オー”のかけ声で、いわ
ば山崎応援団としても真にすばらしい光景で、参
加各国から全員の拍手を巻き起した。



山崎日歯名誉会長とともに

私共が開会式前に入場着席したとき、山崎数男
氏をはじめ日歯よりの鶴巻・宇治・西山の各先生
方が挨拶に席前にこられたことは、遠路イタリ
ア・ミラノまで神奈川県から50名に及ぶ多くの研
修団員が参加されたことに対する深い感謝の意
を深めてのことでもあり真に意義深い一齣でもあ
った。

開会式では、ゴンザレス FDI 会長、イタリア歯
科医師会長ジョルジョ・ステッラ博士並びにイタ
リア厚生大臣デ・ロレンツオの3氏の挨拶に続き、
ゴンザレス会長より本年度のFDIに功績のあつ
たフィンランドのL. デリヴィオ女史がFDI栄誉
賞、功労賞はオーストリアのN. ヘンリー博士の
2人の方の表彰が行われたあと、イタリア民族芸
能が1時間にわたって披露された。

**開会式での大会実行委員長イタリア歯科医師
会長 Dr. ジョルジョ・ステッラ氏の挨拶：——**

ついにこの待ちに待った“私たちの”大会の日がやってきました。ついに実現したのです。私たち一人ひとりに言い表しようのない感動を呼び起こす“現実”と化したのです。私が委員長を務めさせていただいて参りました、この実行委員会が重大な責任を担い夢見つつ、案を練り出すあの第一歩を踏み出したのです。

しかしながら、このミラノ大会が身近な事実として私たちの目前に迫ったのは、去年のあのシンガポールでイタリアンナイトの折りに現地実行委員会から私ども実行委員会への事実上のバトンタッチが行われた瞬間からでした。

目標がまだ遠くありましたが、私たちの目の前に細部に至るまで全貌を現したのです。現場の問題として、計画の具体的な数字を図り直したり、いろいろな考えが交差して、期待と不安で焦燥感すら覚えたものでした。

思えばなんと長い間イメージを描き続けて来たことでしょう。アムステルダムスその前のワシントンさらにその前のプエノス・アイレス。これらの一つひとつのステップが今日では、もはや遠い記憶の彼方に感じられますが長期にわたって夢中にさせる緻密さと息の必要な仕事の道程にリズムを与えてくれました。

この仕事を今日皆さんに披露致します。私たちの言葉や思い出ではなく、皆さんのこの感想と事実自身が評価を下す番でしょう。しかし、このFDIの大会をイタリアがホスト国として招聘開催するためのあらゆる努力が惜しまれなかったことだけは私が保証いたします。そして大会への期待に応えるだけではなく、大学や私たちの専門分野レベル、つまりはイタリアの歯科学会全体が、日々向上に努めてきたそのバイタリティーと到達した高度の学識レベルをも、証明できる大会であることもまた申し上げておきます。

東欧諸国やソビエト連邦の経験しているグローバルな再編成をも含めて、すぐその扉まで来ているヨーロッパ一本化のプロセスを考えれば、正

に今、世界は歴史的な重大な節を迎えています。大陸全体の歯科関連状況にも決定的な変化が起りつつあり、そして、ミラノ大会がその変化を正面に臨んでいることは確かな事実ですから、誇りをもって申し上げられる事は、この大会がおそらくは今までの全ての世界大会中最も国際的であるということです。

ローマのエウル大会次来、30数年を経て再びイタリアがこの輝かしいイベント開催国と決まり、重大な実行準備に取り掛かった頃には、このような世界情勢の変化は誰もが全く想像さえしませんでした。

多くの実に多くの人が、この大会のために熱意をもって貢献してくれました。この場を借りて心からお礼を申し上げたいと思います。

私の有能な片腕として働いて下さった全ての実行委員会の面々ロジジョ・ヴォージェル教授と、そのもとで働いた素晴らしい学術関係実行委員会メンバー、軍部関連実行委員会のスコッティ・ディ・ウッチョ大佐、AMD（イタリア歯科医師会）の会員、執行委員長のアルベッティ・ファリーニ、婦人実行委員は私たちの学界オーガナイザー：パリーニ・アツソチャーティ社、そして友人たち、辛抱強く付き合ってくれた会員に、それぞれがそれぞれに自分の専門に応じ意見、努力、辛抱の出し惜しみをせず、個人的な仕事や組合の仕事、プライベートな生活までも犠牲にして精一杯働いてくれました。

そして国際FDIの友人たち。彼らにとってはごく通常の大会にすぎないこのFDI大会が、私たちにとってはそれこそ“生きる理由”でさえあったことを理解して下さった国際FDIの友人たちにも感謝の意を捧げたいと思います。

人間として歯科に携わるものとして、私たちはこの学会の機会を国際歯科学会の歩みの証しとするために一身を賭して働いてきました。

大会はたった今から、私たちの大会ではなく、皆さんの大会に、全ての参加者の方たちの大会になりました。第79回国際FDI大会にご参加を感謝します。

FDI 会長挨拶：——

Dr. ルペルト・ゴンザレス・ジラルダ

親愛なる皆さん

歯科医師会の国際組織である FDI は、この国際歯科医師会大会を機会に、34年ぶりにイタリアに戻って参りました。今回はミラノ、国の北に位置する産業の首都での開催です。

この長い年月の後、FDI はイタリアに華々しく栄華を誇る国と、量質とも膨大な成長を遂げた歯科医師会を見出しました。実際は個々の事実につ



ゴンザレス FDI 会長を囲んで

いて分けてお話しするべきでしょう。FDI はまた、世界有数に成長したイタリア歯科関連産業とも出会いました。

歯科産業ナショナルユニオン (UNIDI) のサポートで、イタリア歯科医師会が実現し、世界に、イタリアの歯科医師会の力を示す、この、第79回 FDI 年次世界大会によって、世界中の歯科医の友人たちが、多くの実りある贈物を得るためである事を信じて疑いません。

FDI の世界大会の多くの利点のうちの一つは、開催国の政府、あるいはマスコミが大きな関心を寄せてくれることです。このことは、政界や一般市民に歯科衛生の大切さを伝え、よりよい口腔の健康と新しい治療への関心を高める直接の効果を生みます。

FDI は、歯の健康や純粋な意味での歯科の病気が、まだ一般的に、公衆衛生や市民の健康問題レベルでは、あまり重要な問題に位置付けられてないことを重々承知しています。

この意味からも、特に FDI は、歯科の問題を扱

う公共組織や歯科医師が、口腔の管理を通じて、市民の健康を促進する重要な機関であるとの評価を定着させる事を望んでいます。

FDI は、全ての市民が最良の歯科治療を受けられる体制を整える事を基本と考えます。

このような目的を常に念頭において、これを促進するための機会は常に、最大限に利用したいと思います。この理由で、FDI はミラノ大会の選んだタイトル“みんなのための口の健康”が大変気に入っております。大会は今までの全ての大会のように一般の人々や政治家に口の健康が、人のより良い生活と健康のための一つの要である事を伝える具体的な手段となる筈です。

全世界の人々の口の健康を確保するためには、歯科医は日々の研究、勉強に努め、歯科医療の緊急な必然に答え得るため、特に老人や身体の不自由な人、経済的に余裕のない人々への救済にも力をいれ、新しい治療法、様々な可能性を見出す努力を続けねばなりません。

一方、今日でもまだ多くの国では、歯科医療の概念すら明確に確立しておらず、さまざまな社会状況や他の条件によって、非常に大きな格差が見られます。この機会を利用して申し上げておきたいのは、歯科医療の統一と専門の分化は決して相対するものではなく、一つの歯科医療団体という大きな組織中にある様々な要素を活性化したからこそ、今日の隆盛があると言って過言ではありません。ですから、ますます結集力を強め、共に大きな国際歯科医師会の声をあげようではありませんか。全てのレベルで、人々にとって、我々歯科医にとって、何が一番ベターなのかを宣言するための声を。これこそが国際的な歯科医師の力を最も有効に適用する方法です。

この大会は政治的にも経済的にも全世界の人々を巻き込むドラマチックな変換期に開催される事になりました。歯科に携わるものも、より多くの挑戦に臨まねばなりません。

私は歯科医療が、新しい責任を立派に果たしていく事を信じて疑いません。この仕事の成功には、技術的な革新の分野で主役であるばかりでなく、現代社会の複雑な問題に答え得る、人間的な面で

の準備も必要です。あざやかな技術、技巧を駆使するのみでは充分ではなく、人間的、社会的に大きな貢献ができるよう努めねばなりません。

歯科における人間的とは医療に携わる時の、分析的、柔軟な対応の姿勢を申しております。ヒューマニズムの最終目標は、その古典的な意味を振り返ってみても、人間性の発見と、人間生活の合理化であります。

最後にこの大会が、遠いローマの時代から、世界の文明化に大いなる意味を残してきた、この国で、開催される機会をとらえ、イタリア歯科医師会のますますのご発展をお祈りすると共に、成功のため、その伝統的な開放的精神を持ち続けて頂くことをお願いしたいと思います。その精神こそが人生の真実を追及するための全てを含み、また歯科医師の仕事を助けるものと信じます。

私たちのホスト、イタリアの皆さんに厚く御礼申し上げ、また参加者の皆さん全てには、多くの実りある大会であることをお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

表敬訪問について——

私共研修団は、10月11日午前10時イタリア歯科医師会長 Dr. ジョルジョ・ステッラ氏を国際見本市会場内の大会準備本部に表敬訪問した。

大会開催中の大変ご繁忙の中であつたが、約1時間に亘り懇談出来たことは、大きな喜びであつた。ステッラ会長は長身で大変親しみある態度で私共を迎えられた。

ステッラ会長より歓迎の挨拶：——

まず、いらっしゃって下さいました皆様に一言ご挨拶申し上げたいと存じます。

私どものこの大会にご遠方にもかかわらず、日本より大変多くの先生方がご参加下さいまして、感謝致しております。また今日は、わざわざ私を訪ねて下さいまして、この交流の機会を持てる事を重ねてお礼申し上げます。

イタリアには毎年たくさんのお国の方々が来られますから、すでに皆さんにとっては御馴染み国であるかと存じますが、ミラノはファッションその他を代表とするイタリアの産業界を代表する街

です。

ローマ・フィレンツェ・ベネツィアについてはもう申し上げるまでもないと思いますが、これらの歴史的な都市、多くの美しいイタリアの都市を、せっかくいらっしゃったのですから、これを機会にひとつ大会の後、数日間でも滞在を延ばされて、訪問して頂きたいと思います。本大会が学術的にも、また皆様に多くを提供するものである事を心から願っております。

では、これからの先生方のご訪問のご趣旨を承りたいと存じます。

加藤研修団長より表敬訪問挨拶：——

おはようございます。

第79回 FDI 開催国のイタリア歯科医師会長として大変においそがしい所を、私共のためわざわざ時間を作って頂きまして本当に有難うございます。

イタリア歯科医師会と日本学校歯科医会並びに神奈川県歯科医師会と、ここに国際歯科交流のなごやかな機会を通じて更なる緊密性を深められますこと、真にご同慶に存じます。

私共日本の近代歯科医学は、1860年アメリカの W. C. イーストレイキ博士のご指導により日本の近代歯科医学の基礎が作られました。

貴国とは1945年以前まで同盟国として大変親愛なおつき合いをさせていただきましたが、残念なことに第2次大戦の結果、壊滅的な打撃を受け両国民はお互いに忍耐と努力により今日の発展を築いてまいりました。

今後は歯科医学を通じ更なる親愛を深めて両国民の健康と幸福のため、一層の努力を傾注して、世界の平和に貢献いたしましょう。

本日は真にささやかな贈物ですが、

1. 日本学校歯科医会から1990年度全日本よい歯の図画、ポスター最優秀作品（小学2年生、小学校6年生）2点と会よりの記念トロフィーを日本学校歯科医会田中建吾国際交流委員長より
1. 神奈川県歯科医師会会旗バナーを大谷副会長より
1. 神奈川県歯科医師会鶴見輝彦君作成の歯科補

綴模型並びに同 浅野信行君作成の同模型

10個をそれぞれ鶴見・西山学術担当理事よりそれぞれお贈り申し上げますので、お受取り下さい。

鶴見・西山両君より歯科補綴模型についてステッラ会長ほか大会役員よりの質問に答えて説明された。特に、日本の歯科補綴のすばらしさには驚嘆された。

ここでイタリアでの医療保険制度、歯科医師会組織、学校歯科保健、歯科器械、メタルボンドの診療報酬、う歯予防についての弗化物利用などについて伺い、和やかな中に国際親善歯科交流ができたことは真に意義深かった。

イタリア歯科事情について：――

表敬訪問時はあまり時間的な余裕もないことを想定して、八木宏美さん（鎌倉出身で鎌倉ロータリークラブからロータリー奨学生として、1年間ミラノに勉強にいられていた方で、其の後オペラ研究のため、ミラノ大学に入学、そして卒業され現在日本人として法人組織を作って、オペラ関係の出版その他の事業をされてミラノ在住12年間になる方で会員と親しくされておられる。）にご尽力いただくことが出来たので、事前に質問事項をミラノ市地方保険局（U. S. L. ミラノ支部）と連絡交渉していただいた。質問事項のなかから

1. 歯科医師免許の更新制度はあるか

大学卒業後の国家試験にて取得した免許は生

涯有効である。従って更新制度はない。

2. 歯科医師の生涯研修制度はあるか

任意に大小様々な研修コースや学会に参加。強制力のある制度としては特に存在しない。

3. 歯科医師が最新の学問、技術、器械、材料などを習得する場はあるか

歯科医師会や大学及び地方自治体等の主催による国内、国外、国際的な各種の学会に任意に参加（参加証書はキャリアの証し）

企業の新製品プロモーターなど巡回、学会に伴って開かれる出席出店説明会。

4. 貴地区の歯科医師の数は過剰か、不足か、また患者の数はどうか

歯科医師の数は地区によってまちまちで偏りが見られる。若年者の患者数は減少の傾向にあり、矯正歯科の治療を受ける患者数は増加傾向が見られる。しかし、自由診療が多いのではっきりしたデータは出しにくい。

5. 医療保険制度はあるか、国営か、民営か

地方、地区単位に運営されている全国的公共保険組織 U. S. L.がある。

1988年3月23日付の保険行政法並びに1988年5月2日の見直し改正事項が現行のもので、以下は国家健康保険医療制度によって公共機関並びに保険医療間指定を受けた私的歯科医療機関において市民が無料で受けられる。治療内容と歯科医師に支払われる料金は次の表の通りである。

治 療 内 容		料金(リラ)
全体または局部麻酔による抜歯または歯根部摘出	1本	13,000
麻酔による弊害智歯の抜歯	1本	25,900
麻酔による歯肉内不規則成長弊害智歯の摘出	1本	64,800
麻酔による歯齦腫瘍の手術		45,400
麻酔による通常の小さな外科処置及びこれに続く治療一般 (膿瘍切開 小さな歯槽膿漏治療 削歯等)		19,400
補綴(義歯)前の外科処置	片側ごと	25,900
組織検査のための採取(組織検査を除く)		17,300
麻酔による固定補綴物の除去	1つの固定物ごと	12,300
初期う蝕治療及び充填		24,700

歯髄治療を伴う重度のう蝕治療及び充填	単一歯根歯	43,200
歯髄治療を伴う重度のう蝕治療及び充填	複歯根歯	51,500
歯石の除去（最高 2 回まで）	1 回ごと	6,800
口内炎、歯内炎、歯槽炎の治療（最高10回）	1 回ごと	4,500
歯槽膿漏の治療（最高10回）	1 回ごと	7,600
口内X線写真		7,200
歯科診察料		26,400

これ以外の治療、処置については保険外自由診療となり、個々の機関により料金は千差万別で（例えば矯正歯科料金は450万リラから2,000万リラまでといった具合）。また、保険診療も料金が安すぎることから実際には初診料を患者から取ったりいろいろな方法が取られている模様。メタルボンドは1歯15万円程度でダミー1歯のメタルボンド架工義歯は15万円×3＝45万円でその技工料は2万円程度。

6. 学校保健と学校歯科医師について

学校保健については U. S. L. は関係なく、国家のレベル、州のレベルでの指導、組織は殆んど存在せず、市の単位で様々な違った措置が取られている。

例えばミラノ市では、毎年、市の社会保健・衛生費の予算に応じて1人または数名の歯科医師を市の学校歯科医師に任令し、学校を巡回させ、ビデオ等を使ったむし歯予防の説明会を開いている。それぞれの小学校（5年制）で5年に一度、中学校（3年制）では3年に一度、校内で説明会が開かれ、生徒が少なくとも在校中一度は指導を受ける機会を持つようにしている。その他、時間があれば時々学校でむし歯の検診を行うことになっているが、実際には殆んど検診は行われていないのが実情である。

学校歯科医師の報酬については複雑且つデリケートな政治問題が絡んでおり、大抵は政治的に強力な後ろ盾のある歯科医師が任命されており、かなり多くの報酬を受けているものと見られるが。実態は外部のものに明らかにされていない。

一方、フッ素については積極的に使用して

り、幼稚園、保育園、小学校では口に含んで溶かす小さな錠剤、または、うがい用の粉末状のフッ素の袋を無料で配布している。

例えば、ミラノの小学校では、全生徒につき少なくとも1年間、毎日かかさず医務室にて医務職員立会いのもとフッ素うがいをさせており、夏休みには日数に応じた分量のうがい袋か、口に含んで溶かす小さな錠剤を配付している。こうして歯の手入れの癖をつけさせ、その後は各家庭で自主的に継続させる事を目的としている。むし歯のある子供は減って、大いに効果があるとのことである。

7. イタリア歯科医師の資格について

現在、イタリア歯科医師の資格については2種類ある。1980年までは大学の医学部（6年間）卒業後に歯科学及び歯科補綴専攻または口腔学専攻（3年間）の専門課程を終え国家試験に受かった者のみが正式の歯科医の資格を持つ者とされたが、EC各国の例と歩調を合わせるためと、不足している歯科医を比較的早く供給する目的で、同年より新たに大学に歯科エキスパートを育てる歯科学部（5年間）が開設された。こうして85年度より医師の資格のない歯科補綴とし矯正専門の歯科医が生まれた。しかし、歯科学部の卒業生はまだ全体の中では極少数派で、現在大部分の資格を持つ歯科医は医師、外科医としての資格を持つので癌センターでの手術、顔面形成などにも携わっている。

尚旅行用の小誌 79 th ANNUAL WORLD DENTAL CONGRESS of the FDI の9ページイタリア歯科事情の項の――

特別な歯科の資格はないが、DENTIST と同

様の歯科診療を行う医師が、35,000名います。
——について。

これは、一般医が簡単な抜歯や充填などを行っている。

又、歯科衛生士400名は、衛生関係のエキスパートの数である。(F.D.I.白書より)

8. 歯科医師会組織の実態

歯科医師会などの組織の実態は、政治がらみの体質と、それを嫌い組織を尊重しない国民性の2面をよく表しており、正式に資格を持った上記2種類の歯科医でも、全く歯科医師会に登録していないものも多くいる。

9. 保険局の表向き情報と違った部分

厳然たる違法行為であるが、全く資格を持たない者(多くの場合は歯科技工士)が、歯科医療行為をしている例も多くありこのことは、特に地方での歯科医不足と高価な治療費も原因となっているのではないかとも思うが一般医の場合もまま見られているとの事である。

これを規制するため本年度より正式な資格を持つ歯科医には、写真入り身分証明書が配付される事になっている。

10. イタリアの歯科医療の全体的な実態

イタリアの歯科医療の全体的実態については、例えば、ミラノのAMD I事務局で聞けば会員は650名ほどであるとのことで、正確な情報はつかめない。

一応今回もAMD I(イタリア歯科医師会)が対外的にイタリアを代表する形を取ってはいるものの、これもイタリアの一般歯科医師にとってはいくつもある組織の一つに過ぎず、それぞれの会がばらばらに研究会を開き、雑誌を発行して自分の会の会員については知っていても、全体を統率する組織は皆無なので、情報、統計、資料とも明確なものは存在していない。

年金等の基本になる正式の身分登録は(これを見れば歯科技工士か、歯科医かは明白なわけであるが)日本の法務省の登記にあたる登録簿があるが、これは管轄違いで検閲の機能は全く果たしていない。また、この登記も個人で行い地方ごとのため、国全体の歯科医師数もまだ正

式に調査されたことがない状態である。

個々の歯科医はなんらかの組織に入会しているればその発行物から、または開業医巡りをしている歯科医療機器、補綴物、医薬品業者などの情報により学会、研究会等に任意参加したり(普通は会員以外にもオープンである。)新製品の情報を得たりしている。

参加費はまちまちだが、6万円から8万円程が多いようである。

11. 予防健診について

日本では、各都道府県歯科医師会が各都市で歯の衛生週間行事で歯科検診、指導、相談、弗化物の歯面塗布などを実施しているが、イタリアは10月にAMD I主催で歯科予防期間として新聞に名前をあげた歯科医院だけが、子供を含めた地域住民に対し個々の意志による健診をしている程度で、厚生省が直接これに関与していない。

したがって、学校歯科保健も制度としては無い状態である。

(AMD I 会員フランコ・ミンガルディ博士よりインタビューした情報も加えている。)

FDI ジャパンナイトに出席して：——

前述のように10月11日午前AMD I会長Dr ジョルジョ・ステッラ氏を表敬訪問したが、当日は終日雨で研修団員は各自講演会場で歯学講演を聞いて研鑽を深め、或いはデンタルショーが世界の器械、材料、薬品等の出店社500社近くで国際見本市会場での多くのスペースをとって盛大を極め、日本からもライオン・GC・モリタ・オサダなど多く出店されており、ここへも研修団員が出向いておりましたが、午後7時50分ミラノ市内のホテル・サボイアのジャパンナイト会場に有志で出席した。

会場内は参加各国の代表者をはじめ、FDI ゴンザレス会長、役員、日本よりの役員多数で熱氣溢れるばかりで、外国の方々は殆んどご夫人同伴のため、服装もファッションではないが大変美しく、日本から歯科大学の教授方も多く、日学歯としても日頃お世話になっている先生方と種々懇談した。

日本歯科医師会関係では、光安専務理事、入交・西山・梅田各常務理事の方々、それに宇治熊本県歯会長、田中日学歯国際交流委員長、鶴巻先生などと各自懇談し、翌日開催のFDI総会Bで、2年間の任期でFDI会長に就任する山崎数男日本歯科医師会名誉会長と堅い握手を交わしたり、歯・

口腔の公衆衛生活動の話しに花を咲かせ、現会長のゴンザレス博士とも日本の学校歯科保健のお話しなどなごやかなパーティーのひとときを過ごし、外は雨であったが光安先生にロビーまで送られて退場した。



社団法人日本学校歯科医会加盟団体名簿 (平成4年4月現在)

会名	会長名	〒	所在地	電話
北海道歯科医師会	庄内 宗夫	060	札幌市中央区北1条東9-11	011-231-0945
札幌歯科医師会学校歯科医会	尾崎 精一	064	札幌市中央区南七条西10丁目	011-511-1543
青森県学校歯科医会	立花 義康	030	青森市長島1-6-9 東京生命ビル7F	0177-34-5695
岩手県歯科医師会	高橋 俊哉	020	盛岡市下の橋2-2	0196-52-1451
秋田県歯科医師会	遠藤 一秋	010	秋田市山王2-7-44	0188-23-4562
宮城県学校歯科医会	松尾 學	980	仙台市青葉区国分町1-6-7 県歯科医師会内	022-222-5960
山形県歯科医師会	有泉 満	990	山形市十日町2-4-35	0236-22-2913
福島県歯科医師会学校歯科医部会	佐藤 宏	960	福島市仲間町6-6 県歯科医師会内	0245-23-3266
茨城県歯科医師会	秋山 友蔵	310	水戸市見和2-292	0292-52-2561~2
栃木県歯科医師会	槇石 武則	320	宇都宮市一の沢町508	0286-48-0471~2
群馬県学校歯科医会	神戸 義二	371	前橋市大友町1-5-17 県歯科医師会内	0272-52-0391
千葉県歯科医師会	篠塚 恵	260	千葉市千葉港5-25 医療センター内	0472-41-6471
埼玉県歯科医師会	関口 恵造	336	浦和市高砂3-13-3 衛生会館内	0488-29-2323~5
東京都学校歯科医会	西連寺愛憲	102	千代田区九段北4-1-20 歯科医師会館内	03-3261-1675
神奈川県歯科医師会学校歯科部会	加藤 増夫	231	横浜市中区住吉町6-68 県歯科医師会内	045-681-2172
横浜市学校歯科医会	森田 純司	230	横浜市鶴見区鶴見中央5-2-4 森田歯科内	045-501-2356
川崎市歯科医師会学校歯科部	田辺 久衛	210	川崎市川崎区砂子2-10-10	044-233-4494
山梨県歯科医師会	武井 芳弘	400	甲府市大手町1-4-1	0552-52-6481
長野県歯科医師会	桐原 成光	380	長野市岡田町96	0262-27-5711~2
新潟県歯科医師会	太田 丈夫	950	新潟市堀之内南3-8-13	0252-83-3030
静岡県学校歯科医会	庄司 誠	422	静岡市曲金3-3-10 県歯科医師会内	0542-83-2591
愛知県歯科医師会	宮下 和人	460	名古屋市中区丸ノ内3-5-18	052-962-9101
名古屋市学校歯科医会	田熊 恒寿	460	名古屋市中区三ノ丸3-1-1 市教育委員会 体育保健課内	052-972-3246
岐阜県歯科医師会	総山 和雄	500	岐阜市加納城南通1-18 県口腔保健センター内	0582-74-6116~9
三重県歯科医師会	田中 勇雄	514	津市桜橋2-120-2	0592-27-6488
富山県学校歯科医会	黒木 正直	930	富山市新総曲輪1 県教育委員会福利保健課内	0764-32-4754
石川県歯科医師会	竹内 太郎	920	金沢市神宮寺3-20-5	0762-51-1010~1
福井県学校歯科医会	天谷 信哉	910	福井市大願寺3-4-1 県歯科医師会内	0776-21-5511
滋賀県歯科医師会	諸頭 昌彦	520	大津市京町4-3-28 県厚生会館内	0775-23-2787
和歌山県学校歯科医会	辻本 信輝	640	和歌山市築港1-4-7 県歯科医師会内	0734-28-3411
奈良県歯科医師会歯科衛生部	福岡 保郎	630	奈良市杉ヶ町24 県歯科医師会内	0742-33-0861~2
京都府歯科医師会学校歯科部会	鈴木 實	603	京都市北区紫野東御所田町33 府歯科医師 会内	075-441-7171
大阪府学校歯科医会	阪本 義樹	543	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-3-27 府歯科医師会内	06-772-8881~8
大阪市学校歯科医会	大崎 恭	〃	〃	〃

兵庫県学校歯科医会	村井 俊郎	650	神戸市中央区山本通5-7-18	078-351-4181~8
			県歯科医師会内	
神戸市学校歯科医会	岡田 一三	〃	神戸市中央区山本通5-7-17	078-351-0087
			市歯科医師会内	
岡山県歯科医師会学校歯科医部会	森本 太郎	700	岡山市石関町1-5	0862-24-1255
鳥取県歯科医師会	上田 努	680	鳥取市吉方温泉3-751-5	0857-23-2622
広島県歯科医師会	松島 悌二	730	広島市中区富士見町11-9	0822-41-4197
島根県学校歯科医会	田中 端穂	690	松江市南田町141-9	0852-24-2725
山口県歯科医師会	永富 稔	753	山口市吉数字芝添3238	0839-23-1820
徳島県学校歯科医会	白神 進	770	徳島市北田宮1-8-65	0886-31-3977
香川県歯科医師会	湖崎 武敬	760	高松市錦町1-9-1	0878-51-4965
愛媛県歯科医師会	河内悌治郎	790	松山市柳井町2-6-2	0899-33-4371
高知県学校歯科医会	川添 光一	780	高知市比島町4-5-20	0888-24-3400
福岡県学校歯科医会	有吉 茂實	810	福岡市中央区大名1-12-43	092-714-4627
			県歯科医師会内	
福岡市学校歯科医会	升井健三郎	810	〃	092-781-6321
佐賀県学校歯科医会	門司 健	840	佐賀市西田代町2-5-24	0952-25-2291
長崎県歯科医師会	宮内 孝雄	850	長崎市茂里町3-19	0958-48-5311
大分県歯科医師会	吉村 益見	870	大分市王子新町6-1	0975-45-3551~5
熊本県歯科医師会	宇治 寿康	860	熊本市坪井2-3-6	0963-43-4382
宮崎県歯科医師会	松原 和夫	880	宮崎市清水1-12-2	0985-29-0055
鹿児島県学校歯科医会	大殿 雅次	892	鹿児島市照国町13-15	0992-26-5291
沖縄県歯科医師会学校歯科医会	又吉 達雄	901-21	浦添市字港川1-36-3	0988-77-1811~2
			県歯科医師会内	

社団法人日本学校歯科医会役員名簿 (平成4年4月現在)

(順不同) (任期H3. 4. 1~H5. 3. 31)

会 長	加 藤 増 夫	236	横浜市金沢区寺前2-2-25	045-701-1811
副会長兼 専務理事	西連寺 愛憲	176	練馬区向山1-14-17	03-3999-5489
副 会 長	木村 慎一郎	575	大阪府四条畷市楠公2-8-25	0720-76-0275
〃	松 島 悌 二	730	広島市中区吉島町1-12	082-241-7202
常務理事	立 花 義 康	031	青森県八戸市大字大工町16-2	0178-22-7810
〃	神 戸 義 二	372	群馬県伊勢崎市本町5-7	0270-25-0806
〃	湯 浅 太 郎	260	千葉市中央区富士見2-1-1 大百堂歯科医院	043-227-9311
〃	麻 生 敏 夫	335	埼玉県蕨市塚越1-3-19	0484-41-0258
〃	石 川 實	178	練馬区東大泉6-46-7	03-3922-2631
〃	齋 藤 尊	179	練馬区土支田3-24-17	03-3924-0519
〃	桜 井 善 忠	116	荒川区西日暮里5-14-12 太陽歯科	03-3805-1715
〃	西 村 誠	164	中野区中野5-52-15-482 愛育歯科	03-3385-9392
〃	五十嵐 武美	239	横須賀市ハイランド1-55-3	0468-48-3409
〃	多名部 金徳	535	大阪市旭区千林2-6-7	06-951-6397
〃	中 森 康 二	674	兵庫県明石市魚住町清水553-1	078-946-0089
〃	有 吉 茂 實	811-32	福岡県宗像郡福岡町2745-10	0940-42-0071

理事	田熊恒寿	470-01	愛知県日進郡岩崎芦廻間112-854	05617-3-2887
〃	中脇恒夫	151	渋谷区上原3-9-5	03-3467-2030
理事	郷家智道	980	仙台市若林区南鍛冶町30	022-223-3306
〃	遠藤松夫	970	福島県いわき市平字五色町12	0246-23-0530
〃	野溝正志	316	茨城県日立市東金沢町5-4-18	0294-34-4130
〃	朝浪惣一	424	静岡県清水市入江1-8-28	0543-66-5459
〃	近藤三雄	503	岐阜県大垣市本町1-55	0584-78-2254
〃	中島清則	930	富山市中央通1-3-17	0764-21-3871
〃	木村雅行	639-34	奈良県吉野郡吉野町新子137	07463-6-6953
〃	浅井計征	615	京都府京都市西京区松尾木ノ曽町58-5	075-391-0118
〃	篠田忠夫	545	大阪市阿倍野区阿倍野筋4-3-10	06-622-1673
〃	岡田誠一	652	神戸市兵庫区神明町1-24	078-681-1353
〃	佐川肇	772	徳島県鳴門市撫養町立岩字七枚248	0886-85-2761
〃	瀬口紀夫	893	鹿児島県鹿屋市西大手町6-1	0994-43-3333
監事	佐藤裕一	997	山形県鶴岡市山王町7-21	0235-22-0810
〃	榊原悠紀田郎	222	横浜市港北区富士塚1-11-12	045-401-9448
〃	平塚哲夫	600	京都市下京区新町通松原下ル富永町103	075-351-5391
顧問	中原爽	167	杉並区松庵1-17-42	03-3332-5475
〃	関口龍雄	176	練馬区貫井2-2-5	03-3990-0550
参与	宮脇祖順	546	大阪市東住吉区南田辺2-1-8	06-692-2515
〃	板垣正太郎	036	弘前市蔵主町3	0172-36-8723
〃	西沢正	805	北九州市八幡東区尾倉1-5-31	093-662-2430
〃	咲間武夫	194	町田市中町1-2-2 森町ビル	0427-22-8282
〃	窪田正夫	101	千代田区神田錦町1-12	03-3295-6480
〃	川村輝雄	524	守山市守山町56-1	0775-82-0885
〃	藤井勉	593	堺市上野芝町1-25-14	0722-41-1452
〃	橋場恒雄	396	伊那市入舟町3312	0265-72-2456
〃	松本博	535	大阪市旭区清水3-8-31	06-951-1848
〃	齋藤昇	980	仙台市青葉区五橋2-11-1 ショーケー本館ビル11F	022-225-3500
〃	高橋一夫	112	文京区関口1-17-4	03-3268-7890
〃	鈴木實	602	京都市上京区河原町通今出川西入上ル三芳町150-2	075-231-4706
〃	松岡博	558	大阪市住吉区住吉1-7-34	06-671-2969
〃	八竹良清	664	伊丹市伊丹5-4-23	0727-82-2038
〃	川口吉雄	640	和歌山市上野町1-1-2 浅見ビル内	0734-23-0079
〃	石川行男	105	港区西新橋2-3-2 ニュー栄和ビル4F	03-3503-6480
〃	有本武二	601	京都市南区吉祥院高畑町102	075-681-3861

日本学校歯科医会会誌64・65・66・67号索引

64号

平成2年度歯科保健図画ポスター応募一覧	4	展開例	[表]	34
平成2年度学校歯科保健協議会	5	昭和62年歯科実態調査	[表]	35
講義1 新しい学習指導要領における歯科	8	むし歯の影響	[表]	36
保健教育と指導		むし歯の予防	[表]	
学習指導要領の改訂		一生自分の歯で		37
経緯・基本方針・各教科, 道德, 特別活動		歯周疾患とその予防	[表]	
体育・保健体育	[表]	展開例	[表]	38
特別活動	[表]	シンポジウム		
児童生徒等むし歯予防啓発推進事業	19	「長寿社会に向かって健康で生活できる子供が育つには」		41
委員会設置のねらい		[提言1]		
事業の経過		長寿社会に向かって健康で生活できる子供が育つには		42
学校保健統計から歯を考える	21	一むし歯予防の意識と習慣と実践力を高める指導をととしてー		
歯被患の推移		[提言2]		
同一年齢の歯被患率の推移		一児童の歯を守るための学校歯科医のかかわりー		45
歯被患率の推移	[表]	[提言3]		
裸眼視力1.0未満の者の推移	[表]	一生涯保険の基礎づくりを目ざす保健教育の充実ー		47
歯予防の焦点化	22	性の逸脱行為で補導された女子の学職別状況	[表]	
歯被患率の推移	[表]	補導された女子の性の逸脱行為のきっかけ, 動機別状況	[表]	48
歯処置完了者率の推移	[表]	登校拒否の人数分布	[表]	
歯末処置者率の推移	[表]	男女人数分布	[表]	49
歯被患者率の推移	[表]	男女人数分布%	[表]	
12歳DMF歯数	[表]	永久歯の一人平均むし歯経験歯数, 年齢による変化		50
平成元年度学校保健統計調査	[表]	[提言4]		
昭和63年度学校保健統計調査	[表]	長寿社会に向かって健康で生活できる子供が育つには		
昭和62年度学校保健統計調査	[表]	学校歯科保健における実践活動		54
昭和61年度学校保健統計調査	[表]	平成元年度RDテスト一覧表		56
昭和60年度学校保健統計調査	[表]	平成2年度RDテスト結果一覧表	[表]	
歯周疾患				
学齢期に多く見られる歯周疾患	[表]			
学齢期の歯周疾患の主な原因	30			
歯周疾患の検出と事後措置	[表]			
歯周疾患の診断基準と第3号様式への記入				
実践実例	[表]			
	33			

分科会

■教員部会■

講義2 歯科保健と歯周疾患 59

発表1 歯の健康を幼児の内面にどう意識化
させていくか

研究の概要・実践

本園のう歯率 [表] 61

アンケート結果 [表] 62

発表2 「う歯予防の大切さを理解し、進んで
う歯予防に取り組む児童をそだてるにはどう
したらよいだろうか」

研究内容・研究の成果 66

う歯被患率年度別推移 [表] 67

発表3 「自分の健康な歯づくり活動の推進」
68

研究内容・研究の成果

アンケート結果 [表] 69

う歯治療状況 [表] 70

■学校歯科医部会■

講義3 学校歯科医の今日的役割と活動のあり
方 70

学校における歯科保健指導の特質 74

昭和63年度全日本よい歯の学校表彰

優秀校の活動状況 [表]

学校歯科医の出校状況 [表]

学校歯科保健の領域 [表] 76

保健教育と保健管理 [表] 77

学校保健安全計画と学校歯科医(1)

「学校保健安全計画」にあらためられたこと
について 78

学校保健安全計画の立案とその形態につい
て

学校歯科医のかかわり方について 79

学校保健安全計画と学校歯科医(2) 80

学校保健安全計画の内容

立案の手順

学校歯科医としての参画のあり方について
歯の保健指導について

学校保健安全計画の内容 [表] 81

計画立案の過程 [表]

学校歯科保健活動と学校歯科医の役割 82

歯の保健指導の全体計画例

小学校 [表] 83

歯科保健指導の評価 84

「開かれた学校の促進」と学校保健

委員会の活性化

講義4 特別講演

噛んで天下を盗った男達 86

平成2年度むし歯予防推進指定校協議会

実施要領 88

第5次むし歯予防推進指定校一覧 89

実践報告

むし歯予防に対する意識を高め、むし歯予
防の習慣形成と実践力を高める指導は、ど
のようにしたらよいか

研究の概要

研究主題・主題設定の理由・研究主題達成
のための仮説・本校の教育と研究の構
想・研究組織

本校の教育と研究の構想 [表] 96

研究の実際

学級活動の改善と充実・実践活動の日常
化・保健環境の整備・家庭、地域、学校歯
科医との連携

研究のまとめ

児童の変容

歯みがきアンケート結果 [表] 106

研究の成果と今後の課題

1990年第78回FDIシンガーポール年次世界歯
科大会に参加して 109

歯の検査票(3号様式)についてのさやかな提
言 116

DMFT3以下を団体で達成した八戸学歯の活
動 118

八戸学校歯科医会創立六十周年記念祝賀会 120

塚田治作先生の逝去を悼む 123

第八回全国学校歯科醫大會について 125

学校歯科保健のアルバム No 4 137

65号

第54回全国学校歯科保健研究大会 3

開催要領

メインテーマ

6

第29回全日本よい歯の学校表彰校	8
文部大臣賞受賞プロフィール	9
記念講演	12
□シンポジウム□	
・発達段階に即した学校歯科保健指導と生活 化の推進を図るために	13
・実践力を育てる学校歯科保健指導計画と指 導の在り方	15
親と子の健康な歯づくりをめざして	16
〔表〕	
・歯科保健を進めるための学校・家庭・地域の 果たす役割とその連携	18
・学校歯科保健指導に果たす学校歯科医の役 割	
学校歯科保健アンケート	21
歯科健康教育評価プログラム〔表〕	23
健康教育行事の歯科的効果〔表〕	24
OR I と健康観の関係〔表〕	
健康留意度とOR I の関係〔表〕	
広島県小学生永久歯の推移〔表〕	25
□幼稚園・保育所部会□	
幼稚園・保育所における歯科保健指導の実 践	26
幼児の健康づくりの目標	
幼児の発達段階と保健活動としての対応	
歯科保健指導の課題とねらい	
保育所・幼稚園における保健教育と歯科健 康管理について	
保育所における保健教育	
保育と歯科健康管理	
幼稚園における保健教育	29
幼稚園児の歯科健康管理	
発表1	
進んで歯を大切にする幼児の育成をめざ して	32
地域の概要・本園研究の概要・研究の実 際・研究のまとめ	
発表2	
幼稚園における歯科保健指導の展開と学 校歯科医の関わり方について	39
地域の概要・本園の研究・教育方針・研	

究主題・実践の概要・実践内容・研究の 反省と考察	44
□小学校部会□	
公開授業	
主な歯科保健指導・公開授業内容小学校 における歯科保健指導の実践	46
子ども達の歯科保健行動を育てる保健指 導の視点について	
・大会および研究協議のねらいとこれから の歯科保健指導の基本的な課題	
・教育のねらいに即した歯科保健指導の展 開について	
・教育的な歯科保健指導と生活化推進のた めの基本的な考え方	
・成長発育期（発達段階）の歯や口控の生理 的発達と生活化の視点	
学校歯科保健の重要性とその願い	51
発表1	
自ら歯を大切にする児童の育成をめざ して	53
本校の歯実態〔表〕	
学校運営組織と学校保健組織 実践の場	
指導の方法	
学級指導年間計画〔表〕	57
指導の内容	
実践課題	
課題への取り組み	
成果	
課題	
発表2	
本校における歯科保健指導の実際	
校区の概要・学校の概要・実践 今後の課題	
発表3	66
家庭・地域との連携の在り方（学校保健 委員会）について	
本校の沿革・学校保健委員会・PTA健 康を考える会・親子歯みがき学習・PT Aによる活動	
発表4	

小学校における歯科保健活動の展開と 学校歯科医の関わり方について	73	小中学校におけるう歯予防事業の内容 う歯予防事業の結果	
歯科疾患実態調査報告	74	3.5歳児歯科健診結果	[表] 89
(厚生省健康政策局調査)		小学校の歯科健診	[表]
□中学校部会□		う歯罹患状況	[表]
公開授業	76	中学校の歯科健診	[表]
本校の歯の保健指導・実践内容・公開授業 の内容		各校別の結果	[表]
・中学校における歯科保健指導の実践	78	発表 3	93
学校歯科保健の意義		中学校における歯科保健指導の実践	
発達段階に即した歯科保健指導の考 え方		平成2年度学校保健・安全年間計画	[表]
学校歯科保健の推進		平成2年度定期健康診断結果	94
・中学校における歯科保健指導の実践	80	[表]	
学級活動での歯科保健指導を行うことが できるようにする		発表 4	
歯の健康に関する意義を高める行事の もち方を工夫する		本校の歯科保健活動の取組み	96
洗口の時間を設定し日常指導の充実を 図る		□高等学校部会□	
教師がお手本になる		公開授業	98
学校歯科医を講師とした社内研修の 機会をもつ		高等学校における歯科保健指導の実 践	100
歯科保健に関する全体計画を立てる		歯科保健指導の目標	
歯科保健活動の全体計画	[表] 81	高等学校生徒の歯科保健の問題点	
学年別主題・狙い・内容一覧	82	高等学校における歯科保健指導の計 画と進め方	
[表]		学校歯科医のかかわり方	
・健康教育は歯から始まる	83	高等学校における歯科保健指導の実 践	102
発表 1		高校における歯科保健指導の観 点	
思春期の歯周保健指導をめぐって	85	ライフサイクルの変化	[表]
主題設定の理由・取組みの経過		歯科保健行動の明確化	
歯肉炎の実態調査・歯周保健指導の 実践・結果および評価		健康のレベル	[表]
ORIによる生徒の口腔内状態の学 年別・年次別変化	[表] 86	助言	105
発表 2		発表 1	
仙台市宮城地区における児童生徒 のう歯予防実践の包括化について	88	皆実高校における歯科保健活動	
う歯予防協力図	[表]	学校の概要・学校歯科保健指導の 態勢づくり・歯科保健活動・	
小中学校における予防システム		ORI判定基準	[表]
		本校の歯周保健指導計画・歯周保健 アンケートの集約とその分析評価	[表]
			109
		反省と課題	
		発表 2	
		個別指導の進め方	112
		保健管理活動の具体的目標は	

保健指導は集団指導で行うのか	学校における咀嚼指導の現状と課題	
個別指導がよいのか	咬合力測定結果 [表]	131
個別指導としての健康相談の意味	□全体協議会□	
健康相談はいつどれくらいの時間をかけてやるのか	第1号議案	
場所はどこでやるか	学校歯科健診をより万全にするために照明器具等の整備拡充を要望する	
誰が指導にあたるべきか	第2号議案	
歯科の個別指導にはどのような子が対象になるのか	児童生徒の歯・口腔の健全な育成を図るため「むし歯予防推進指定校」制度のさらなる充実強化を要望する	
個別指導の対象はどこに基準を置いて選んでいるか	第3号議案	
歯の健康相談で何を語っているか	学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を要望する	
写真は何故とるのか	即位礼正殿の儀に参加して	134
私のやっている健康相談の問題点反省点	奥村賞の経過	139
個別指導で特得に注意していること	奥村賞一覧表 [表]	142
発表3	社団法人日本学校歯科医会加盟団体名簿	146
高等学校における歯科保健指導の実践	社団法人日本学校歯科医会員名簿	147
保健協議会の運営・歯科指導の取組み・学校行事への取組・今後の課題	66号	
発表4	◇平成3年度歯科保健図画ポスター応募一覧	
本校における歯科保健の実態	◆平成3年度学校歯科保健研究協議会◆	3
本校における歯科保健指導の現況 [表]	全体会	
本校における歯科保健の実態 [表]	講義 I 学校歯科保健の現状と課題	5
	児童生徒の歯科疾患の状況	
歯科保健指導状況 [表]	歯の疾患・異常の状況	
アンケート結果 [表]	う蝕の被患率の推移 [表]	
発表5	う蝕被患率の比較 [表]	
高等学校における歯科保健指導の展開と学校歯科医の関わり方について	処置率・未処置率の比較 [表]	
全国学校歯科保健研究大会高等学校部会研究発表 [表]	12歳の永久歯の一人当たり平均う蝕等数 [表]	
昭和63年度東京都立公立学校歯科健診結果% [表]	その他の歯疾経年推移 [表]	
昭和63年度東京都立公立学校歯科健診結果 人 [表]	その他の歯疾	
定期健康診断によるう蝕処置率の推移 [表]	全日本よい歯の学校表彰	
出席高校地域別分布 [表]	健歯保有率 [表]	
紙上発表	DMF 歯数 [表]	
学校における咀嚼指導を考える	学校歯科保健の今後の課題	
咀嚼の意義	歯に関する保健学習・保健指導の充実	9
	指導過程のパターン [表]	
	指導過程 [表]	
	学校歯科保健の理論構築	15
	組織活動の充実	

講義 II 日本の子どものう蝕	17	歯をきれいにみがこうの展開例 [表]	
改めて「う蝕」について考えてみる		第二部会 (学校歯科医部会)	
生活病としてのう蝕		講義 V 学校歯科医の職務	52
疫学データからみた日本の子どものう蝕		学校歯科医からみた職務遂行上の問題点	
これからのう蝕予防の展開		学校歯科保健活動の動向からみた今日的役割	
◆研究発表◆		学校歯科保健活動と学校歯科医の役割	
健康づくりをめざし主体的に取り組む子どもの育成	21	歯の保健指導の全体計画例 [表]	
研究内容・成果・今後の課題		歯科保健活動の全体計画 [表]	
自分の歯は自分で守る子供の育成	26	歯肉炎予防の指導内容要素一覧表 [表]	
研究内容・成果		小学校歯の保健指導の手引きをもとにした歯の保健指導の全体像 [表]	
学校歯科保健指導の推進に果たす学校歯科医の役割	30	歯の保健指導主題一覧表 [表]	
◆分科会◆		中学校の保健指導 [表]	59
第一部会 (教員部会)		講義 VI 学校管理下における歯牙障害と災害共済	60
講義 III 歯周疾患と学校の対応	34	日本体育・学校健康センターの性格と目的センターの業務の種類	
歯周疾患という病気		災害共済給付業務の内容	61
歯周疾患の原因		給付の対象となる災害の範囲と給付金額 [表]	
歯周疾患の頻度		学校の管理下となる範囲 [表]	
歯周疾患の有病者率 [表]		学校の管理下における災害の実態	
年齢別歯周疾患有病者率 [表]		平成2年度災害共済給付状況 [表]	63
歯周疾患のある者、歯石沈着のある者の百分率 [表]		負傷、疾病の給付率の推移 [表]	
歯周疾患の保健管理		負傷発生の場合別の状況 [表]	64
歯周疾患の診断基準と3号様式への記入 [表]		障害等級別の状況 [表]	
健康診断と事後措置 [表]		障害種別の状況 [表]	
歯周疾患の保健指導		死亡の状況 [表]	
歯周疾患要観察者の保健管理と保健指導		歯牙障害における災害原因分析 [表]	
年齢別一人平均喪失歯数 [表]		歯牙に係る災害共済給付上の取扱い	69
80歳で残存歯20本にするための中間目標値 [表]		◆平成3年度むし歯予防推進指定校協議会開催要項	71
講義 IV むし歯予防再考	41	むし歯予防推進指定校実施要項	
むし歯の特徴		第6次むし歯予防推進指定校一覧	73
むし歯の原因		◇実践報告◇	
むし歯の予防		むし歯予防の意識を高め、自らむし歯予防に取り組む児童を育てる指導は、どのようにしたらよいか	
歯・口の汚れの取り方		研究の概要	75
歯みがきの基本		研究主題	
歯みがき指導におけるポイント			
発達段階からみた口の中の様子と歯みがきのポイント [表]			

主題設定の理由		人間の社会化・行動化の過程・教材研究	18
永久歯のむし歯の状況 [表]		学校における歯科保健指導の指導計画と指導の在り方	19
研究主題達成のための仮説		学校における保健指導とその特質	
研究計画・研究組織 [表]		学校における歯科保健指導の特質	
仮説の検証のための手立て [表]		昭和63年度全日本よい歯の学校表彰優秀校の活動状況 [表]	
研究の実際		学校歯科医の出校状況(昭和63年度) [表]	
むし歯予防の基本的な考え方		歯科保健指導の指導計画	22
歯の保健指導の全体構造図 [表]		歯の保健指導計画例 [表]	
指導要素一覧 [表]		幼稚園主題一覧表 [表]	
学級活動年間指導計画一覧表 [表]	84	中学校主題一覧表 [表]	
創意活動主題一覧表 [表]		歯科保健指導の進め方	
創意活動年間指導計画内容一覧表 [表]		単位時間の指導過程 [表]	
授業での取り組み		歯科保健指導の評価	
歯みがき指導の実践		資料の位置づけと活用の視点 [表]	28
児童活動の活発化		学校・家庭・地域の果たす役割とその連携	30
環境整備計画と実践		学校歯科保健における組織活動	
家庭・地域・学校歯科医との連携		保護者の啓発	
研究のまとめ	101	歯の保健指導の目標と内容 [表]	
児童の変容		保護者への啓発の方法と手段	
研究の成果と今後の課題		PTA との協力	
学習指導案		地域関係機関・団体との協力	
神奈川県下における中・高等学校生徒の歯周疾患の実態について	105	学校保健委員会	
社団法人日本学校歯科医会名簿加盟団体名簿	108	学校保健委員会の構成 [表]	32
社団法人日本学校歯科医会役員名簿	109	発達段階に即した歯科保健指導と生活化	34
編集後記	111	宮城県内の歯科保健活動	
67号		WHO の歯科保健目標と本大会の意義	
第55回全国学校歯科保健研究大会		平成3年度宮城県よい歯の学校表彰	
開催要項	3	応募校の調査結果 [表]	
メインテーマ 〈学校歯科保健の包括化〉	4	学校歯科医の職務とは	
プログラム	5	生涯を通じた歯科保健対策の概要[表]	36
全国学校歯科保健研究大会年次表	9	学校歯科医に望むこと	
第30回全日本よい歯の学校表彰校	10	■幼稚園・保育所部会■	38
第30回全日本よい歯の学校、文部大臣受賞校プロフィール	11	幼稚園・保育所における歯科保健指導の実践	
記念講演 「正宗と常長」	15	保育所・幼稚園における保育教育と歯科健康管理について(助言)	40
◆シンポジウム◆		保育所における保健教育	
学校歯科保健の包括化	16	幼稚園における保健教育	
親の行動の4象限 [表]		心身ともにすこやかな子供の育成	46

研究の全体構成	[表]	
歯科保健指導計画	[表]	
歯科保健指導の実際	[表]	
衣川村の幼稚園・保育所における歯科予防活動		51
小学校6年生の一人平均う歯数	[表]	
乳歯・永久歯の経年変化	[表]	
歯の萌出とう歯(小学6年)	[表]	
萌出時期とう歯(第一大臼歯)	[表]	
幼児自ら歯を大切にする習慣を身につけるには		55
4歳児むし歯治療率・むし歯罹患率の推移	[表]	
5歳児	[表]	
歯みがき習慣の定着状況	[表]	
むし歯予防年間指導計画	[表]	
■小学校部会■		
小学校における歯科保健指導の実践		61
小学校における歯科保健指導の充実のために		63
生涯にわたる健康づくりの基礎を培う健康教育		65
主題設定の理由		
研究のねらい		
研究仮説の設定		
本研究でねらう児童像	[表]	
研究内容		
肥満傾向児の推移	[表]	
子どものコレステロール値	[表]	
健康の成り立ち	[表]	
年齢階級別歯肉に所見のある者の率	[表]	
年齢階級別歯肉の所見の有無	[表]	67
年齢別歯肉に所見のある者	[表]	
歯や口の保健指導の課題と指導内容	[表]	
歯肉炎予防の指導内容要素一覧表展開	[表]	
進んで健康な体をつくる児童の育成		76
研究の概要・主題についてのとらえ方		
研究目標・研究の仮説・研究の計画と方法		
研究部年間計画	[表]	
年次計画	[表]	

研究推進構想	[表]	
身体測定の結果	[表]	
歯科検診の結果	[表]	
う歯の治療状況	[表]	
う歯に関する年次推移	[表]	82
広瀬小う歯患状況	[表]	
視聴覚資料一覧表	[表]	
羽黒町立第二小学校の実態		85
う歯未処置率の推移	[表]	
概要・モデル校としての取組み・主題・テーマ設定の理由・具体的目標・研究の仮説・おもな具体的展開・アンケート		
活動計画	[表]	
歯の保健指導年間計画		
アンケート調査についての考察・今後の課題		
■中学校部会■		
中学校における歯科保健指導の実践		91
中学校部会課題研究の内容		
中学校における歯科保健指導の実践		92
中学生期の発達課題		
疾病管理からのアプローチ		
う歯、その他の歯疾経年推移		93
健康増進からのアプローチ		
自ら健康づくりに努める生徒の育成をめざして		94
校医の概要・歯をとおした健康教育への取組み・研究主題・主題設定の理由・研究目標・研究仮説・研究の内容・方法、歯を通した健康教育の実践・歯の健康に係る評価と反省・研究の成果・今後の課題		
歯科保健活動を通して健康を自ら獲得する生徒の育成をめざす		100
歯の衛生モデル校の取組み・研究主題		
本校の一人平均むし歯数の推移	[表]	
研究主題設定の理由・研究仮説・研究の方法・研究内容・研究の成果		
歯科保健指導の基本構想	[表]	102
近年における検診結果の変化		
新設校における歯科保健指導展開の課題について		107

■高等学校部会■

高等学校における歯科保健指導の実践	109
歯科保健指導の目標	
高等学校生徒の歯科保健の問題点	
歯科保健指導の進め方	
高等学校における歯科保健指導の実践	110
恐らく具体的実践例が不足している	
今、何が必要であるかを知るべき	
どうなるかを見せる	
どうしたらよいか知る	
どういう順序でやるべきかを知る	
本校における歯科保健指導の実践	112
学校の概要・研究の概要・歯科保健指導の研究組織・実践研究の進め方・研究の内容	
学校保健安全指導計画	[表]
歯科検診の結果	[表]
クラス別歯周疾患・う歯保有者率	[表]
	116
過去3ヶ年間のDMF指数と未処置歯数及び第2大臼歯う歯数の変化	[表]
歯に関するアンケート結果	[表]
	118
悪化する環境の中で…歯育ては子そだて	126
高等学校における歯科保健教育の意義	
一生自分の歯で食べるために	
健康教育の柱として	
歯の平均寿命の年次推移、性、歯種別	

(永久歯)	[表]
人が歯を失う原因	[表]
一人平均喪失歯数の年次推移	[表]
8020達成のための中間値	[表]
128	
噛むことの意義	[表]
口唇裂、口蓋裂の原因	[表]
無脳症の増加	[表]
これからの考え方、生き方へのメッセージとして	
□全体協議会□	131
1 議案	
学校歯科健診をより万全にするため検査器具及び検査場の整備拡充を要望する	
2 議案	
学校保健委員会の設置ならびに活動の充実を強く希望する	
3 議案	
学校健診の基準見直しの際に教育的な事後措置に活用できるような様式を考慮される事を要望する	
第79回 FDI 年次世界歯科大会に参加して	134
社団法人日本学校歯科医会加盟団体名簿	143
社団法人日本学校歯科医会役員名簿	144
日本学校歯科医会会誌64.65.66.67号索引	146
編集後記	155

編集後記

◆今年も一年生が入学してきて、そして、定期健診がはじまった。毎年のことながら「どのような子供たちが、どんな顔をして入ってくるのか」新らしい児童の顔に会えるのが楽しみである。そして、これから6年間の間にどのように変わっていくのであろうか。素直で明るく逞しい元気な子に育って欲しいと健診をしながらフト考える。

◆学校歯科健診は、非常勤の特別職である学校歯科医が学校の職員としての立場で健診をするのである。従って保健所での検診、或いは会社、工場などでの集団検診とは意味が異なる。学校健診は学校行事の一つであり健診を通して行われる教育の場所と考える。だから疾病をみつめて治療勧告を行うだけがその目的ではない。

◆子供達の口の中は、一時期のようなひどい状態の子はいなくなった。昔は6歳臼歯だけをみても、C₃或いはC₄の高度に進んだう蝕がクラス単位で一人か二人みかけたが、今は全校単位でも見つけることが困難である。代わりに、歯肉疾患と不正咬合が目につく。歯肉の炎症は低学年でも珍しくない。

◆子供の口の中的环境は、その時代の社会環境と連動する。戦前戦後のう蝕の歴史も、子供をとりまく生活様式の変化とともに変わってきた。国民の生活が豊かになるとともにう蝕の治療率は上がってきた。子供の口腔環境を良くするためには、子供たちの生活指導がきわめて重要な要素となる従って、「推進指定校」の研究成果にみられるように、学校歯科保健に取り組むと『学校が変わる』というのも頷ける。

◆統計を見ても小学校期では入学児童のう蝕の被患率は低下してきている。また、う蝕処置率は年々高くなっている。しかし、中学校2年から3年にかけては被患率は急激に上昇する。これは、他律から自律への適切な発達課題の達成がおこなわれていない生活習慣の乱れに起因するものだとの指摘がなされている。同時に、小学校低学年における歯・口腔内環境の健康管理の指導が、中学に進んで他律から自律への発達過程の時期に重要な意味を持つといわれている。

◆学校歯科医として考えなければならないこと、そして直ぐにでもやらなければならないことは多い。

今年も平成4年度むし歯予防推進指定校協議会・平成4年度学校歯科保健研究協議会(10/21・22・23)が長野県で、第56回全国学校歯科保健研究大会(11/13・14)が徳島県で開かれる。多数の会員の参加をお願いしたい。

(梶取)

日本学校歯科医師会誌 第67号

印刷 平成4年5月15日
発行 平成4年5月15日
発行人 日本学校医科医会 西連寺愛憲
東京都千代田区九段北4-1-20
TEL (03)3263-9330 FAX (03)3263-9634
編集委員 梶取卓治(委員長)・出口和邦・菅谷和夫・
松谷真一・桜井善忠(担当常務理事)
木村雅行(担当理事)
印刷所 一世印刷株式会社